７．自己点検・評価報告書

（1）2019 年度第 1 クォーター　掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・・1
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・8
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・17
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・23
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・26
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・35
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・39
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・42
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・45
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・48
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・57
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・68
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・77
理工学部　システム数理学科・・・・・・・・・・・87
理工学部　ソフトウェア工学科・・・・・・・・・・91
理工学部　機械電子制御工学科・・・・・・・・・・93
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・96
短期大学部　英語科・・・・・・・・・・・・・・・・105
法務研究科　法務専攻(専門職学位課程)・・・・・・106
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
情報センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・109
体育教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・・120
南山宗教文化研究所・・・・・・・・・・・・・・・・122
人類学研究所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
社会倫理研究所・・・・・・・・・・・・・・・・・・123

非常勤教員

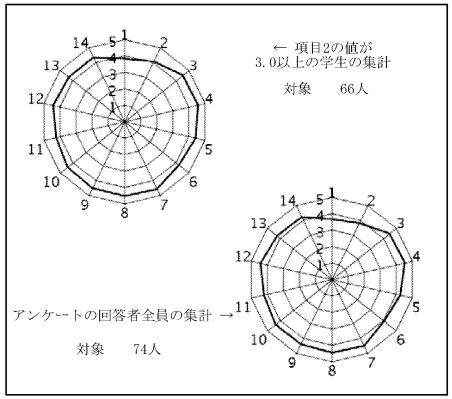
【所属】

人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・123
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・124
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・124
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・126
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・128
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・132
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・133
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・134
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・135
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・139
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・141
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・144
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・146
共通教育　仏語・・・・・・・・・・・・・・・・・・146
共通教育　西語・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
共通教育　ポルトガル語・・・・・・・・・・・・・・148
共通教育　中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・148
共通教育　共通・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
共通教育　韓国朝鮮語・・・・・・・・・・・・・・・165
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・166

人文学部 キリスト教学科
KISALA, Robert　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[E・J]4
授業コード	10A51-011
教員名	KISALA, Robert
教員コード	018275
登録人数	147
回答数	74
回答率	50.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



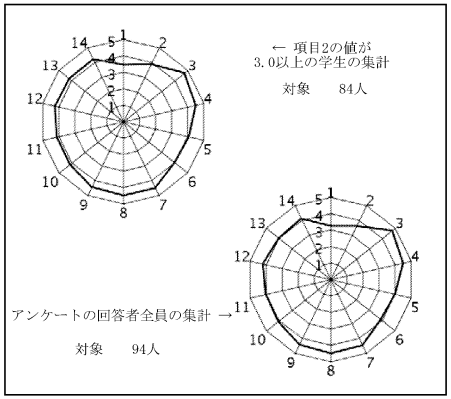
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「キリスト教の価値観を研究し理解している」と「現代社会の諸問題を意識しそれらの解決について考察できる」という二つを講義当初に設定した。学生評価の結果（設問番号５：平均値４．２７；設問番号６：平均値４．０５）から、学生らは到達目標をある程度理解して授業に取り組んでいたと捉えることができるが十分に満足できる値にはまだ達していないとも言える。また、自由記述式設問の回答結果からは、ウェブクラスの使用、資料の提供、毎回の感想文に対する講義中のフィードバックは積極的に評価されていると言える。一方で、設問１１（平均値４．２７）の評価結果から、講義内容とテーマの意図を十分に理解できなかったと感じる学生もいたようだ。講義で紹介された各概念やテーマに関するさらなる説明が必要であろう。
本講義の改善点として、上述した講義中のさらなる説明の工夫とともに、講義の各テーマに関連する視聴覚教材の積極的使用を通して学生の理解度を高くして、学生の学習意欲を引き出していきたい。また、学生の学習意欲を引き出すために講義に扱う各テーマと関連する具体的な社会現象などを紹介したつもりだが、それをさらに展開する余地があると思う。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[S]2
授業コード	10A51-018
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	121
回答数	94
回答率	77.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

キリスト教概論【S】２の自己評価：

1。この授業はシラバスに掲載していた授業計画に沿って行われていたので、どうシラバスにあった目標に到達したと思われます。この目標点はキリストが一体どういう人物であるかを理解し、キリストの有名な例え話の本来の意味内容を理解し、その意味をより良い社会作りや良い生き方に役立つものにするというキリスト教の基礎知識を習得することでした。

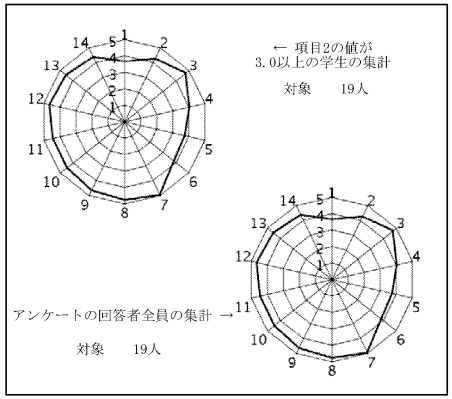
2。学生による1から14項目の評価平均は4.13と2から14項目の評価平均は4.25でしたので、総合的に悪くないと思います。

3。パワーポイント、画像、プリントアウトを活かしながら、講義していたため、「分かりやすい。スライドも見やすかった。映像資料が理解の助けとなった。説明が丁寧だった。」という良いコメントを学生より頂いています。
次クオータの改善点として、講義の実施のした方は今までと同じようにしていきたいと思う一方、新しい講義内容をもう少し取り入れたいと思います。授業中学生の積極的な参加度をもう少し求めたいと思います。
以上

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語I文法[HC]＜全＞1
授業コード	11J01-001
教員名	井上　淳
教員コード	100301
登録人数	25
回答数	19
回答率	76.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



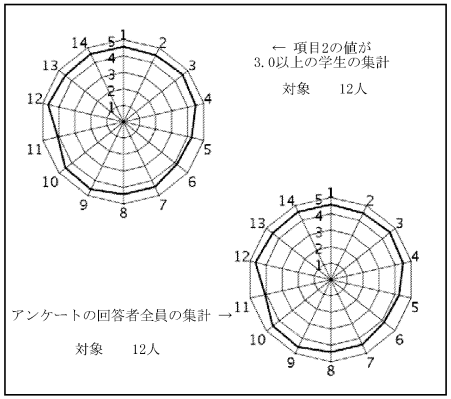
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義の到達目標は次の2つである。1. ラテン語の文法的知識と解読法を一通り習得している。2. ラテン語原典を文法書と辞典を用いて読めるようになっている。これは「ラテン語文法講読Ⅰ・Ⅱ」全体の到達目標であって、Q1の「ラテン語文法Ⅰ」では、その4分の1までの到達が到達目標となる。そしてそれは、教科書で言えば第8章の「与格」まで進むことである。その意味では、到達目標に達することができた。今回の反省点としては、初めの頃の名詞と形容詞、そして規則動詞の活用の説明を綿密にし過ぎたため、その他の文法事項の説明がやや簡略になってしまったことである。最初が肝心なので、これもまあ悪くはなかったとは思うが、時間配分にはもっと工夫ができたと思う。評価項目の7～14において、評価平均値はいずれも4を超えており、けっこう良い評価を得たのではないかと思う。活用暗記の小テストの出来はまずまずで、受講者たちの学習意欲の高さが感じられた。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語I文法＜全＞2
授業コード	11J01-002
教員名	松根　伸治
教員コード	101833
登録人数	23
回答数	12
回答率	52.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度Q1に実施した同一科目の授業評価結果と比較すると、どの項目も平均値は同じくらいか上昇が見られた。とくに、項目9（教員は学生の理解度に配慮し...）が4.00から4.58に、項目10（私語、携帯電話、遅刻などの...）が3.86から4.50に、設問14（全体的満足度）が4.07から4.58に上がった。授業の進め方に大きな変更はないが、重要事項の見直しを繰り返しおこなったこと、作文よりも語形変化の憶え方に力点をおいたことは効果があったかもしれない。自由記述では、丁寧でわかりやすかったという声がある一方、説明が冗長でスピード感がないとの不満もあり、塩梅が難しいところである。他の項目と比べて評価が低いのは設問11（学生の学習意欲を引き出し...）で、今後は課題のバラエティを増やすなどして、この点の改善をめざしたい。

シラバスの到達目標は例年と同じく、「名詞・形容詞の基本的変化を身につけている」「動詞の現在形人称変化を身につけている」の二点とした。評価項目6（到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）の平均値4.17に加え、授業での提出物と定期試験の結果から見て、今期の目標はほぼ達成できたと判断してよさそうである。

人文学部 キリスト教学科
岡嵜　隆哲　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語III文法＜全＞
授業コード	11J03-001
教員名	岡嵜　隆哲
教員コード	103614
登録人数	8
回答数	3
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

すでに一年間ラテン語Ⅰ,Ⅱをとおし一通り学んだ文法の知識をもとに、ラテン語の読み物、文献をかんたんなレヴェルから段階的に講読して行くというやり方で、今学期はReading テクストの最も初級レヴェルのものを6話ほど講読した。合わせて、文法内容の基礎固めのために、基礎文法の変化表のプリントを作り、毎回一定ていどの暗唱課題を課して、授業の最初の時間に確認するというやり方をとった。また、ラテン語の語彙力アップのために、一回分の話が終わるたびにその話に出てきた基礎単語の語彙表プリントを作り、語彙力の習得度合いをはかる問題をかんたんな小テスト形式で課した。以上のことをとおして、まずは一定程度のラテン語講読力が身につけられたと考える。

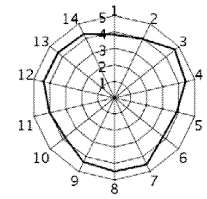
受講者は欠席もすくなく、概ね各課題にたいして真摯に取り組んでくれたと感じる。文法説明にかんしてはなるべくわかりやすいやり方を心がけた。

次クォーター以降、同じ形式で進めるとともに、講読するラテン語文献にかんし、内容的にも関心を持ってもらえるよう、古典文献の紹介などもできるだけつとめるようにしたい。受講者ごとに習得度合いが異なることもわかってきているので、各受講者に見合った説明の仕方を工夫するなど心がけたい。

人文学部 キリスト教学科
渡邉　学　先生

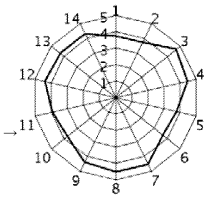
2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相8
授業コード	13C04-008
教員名	渡邉　学
教員コード	017186
登録人数	187
回答数	133
回答率	71.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　119人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　133人

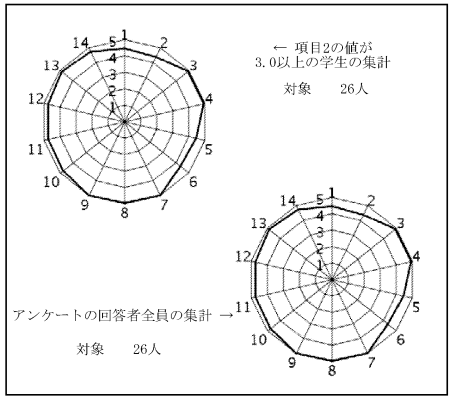
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、宗教社会学的な宗教理解、歴史的観点からの宗教と社会の関係、現代社会における宗教と社会の葛藤の3点を挙げたが、だいたい目標を達成することができた。この講義では教科書は使わず、配付資料とPowerPointと板書によって講義を進めた。それらは、板書を除いて、講義の20～30分前にWebClassにすべて掲示した。毎回、講義の初めにリアクションペーパーを配布し、講義の終わりに時間を取って記入させ、毎回、それに答える形で受講生の質問や要求や感想に答える努力をした。大きな質問に対しては、講義においてもとりあげて解説を施した。この試みは、それなりに成果を挙げたと思われる。学生の感想としては、「スライドがウェブクラスに上がっていて復習が容易にできた」、「質疑応答が充実していた」。「・福帳でコミュニケーションが取れた」、「スライドがとても見やすかった。先生の声も聞き取りやすく、ビデオなどを流してもらえるので時代のギャップで理解しがたいことも実際に見て理解しやすいよう誘導してもらえた」などが挙げられる。反省点としては、教科書を使わなかったためにPowerPointの内容量が過剰になったため、文書型の資料を別立てで用意する可能性も視野に入れたいと思う。さらに、リアクションペーパーのシステムを悪用し、最初にリアクションペーパーを受け取ってから中抜きをして講義の終了当たりに戻ってくる学生も散見された。システム上、200名近くの学生の中からこれらの学生を摘発することは容易ではなかったので、十分な対策が取れなかった。良心的な学生から苦情が寄せられたが、今後、どのように対応すべきか懸案事項としたい。

人文学部 キリスト教学科
HERA, Marianus Pale　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	聖書時代史
授業コード	21C02-001
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	27
回答数	26
回答率	96.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

15回の授業を振り返り、また学生の授業評価の結果をみると、この授業は全体として目標に達成できたと思います。今回も自由記述の解答で特に評価されるのは、パワーポイントや説明が分かりやすいことと、映像資料を用いることで聖書が書かれている時代の背景についての理解が深まったことです。引き続き、映像資料を有効に活用していきたいと思っています。

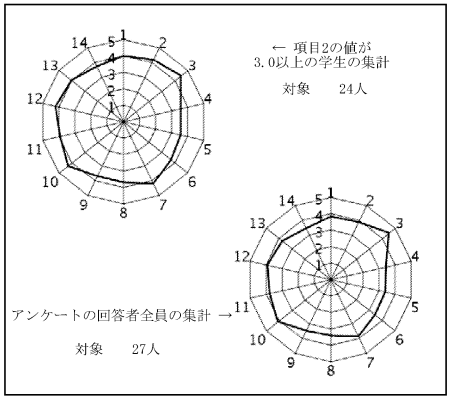
学生には毎回特定の聖書箇所を読んで、それに関するコメント、感想や質問を書くという課題を出し、授業の初めにそれを報告するという方法をとることが特に良かったと思います。聖書テキストを先に読んでおくことで、授業の時の説明がより理解できたと思っています。また、「報告の時にある学生の声があまり聞こえないので、大きく話して欲しい」というコメントもあるので、学生が互いの意見を聞きたいという積極的な姿勢が見られます。今後、この点について気を配っていきたいと思っています。

この授業は1限と2限の連続授業で、学生にとってもかなり長いですが、継続的に行うことで旧約イスラエルの各時代の歴史のつながりがより理解しやすいというメリットもあるのではないかと思っています。

人文学部 キリスト教学科
清水　美佐　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教芸術A(美術)
授業コード	21C08-001
教員名	清水　美佐
教員コード	152757
登録人数	47
回答数	27
回答率	57.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 学部生へ講義を行なうこと自体が初めてだったこともあるが、講義難度の設定が履修生の実状と合わないところがあった。キリスト教学科の開講科目であるので専門的な内容を伝えることを目指したが、実際は履修生の約93.6%が他学科生であり、1～4年生までいるため、講義を理解するために必要な土台となる事前知識の差が大きかった。履修生の様子を見ながら、基本的な内容を大幅に増やし専門的な内容を減らしていったが、それでも難しいと感じる学生（特に他学科1年）が相当数いたとみられる。

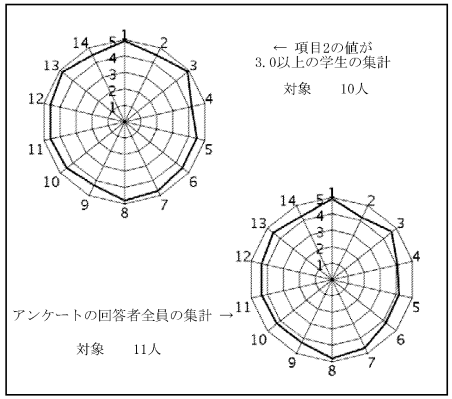
② 講義の復習と補足のため、毎回リアクションペーパーに書かれた全ての質問について、次の授業までに回答資料を作成し、配布して履修生全体に共有し、毎授業初めの30分程度の時間をとって説明した。これについては学生から肯定的に受けとめられたが、この準備のために徹夜することが頻繁にあり、体調不良で声が出ず「声が聞き取りにくい」という評価の一つの要因にもなってしまった。そのほか、初回授業時に行なった自作のアンケートでは「これまで美術／キリスト教に興味がなかったが受講しようと思った」「事前知識はない」という層も多かったが、最終的に事前知識の有無によって理解度に差が生じ、この層の履修生の興味を引き出しきれなかったと考えられる。

③ 履修生の様々な状況を踏まえて、事前知識がなくとも理解できる内容を重点的に増やす必要があるが、専門的な内容を知りたい学生も満足できるよう、構成やバランスを見て調整したい。

人文学部 キリスト教学科
加藤　久美子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	旧約聖書学(預言書A)
授業コード	21C20-001
教員名	加藤　久美子
教員コード	103475
登録人数	17
回答数	11
回答率	64.7%
休講回数	1　回
補講回数	0　回



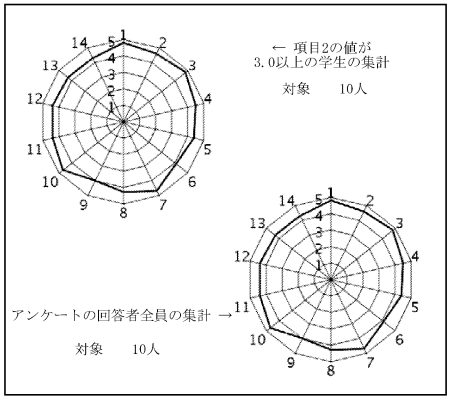
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今学期は預言者像の多様性を提示することを課題とし、ヘブライ語聖書の広い範囲からナラティブを選んだ。そのため、通例よりも多くの文献学的基礎知識の解説が必要になった。その対策として比較的詳しい資料を用意したが、この点は自由記述欄にみられるようによい効果をあげることができたと考えられる。旧約の預言者像の諸側面を知ることとナラティブから人間理解を読み取る方法を身につけるという到達目標はある程度達成されたと思われる。数値データの中で特に留意すべき点として、授業の構成と進行速度に関する評価が比較的低かった点がある。おそらく授業構成の問題であると考えられるので、よりわかりやすくするよう努めたい。自由記述欄にみられるように、一部の履修者にとって基礎知識に割く時間が多いと感じられた点については、キリスト教学科生必修の聖書入門を履修していない他学部他学科生に開かれた授業であるため、バランスを取るのが難しいが、次のクォーターには注意したい。

人文学部 キリスト教学科
KUCICKI, Janusz　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	新約聖書学(書簡A)
授業コード	21C26-001
教員名	KUCICKI, Janusz
教員コード	101877
登録人数	16
回答数	10
回答率	62.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



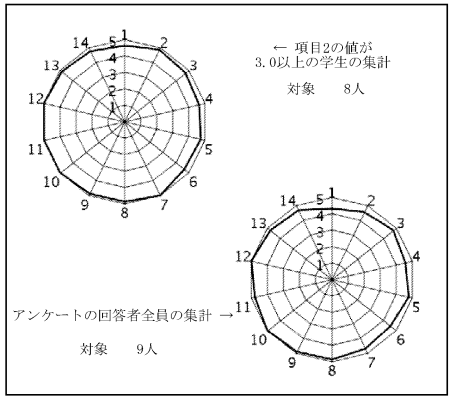
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「新約聖書学（パウロ書簡A）」は全般的に良い評価を得た科目であったと思われる。科目の内容と教え方については問題がなかった。学生授業評価の結果によると、学生たちは授業の準備と学習に対して自主的な動機を持っていた。

人文学部 キリスト教学科
SUSAI, Raj　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎神学(啓示論)
授業コード	21C42-001
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	18
回答数	9
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



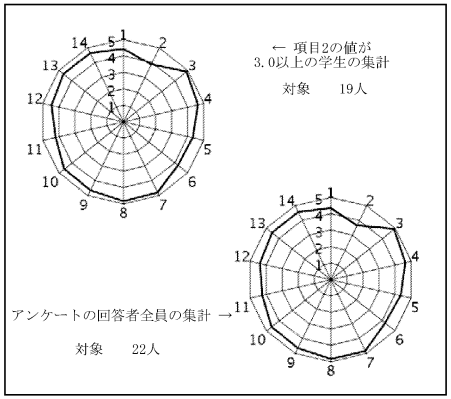
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターの基礎神学（啓示論）の授業の受講者が18名だったが、授業評価に参加したのがその半分だけだったのが残念である。しかし、この授業においてその到達目標を達成したと思われる。全体的に学生が積極的な姿勢を示した上、進んで参加するということは喜ばしことである。学生がキリスト教の啓示だけではなく、幅広いく他の宗教にも見られる啓示形態について勉強することができたと思われるし同じ意見も授業評価に居られる。学生の疑問などをに積極的に取り上げたのが全員のためにもなったに違いない。シラバス通りに授業を進めることができた。二年生から4、5年生までの学生を含む授業だったので学生たちの能力と知識に差があってバランスを取るのがしばしば困難であった。グループワークと発表は良かったと思われるが授業評価にもあったようにもう少し時間をかけても良かったと思われる。時には学生の能力と知識の低下のために早めに進めたのが学生にとってよくなったように思われることが評価にも反映されている。今後学生全体が理解しやすく授業を進めることを心にかけたいと思う。全体的にこの授業は本来の目標に達成したと思う。

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教倫理学(各論A)
授業コード	21C52-001
教員名	RAJCANI, Jakub
教員コード	103281
登録人数	31
回答数	22
回答率	71.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



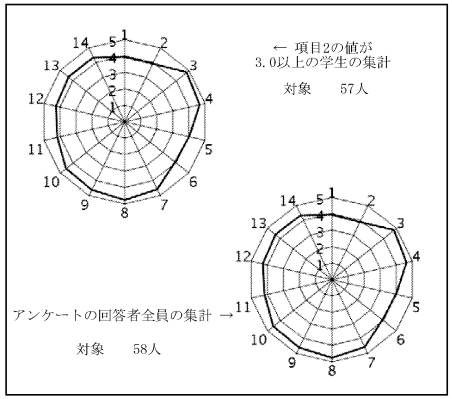
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の目標は大幅に達成されたと思います。つまり、命の始まりと終わりに関連する諸問題について学生が様々な事実を知り、それについて考え、それを各自に評価する機会と環境を作りたかったのです。ただし、カリキュラム上で扱わなければならない問題、興味深い問題が多すぎて、場合によっては飛ばすテーマもあったり、簡単に触れることに留めておくことがあったりしました。今後、内容を少し削るとか、効率の向上をはかるとかして、あるいは間に合わなかった内容を（聞きたい人のためだけ）さらなる補講で紹介することを考えています。
自由記述にあった「生物学的・医学的説明は、ほとんどの学生が高校等で既に学んだ内容が多かったと感じた」という意見はよく分かります。私自身も当たり前な話をしているかもしれないと思う時があったのですが、やはり経験で言うと学生の間にかなりバラつきがあったり、外国人もいたりするので、大事な情報は念のためにおさらいする必要があるでしょう。本当はそういう復習・確認的な情報をスライドに入れるだけ入れて、読みたい人がwebclassで後で見れば良いのかもしれませんが、実際、すでに使っているウェブクラスの閲覧率が驚くほど低いのです。
個人的に気になったこと、こちらだけでどうにもできないこととしては、就活などのために欠席者が多く、また、来たり来なかったりする学生、遅刻者が多く、話のつながりを考えるとかなり苦労していました。もっと充実した授業にしていきたいと思いますが、教員だけではなく学生の協力も不可欠です。

人文学部 キリスト教学科
三好　千春　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本キリスト教史
授業コード　21C54-001
教員名　三好　千春
教員コード　101173
登録人数　100
回答数　58
回答率　58.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

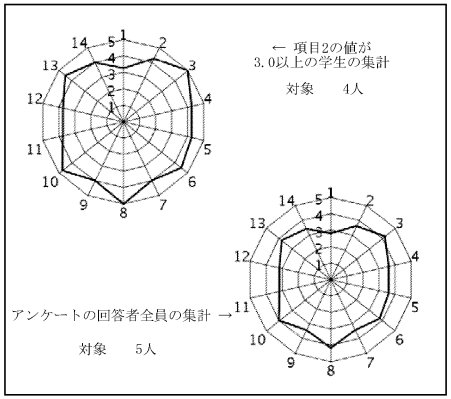
日本キリスト教史の流れを理解するという点や、日本キリスト教史を日本国内に限定されたものではなく、世界のキリスト教とのつながりの中に位置付けてみる視点を得る、という目標に関しては、リアクションペーパーなどから、ある程度達成できたのではないかという手応えを主観的には感じていましたが、項目６の点数が4点を切り、他の項目より低いのを見ると、まだまだ不十分であったと思われます。達成を講義中に確認する手段について、来年度、工夫する必要があると感じています。

また、この科目はB群科目であるため、あまり興味がない、前提知識もないという学生さんの受講が多いということもあり、現在、私はいかに分かりやすく教えるかに心を砕いており、その点は自由記述などからも学生から肯定的に受け止められていることが分かって嬉しいのですが、一方では、このような知識伝授型の講義でよいかという疑問も感じており、、今後どのような形で講義を勧めていくべきかについて、迷いがあります。来年度に向けて、少し講義の組み立てを見直し、学生がより考える講義を目指したいと思います。

人文学部 キリスト教学科
奥山　倫明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教学
授業コード　21C55-001
教員名　奥山　倫明
教員コード　019133
登録人数　7
回答数　5
回答率　71.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



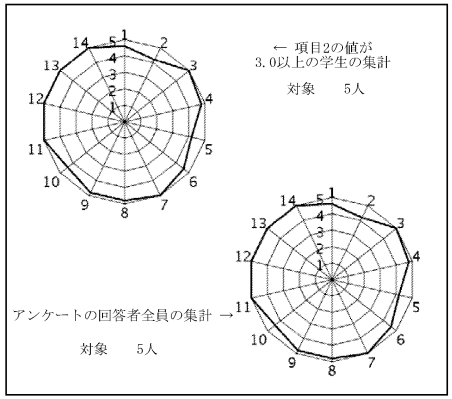
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初に設定していた到達目標は、「宗教学の諸潮流について理解する」「宗教学の現状について理解する」「現代世界における宗教動向について理解する」の3点である。授業では英文テキストの最初の章を精読して、宗教学の方法と現状について解説した。しかしながら、テキストの読解に時間がかかる受講者もいて、テキストは当初の予定の半分しか読解できなかった。英文読解に時間がかかり、内容理解にまで到達できなかった学生がいた可能性がある。
②数値データに関して、全項目に１を付けた学生がいたので、平均値が下がっている。英語ができなかった学生については、授業中に行なった詳細な解説によって、多少はできるようになったのではないかと希望している。
③「宗教学」のテキストとして用いた書籍は最新の宗教学の内容を反映した適切なものだったが、受講生には残念ながらふさわしいものではなかったので、テキストの変更を考える。人文学部のカリキュラムのなかに人文社会系英語の講読科目などを制度として取り入れてもらえると、通常の授業にとっても有益だと思う。

人文学部 キリスト教学科
SOUSA, Domingos　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教思想A
授業コード	21C59-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	14
回答数	5
回答率	35.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



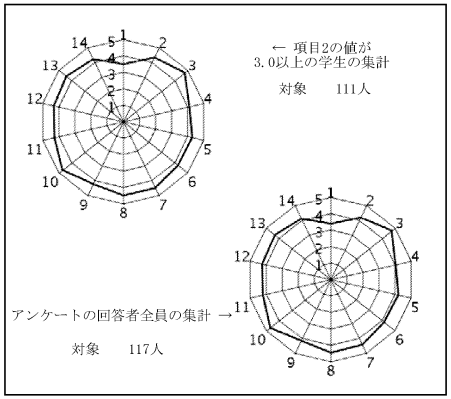
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、多面的宗教現象を広く検討するとともに、宗教の起源や本質を解明しようとする。代表的宗教学者や思想家の文献を解読することによって、様々な宗教領域に必要な基礎的知識を習得するとともに、文献の分析力を高めることを目指している。
講義に対する学生の評価結果は、全体として比較的高いと思われる。自由記述には肯定的評価として「レジュメ、スライドと情報量が多く、それらを比較しながらみていったことは、自分にそれらについての体系的な理解を与えてくれました」、「思想家の書いた書物を読む前に、思想家の考えを簡潔にまとめてくださったので、授業内容を理解しやすかった」、「思想家の考えに対する先生の考えが大変興味深く、新たな視点の学びになりました」等があげられる。否定的な評価としては、「パワーポイントを進めるのが少し早かったです」等があげられる。予習や復習などについての得点は多少低いので、自主的な学習を促すような働きかけを行っていく必要があると思います。今後はこの点に留意して授業に取り組んでいきたい。

人文学部 人類文化学科
ANTONY SUSAIRAJ　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[E・J]3
授業コード	10A51-010
教員名	ANTONY SUSAIRAJ
教員コード	103820
登録人数	150
回答数	117
回答率	78.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals set before the course
The goal of this course to introduce the basic principles of Christianity and how it is developed during the course of history and lived today.
To introduce the basic principles of Christianity, the necessary materials were provided to learn about the Bible both Old and New Testament.
The students were given the New Testament Bible and explained the basic principles of Christianity.

To explain the development of Christianity during the course of the year, the history of Christianity was explained.

The present faith and lifestyle Christianity were explained with PowerPoints, Videos those are relevant today.
The students were also given a chance to go to the Church and have first-hand experience.

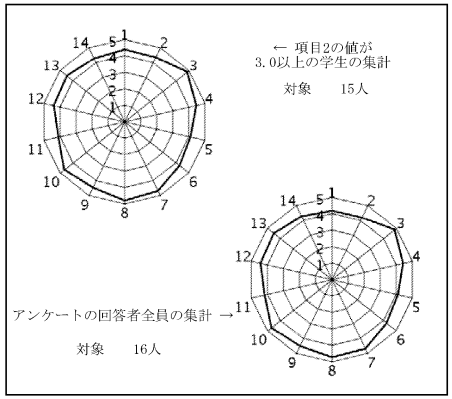
2. Overall Self-assessment: 8/10

3. Getting the feedback of students during the middle of the Course, respond to them as early as possible.

人文学部 人類文化学科
坂下　浩司　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ギリシャ語I文法＜全＞
授業コード　11K01-001
教員名　坂下　浩司
教員コード　100471
登録人数　20
回答数　16
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



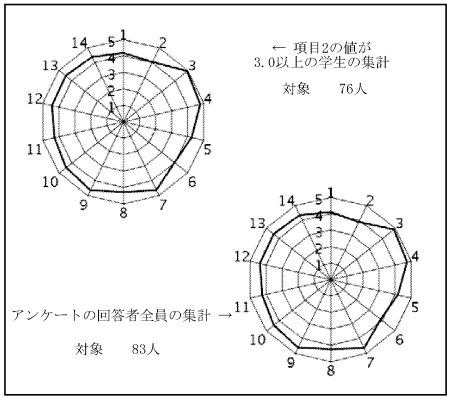
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初に設定していた目標と到達の程度：「ギリシア・アルファベットを覚えて使いこなす、文字と単語の発音ができる、文章をつまらずに音読できる、簡単な文法を理解している」という目標は、日常の授業、小テスト、定期試験を見る限り、ほぼ全員が達成できている。「変化表の使い方が分かっている」という目標は、定期試験を採点してみた結果、全２０名中２～３名がまだあやしいようであった。（２）数値データと自由記述を踏まえての総合的自己点検・評価：数値データの平均値は４以上でありこのままの良い状態を維持できるよう心がけたい。自由記述については基本的なことに関しては、「初めての言語をあまり恐れることなく学習できた」、「とても理解しやすかった」と評価を受けたが、反面、「初めは丁寧だと感じたが、授業が進むにつれて説明が早くなりよく分からなかった」という記述もあった。実際４月はここ数年でもっとも丁寧におこなったが、５月はQ1後半に入るため４月と同じようにはできなかった。そのほか、「〔文法の説明だけではなく〕文化のビデオに際し各モニュメントに対し多くの説明がなされ詳しく知ることができた」とあったのは、以前「DVDをだらだら見せている」と批判されたことが改善されたと評価できる。（３）次クォーターに向けての抱負：今後は学習すべき文法事項は多くなっていくため、できるかぎり困難を感じず楽しく学習できるよう配慮したい。

人文学部 人類文化学科
渡部　森哉　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　考古学B
授業コード　12B02-001
教員名　渡部　森哉
教員コード　101237
登録人数　104
回答数　83
回答率　79.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



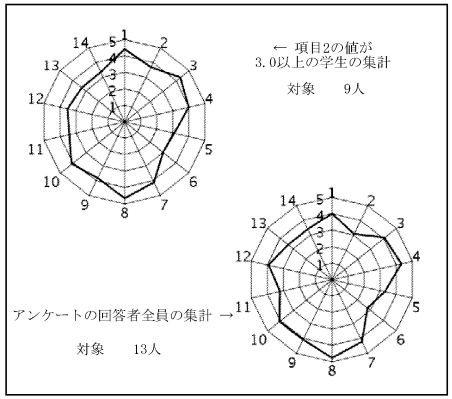
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。登録者104名中83名から回答があった。
評価集計を見ると満足している学生が多いと思われる。
改善が必要な点もいくつかある。
設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の数値が低い。期末レポートの作成前に授業評価を行ったため、授業で学んだことをどのように活かすかを実践できなかったことが要因だと思われる。レポートの内容を精査し、学生が授業で得た知識などをどのように取り入れているかを確認したい。
また項目16では6名の学生から意見があった。「私語に対する注意をしてほしかった」「4000字のレポートは少し大変です」「たまに質問の回答がわかりにくかった」「授業内容についての質問が、次回の授業で取り上げられなかった場合回答を得られないのが残念だったのでなんらかの形で答えを頂けると嬉しいです」「少し眠い。マイクをもう少し近づけてほしい」「授業が単調になりがちになっていたこと」といった意見であるが、マイクを近づける、質問の回答を分かりやすくするなど、できるところから改善していきたい。
項目15では32名の学生が記入してくれた。リトルワールドでの学外授業を評価する意見（6名）、レジュメやパワーポイントがわかりやすかったという意見（10名）、質問に対する答えがあったことを評価する意見（4名）、説明がわかりやすかったという意見（7名）などである。今後も高評価を恵田店に関しては継続していきたい。

人文学部 人類文化学科
青山　幹哉　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本史A1
授業コード　12B03-001
教員名　青山　幹哉
教員コード　019323
登録人数　22
回答数　13
回答率　59.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



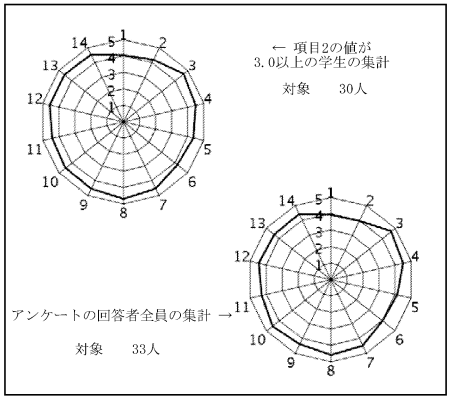
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　設定した到達目標は、(1) 日本中世史についての知識を習得することができる　(2) 一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、多面的な思考力を養うことができる、であった。設問項目6の平均値が異常に低いものの、試験の結果を見るとほぼ全員がB以上であったので、期末試験を受験した学生に対して、この目標はほぼ達成できたものと判断する。
②　本科目は2018年度Q2学期における学生評価の対象であったので、設問が同じ項目を比較してみると、アップした項目が５，ダウンした項目が9という、いささか残念な結果であった。全体の回答数が少ない中、２名の学生がほぼすべての項目に「１」を付けたことで、大きく数値が下がった。この２名の学生は試験を欠席したようであるので、①で記したように最終的な受講生の成績の平均は高いものとなった。自由記述を見ると、「解説が多くて分かりやすかったです」「高校までの知識とは全然違う側面からの視点で新たな知識を得ることができて非常に楽しかった」とする学生がいる一方、「１」を付けた学生にとってこの授業は「最初から最後までついていけなかった」ようだ。
③　重要な問題は、本の内容をまとめることもできない学生が増えてきたことである。アカデミック・リテラシーのための初年次教育の充実が求められるが、このこと自体は「日本史A」の目的ではないので、対策には苦慮せざるを得ない。

人文学部 人類文化学科
中尾　央　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学技術論A
授業コード　12E05-001
教員名　中尾　央
教員コード　102505
登録人数　117
回答数　33
回答率　28.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義に関して到達目標として以下2点を挙げた.
・現代科学哲学の基礎知識・思考法を身につけている.
・各種個別分野の歴史的・理論的・社会的基盤を理解している.
学生からの授業評価結果を見ている限り，この目標はおおよそ到達できたように見受けられる．しかし，最終評価のために提出してもらったレポートを見ていると，理解のおぼつかない学生や大きな誤解をしているような学生も少なくない．したがって，より理解のしやすい授業内容を心がける必要があると考えている.

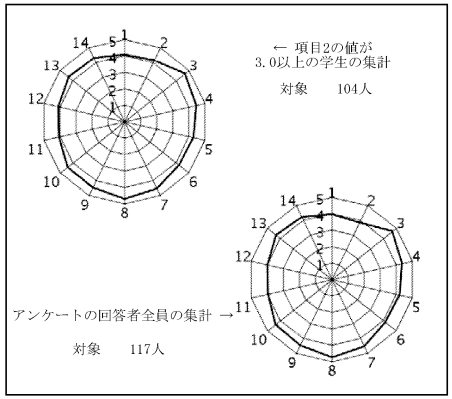
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
概ね数値自体は良いように見えるが，特に項目番号（2）について，4点を下回ってしまっている点が気になる．あまり課題を出しすぎたりすると逆に学習意欲が失われるかと危惧していたが，今後は予習・復習につながるような課題などを考え，さらに主体的な学習を促せるようにしたい.

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
既に述べたように，よりわかりやすい授業内容，そして学生がより主体的に授業に取り組めるような課題などを考慮していきたい.

人文学部 人類文化学科
藤川　美代子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触3
授業コード　13A02-003
教員名　藤川　美代子
教員コード　103115
登録人数　196
回答数　117
回答率　59.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



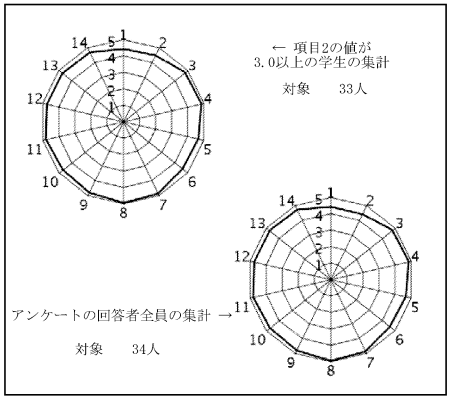
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業前に中国社会に強い関心を抱いていなかったという受講生の多さ（設問1）と、全授業後に到達目標に向けて力がついている、新しい知識を得て理解を深めたと答えた受講生の多さ（設問6、13）を総合的に鑑みて、授業の目標は達成できたと考える。②総合的には、映像を取り入れながら現代中国の現状を考えるというスタイルが学生の理解を深める一助となっており、総合で4.28という高い評価につながったものと推察する。一方で、授業中の私語や迷惑になる行為の注意に関しては評価が分かれており（注意がよい、注意がきつすぎるなど）、ある程度の緊張感をもたせる学習環境づくりに向けて精進したいと考える。また、レジュメや最終課題の体裁は、授業を聞きながらメモを取ることで十分な理解が得られるように設計しているつもりだが、ごく一部の受講生にはその意図が伝わっていないようで遺憾である。③進度の遅れからシラバスで予定していた全内容を完了できなかったため、この点を今後の課題としたい。

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と倫理問題1
授業コード　13A03-001
教員名　奥田　太郎
教員コード　100642
登録人数　70
回答数　34
回答率　48.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



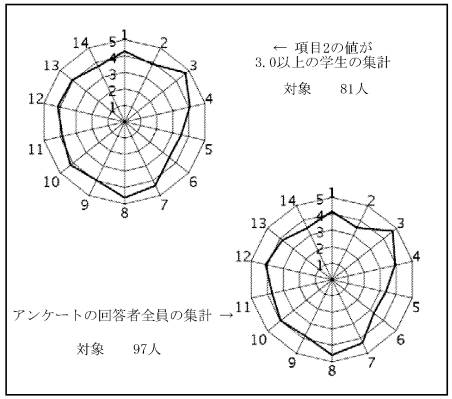
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初に設定した目標は、本授業を通じて受講者に、考える力、聴く力、言葉にする力を身につけてもらうことであったが、概ね達成されたと思われる。
（２）アンケート結果について、数値データを見ると、次の点で本授業は特に高く評価されたことがわかる。(6)の到達目標の項目で、同系列科目の平均が3.99であるのに対して、4.59という高評価が得られた。多くの受講者が、本授業を通じて自分自身の力がついてきていると感じていたことがわかる。また、(11)の学習意欲と自主的学習の盲目で、同系列科目の平均が4.19であるのに対して、4.82という高評価が得られた。自由記述欄にも寄せられていたように、授業形式がうまく到達目標に受講者を向かわせる形で機能していたことがわかる。
（３）自由記述欄の回答で、改善すべき点について指摘されていたのは、受講者の発言内容について教員のコントロールを効かせてほしいという要望や、授業の進め方の一部について方針に揺れがあったところは工夫の余地があるのではないかという提案があった。後者についてはすぐに改善すべきだと考える。前者については、哲学対話という方法のあり方の根幹に関わる指摘であり、長期的に検討したいと考えている。

人文学部 人類文化学科
青柳　宏　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ことばとは1
授業コード　13E02-001
教員名　青柳　宏
教員コード　017004
登録人数　173
回答数　97
回答率　56.1%
休講回数　0 回
補講回数　1 回



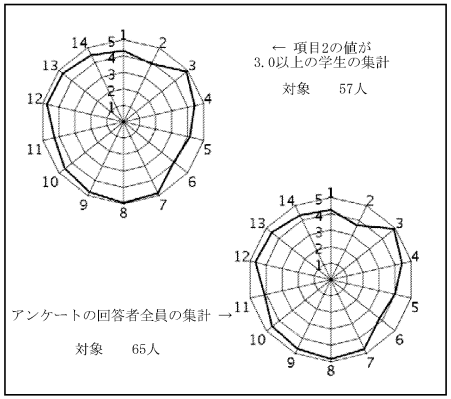
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業の目標とその到達度について
(i)言語や方言に規則性があることが理解できる、(ii)音声表記のシステム(IPA)や音素、音節、アクセントなどの理解を通して、外国語学習に役立てられる
が二つの目標であった。期末試験100%で評価し、その結果は、50点満点で平均37.7、最高49、最低16、SD=7.24であったので、少々易しめであった。ここ数年毎度のことだが、目標を十分にクリアしている層と（自由記述などから）目標そのものを理解できていない層とにはっきりと分かれる。
②総合的な自己点検・評価
項目1～14の平均が3.91、項目3～14の平均が3.92と200名規模の共通教育科目としてはごくふつうの評価であった。自由記述をみると、授業目標をよく理解したうえでしっかり受講し、好意的なコメントを寄せてくれた学生も多い反面、難しすぎる、板書やスライドが見にくい、など幼稚なものも多かった。口頭によるものでも後述のアクション・ログによるものでも質問の機会は十分にあったはずだし、教室(S21)には十分席に余裕があり、スライドや板書が見にくければいつでも前方の席に座ることができた。
③今後の改善点
今回、単元ごとにアクション・ログを取り、理解度を測るクイズと質問や感想を書かせた。口頭で質問をすることが苦手な学生でも紙に書くことでハードルが下がることが分かったので、今後も続けたいと思う。

人文学部 人類文化学科
黒沢　浩　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　博物館概論
授業コード　15M07-001
教員名　黒沢　浩
教員コード　100758
登録人数　73
回答数　65
回答率　89.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



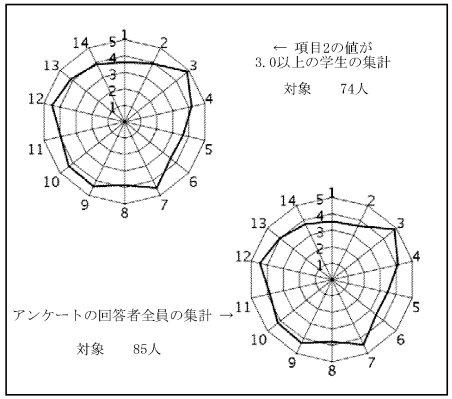
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に対する評価は、良好なものであったと思う。この科目は博物館学芸員養成課程の科目であると同時に、人文学部の共通科目でもあるので、学生の受講動機を絞り込むことは難しいため、学芸員養成課程の授業として行う旨を授業の初回で伝えたが、共通科目として受講している学生からも、そのことについて特に不満等はなかった。
ただ、授業内容そして教材の情報量が多いせいか、学生が消化不良を起こしかねないようだし、また試験に対する不安が募るという意見もあって、今後、より内容を絞り込んで伝えるべきことを痛感した。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報組織化論
授業コード　15P02-001
教員名　浅石　卓真
教員コード　103263
登録人数　99
回答数　85
回答率　85.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

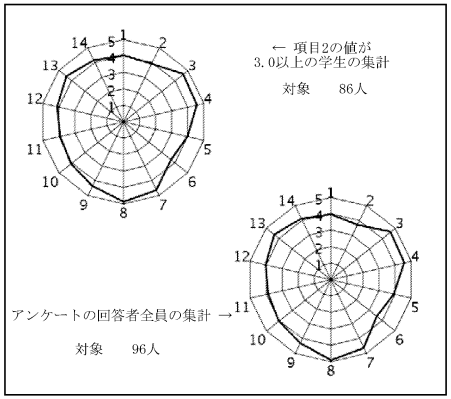
当初の到達目標として「1. 図書館における書誌コントロールの主な方法を理解できる」「2. 図書、および図書以外の様々な資料種別の組織化の方法を理解できる」「3. 特定の主題の資料や、データの組織化の方法を理解できる」の三点を設定した。授業内試験を２回実施したが、平均点は７割弱でほぼ想定の範囲であった。
総合的に見て大きな問題はないと思われるが、自由記述において「質問に丁寧に答えてくれる」「スライドやビデオが詳しい」という肯定的な評価が寄せられる一方、「早口である」という意見も見られた。板書を増やすなど「間」を取ることを意識したい。

次クオーターに向けての改善点として、小テストについては「難しい」という意見が見られたため、論述問題を一部予告するなど、学習しやすいように工夫したい。また、練習問題を解いてもらい理解を深めるよう工夫したい。その他、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」でやや低いが、自由記述では「図書館で本を探すのが楽になった」という声も見られた。次からは、このような司書課程科目の実利性をアピールしても良いと考える。

人文学部 人類文化学科
吉田　竹也　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学基礎論A
授業コード　22A05-001
教員名　吉田　竹也
教員コード　019158
登録人数　109
回答数　96
回答率　88.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



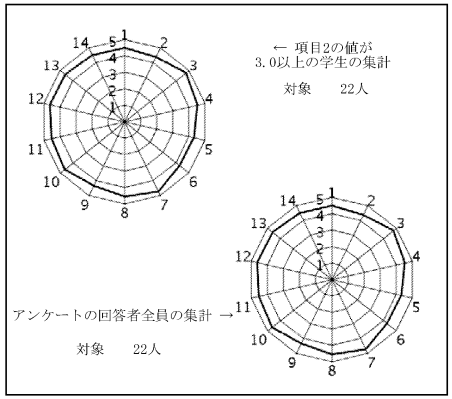
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、人類文化学科1年生の必修科目であり、人類文化学科の幅広い学びの導入として、関連する学問諸領域を広く見渡し、自身の関心の所在を考えること、また講義形式を通して聴く姿勢を身につけてもらうことを、目標としている。自由記述および質問項目5や13からは、ある程度趣旨が伝わっていると考える。ただし、質問項目6からは、講義形式であることもあって、実感として力をつけていることを感じ取れないところもあるようだという点も指摘できる。
自由記述を見ると、否定的な意見はなく、評価のポイントと合わせて、おおくはこの授業を肯定的に評価していることが見て取れる。とくに、「予習が促されていたので、講義でのより深い理解に繋がった。」というコメントが、ひとつだけだがあった。別に実施したリアクションペーパーの中でも、予習によって理解が進んだというコメントは散見された。昨年度よりも今年度の方が、予習をする履修生がおおかったようでもある。
次年度に向けて、もうすこし予習を促すことができないか、検討してみたい。

人文学部 人類文化学科
大塚　達朗　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　考古学入門
授業コード　22C02-001
教員名　大塚　達朗
教員コード　019372
登録人数　30
回答数　22
回答率　73.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



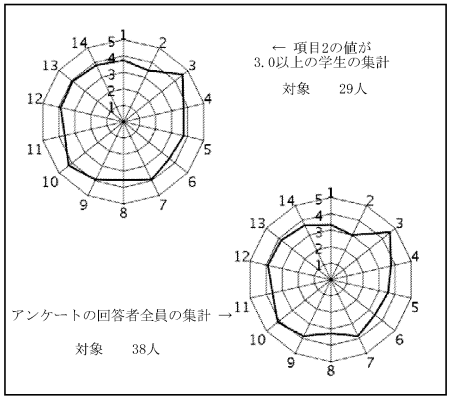
授業評価結果を踏まえた点検・評価

考古学の発展史、層位学の基本と応用、型式学の基本と応用、生業からみた人類史などの理解から、考古学が多面的で総合的な学問であることを修得させるのが、本講義に関して掲げた目標である。授業評価は、集計表によれば、全体では項目1から14の平均が4.32、項目3から14の平均が4.36であるのに対して、本講義はそれぞれ、4.52、4.53である。また、全体的な評価を問う設問（13・14）をみると、全体ではそれぞれ4.34、4.27であるのに対して、本講義はそれぞれ4.59、4.50である。高く評価されたといえよう。故に、目標はおおむね達成できたと考える。自由記述をみると、博物館での講義が「おもしろい授業展開であった」「実際に物をみながら授業を受けられる、プリントがまとめられてわかりやすい、レポートが楽しい」「授業が独特／先生が優しい」などの記述の一方で、博物館での講義がなじめなかった記述もあった。ともあれ、高校までの授業で世界史・日本史にならされている受講者に対して、〈遊動から定住へ、定住から国家へ〉という考古学が提示する世界史像を踏まえた、文献史学とは大きく違う歴史認識の提供は、ほぼ奏功したといえよう。また、知識が抽象的にならないように、かつ、考古学の分析手続きの特色が理解できるように、人類学博物館所蔵考古資料を最大限に活用することは、ほぼ奏功したといえよう。

人文学部 人類文化学科
横山　輝雄　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学コミュニケーション
授業コード　22C24-001
教員名　横山　輝雄
教員コード　015149
登録人数　62
回答数　38
回答率　61.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　項目５「到達目標の理解」が、３．５８であり、項目６「到達目標に向けて力がついたか」が３．４２であった。だいたい同じ点数であるが、「理解」に比して「力がついたかどうか」が、若干低くなっている。

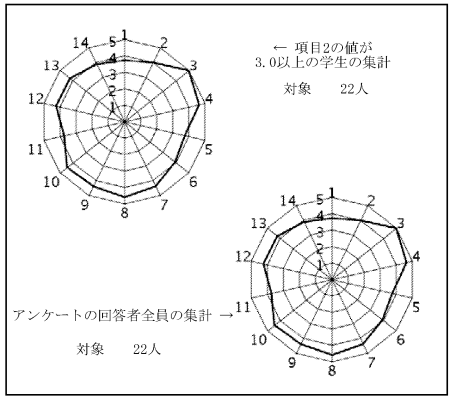
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　4点以上の高い点数は、項目３「授業の開始時間」と、項目１０「私語などのさまたげへの処置」であり、一方最も点数の低いのは、項目２「予習・復習であり、３．００であった。これはあと少しで2点台になるものであった。自由記述には、「内容が面白かった」「板書の字が大きく見やすい」「章が終わるごとに確認作業があり理解がしやすくなった」などがあった。

３．次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負など
　上記２にみられたように、形式的なことは、改善がしやすく高い点数になったが、項目２の点数が低かったことにみられるような、主体性を引き出す点ではまだ不十分であり、これは今後の課題である。

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近世哲学史I
授業コード　22C29-001
教員名　谷口　佳津宏
教員コード　016550
登録人数　56
回答数　22
回答率　39.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



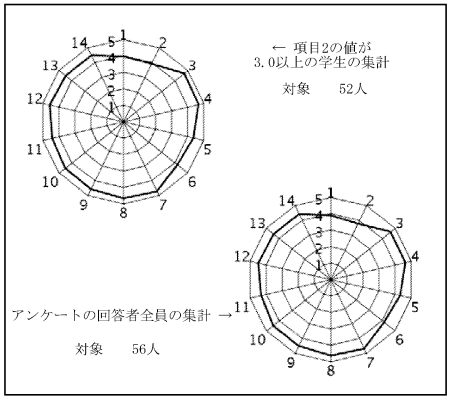
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1.近世の哲学の流れについて理解している。2.近世の哲学の特徴を理解している。」であった。試験結果（合格率）からみるかぎりでは，全体の45パーセントの受講生が到達目標を達成したといえる（平均点は56.6点）。設問1の数値が示しているように，もともとモチベーションがあまり高くない学生が多いためか（学科生の多くは哲学よりも人類学や考古学に関心をもっている），設問5,6,11,14も比較的低い数値となっており，何らかの改善策（とくに設問11に関連して）が必要であるが，今のところ，効果的な対策は見つかっていない。アンケートの自由記述項目15（この授業の良かった点，評価できること）には「毎回質問にしっかり答えてくれる、参考文献や初心者にも読みやすい資料を説明してくれる。」という記述があった。項目16，17に関しては記述はなかった。実際の受講者数（46名）に対して，回答数が22名というのも問題であるが，授業中に説明，回答の時間をとって行なってはいるが，ほとんどの学生は授業内で回答しておらず，実施方法を改めて検討すべきであるように思われる。

人文学部 人類文化学科
坂井　信三　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(アフリカ)
授業コード　22C47-001
教員名　坂井　信三
教員コード　034264
登録人数　98
回答数　56
回答率　57.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



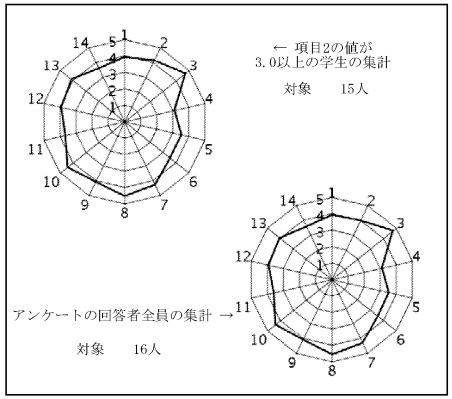
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の授業は、約100人の登録者があった。出席は取らなかったが毎回6割程度の出席者があったと思う。例年の講義における注意（抽象的な理論
と具体的な資料のバランス）に加えて、今期において特に注意した点は、リアクションペーパーによる質問、意見に配慮し、授業に反映させること、Webclassを活用して、欠席者が資料を受け取れるようにするだけでなく、授業中に見にくかった資料をカラー画像で再確認できるようにしたことなどである。
教室の設備が改善されて、プロジェクタやインターネットが使いやすくなり、その点でも講義の効果が高まったと思う。
その結果、授業評価においても総じて4.5程度の高い評価を受けることができた。また、自由記述でも動画の使用、映像資料、リアクションペーパーの使い方、Webclassの活用などについて、肯定的な評価が多かった。
全体として言えば、日本の中等教育において欠落しているアフリカ関係の知識に受講者たちが関心をもってくれたことがもっとも大きな成果だったと思う。

人文学部 人類文化学科
石原　美奈子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献資料講読(民族誌)
授業コード　22C61-001
教員名　石原　美奈子
教員コード　100080
登録人数　33
回答数　16
回答率　48.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



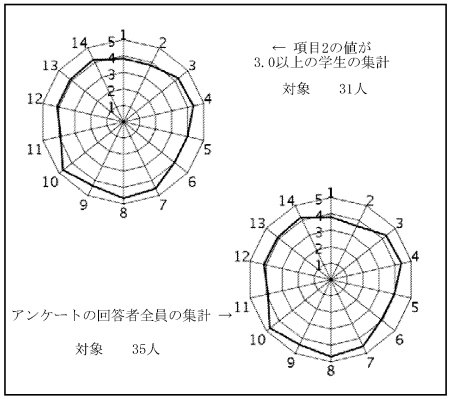
授業評価結果を踏まえた点検・評価

古典的な民族誌を原書で読むというのが本授業の目標である。そこで、人類学では古典であり、大学で人類学を学んだ学生なら一度は読み通して欲しい民族誌のひとつである『The Nuer』を選んだ。和訳も出版されているので、たとえ授業で最後までたどり着かなくても和訳を使って読めるというのも本書を選んだひとつの理由だ。短い授業時間内で民族誌を一冊読み通すことは不可能である。今回は教員主導で進めたので、全６章のうち５章まで読了したが、学生に英語を読んで訳させるとなると、英語の授業になってしまい、遅遅として進まない（以前はそのように進めていた）。民族誌の書き方、人類学の用語・概念、一般的な記述と具体的な事例を交錯させて書く、民族誌の典型的な記述方法を学んで欲しいと思うと、どうしても教員主導で民族誌を読んで解説し、時々単語や概念について学生に質問をする、という形で進めざるをえなくなる。だが、履修生の評価のなかに「英語に全く触れない」という（否定的な）指摘があり、数値から積極的な授業参加を促していないという評価もみられたので、次回は、部分的に学生に翻訳させるなどして授業への積極的参加を促すことにしたい。

人文学部 人類文化学科
後藤　明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人類文化学特殊講義(物質文化論)
授業コード　22C74-001
教員名　後藤　明
教員コード　101380
登録人数　75
回答数　35
回答率　46.7%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



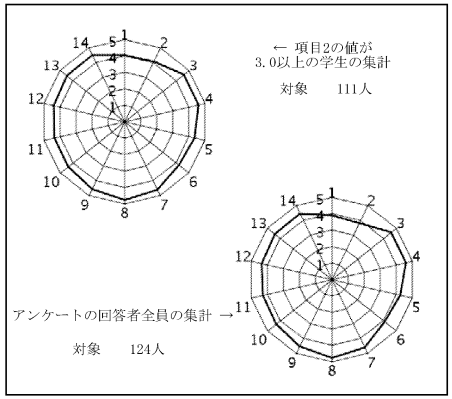
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）当初目的は学生自身が物質文化とは何かを問い、それにそって物質文化研究の対象を選び、研究レポートを書くことであるが、物質文化がファジーな対象であること、一方、人間が世界ないし環境を認識し、接触するために物質文化が必然的に必要であることを理解させること。その結果、入れ墨など物質文化論的にはチャレンジングなレポートを書いた学生がいた。
（2）講義前後での学習について、相対的に評価が低かった。また講義の到達目標、あるいは学習意欲などに関する評価が相対的に低かった（4ポイント前後）。
（3）土器製作の観察レポートをみせ、次回までそのレポートを書かせることで講義外での学習を行わせる努力をしたが、それ以外の事前配布物などを読んでくるなどの指導をより強化する必要がある。また日常的に物質文化を観察するように学生の関心を向ける努力が必要であると感じた。受講生の人数にもよるが、人類学博物館にて、実際の民族資料や昭和の民具などを見ながら講義を行うことで学生の関心、また学習意欲の向上ができるのではないかと考える。

人文学部 心理人間学科
西脇　良　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育・文化における人間の尊厳6
授業コード	10D07-006
教員名	西脇　良
教員コード	100623
登録人数	184
回答数	124
回答率	67.4%
休講回数	2　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では，①学童期の発達課題、教育上の問題，文化面での諸問題に関する基礎的知識を習得していること，②自身の生育経験との照合をおこなうことで，教育に対する自らの見解を深めていること，を学修目標としました。

学生の皆さんからの評価ですが，全体としては「まあまあ」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.36）。評価対象科目全体の平均値（4.32），「人間の尊厳」科目の平均値（4.31）とほぼ同じでした。

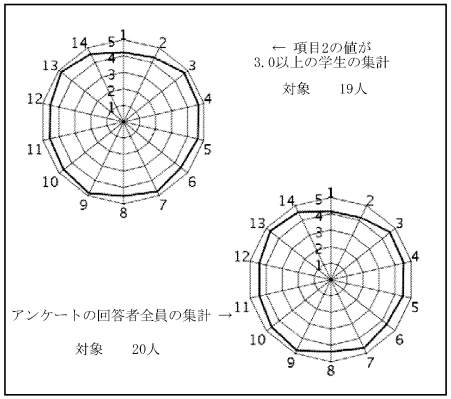
アンケート用紙の裏に記入されたコメントについてですが，まず肯定的な意見として，「大事なポイントが分かりやすかった。」「先生の実体験を交えながら話しているので理解しやすく，とても聞きやすかった。」「授業内容を深めるための動画などが多くて良かった。」「先生の話し方が優しかった。」「先生の面白い話が良かった。」等の評価を多数頂戴いたしました。これからも，皆さんを知的にも刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

他方、改善すべき点として、「スクリーンにもっと字を拡大して欲しいです。」「レジュメを配付してほしい。」「ウェブクラスを読む（講義録を読む）だけじゃなくてなんか他にもした方がいいと思いました。」「他の生徒が全くまじめに受けていなくて、雰囲気が悪かった。あまり集中できる環境ではなかったと思う。」等の意見を頂戴いたしました。スクリーン上での情報を精査したり，講義に集中できる環境づくりに努めたりして，学生の皆さんが意義ある時間を過ごせるよう，引き続き努力して参ります。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育概論1
授業コード	15A18-001
教員名	高橋　亜希子
教員コード	103582
登録人数	49
回答数	20
回答率	40.8%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



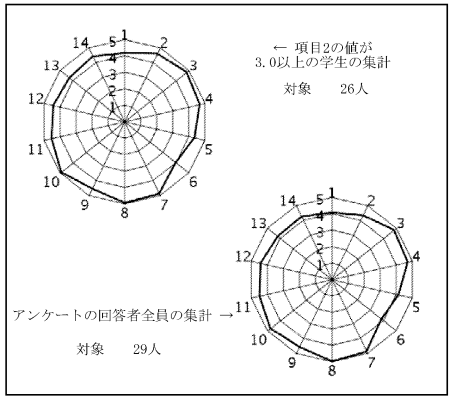
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1 現在の学校をめぐる課題を「ゆとり教育」と「PISA」を手掛かりに考える内容でしたが、授業の枠を超えて、取り上げた様々なトピックに関心を寄せてくれていたと思います。
2　「教育についての知識を深められたので良かったです」「世界の様々な教育について知れた」「ビデオがとても面白かった。」などの感想ありがとうございます。世界の教育への関心が深いのは、南山大学の特徴の一つだと感じています。反対に私自身が説明する部分では、冗長になりすぎたり、言葉が足りなかったりしたところも多く、聞きづらいところもあったかと思います。今回相談の時間を多く取ったため、学生さんの考えを聴く機会が多かったのは私にとってもよかったです
3 来年度から、私は「学校教育概論１」を担当しなくなるので、私にとっては最後の授業でした。ただ、今回のクラスは教職への意識が高い学生さんが多く、学校をめぐる問題に関心を寄せてくれていて、授業を行っていて楽しかったです。また、学生の感想やグループ発表での調査の内容から私自身も学ぶところが多くありました。ありがとうございました。

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IA
授業コード　23A04-002
教員名　川浦　佐知子
教員コード　055855
登録人数　29
回答数　29
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



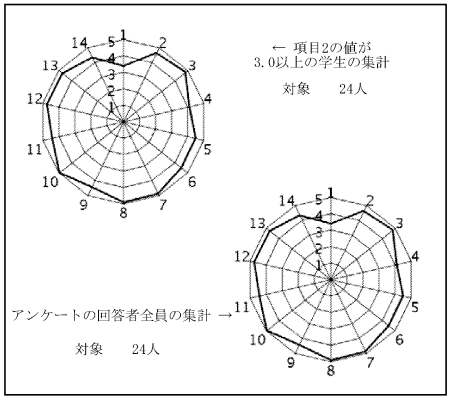
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理学や教育学など人間科学の諸領域を学ぶための基礎力を習得することを目的としている。今年度は社会調査の方法についての文献を読み、論点とそれを支える論拠の構成を把握し、要約文を作成した。グループワークを取り入れることで学生が相互に学びあい、文献理解を深め文章作成の方策を考える時間を設けた。
履修前の時点での学生の授業内容への興味・関心は高くない（項目1平均値4.07）が、昨年度同項目が3.80であったことと比較すると改善した。授業参加態度に関わる項目２の平均値は4.34であり、授業には積極的に参与していたと思われる。授業進度（項目4平均値4.72）、及び講義内容や資料提示（項目9平均値4.55）についての回答からは、授業進行のスピードや内容は学生にとって適切であったことが窺える。提出課題は翌週にコメントを付して学生に返却し、注意すべき点、改善点などについて講義を行った。課題に対する事前・事後の指導に関する項目12の平均値は4.45であった。自由記述欄には、宿題や課題についての説明をもう少し詳しくしてほしかった、というコメントあった。次年度は課題についての質問を受け付ける時間を設けるなど、対応を考えたい。
授業到達目標に向けて力がついていると感じているか、という問い（項目6）に関しては、平均値3.86という結果で項目中、最も低いポイントとなっている。学生が授業で修得した力を実感する機会を設ける方策を、他の授業担当者と検討したい。

人文学部 心理人間学科
土屋　耕治　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-001
教員名　土屋　耕治
教員コード　102287
登録人数　31
回答数　24
回答率　77.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は，心理人間学科の必修科目として開講されている。3クラスが同じ教材を用い行われ，論述文が書けるようになることが目標とされていた。

(1) 目標と到達の程度
新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じるかを問う項目13の平均値が4.71であった。これは高い得点と言え，論述文を書くという目標をある程度達成できたと言ってよいだろう。

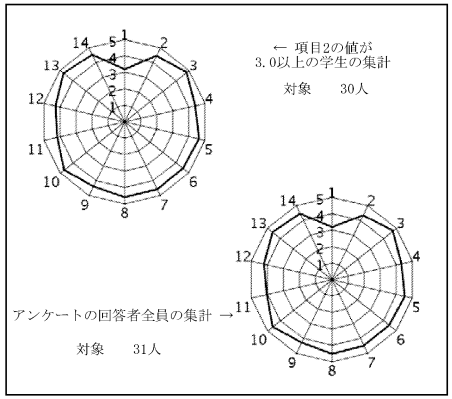
(2) 総合的な自己点検・評価
学生が提出する原稿に対して教員が3回ほど添削をして，コメントを返すということを行なった。これは，「前回の授業や課題に対するフィードバックをしてくださったので、復習や理解がしやすかったです。」「グループの人や先生から自分の論文に対してコメントを貰えたこと」という良かった点に関する自由記述コメントにあるように，一定の評価を受けていたと言える。

(3) 改善点、今後の抱負
クォーター制へ対応するためにカリキュラム構成を毎年改善してきているが，まだ，提出課題の提出期限がタイトであったという意見が複数みられた。このことから，提出課題の内容と期限については，さらに検討する必要があるだろう。

人文学部 心理人間学科
楠本　和彦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-002
教員名　楠本　和彦
教員コード　055780
登録人数　31
回答数　31
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



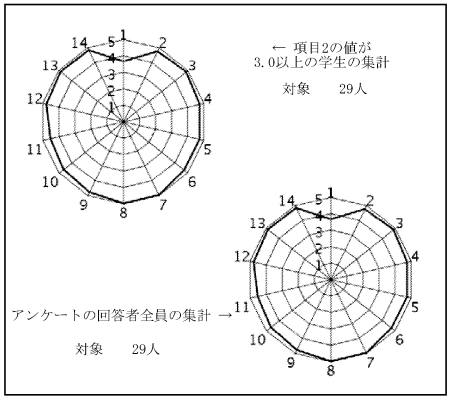
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、３クラス同じプログラムで実施しているacademic　writingに関する心理人間学科の必修科目である。到達目標は以下のものであった。
・論述的文章とはどのようなものかを知っている。
・論述的文章を自分の文章として書くことができる。
・文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。
・テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。
・明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。
当クラスの平均が、全学平均を大きく下回った設問は、1であり、学生が履修前には、授業内容にあまり興味をもっていなかったことがわかる。
当クラスの平均が、全学平均を0.2ポイント以上高かった設問は、2、5、6、10、13であった。この授業では、一定程度の宿題を課したため、2が高くなったと考えられる。各回のおける到達目標や授業進行が明示され、到達目標に向けて授業が順をおって展開されるため、5、6、10が高くなったと考えられる。設問13に関して、学生が授業課題を行い、提出課題に教員がコメントをつけることなどを通して、academic　writingに関する知識や能力を向上させることができたと考えられる。

人文学部 心理人間学科
中村　和彦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IIA
授業コード　23A08-003
教員名　中村　和彦
教員コード　055731
登録人数　31
回答数　29
回答率　93.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



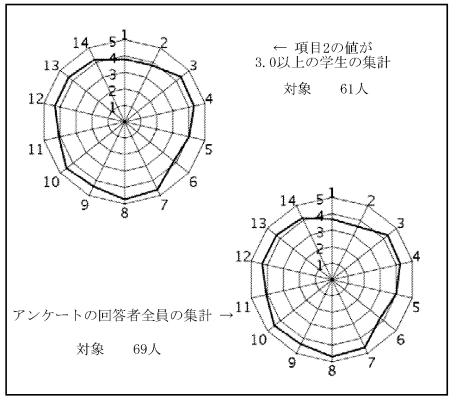
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理人間学科２年生が３クラスに分かれ（同じ内容で実施される）、論述文のレポートや論文を作成する力を養うことを目指し、論述的文章を書くことができること、文献を引用のルールにしたがい活用できること、などを到達目標として設定している。2018年度Q1の授業評価結果との比較で今年度の結果を検討していく。
項目3から14の平均は2018年度の4.76から2019年度の4.79に微増した。設問６（授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか）の平均は4.72（2018年度は4.55）であり、到達目標に向けた力を身に付けたと自己認知した学生が増えたことが伺える。また、2018年度に低い平均となった項目11（意欲を引き出す情報提供：2018年度は4.39）は、今年度にスクリーン投影による情報共有（学生が書いた論述分のよい例を匿名としてスクリーンに表示して解説）することを数回試みた。その結果、この項目の2019年度平均は4.55と上昇した。
一方で、2018年度に比べて2019年度の平均が下がったのは、項目9、項目10、項目12であり、特に項目10（私語、携帯電話、遅刻などへの適切な対処）が2018年度4.84から2019年度4.66と0.2ポイント近く下がっていた。私語や携帯電話は授業中に見られなかったため、遅刻への対処が甘かったことが原因であると推測している。また、この授業はじゅうたん教室で椅子を出して行われたが、自由記述では椅子を出す負担についての指摘がいくつか見られた。

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育社会史
授業コード　23C15-001
教員名　林　雅代
教員コード　018796
登録人数　107
回答数　69
回答率　64.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



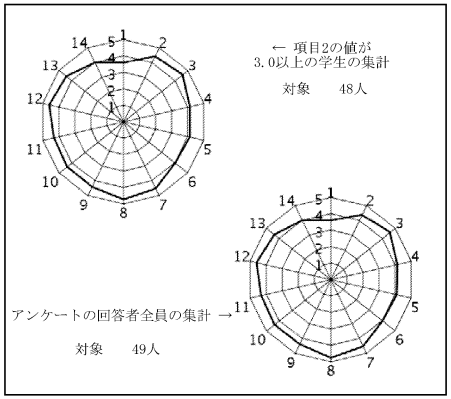
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の授業では、授業時になるべく丁寧な説明を行うことと、WebClassを利用して自主的な学習を促すことを心掛けた。特に、例年授業の内容の理解を深めるために鑑賞しているビデオ教材についての解説やビデオを鑑賞する上でのポイントの提示を行った。その結果、質問項目９の教材の適切さに関しては、これまでよりも評価が高まった。自由記述欄でも、ビデオについて評価する声が多かったように思う。また、その時々の話題を授業内容との関連で取り上げて言及し、興味を深める工夫を行なったが、質問項目13や14の評価は、こうした工夫が反映しているように思われる。パワーポイントを用いて授業を行なっているため、ノートが取りにくいといった指摘も例年みられたが、今年度は授業後に資料を WebClassにアップしておいたので、こうした指摘はなかったし、質問項目４の進度についてそれなりの評価が得られたと思う。来年度に向けての改善点としては、授業時間の延長に関してかなり厳しい意見があるので（それほど長く超過していたわけではないのだが）、気をつけたい。また、授業で配布する資料が多く、授業内に言及できないこともままあったので、資料を厳選して、次の授業回への持ち越しを少なくしたいと思う。

人文学部 心理人間学科
浦上　昌則　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理調査法I
授業コード　23C47-001
教員名　浦上　昌則
教員コード　018788
登録人数　55
回答数　49
回答率　89.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業および心理調査法IIでは，心理測定およびデータ分析についての理解を実践的に深めるとともに，質問紙調査について演習を通して理解することを目的としている。心理調査法Iで調査の計画から実施までを行いデータを収集するまでを行う。質問紙調査法についての理解を深め，それを使った研究計画を立案できるようになること，適切な質問紙を作成できるようになることを目標としている。

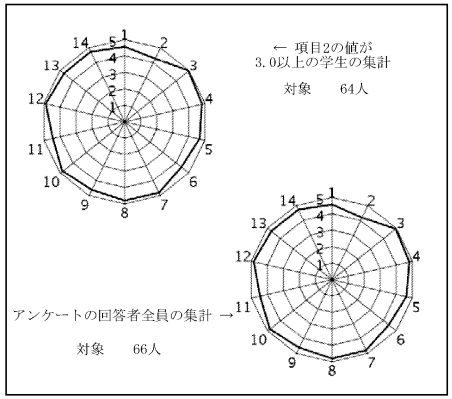
授業評価の回答は，概ね平均値が4以上であり，まずまずの評価を得られたと考える。講義と演習を含む内容のため，課題の量もかなり多く，自主的な取り組みの程度が成果に大きく反映されると推察できる。そのため「自分たちで作業をすることによって，調査の方法が身についてきたように感じる。」「何とか追いつかなきゃと思って勉強したら，今まであまり理解していなかったところが理解できた。」といった意見が見られた。他方，「もう少しグループワークの時間が欲しかった。」という声もあった。カリキュラム変更によって時間数は従来の1.5倍に増えており，担当者としては改善があったと考えるが，学生の視点ではそれでも不足なのかもしれない。

なお説明が「あちこち飛ぶ」という意見があった。来年度に向けて留意しておきたい。

人文学部 心理人間学科
坂中　正義　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	パーソナリティ心理学(感情・人格心理学)
授業コード	23C57-001
教員名	坂中　正義
教員コード	102720
登録人数	77
回答数	66
回答率	85.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。
・パーソナリティ心理学における基礎的事項を理解している。
・パーソナリティ心理学を学ぶ上で重要な姿勢（自分にひきつけて考え、理解する）を身につける。
・自己理解を深める。

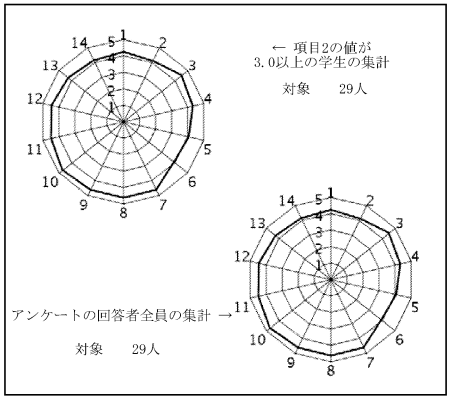
この目標実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。
・内容を身近に感じることが出来るような説明を心がける。
・単元ごとの質問タイムを設定した。
・毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

授業時の感想やレポート、定期試験、授業剽評価アンケートによる到達目標達成度4.41等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で一定の手応えを感じていることが伺えた。 授業評価アンケートの全項目が4以上を示し、全体平均を上回っていた。
よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知覚・認知心理学
授業コード	23C59-001
教員名	藤田　知加子
教員コード	100382
登録人数	68
回答数	29
回答率	42.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

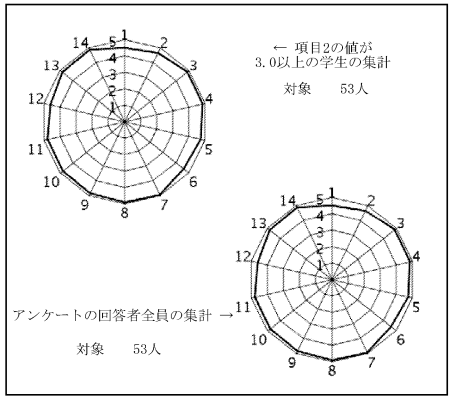
まず，最終講義時間最終で授業評価の時間を設定したが，回答者数が著しく少なかったことから，10分程度の配分では不十分であったことが推察される。今後，授業の冒頭など，学生が回答せざるを得ないような設定としたい。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
今年度から，内容としては2科目分を15コマに詰め込む必要があったため，そもそも目標が学生に伝わりにくかったと考えられる。
実際に，設問5の評定値が4.07と，他の設問に比べて評定値が低かった。来年度はシラバスを工夫したい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
参考文献の紹介などは，自由記述欄で評価されていたことから，今後も積極的に行いたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記内容を踏まえて，次年度以降もシラバスの精査，教材の工夫を検討していく予定である。

人文学部 心理人間学科
解良　優基　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育・学校心理学
授業コード　23C66-001
教員名　解良　優基
教員コード　103910
登録人数　69
回答数　53
回答率　76.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
学生による「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への回答については，4.60と高い値が得られた。
また，ほぼ毎週課題が出る点でそれなりに負荷の高い授業であったと思われるが，授業の出席率や課題の提出率は昨年度に比べて非常に高かった。学生は毎回の授業に真剣に取り組んでいた様子がみてとれ，その結果として本授業の目標は一定程度達成できたものと考えられる。

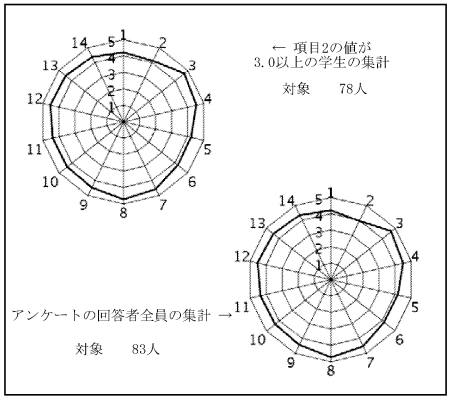
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データからは，全体的に学生は授業に対してポジティブに評価している様子が伺えた。
特に，「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という問いに対しては4.87と非常に高い値が得られた。
また，自由記述では，グループワークに対するポジティブなコメントが多くみられた。
今年は受講者数が70名ほどと昨年度に比べて少なく，グループでの活動への支援がしやすかった点も学生の満足度とつながっているのかもしれない。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生からの改善点に関する自由記述は得られなかった。
今年度から公認心理師対応のため「教育・学校心理学」という名称になったが，時間の都合もあり学校心理学については十分に扱えなかったトピックもある。学習内容や課題についてより精査する必要が考えられる。

人文学部 心理人間学科
池田　満　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　コミュニティ心理学(福祉心理学)
授業コード　23C68-001
教員名　池田　満
教員コード　103141
登録人数　124
回答数　83
回答率　66.9%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

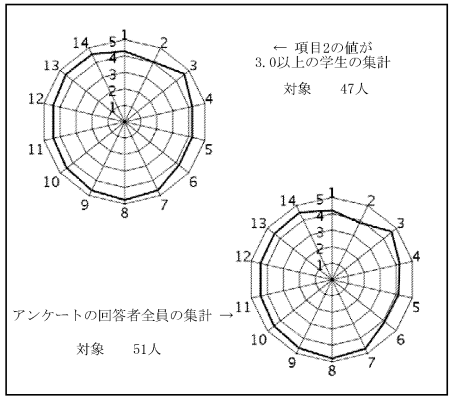
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
全4回のレポート課題を通して，多くの学生到達目標に達成したことを確認した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述の改善すべき点について，コメントシートを書く時間を十分に設ける点については，来年度の授業で心得たいと思う。一方で，その他の改善を求められている点については，授業内で配布した授業概要やウェブシラバスに記載済みの内容が含まれている。シラバス等を読み，理解したうえで受講することを求める。

人文学部 日本文化学科
福本　拓　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人文地理学1
授業コード　12B09-001
教員名　福本　拓
教員コード　104126
登録人数　77
回答数　51
回答率　66.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた到達目標に照らし，受講生はその目標に十分達せられたものと考える。これは，定期試験による理解度の評価のみならず，毎回の講義で実施したコメントシートへの記入からも判断しうる。特に，格差をスケールごとに捉え，地域的差異の発生メカニズムへの理解が，具体的な事例を通じてできるようになったといえる。

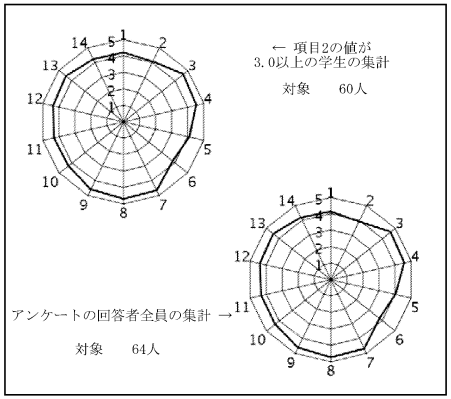
授業評価について，着任一年目のために機材の扱いや学生の理解レベルの把握が十分でなかったが，全体的な満足度も平均と同程度であり（設問項目14），これまでの経験を活かせたものと考える。しかしながら，講義内容を盛り込みすぎたきらいがあり，そのため講義時間をオーバーしたり，説明が不足したりするケースがあった（設問項目4と関連）。また，高度な理解の前提となる知識が必ずしも全員に共有されているわけではなく（高校での地理選択の有無），もう少し内容を精選すべきであったという反省点がある。

来年度への抱負として，精緻な理論の消化を目指すというよりも，現実社会の様々な具体的事例に言及する割合を大きくし，抽象的理解を促すための土台作りを意識したいと考えている。

人文学部 日本文化学科
坂井　博美　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史概説
授業コード　24C02-001
教員名　坂井　博美
教員コード　102981
登録人数　139
回答数　64
回答率　46.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



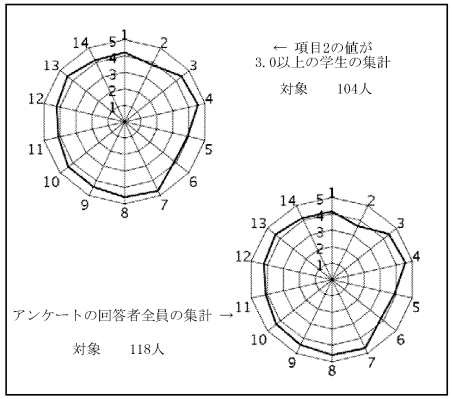
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者数は百数十人で比較的多かったが、私語等は少なく、受講生が学習環境を整えることに協力してくれたと思う。今年度から、映像資料も複数活用し、そこに描かれている像の比較を行ったが、アンケートの自由記述からは肯定的に受けとめられていたことがわかった。これらの試みは次年度以降も継続し、こうした素材を増やすことも検討したい。また、受講者に書いてもらったリアクションペーパーの内容を次の授業で紹介し質問等に答えたが、それも自由記述で多く取り上げられており好評であったようである。メモを取るために話すスピードを落としてほしいという意見もあった。レジュメの誤字も多かったので、これらは改善していきたい。また、設問では、「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか」という問いの平均値が低かった。この課題をどのように改善するべきかすぐには答えがでないが、定期的に理解の度合いを確認するなどの工夫を行いたいと考える。

人文学部 日本文化学科
辻本　裕成　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学概論
授業コード　24C03-001
教員名　辻本　裕成
教員コード　019042
登録人数　151
回答数　118
回答率　78.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、日本文化学科の一年次配当科目であると同時に、人文学部共通科目、中高の国語科教職免許取得のための必修科目でもあるという性格を持っている。それゆえ、日本文化学科1年生に対しては専門科目への入り口の提供、人文学部生に対しては文学を通じて広く人文学について考えさせる材料、教員免許取得希望者に対しては文学史を含む日本文学の基礎的な知識の取得、といういくつかの狙いが要求されている。

それゆえ、今年度は古代から近代に至る文学作品をジェンダーという切り口から取り上げ、さまざまな文学作品について通時的に取り扱った。

項目３～１４の平均値は４．３０で、数値的にはまずまずの評価を受講生から受けたと言えよう。設問５・６については４．０を下回ったが、授業の目標が抽象的なものであるため、授業目標や到達度が充分に学生に実感されなかったものと思われる。今後、授業の最初に授業の目標とするところを受講生に丁寧に説明することとしたい。

自由記述の中には、多くの資料や多岐にわたる資料を紹介したことを肯定的に評価してくれているものがいくつかあり、この点では授業の意図が学生に伝わったものと考えることができる。「高校までの授業で扱って来なかった文学を題材にしていたこと」との記述は、この授業が大学での学問と高校までの勉強をつなげるいわゆる「高大接続」にある程度成功した証左といえよう。

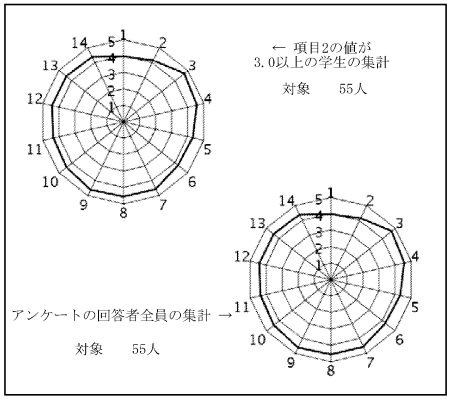
ただし、一方通行的な講義であった点（少し学生の意見・感想の紹介を取り入れたが）や、板書・話すスピードについては批判的な評価もあり、今後授業方法については改善を考えていきたい。

なお自由記述の中にグループ・ディスカッションや動画の視聴を評価するものがあったが、本授業ではどちらも行っていない。ほかの授業の評価をまちがって送信したものとみられ、アンケートの正確性という点で、若干の不安を感じた次第である。

人文学部 日本文化学科
松田　京子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史B
授業コード　24C12-001
教員名　松田　京子
教員コード　100789
登録人数　125
回答数　55
回答率　44.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、教員作成の配布プリントとそれへの解説を中心に、関連する映像資料の視聴を織り込みながら、歴史学的な手法で授業テーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後を小レポートの時間にあて、授業内容に関する質問・感想や視聴した映像資料に関する感想等を受講生全員に書いてもらい、次回の授業の冒頭で感想の一部を紹介しながら復習を行うとともに、適宜、寄せられた質問に答えることで双方向の授業展開を試みた。このような方法で授業を進め、シラバスで示した授業計画はほぼ予定通りに進行することができ、計画していた授業内容はすべて講義することができたが、終盤の授業が少し駆け足になったことが反省点として残る。

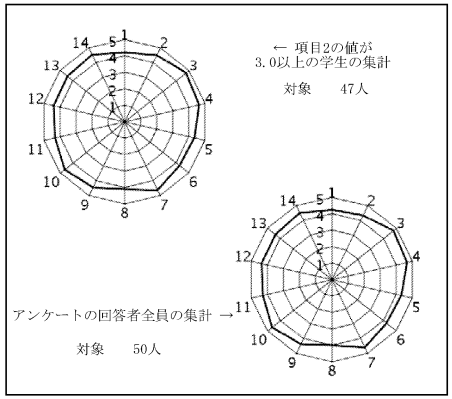
②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.56、設問7の4.56、設問9の4.60という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。反面、設問10の平均値は4.40であり、「学生による授業評価」の「自由記述欄」には、改善すべき点として遅刻や私語等に対するより厳しい対応を求める声が複数あった。この点は反省点として残る。また到達目標に関する設問5の平均値4.31、設問6の4.25と、全学の平均値である設問5の4.13、設問6の4.06は上回っているものの、改善の余地がある数値であり、この点も反省点である。

③以上のような反省から、授業計画をさらに検討するとともに、今後は授業の到達目標について、より丁寧に説明し、到達目標と授業内容の関連性を授業の進捗の中で繰り返し明確に示していきたい。また遅刻や私語等については、教壇から死角になりやすい席にも充分に注意を払い、効果的なタイミングで指導できるよう工夫し、適切な授業環境の維持にさらに努めていきたい。

人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　漢文学概論
授業コード　24C43-001
教員名　西岡　淳
教員コード　019315
登録人数　106
回答数　50
回答率　47.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



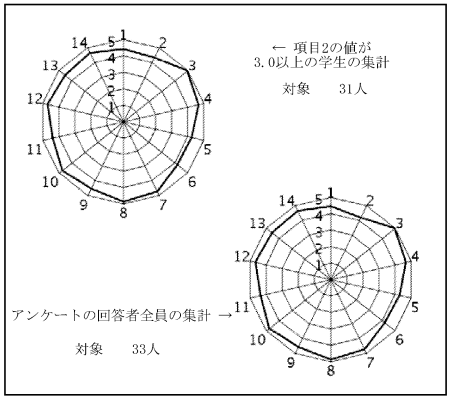
授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引きながら、返り点を施した漢文を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を持参し、まず配布される教材の日本語訳（余裕があれば更に書き下し）を作成する。授業の後半に担当者が読解し、各自が添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧・添削した上で次回に返却する形式である。これに同型式の定期試験を加えて最終的な評価とした。特に日本文化学科とアジア学科の受講者について、適応力や学習達成度は高かった。評価項目の平均値は4.42（除1・2：4.44）で、提出物の出来具合と定期試験の結果からみても、授業目標はほぼ達成されたと考える。評価項目の中では、設問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が平均値4.02と最も低い。自由記述においても、マイクを常時使用すべき、または音量を上げるべきとの意見があったので、今後は注意したい。評価された点としては、「時間の区切りがしっかりしていた」「わかりやすかった。また、授業中も静かでよかった」「皆がつまづきやすいところを重点的に指導してくれた」「単に講義を聞くだけではなく、知識や思考を使う作業をするため、終わった時には達成感があった」等の記述があった。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語分析A
授業コード　24C50-001
教員名　籾山　洋介
教員コード　041806
登録人数　47
回答数　33
回答率　70.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、毎時間提出を求めた質問・感想シート、レポート（2回）、学生による授業評価から総合的に判断して、当初設定した目標が十分に達成できた受講者が約85%、目標をある程度達成できた受講者（授業を通して何かを身に付けた人）が約15%であった。

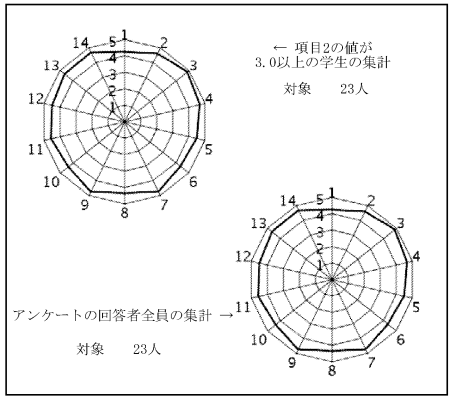
学生による評価として、「教科書の説明がわかりやすく、先生の補足説明も過不足なくわかりやすいものであった」、「コメントシートに対する回答を毎回してくれるので、自分が疑問に思ったことや他の人の考えなどを共有できた」というコメントがあった。これらのことについては今後も続けていきたい。

一方、「もう少し学生に発言させる機会があってもよかったと思う」という意見があった。質問・感想シートを通してのやり取りに加えて、授業内での口頭のやり取りの方法についても工夫していきたい（これまで「質問はありませんか？」と問いかけただけでは、発言する受講者はめったにいなかった）。また、「授業の内容から少しずれた脱線の話が多すぎるので、もう少し減らして欲しい」と書いた学生が1名あった。授業の内容に無関係な話をした記憶はないのだが、補足説明などが授業（およびテキスト）の中心的な内容と関連性が見出だしにくいということにならないように、今後注意していきたい。

人文学部 日本文化学科
上田　崇仁　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教育史
授業コード　24C64-001
教員名　上田　崇仁
教員コード　103619
登録人数　47
回答数　23
回答率　48.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

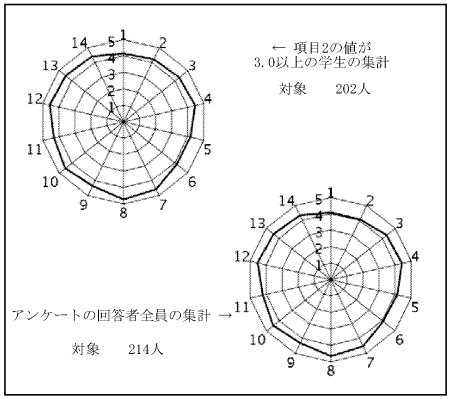
到達目標については、基本的にシラバスに即し、計画通りに進めることができたため、おおむね達成できたと認識している。また、学生からのコメントシートにより、一部、シラバスを変更したことも、効果的だったと考える。

ビデオの視聴に関しては、戦前の映画などは音声が悪いこともあり、ボリュームを上げて解決できるものではないため、解説をしつつ視聴させていた点について、教員の発話と映画の音声が重なることへの苦情があったため、次回、改善したいと考えている。また、パワーポイントの使用については、予め、書きうつす必要はない旨伝えていたのだが、徹底されておらず、書きうつす時間が足りないというコメントをもらった。プリントにすると、かなりの枚数になるため、改善策を講じたいと考える。また、受講前の意識の低さが際立っていた。講義内容について、関心を持ってもらえるよう、シラバスの書き方を改善したい。

外国語学部 英米学科
川島　正樹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人権をめぐって2
授業コード　13C05-002
教員名　川島　正樹
教員コード　048116
登録人数　247
回答数　214
回答率　86.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について：　授業担当者としてはシラバスに明記された到達目標は達成できたつもりでいたが、アンケート項目５の受講生が感じた到達目標理解度は「4.14」であり、決して満足してよい数値ではなかった。ただし同項目の細目を見れば、最高点の「５」を付けた者が42.52%であり、「４」を付けた者と合わせれば79.90%に達する。登録者数247名の全学部生向け共通科目の大規模授業としてはほぼ達成されたとの判断でよいと思われる。
②について：　項目14の全体的満足度は「4.32」であった。これは必ずしも高い評価とは言えないものの、同項目の細目を見れば、最高点の「５」を付けた者が実に57.01%、「４」とした者は26.64%であり、共通教育科目の大規模授業としては十分合格点と自認してよいだろうと思われる。項目４（4.42）、項目７（4.52）、項目８（4.66）のみならず、項目10（4.46）と項目12（4.54）に関しては特に留意して努力した結果が如実に現れたと判断できる。加えて項目15の自由記述欄からも受講生の高い満足度が確認できた。その一方で項目16の自由記述欄に見られる有効と思われる改善可能な具体的意見として、映像資料の解説の仕方の工夫の余地も認めざるを得ない。なお本クラスではWebClassシステムを多用して毎回の出席確認を兼ねた三択問題や簡単な「気づき」の記述問題を課し、受講生のやる気を刺激し、併せて担当教員による受講生の理解度把握にも活用した。受講生のみならず担当教員にもかなりの労力と時間の負担増となったが、効果は十分にあったと判断できる。
③について：　好評を博した映像資料の利用や受講生同士の討論を主体としたアクティブ・ラーニングの手法にさらに細部に工夫を凝らしたい。改善目標としては映像資料を視聴しながらの解説は最小限に留め、受講生の集中度を高く維持しつつ、理解度の改善に努めたい。

外国語学部 英米学科
TEE, Ve-Yin 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	作家作品研究(アメリカ文学)B＜国際科目群＞
授業コード	31283-901
教員名	TEE, Ve-Yin
教員コード	101626
登録人数	9
回答数	1
回答率	11.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

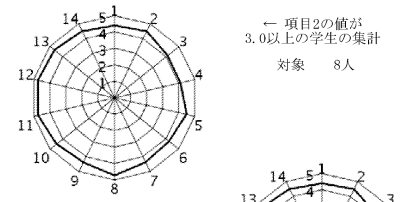
授業評価結果を踏まえた点検・評価

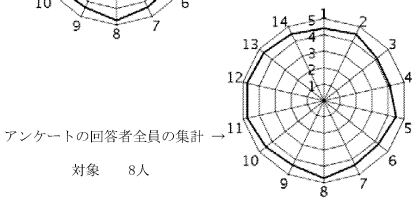
The purpose of this course was to have students engage with environmental issues through the works of American novelists, philosophers and ecologists. The number of students taking the course this year was unusually small, as it was only opened for the benefit of students with the old curriculum. Only 10 students registered this year, compared to 39 the previous year. The disadvantage of this was that the range of opinions we could draw upon was smaller and less diverse, but I could correspondingly give more individual attention. The quality of the work produced though was roughly the same as in previous years, so I was on the whole satisfied. Only one student has evaluated this course however, and while the evaluation was very high I do wish that more of the class had responded.

外国語学部 英米学科
TOLAND, Sean 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A I3
授業コード	31A01-003
教員名	TOLAND, Sean
教員コード	103616
登録人数	22
回答数	8
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回





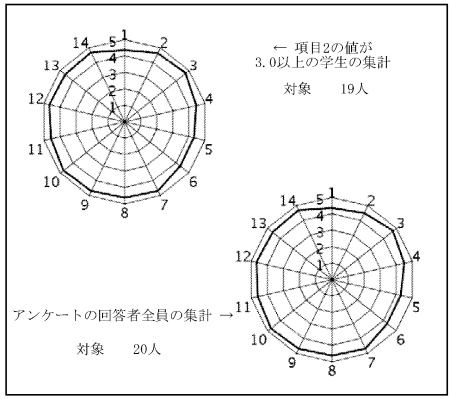
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the Academic English A course were covered during the first quarter. The end of the quarter report revealed that only 36.3% of the class completed the online survey. Needless to say, it would have been beneficial to hear the voices of the entire class, not just a handful of students. Nevertheless, a couple of items emerged from the formal and informal feedback that I received this past quarter. A number of students struggled with the first writing assignment, especially following the correct APA format. I will address this issue by establishing cooperative learning teams to specifically cross-check each other's written assignments. I will also utilize the Language Learning (LL / CALL) classroom next year so that the students can get more 'hands on' experience formatting assignments with the Microsoft Word software and editing their classmates' work.

外国語学部 英米学科
SAKAMOTO, Fern　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A I4
授業コード	31A01-004
教員名	SAKAMOTO, Fern
教員コード	103615
登録人数	22
回答数	20
回答率	90.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



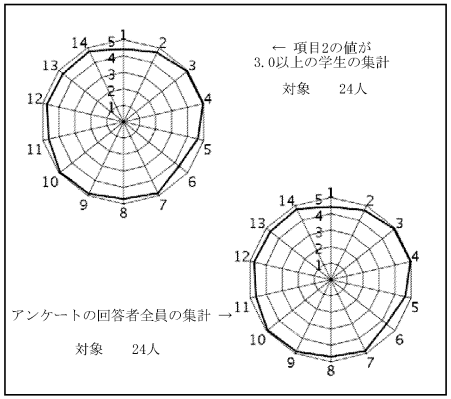
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, this course aimed to improve students' communicative abilities and equip them with academic skills necessary for future study in English. The specific goals were explained in the first class and students received a printed copy, but some students were unsure of the course goals, and whether they had achieved them. This is an ongoing difficulty in Q1 with first-grade students. Goals will be explained again at the start of Q2. Other areas where students gave lower scores (4.35; 4.5) concern student effort. I hope to encourage them to try harder in Q2. Overall, students were very happy with the course (average 4.7) and scores related to my own teaching style were generally high. However, I feel that this year's students are struggling to understand and follow instructions so I want to make efforts to explain very simply in Q2. An improvement from last year is student's opinions about the time they have for assignments. They seem generally happy with the time provided. There are some points to work on but overall this was a good start to the year.

外国語学部 英米学科
DORMAN, Benjamin　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society B＜国際科目群＞1
授業コード	31C02-901
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	28
回答数	24
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class focused on some new goals of introducing more theoretical perspectives regarding media literacy. The key areas were parasocial relationships between celebrities and fans, cognitive dissonance, and Buckingham's four key concepts (Production, Language, Representation, and Audience). The class also included more presentation and theory on news literacy, as students in previous courses were interested in journalists' perspectives.
These ideas were incorporated into the lecture component. The other components of the classes were viewing/reading and group work. This was to allow students to gain practical knowledge on assessing media and its impact on daily life. This was partly successful, as evidenced by student comments about being able to incorporate the ideas presented through the material in daily life.
The use of groups, and swapping the group members around each class, appeared to be an effective way of allowing the students to hear different opinions from other students. However, it would be more effective to choose a group facilitator who could take charge of the direction of discussion and summarize the main points for the class.

外国語学部 英米学科
山辺　省太　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture A1
授業コード	31C06-001
教員名	山辺　省太
教員コード	103138
登録人数	11
回答数	4
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

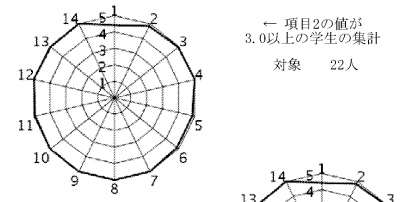
授業評価結果を踏まえた点検・評価

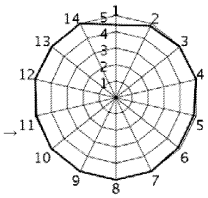
授業的に難しい内容だったにもかかわらず、また課題が多かったにもかかわらず、好意的なコメントを残してくれた学生がいたのは、正直うれしかった。学生間のディスカッションが軌道に乗り始めていたので、もう少しその時間を増やすよう努力すべきだったというのが、教員の反省点である。英語で文学テキストを読むのは大変だったと思うが、その分読む力は付いたのではと思う。実際、最初のころに比べ、授業後半の学生の発言内容はしっかりしてきたと感じた。今後も学生が文学に関心を持ってもらうよう、授業改善に努めていきたい。

外国語学部 英米学科
CRIPPS, Anthony　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language A1
授業コード	31C11-001
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回





授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course and its classes proceeded as planned.

At the beginning of the course the students were given a course outline and the lectures were given in accordance with the schedule.

Attendance and participation were good. Each student presented twice and their work was of a high standard.

The students' end of course self-evaluations showed that they were very satisfied with the course.

The high evaluation scores reflect the success of the course and the dedication of the students.

That being said I will continue to try and improve the course.

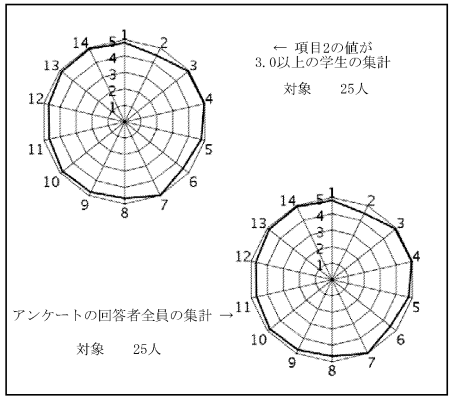
*****I think the students did a very good job especially considering the pressures of the quarter system.*****

Average of questions 1-14 = 4.92 out of 5
Average of questions 3-14 = 4.97 out of 5

外国語学部 英米学科
今井　達也　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies A＜国際科目群＞
授業コード	31C16-901
教員名	今井　達也
教員コード	102469
登録人数	39
回答数	25
回答率	64.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



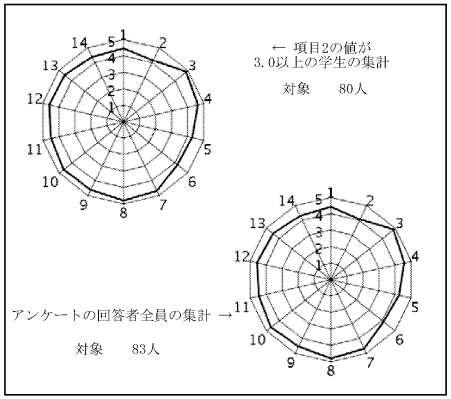
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業の目的は身の回りの偏見の問題について自覚的になり、その問題を深く考え、英語で話し合えることである。人種や性別、Sexualityなど様々な偏見被害者に関する内容の講義やそれらに関するプレゼンテーションによって、学生は理解を深め、英語でのインタラクションの力をつけたと感じた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
数値データは平均4.8と概ね高く、記述のフィードバックもポジティブなものが多かった。しかし、プレゼンをする上で参考にするべき信頼できるソースが分かりずらかったという私的や、プレゼンテーションの詳細な説明不足などの、フィードバックもあった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記のフィードバックを踏まえ、次回は信頼するべきアカデミックな情報のソースの探し方や、プレゼンテーションの本来の目的や評価項目などを事前に講義する回を設けようと考えている。

外国語学部 英米学科
浅野　享三　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外国語教育の基礎
授業コード	31D03-001
教員名	浅野　享三
教員コード	070912
登録人数	98
回答数	83
回答率	84.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



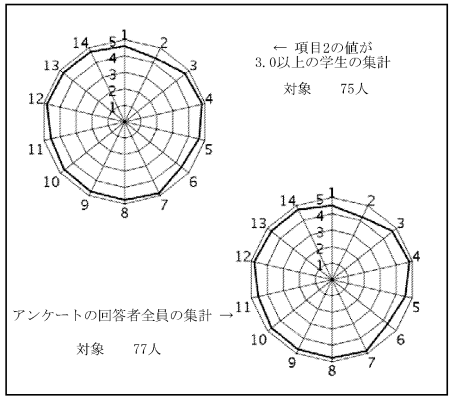
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバス作成時に掲げた次の3つの目標（１．外国語教育が包含する2領域について理解する，２．各種外国語教授法について知識を得ることと，その教授法を部分的に用いることができる，３．市民として外国語教育に関心を寄せられるようになること）について，授業評価にかかる数値・自由記述から判断して，概ね達成したと思う。ただし，3番に関してはほとんど触れられておらず判断が困難である。
②総合的な自己点検・評価としては，良好な授業機会であったと評価する。100名規模の，しかも学部内全学科所属の，そして「基礎」科目にも拘らず1～4年生履修者向けに，「一方通行」的な授業を回避するために努力した。唯一「低評価」だった「質問項目6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」は「4.12」だった。このクラスサイズの同項目が「4」，内容的に近い英米学科科目のそれが「4.28」だったことを勘案すれば，評価が「低すぎる」とまでは言えまいが，改善の余地がある。上記3点の到達目標に向けて「力がついている」かどうかを，学生が自ら実感できる尺度を授業内で考える必要に気づけた。
③この規模の講義クラス担当は初めてだったので，戸惑いがあったのは事実である。履修人数100名は継続したい。自由記述や学生の授業回ごとの「振り返り」を読むと，学生にとり「新鮮な」授業だったようである。さらに刺激的な授業にしたい。

外国語学部 英米学科
大澤　広晃　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史研究の基礎（イギリス）
授業コード　31D10-001
教員名　大澤　広晃
教員コード　102964
登録人数　114
回答数　77
回答率　67.5%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

＜授業目標と目標達成度＞
　シラバスで設定した授業目標については、おおむね達成できたと考える。

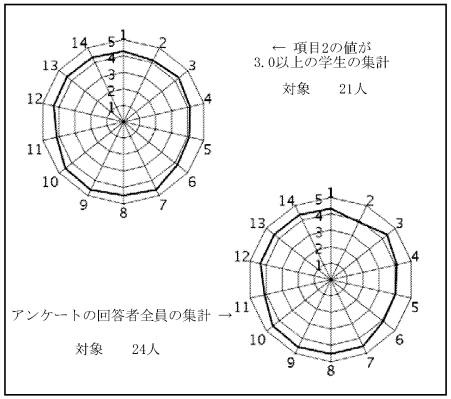
＜点検・評価・改善点＞
　受講生の中には新入生も多い一方で、就職活動を行っている4年次生も含まれており、目標設定や授業運営がなかなか難しい授業である。しかし、結果としておおむね良い評価を得ることができ、安堵している。受講生は自由コメント欄にも多くの書き込みをしてくれたが、ほとんどが非常に好意的なものであった。また、今回初めて縦置き（水曜1・2限）で講義科目を開講したが、とくに受講生からの不満はなかったようで良かった。他方で、「予習・復習」や「授業目標の理解」の項目はやや数字が低く、改善の必要性を感じている。明確な目標を設定し、それを達成するために自主的に学びを深め、その成果が実感できるような仕掛けを考えていきたい。

＜次学期以降の抱負＞
　今回の授業評価については概ね高い評価を得ることができたが、授業の質をさらに向上するためには課題も多い。この授業は英米学科の選択必修科目であり、なおかつ、外国語学部の学部共通科目でもあるため、受講者の数が多くなりがちである。学生全体の集中力と関心を保ち、主体的な学びを促していくためにどうすればよいか、引き続き検討していきたい。

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカの外交
授業コード　31E05-001
教員名　上村　直樹
教員コード　102463
登録人数　86
回答数　24
回答率　27.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



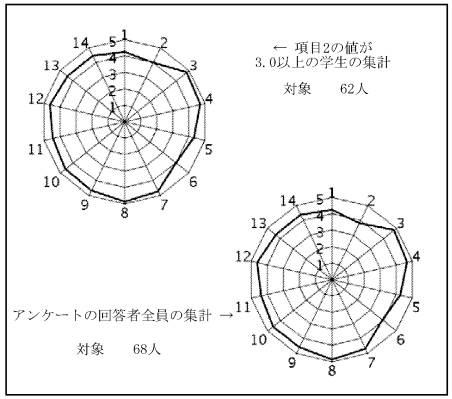
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、昨年度Q1の同一科目の全体的な評価が3.89であったのに比して、4.30と大きく改善している。以下、報告書の留意点である①～③に即して述べていきたい。まず①の授業の目標と到達程度に関してだが、今年度、本科目は、再課程認定に関連して、異文化理解に資する形で授業中に外国人講師を招いて、受講生との意見交換や質疑応答の機会を設ける必要があった。そこで最後の授業で、アメリカ人講師を交えたシンポジウム形式の授業を行ったが、この点に関しては、出席学生による活発な質疑応答やアンケート結果等から「異文化理解」という面で大いに成果があったと考えられる。しかし、アメリカ外交への理解を深めるという、当該科目の本来の目標という点では、シンポジウムに時間が取られたこともあってやや不十分な点があったと考えている。来年度は、こうした本科目の本来の目標と再課程認定の要件との兼ね合いも考えながら、外国人講師の招聘の如何については改めて検討したい。次に②の授業評価の数値データに関しては、設問5、6がギリギリ4以上と特に低い結果となった。これは、上記の点とも関連しようが、本科目の到達目標がアメリカ外交の理解なのか、それとも「異文化理解」なのか、学生にやや混乱を与えた点があったかもしれない。その意味で、③の今後については、到達目標の一層の明確化という点で来年度に向けて改善に努力したい。

外国語学部 英米学科
花木　亨　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治とコミュニケーション
授業コード	31E09-001
教員名	花木　亨
教員コード	101269
登録人数	196
回答数	68
回答率	34.7%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バラク・オバマの演説の特徴を理解すること、現代アメリカ社会についての理解を深めること、大統領の演説やその他の政治的メッセージを分析できるようになることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

項目3から14の平均値は4.51だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.27を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるよう努力したい。

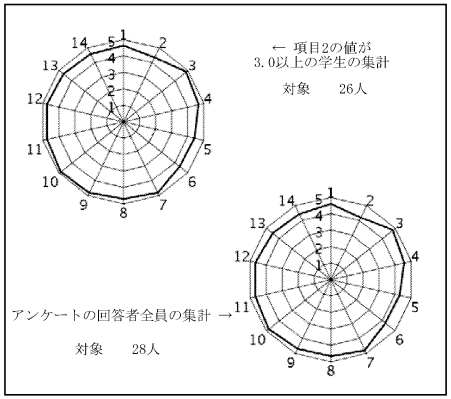
自由記述欄について、「演説に焦点を当ててアメリカの政治について学ぶことができて、おもしろかった」、「授業スピードがちょうどよく、映像資料もたくさん活用されていて、興味関心を深めることができました」、「スライドの内容と教科書の内容がほとんどマッチしているため、メモを取る必要が最小限でよく、先生の話に集中できました」などの肯定的な意見が寄せられた。その一方で、「授業の進行が速すぎる」、「講義内容とスライドと教科書の内容が同じなので興味が湧かない」などの改善を求める意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業ではあるが、質疑応答の時間を設けたり、リアクションペーパーにフィードバックしたりするなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生の主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

外国語学部 英米学科
村杉　恵子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理言語学3
授業コード	31E18-003
教員名	村杉　恵子
教員コード	019034
登録人数	58
回答数	28
回答率	48.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理言語学は、人の脳に内在する言語のメカニズムについて考える講義形式による授業である。折に触れ、学生同士で、その日のテーマについて具体的な例を考えたり、実際の画像を見ることで、具体的な問題を自ら見出したりするActive Learningの手法も一部取り入れている。Q1の心理言語学は、積極的でかつ静かなクラスに恵まれた。月曜日と木曜日の３時間目に行う週二回のクラスは、学生の記憶に前の時間の内容が残りやすく、復習の時間を余分にとらずに進めることができた点で、クオーター制の良い面があらわれたように思う。

全体的な評価は、概ね高いといえる。ただ、個別のコメントの中で、理解が追い付かなかったというものがあった。実際、全体的に学生の理論言語学の基礎知識や基礎的な思考法が十分ではなく、理論言語学に関する基礎知識が不可欠な心理言語学を教えることは、以前に比して難しくなっている。今後、学生の理解をより深く把握するようにつとめていきたい。

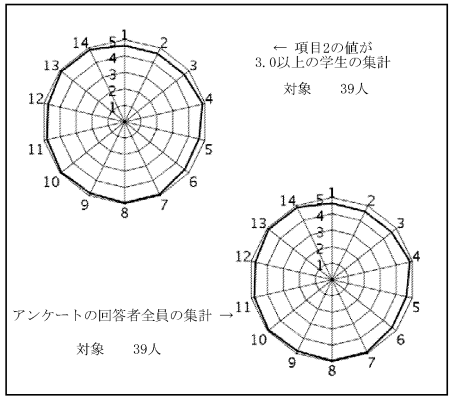
他の個別のコメントは以下のとおりである。

毎回参考になる映像があったことで、話を聞くだけでは想像できない症状や様子を知ることができてよかった。 /　レポートが大変だった。けど先生はいい人だなと感じた。 /全般的によかった /ビデオが理解をする助けになった /1日1テーマで適切なスピードで授業を進めていたため、授業の目的や内容の理解が非常にしやすいと感じた。

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際関係特殊研究B
授業コード　31E33-001
教員名　手塚　沙織
教員コード　103911
登録人数　66
回答数　39
回答率　59.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



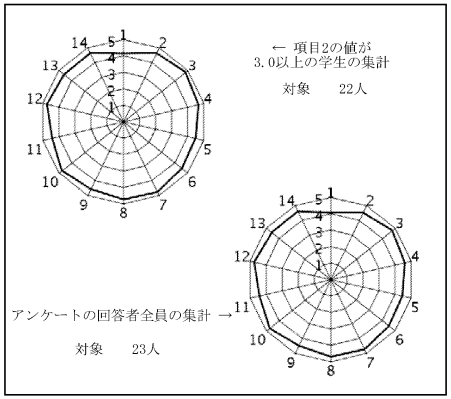
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、到達目標として、１）国際関係の基礎が身につく、２）社会と経済と政治の関係を把握できる、３）ある事象に対する多角的な見方を養える、これらの三点を挙げた。これに関する学生からの評価（項目番号5と6）は、4.64と4.67であったため、学生は到達目標に達していたと言えるだろう。本授業では、現代の複雑な世界情勢を国際関係論、経済学、政治学の三つの観点から十分に理解させたいと考えていた。そのため、様々なドキュメンタリーなどの映像を見せ、当事者の気持ちに引き込ませた上で、トランプ大統領の誕生やイギリスEU離脱、イタリアの反EU政権誕生など現代の世界情勢を多角的な側面から理解させる講義構成作りに努めた。当事者となったら、自分がどう行動するかといった投票行動などを含めたリアクションペーパーを毎回講義後に書かせていたが、これも学生の理解度を一層高めたと考えられる。質問項目番号13が4.90であったことからもそう感じても良いはずである。自由記述の部分に書かれていた「世界の見方が変わった」などといった意見は大変嬉しく、本授業の根本的な目標が達成できた。今後の改善点としては、「リアクションペーパーを返却して欲しい」という要望があったので、リアクションペーパーを画像で各自で保存するように呼びかけ、自分の意見がどう変化して行くかを感じさせるようにしたい。

外国語学部 英米学科
PURCELL, William　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米文学特殊研究A＜国際科目群＞
授業コード　31E34-901
教員名　PURCELL, William
教員コード　016501
登録人数　42
回答数　23
回答率　54.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



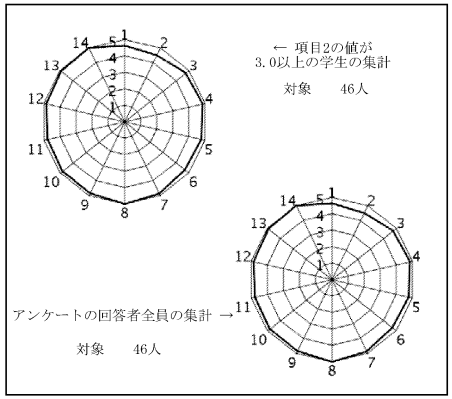
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The student response rate for this course is somewhat disappointing, with only 23 out of 38 regular participants taking time to respond. Nevertheless, the overall evaluation for this course indicates a fairly high level of satisfaction from the students who did take the time. Student comments, as well, were few, but those who did take time to respond expressed appreciation for little things I had not really thought about before and raised concerns I have been conscious of. Most seemed to appreciate the PowerPoint presentation; while a few expressed a desire that I go a bit slower in advancing the slides. Finding a proper pace is a regular concern, which I am sure will never please everyone. Nevertheless, I will continue to be conscious of this issue. Several students expressed satisfaction with discovering a new interest in Africa and its peoples, which they did not have before. For me this is a satisfying comment, as it indicates success at achieving one of the goals of the course.

外国語学部 英米学科
芝垣　亮介　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英米言語学特殊研究B1
授業コード	31E41-001
教員名	芝垣　亮介
教員コード	102481
登録人数	61
回答数	46
回答率	75.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



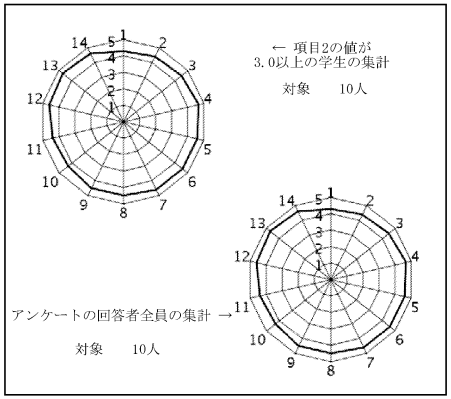
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初より、学生が自らのアウトプットを通して言語学を学ぶということを目標としていたが達成できたと考えている。それは自由記述設問の回答に「面白くてわかりやすくてアウトプットもできて...」という回答があったことにも裏付けられる。② 数値データとしては、１～１４の平均が4.81、３～１４の平均が4.85であり、概ね良好であったと考えている。個別の項目としては、設問２の「予習や復習を含め...」の項目が4.50で最も点数が低かった。この点については今後改善策を考えたい。また、自由記述回答欄に、プレゼンが良かったとの回答がいくつか見られたことを好材料としたい。教えられて理解し覚えるスタイルの授業ではなく、自ら話し学ぶスタイルの授業を心がけたのだが一定の成果が出たと捉えている。プレゼンは１グループ約30分間のものであったが、授業自体が縦コマであったため、時間配分的にもうまくいったと考えている。③ 自由解答欄にもあったが、講義中にもディスカッションが多く、それがよかったとの回答が見られた。これを踏まえ、次クオーターも学生が主体的に学べる環境をつくりたいと考えている。

外国語学部 英米学科
伊藤　聡子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English V5
授業コード	48A09-005
教員名	伊藤　聡子
教員コード	102445
登録人数	19
回答数	10
回答率	52.6%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



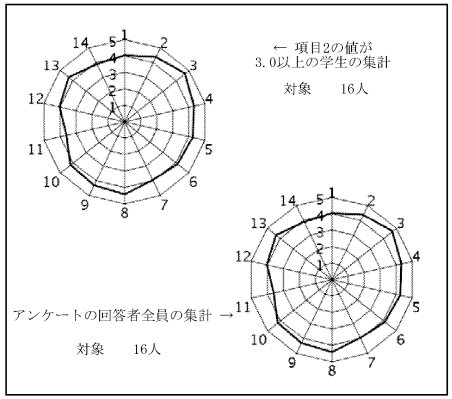
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と到達の程度
この授業は全クラス統一シラバスの基に、日本に関するテーマについて英語ディベートを行うことを通じて、自律的な情報収集力や批判的思考力を養うことを目的とした。学期末に提出されたふりかえりレポートの内容、および授業構成と進度（項目4）、目標の理解（項目5）、成長の実感（項目6）、理解度（項目13）、満足度（項目14）といった項目の数値がいずれもほぼすべての平均値を上回っていることからも、授業目標はほぼ全員達成できたと思われる。
② 自己点検・評価
上記のように全体としては授業が上手く機能していたと思われるが、例年比較的高く評価される傾向にあった（7）教員の姿勢、（11）意欲、(12)質問の機会に対する評価が、今年度は平均値とそれほど大きくは変わらなかった。ただし記述式回答ではディベートのためのリサーチの時間を十分に取ったことが評価されており、ディベートの論題の難度の高さを考慮して、論題について準備内容の一部を事前に発表する機会を取り入れたことは、学生の負担軽減に結びついていたものと考えられる。
③ 改善点と今後の方針
今回は教員の声の聞き取りやすさを問う項目（8）の評価が4.5と低めだったため、この点については改善できるよう努力をしたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
永田　智成　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語V＜H・F＞2（Q2海外プログラム参加者用）
授業コード	11D05-007
教員名	永田　智成
教員コード	103900
登録人数	35
回答数	16
回答率	45.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



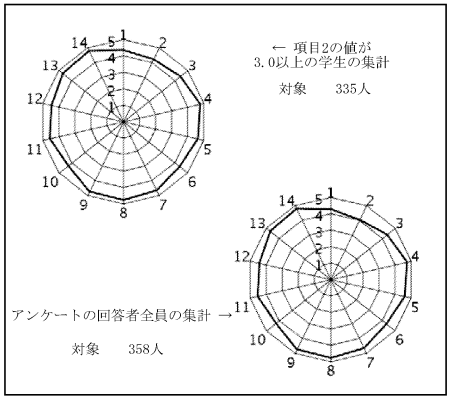
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標や到達の程度は概ね達成されていたと考えられる。数値データを見る限り、概ね学生も満足していたと思われる。あえて挙げるならば、学生からの指摘として、学生の学習意欲を引き出す努力が足りなかったと考えられる点数が付けられている。この点は、今後の課題として反省したいと考えている。自由回答欄への応答として、文法の説明がわかりやすかったというコメントがあり、高い評価がもらえたものの、文法の授業にもかかわらず、参加型の授業にしろという無理難題も寄せられている。この点に関しては、授業の内容へのコメントというよりは授業内容への否定へとつながるコメントと考え、考慮する必要がないと考えられる。また、居眠りをしている人への対応がわからなかったというコメントがあった。これについては公にする必要があるとは考えていない。当該学生には宣告したうえで、出席点を剥奪している。わからない人へもう少し親身になってほしいというコメントもあったが、これは外国語教育センターから任されている授業であり、ノルマがあるため、不勉強な学生にペースを合わせるわけにはいかないという特殊事情がある。今年度はこれ以降文法の授業はないが、この反省点を次のクオーターでも生かしていきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
小阪　知弘　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ヨーロッパとの出会い7
授業コード	13B04-007
教員名	小阪　知弘
教員コード	103689
登録人数	462
回答数	358
回答率	77.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



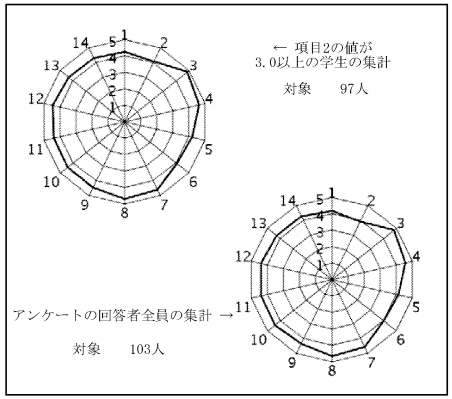
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、ある程度目標に到達したと自負している。ヨーロッパ（スペイン）との出会いという項目を、スペイン人の精神構造、フラメンコやサッカー、宗教観などの基本的な項目を板垣と映像を組み合わせて受講者に教授し、基本的な側面をしっかりと理解してもらえたと確信している。その理由はマークシートにておこなった期末テストにおいて、受講者たちの大多数が70点以上を獲得していることに裏付けられる。
②数字データに関しても、全ての項目において4以上を獲得していることから、総合的に判断して講義形式と内容がうまく展開し、機能したと判断している。自由形式に関しても、板書きが見やすかった点や、講義が楽しかったこと、映像資料や映画を通して理解を深められたことなど、好意的な記述が多く散見されたことから、2019年度における講義そのものがうまく展開し、結実したという結論に達した。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針については、2019年度におこなった本講義の内容をさらに先鋭化させ、もっとわかりやすく簡潔な内容に修正したいと考えている。また、講義内容と関連して時折おこなうパフォーマンスに関しても、時間を短かめに設定し、回数を減らして、印象的で楽しい内容になるよう、今後さらに研鑽を積んでいく所存である。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
淺香　幸枝　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化の理解1
授業コード	13C01-001
教員名	淺香　幸枝
教員コード	000165
登録人数	229
回答数	103
回答率	45.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3～14の平均値は4.41であり、項目1～14の平均値は4.36であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、4項目に亘っている。授業の開始と終了の時間が守られており、毎回の授業の構成や進行速度は適切であり、授業に取り組む教員の姿勢に誠実さ、真剣さを感じ、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたと回答している。4.4以上の項目は、私語など授業の妨げになる学生の行為を注意し、質問や相談の機会が十分に設けられていた。4.3以上の項目は、学生の理解度に配慮し、教員は学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供をしたと学生は答えている。全体的な評価としてこの授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まり、この授業に満足したとしているのは、4.27であった。

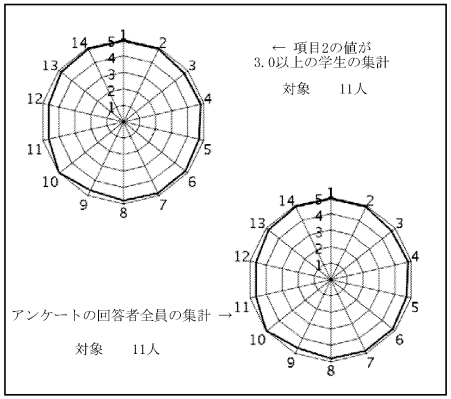
一番低い項目2は3.90であり授業への主体的な参加である。2017年Q4での同じ授業では、設問3～14の平均値は4.55であり、設問1～14の平均値は4.51であったことと比較すると、もう少し工夫したいところだ。今回はQ1で1年生にとって初めての大学の授業であり、初めてのテストに向け大変緊張していた。そのため、文献の検索・引用の仕方、論じ方を説明することにずい分時間を使った。2017年時のように学生代表が絵本を読んだり、意見発表をもっとしてもらった方が、学生の参加意識が高くなると分析できる。

今後も双方向の授業で、学生の発表比率を増やしたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
泉水　浩隆　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IC1
授業コード	32A14-001
教員名	泉水　浩隆
教員コード	102114
登録人数	37
回答数	11
回答率	29.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価では、設問4～18の平均値が4.78、全設問の平均も4.80で、レーダーグラフも概ね外周に近くなりました。設問13の「新しい知識の獲得、理解の深まり」が4.82、設問14の「満足度」が4.91という結果からも、当初設定したこの授業の目標はほぼ達成されたと言えます。授業の進度は、当初の予定より遅めでしたが、これについてはQ3の授業で取り戻す予定です。

一方、設問9の「理解度と教材の利用」、設問11の「学習意欲の引き出しと指導」、設問12の「質問や相談の機会」が4.64と相対的に低くなっていますが、必要な補助教材も配布し、オフィスアワーも案内した上、メールアドレスも公開しており、これらの情報を十分活用して受講生自らも理解度を高める努力をしていただきたいと思います。いずれにしても、再度情報の周知徹底をはかるつもりです。

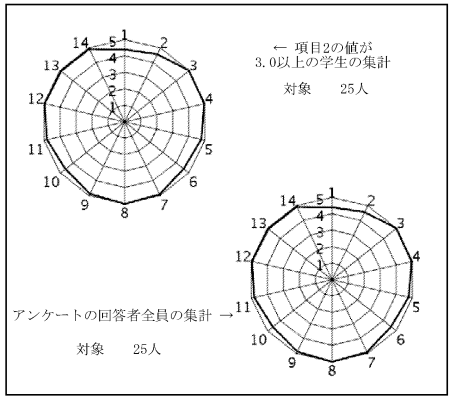
今回気になったのは、自由記述欄にまったく記入がなかったことです。これまでの授業評価アンケートではこのようなことはありませんでした。アンケート回答への呼びかけにもかかわらず、回答率が3割弱にとどまった点とならび、今後回収率を高め、得られた回答の信頼度を上げるための何らかの工夫が必要であることを示唆しているのではないかと考えます。

得られた結果を見る限り、全体としては特筆すべき問題はなかったと推測されます。これまで同様、今後専門科目の履修を支障なく続けられるようなスペイン語運用能力の土台を築き、専門科目への橋渡しを行う授業を展開していく所存です。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
遠藤　健太　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語ID2
授業コード	32A16-002
教員名	遠藤　健太
教員コード	103936
登録人数	29
回答数	25
回答率	86.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



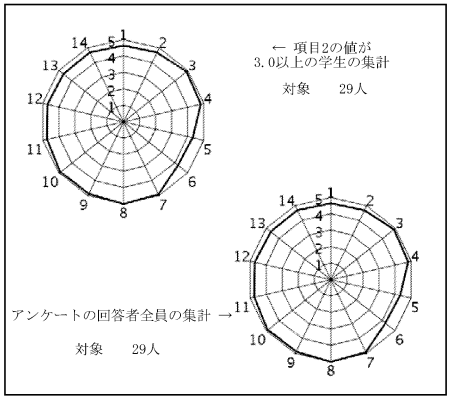
授業評価結果を踏まえた点検・評価

主として学科の2年生が履修する「中級スペイン語」のなかでも、この科目は既習の文法事項の「復習」と、発音とリスニングの強化を目的とするものだった。シラバス上は1年次の前半に学習した文法事項の復習にとどまる内容が指定されていたが、学生たちにとってそれでは簡単すぎるようだったので、様子をみながら、またリクエストを聞きながら授業内容を柔軟に修正し、少しでも実り多い授業になるよう工夫した。結果、多くの学生が（既習文法事項の定着と実践力の強化という面で）目標としていたレベルを超えられたのではないかと考える。
授業評価の集計結果をみても総じて満足度は高かったことが確認できる。ただし、授業評価のために確保した時間がやや短かったためか、自由記述式設問への回答数がいつもより少なかった。自由記述回答は授業改善のうえで大いに参考になるため、今後はなるべく授業の「長所」と「短所」を具体的に記入してもらうよう声かけをしたい。
私自身が今後の最大の課題と考えているのは、リスニングのレッスンのやり方である。30人前後のクラスで一斉に同じ教材を用いてリスニングのレッスンをするにはどんな方法が望ましいかと考えながら、今期中もいくつかのメソッドを参照しつつ試行錯誤してみたが、まだ非効率な部分があると自覚している。将来的にはCALLシステムなどを活用したより学生主体型の方法に移行していくべきなのだろうと考えている。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
CARDENAS, Abel　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語III1
授業コード	32A26-001
教員名	CARDENAS, Abel
教員コード	017525
登録人数	34
回答数	29
回答率	85.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



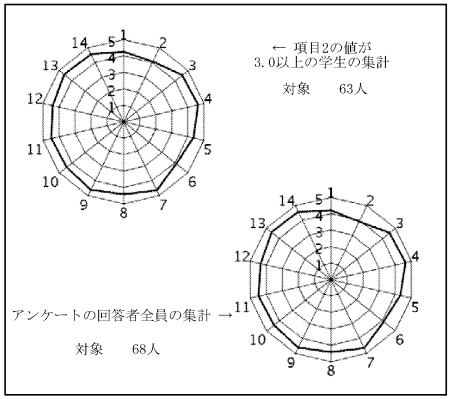
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their reading comprehension and oral skills in Spanish. This was achieved by the use of authentic reading materials as well as a variety of tasks centered on the development of successful reading and speaking skills and strategies. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.73, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were the relevance of the themes selected, the variety of the tasks, and the non-threatening atmosphere of the class, which encouraged them to participate and develop their reading and oral skills.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
岩崎　賢　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの文化と社会B
授業コード	32C24-001
教員名	岩崎　賢
教員コード	103731
登録人数	127
回答数	68
回答率	53.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、ラテンアメリカの文化と社会に関して十分な知識を持たない学生たちに、古代から現代にいたるラテンアメリカの多様な文化の全体像を、パワーポイント資料、図像、グラフ、画像、動画などの資料を駆使して、生き生きとしたイメージとともに把握してもらう、ということであった。文字・言葉による説明の時間と、視聴覚教材を用いる時間をバランスよく組み合わせることができたおかげで、大教室の授業であるにも関わらず、大半の学生は授業中に集中力を失ったり、おしゃべりしたり、眠り込んだりすることなく、楽しみながら講義を受けてくれたように思う。

学生たちのアンケートの数値データ、および自由記述を見る限りでは、ラテンアメリカの文化と社会に関する基本的知識や、その全体像を理解するための基本的枠組みを、学生たちはしっかりと身に着けてくれたのではないかと思う。

今後の改善点としては、今回の授業ではラテンアメリカにおける先住民系の文化的伝統については十分に話をすることができたが、一方でアフロ系やヨーロッパ系の文化的伝統についての説明は、やや少なめだったことから、次回はパワーポイント資料等をさらに充実させて、よりバランスのとれた授業を行いたいと考えている。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ESCANDON, Arturo　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語文章表現特殊研究I
授業コード	32D03-001
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	8
回答数	2
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

All the goals set at the beginning of the course were met. Students were able to carry out reseach on a number of topics, enhancing their knowledge and rendering the outcome in brief essays.

As one of the students pointed out, students were able to discuss philosophical ideas, art, religion and so on among themselves in satisfactory terms, developing a taste for it. Some of them engaged in difficult readings such as Buddhist culture theory critiques or Michel Foucault analysis of Velazquez's Las Meninas.

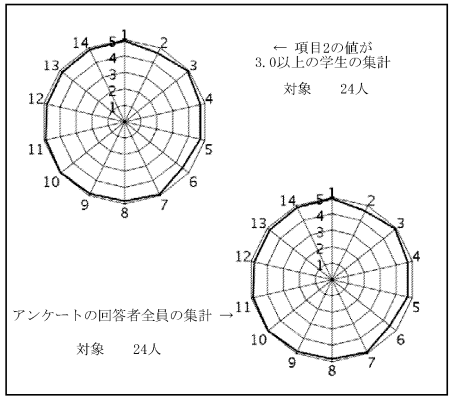
Scores were good; students showed satisfaction with the course and no problem was detected. The environment was very conducive for learning and student participation was strong.

I think the course has reached its maturity. Future delivery depends more on the interests of students and student composition than on any other instructional design factor.

外国語学部 フランス学科
茂木　良治　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語I[FF]1
授業コード	11B01-004
教員名	茂木　良治
教員コード	102698
登録人数	25
回答数	24
回答率	96.0%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



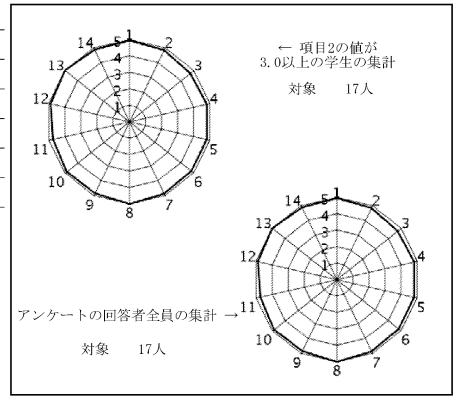
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A1レベルを目指す教科書Zénithを使用したフランス学科生向けの授業である。フランス学科生向けの授業のため、比較的進度は早い。項目1～14までの平均点が4.81点と高いスコアであったことからも、この授業は学生から高い評価を受けており、満足度の高い授業であったと考えられる。なかでも項目9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」は、4.88点となっており、授業の進め方などは適切であったことが伺える。また、自由記述式設問では、肯定的な評価として、「テレビ画面を使って見やすく、説明も丁寧でとてもわかり易かったです。知識がどんどん深まっていってるのを感じることができました。」などが多数挙げられており、昨年まで割り当てられていた教室の設備の問題で利用できなかったパワーポイントによる教材提示が今年からは利用可能となり、画像などを活用した解説が可能となったことに起因する。一方で、否定的な評価として、「もっと、もっと、発音をお願いしたいです」とあるように、より発音矯正に重きを置いた活動が全体的に少なかったと言える。発音させる機会をもっと増やす活動をもう少し取り入れていく必要があるだろう。

外国語学部 フランス学科
COURRON, David　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語コミュニケーションの基礎 I3
授業コード	33A01-003
教員名	COURRON, David
教員コード	019026
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



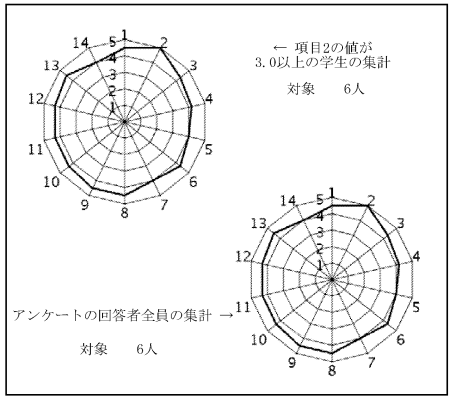
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives
The aim of this course was to have students practice French reading through both oral and written exercises, with a particular attention given to spelling, pronunciation, intonation and acquisition of phonological patterns.
2. Degree of achievement of initial course objectives
This quarter, despite any previous knowledge of French by any, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them acquired a real autonomy in reading French. Many valued the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study over and over through homework.
3. Areas requiring improvement and general remarks
According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated that I gave them extra materials. As for the usual criticism, I will do my best to stick to the clock though I will never refrain from adding 2 or 3 more minutes if needed to complete a class activity.

外国語学部 フランス学科
REBOLLAR, Patrick　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IA1
授業コード	33A11-001
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	26
回答数	6
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



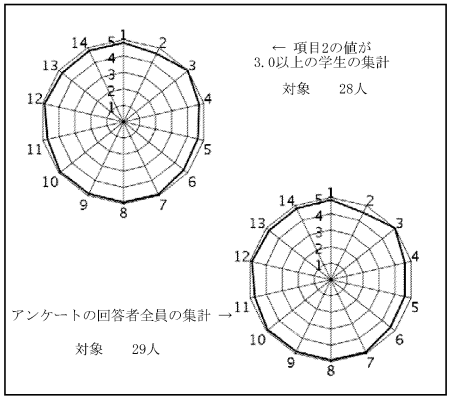
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Today, communication means equally listening, speaking and reading, in this order. Previously, it was, maybe, reading, speaking and listening. The French book we use for this course let the teacher choose his priorities, and also connect lessons to french internet materials and media. I also use french pop songs from the last fifty years to propose opportunities to discover the cultural french life of yound people.
Due to considerations to have a better motivation of the students, I do change every year the weekly tests about vocabulary and grammar, mostly based on listening sentences. As a course asking the students to trust their listening skills more than their visual and writing capabilities, the first reaction of the students is a sort of resistance or devaluation of the course. But, after a few days, they feel more confidence in their listening skills and start to participate and, also by having some fun, sometimes, they learn a lot of vocabulary and grammar from ears to hands (instead of the contrary, which is usual). I also hope to help the students to develop their skills to search and reach convenient informations through the internet.

外国語学部 フランス学科
松川　雄哉　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法I2
授業コード	33A17-002
教員名	松川　雄哉
教員コード	103644
登録人数	37
回答数	29
回答率	78.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的に評価が高く、自由記述式設問については、「1年生の頃理解できていなかった文法事項が分かった」といったポジティブな内容の意見があり、この授業がフランス学科の学生のフランス語学習に一定の役割を果たしていたことが言える。この授業で使用している教科書は、使われているが語彙が学生には難しすぎるため、文法事項に十分な注意が払えないと感じていたため、できるだけ簡単な語彙を使って多くの例文を用意したのが効果的だったのではないかと考えられる。だがその一方で、授業のペースが速すぎてついていけなかったという指摘もあった。開講当初に設定していた目標と到達度はクリアできたが、教科書で扱われている文法項目の量が多く、少しペースが速くなり過ぎたことがあったかもしれなかったことは反省点である。フランス語の文法の中には、実際によく使われる文法事項とそうでない文法事項がある。第3クォーターでも同じ教科書をつかった科目があるため、もう一度教科書を分析し直し、重要度の高い文法事項に時間を掛けるようにしたい。

外国語学部 フランス学科
平田　周　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語I1
授業コード	33A27-001
教員名	平田　周
教員コード	103583
登録人数	12
回答数	3
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

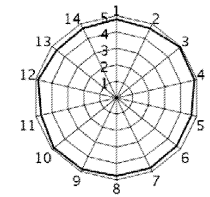
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①アカデミックフランス語では、フランスで一線の研究者が書いた文章を読む体験をしながら、課題となるテキストに現れる単語、文法事項、定型表現を習得することを目指した。その目的は、実際のフランスの大学生が読むテキストを読み、現代社会を論じたフランス的な知のレベルに触れてもらうことにある。習熟度は、定期試験に加えて、講義時間において仏検などの問題を解く時間を設けることで測った。最初の8回は、社会学者・都市計画の専門家ピエール・ヴェルツ（Pierre Veltz）の著作"La socié té hyper-industrielle"の1章を読み、その後、仏検の長文問題を解いた。
②授業時間内にアンケートの時間を設けたが、学生からの協力がうまく得られなかった。しかし、テキストの読解に関しては、内容的に難しいものであるにも関わらず、真摯に取り組んでいるように思われた。
③学生にはつねに高い志をもって研究に取り組んで欲しいと願っている。そのための講義担当者の努力として、講義全体の目的のみならず、一回一回の到達目標も設定して、日々の研究のモチベーションを高められるように努力したい。

外国語学部 フランス学科
真野　倫平　先生

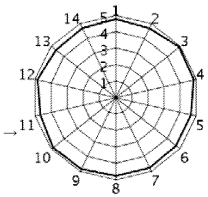
2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語I2
授業コード	33A27-002
教員名	真野　倫平
教員コード	100083
登録人数	44
回答数	13
回答率	29.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　13人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　13人

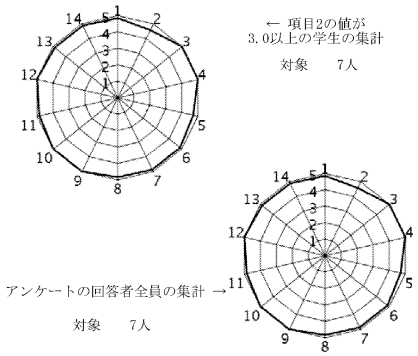
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は外国語学部フランス学科フランス文化専攻3年次生を対象とする学科科目である。フランス語で書かれたアカデミックな文章の読解力を修得し、学術論文で使用される専門用語の調べ方を身に付けることを目的とする。授業では中級～上級レベルのフランス語読解教材を用いて、毎回講読を行い、さらに扱われた主題の背景について解説を行った。講読と並行して、適宜フランスの映画やドキュメンタリーを紹介し、フランス文化の紹介に努めた。登録者数はフランス文化専攻所属の44名であり、講読の授業としてはやや多すぎる規模であった。①目標と到達の程度については、試験の結果から判断するかぎり、多くの学生が高度な読解力を修得できたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均は4.77であり、大学の全体平均4.36を大きく上回った。教材のレベルが高かったにもかかわらず、大半の学生は理解のために前向きに取り組んでくれたと思う。③今後の改善点については、自由記述欄に、訳読作業が大半なので変化がほしかったという意見があった。今回は登録人数が多かったので双方向的授業が困難な面もあったが、今後は授業内容により変化をつけるよう努力したい。

外国語学部 フランス学科
吉澤　英樹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語圏研究
授業コード　33C10-001
教員名　吉澤　英樹
教員コード　103584
登録人数　56
回答数　7
回答率　12.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：昨年度はシラバスの関係でフランス学科の受講者が少なかったが、今年度は例年並みの受講者の登録があったため、フランス語を学ぶ学生にとってフランス語がどのように誕生し、現在使用されているかを理解し、彼らの学習意欲に結びつくように誘導することに重きを置いた。アンケートに関しては告知の手違いから数量が集まらなかったが、今回の集計結果ならびに提出されたレポートを読む限り、目標としたところは達成できたように思われる。

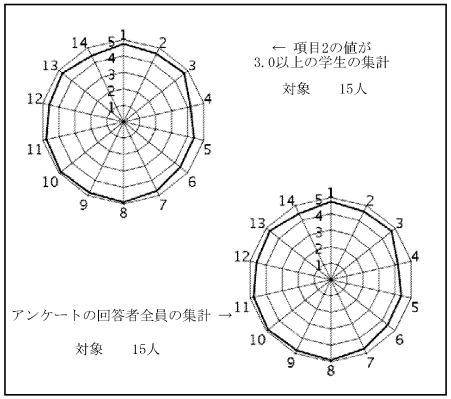
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：上記の理由でアンケートの回答数は少なかったが、結果は満足のいくようなものに思われる。毎回のコメントペーパーから学生の積極的な授業参加もうかがわれた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：フランス語圏と言ってもレポートの題目を見る限り、ほとんどの学生が先進国にその関心が集中したことが残念であった。今後、フランス語話者が爆発的に増加していくと見込まれる第三世界についてもっと魅力的な紹介の仕方を考えたい。

外国語学部 ドイツ学科
角山　朋子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語II[FG]3
授業コード　11C02-011
教員名　角山　朋子
教員コード　104039
登録人数　19
回答数　15
回答率　78.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問（2）の平均値は4.6であり、学生たちの積極的な授業参加態度により、開講当初に設定していた目標におおむね到達したと考える。

設問（1）の平均値4.7という結果にみられるように、多くの学生が履修前から授業に関心をもっていた。質問項目の中で特に平均値が高かったのは、授業運営についての設問であった。このことから、Webclassと連動させたE-Learningや、グループワーク、ペアワークなどさまざまな学習形態を取り入れた授業が、当初から高かった受講者の学習モチベーションを保ち、設問（13）の平均値4.73にあらわれているように、授業から多くを学んだという受講者の実感に結びついたと考える。

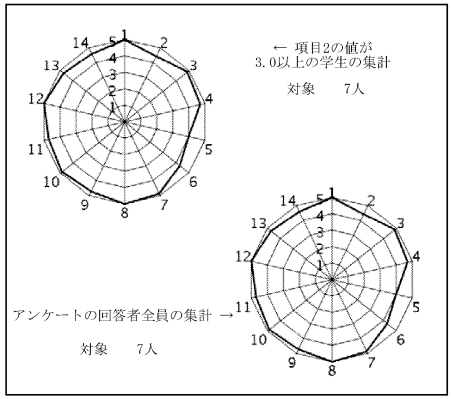
設問（4）の平均値が相対的に低いのは、特に授業の構成に関し、上述のような高校までとは異なる授業形態に戸惑った受講者がいたことに起因するかもしれない。今後、受講者の丁寧なフォローに努める。設問（5）の平均値もやや低いため、日々の授業の中で本科目の到達目標を伝えていく必要があると考える。

以上をふまえ、次クオーターからも、総合的なドイツ語運用能力を育成するための効果的な授業づくりを目指したい。

外国語学部 ドイツ学科
水守　亜季　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語V＜全＞
授業コード　11C05-001
教員名　水守　亜季
教員コード　103678
登録人数　11
回答数　7
回答率　63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



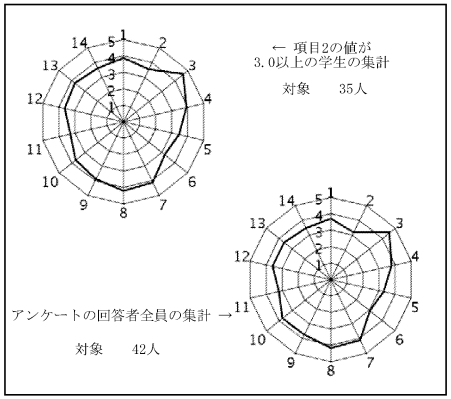
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのため授業には、①ペアワークやグループワーク、②文法規則などを学生自らが発見する活動、③既に持っている知識・経験を手掛かりにドイツ語の意味を推測するトレーニング、④ポートフォリオを用いた学習の振り返り、といった要素を取り入れた。学生が慣れない授業形態のため、理解の浸透には時間を要すると予想されたが、設問(3)～(14)の平均値4.69、授業全体の満足度を問う設問(14)の4.57、知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)の4.71は学生からの比較的高い評価を示している。その理由の一つとして教員の配慮があると思われる。教員の授業に対する姿勢を問う設問(6)では4.86と高い評価を得、学習意欲を高め、自律学習を促していたかを問う設問(11)では4.71となった。学習者中心の授業形態が肯定的に評価されたことは、「グループワークなどを積極的に取り入れていたのは良かった」という協働・自律学習を評価する自由記述にも表れている。また、質問、相談の機会が十分だったかを問う設問(12)で5.00となり、学習者への配慮も評価された。授業の到達目標の理解を問う設問(5)で4.00と他の設問よりも値が低かったこと、また1名が自由記述で学び方についての不安を伝えている点については、引き続き授業の中で学び方を体感してもらう努力を続け、改善したい。

外国語学部 ドイツ学科
岡地　稔　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ研究の基礎（歴史・社会）
授業コード　34A08-001
教員名　岡地　稔
教員コード　015206
登録人数　56
回答数　42
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

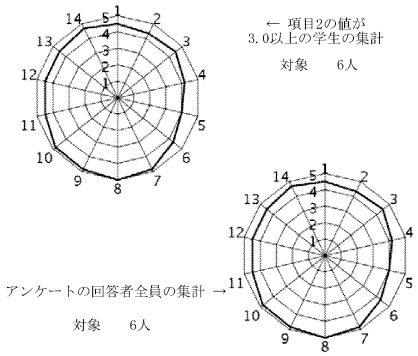
本授業はドイツ学科社会専攻1年生の必修科目であり、同・文化専攻生に対しては学科選択科目として開講されている。授業内容は、必修科目であることから、ドイツを学び、研究しようとする人が踏まえておきたいドイツという国の「ありし方」、歴史的過程を、特に、ドイツ中近世史を中心に概観する、というものであり、ドイツ中近世史の基本的な流れを把握することができるようになることを、到達目標とした。授業内容の理解に資するよう、毎回詳細なレジュメを用意して授業に臨んだ。また評価方法として、授業参加度を30%とし、毎回授業の最後に出欠を取った。

授業評価の結果は、項目1から14の平均値は3.65であり、まずは及第点といったところであろう。ただ「設問の回答結果」を見ると、複数の特定の受講生がほぼ全ての質問項目において低評価を記しており、これが全体の平均値を押し下げたものと思われる。毎回授業の最後に出欠を取ったことが、結果的に、授業に興味がもてない受講生に、出席を無理強いさせたようで、今後、一考の余地があろう。もとより、一義的には授業に興味を持たせることに重点を置くべきではあるが、高校で「世界史」を受講している学生と、そうでない学生に、ともに興味を持たせて学習させるのは容易ではない。それでもさらに考え、工夫していきたい。自由記述欄では「一から説明するわけにはいかないので仕方ないとは思うが、高校で日本史選択だった人には厳しいか」「先生が自分の世界に入りすぎて、内容が全然入ってこない。眠くなる」という厳しい評価がある一方、「１つの物事から様々な事例を説明してくれるので幅広い知識を得ることができる」「難しい用語を板書して詳しく説明してくれた点はとてもわかりやすく、語句の意味も語源から解説してくれたところはとても良かった。内容は膨大だが理不尽に分からない部分はなかった」と好意的な評価もあった。一旦興味を失った学生を呼び戻すためにどうすべきか、今後も試行錯誤が続くと思われるが、努力したい。

外国語学部 ドイツ学科
BAYERLEIN, Oliver 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級ドイツ語I1
授業コード 34A17-001
教員名 BAYERLEIN, Oliver
教員コード 100842
登録人数 16
回答数 6
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



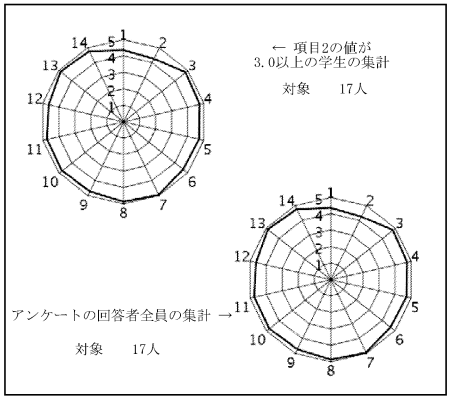
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class took place for the first time. It is the German language class at the highest level. We set this class to the level B2, which was a bit too high for the students, I realised. In spite of the fact they came from a one month study period in Germany, the had still difficulties in oral expression. And we realised that the overall ability of the students to express their thought - even in Japanese - in a structured form, which is clear for every listener, is for some students poor.
Considering this level of language proficiency, the radar chart shows clearly the students were overall satisfied with the class itself, even the number of students, who were replying happened to be only six.
For next year we will improve this class in respect of the level of proficiency which is needed. We will start at a lower level, a level which is in between B1 and B2. Maybe this level will fit better to the knowledge and skills of the participating students.
But still, like this year too, we will make extended use of all the possibilities of e-learning, to extend the time for studying outside classroom hours.

外国語学部 ドイツ学科
林田 雄二 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語演劇研究
授業コード 34D01-001
教員名 林田 雄二
教員コード 017434
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の到達目標・程度：講義最後に、ドイツ語のテキスト（詩、ダイアローグ）を使用して、身体、音声表現のテストを行った。その結果、

1. ドイツ語発音の基礎を作るという点では、大変満足できる結果を得た。
2. テキスト内容を十分に把握しそれを発声、表現する点でも、十分に満足の出来る結果を得た。
3. ドイツ語発音に自信を持ち、人前で臆すること無く表現するというのも十分な成果を得た。
4. 学年を越えた協働作業も、ダイアローグの練習の際に、学年を越えてグループを作り、各グループ共に素晴らしい成果を残した。

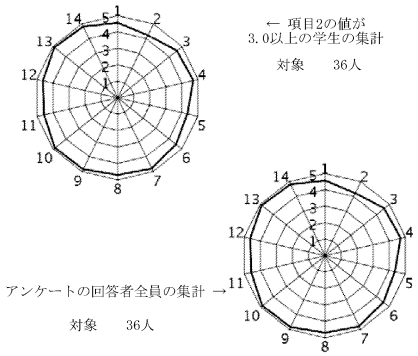
反省点
1. 履修者が一年生主体で、作品を読む所まで行けなかったので、作品の時代背景、思潮の研究まではいけなかった。

履修人数が20名程度と、音声練習、表現練習には適した環境で授業が出来た。一人一人の履修者にの発音指導も十分に出来た。
また、履修者のモティベーションも高く、授業最終日にはゲーテの「魔王」などを暗記して、素晴らしい発音、アクセントとメロディーで朗唱する者が多数出た。学生の授業についての評価もすこぶる高かった。

外国語学部 ドイツ学科
中屋　宏隆　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツの経済
授業コード　34D07-001
教員名　中屋　宏隆
教員コード　102885
登録人数　43
回答数　36
回答率　83.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
講義目標としては、「・履修者は、情報を整理し分析する力・Eラーニングスキルを習得することができる。・履修者は、ドイツ経済の基本的な構造を理解することができる。・履修者は、ヨーロッパ統合についても理解することができる。」の三点を挙げた。概ねシラバス通りに講義を進め、上記の目標を達成した。Eラーニングスキルについても、ドイツ連邦局の統計の資料をweb上から入手する方法などを提示したりするなど、学びの向上に繋がったのではないか。

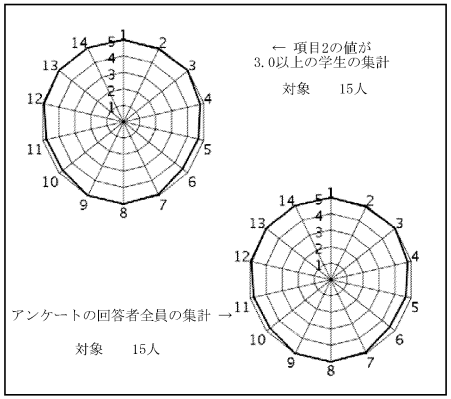
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述には「先生の説明がわかりやすかった。」「ドイツ経済は難しいイメージだったけどちゃんと基礎が学べて理解が深くなった。」「中屋先生の授業はどれもタメになり、どの授業を取っても学びが得られる。友人や周りの子も、中屋先生の授業を取ってからドイツ学科であるのにドイツに興味がなかった悩みが消え興味が出るようになったと言っていた。」などのコメントがあり、かつ設問13も4.89と高い数値だったことからも、良い授業を提供できたのではないかと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
設問2と5のみが4.5を下回った。来年度までに改善点を模索したい。

外国語学部 アジア学科
中　裕史　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I語法1
授業コード　35A07-001
教員名　中　裕史
教員コード　017830
登録人数　17
回答数　15
回答率　88.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標として、動詞を中心とした構文やアスペクトなどを使いこなせること、および中国語検定3級に相当する文法の知識を持っていることの2点を設定していた。実際に授業を進めていく中で、受講生が予習をほぼきちんとして授業に臨んでおり、また、授業の中で質問の時間を取るなどして理解の定着を図ったり、中休みとして中国語圏の人々に広く知られている音楽や映画を説明付きで見せて気分転換を図るとともに中国や台湾への関心を深めていけるようにはからったことが功を奏して、上に掲げた当初の到達目標はほぼ達成できたと感じている。このことは定期試験の採点結果によっても裏付けられる。

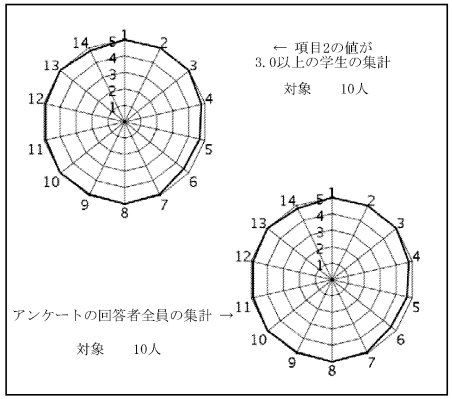
授業評価の結果を見ると、履修前から興味があったという項目が5.0点であったが、受講した結果として力がついてきているか否かを問う項目や全体として満足したかを問う項目で高い評価を得て、履修前の興味をそいでしまうことにならなかった点と、予習・復習をきちんとしたかを問う項目でも受講生の自己評価が高かった点は良かったと思っている。自由記述でも、授業のスピード感を評価する声や、音楽や映画によって文化に触れることもできて楽しかったという声が見られた。

次年度以降も、受講生の受講前の中国語の水準やクラスの雰囲気等に留意しながら、提出課題のフィードバックや質問への丁寧な対応を心がけて受講生が到達目標を達成できるよう配慮していきたい。

外国語学部 アジア学科
蔡　毅　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語I会話1
授業コード	35A11-001
教員名	蔡　毅
教員コード	100086
登録人数	10
回答数	10
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本学科では二年生の中国語会話授業は習熟度別でクラスを分けることとなり、優秀な学生が集まる上級クラスを担当するので、責任の重さを強く感じています。どうすれば学生のニーズに応えることができるか、かなり苦労しましたが、授業評価の調査によれば、平均値4.89という高得点であり、開講当初に設定した中国語の会話能力をもっと向上させるという授業目標は、おおむね達成したように思われます。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

まずは、相対的に得点が低かった5と6の「到達目標」については、授業中配慮が足りなかった、また説明が足りなかった可能性もあるため、今後は受講生の要望に従い、より丁寧に進めるつもりです。。

なお、強化訓練の一環として、授業で全員に課題を出し、回収して添削したあと学生に返し、問題点をまとめて説明するという追加措置を取ったことに対しては評価が高かったため、Q3は引き続き宿題を出す方針です。

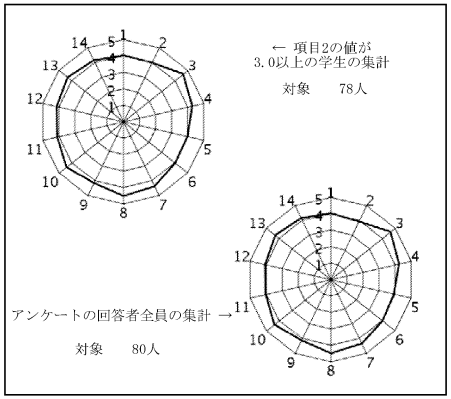
また、学生の自由記述を読んで、授業方法、学生との交流などについてもいろいろ意見が出されているので、どうしたら満足させることができるか、さらに工夫する必要があると思います。

これからも一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるように、取り組んでいく所存であります。

外国語学部 アジア学科
松戸　庸子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国圏の文化と社会
授業コード	35B03-001
教員名	松戸　庸子
教員コード	100087
登録人数	123
回答数	80
回答率	65.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価は総体としては良好であった。この科目は2年生以上を対象とするアジア学科の専門科目である。昨年度受講者20名規模が、今年度は123名に増えた。開講後まもなく「ノートを取らない、基礎知識が無い、関心を持たない」点に気づいた。フランス学科3年生が”Brexit”を知らない、「言祝ぐ」を雑学として教えるために、岐阜県在住の学生に挙手を求めた（同県には坂祝町がある）が、誰一人として挙手しない。かくして手ごたえが無いために、昨年までのアジア学科生を対象とした講義内容と形式の転換を迫られた。科目を通底するのは「中国の経済成長とそれを支えた思想/倫理」というテーマだったので、それから逸脱しないよう中国が到達した経済発展に関する実態理解のために「一帯一路」や「米中覇権争い」に重点を移した。また大半が時事問題に疎いと感じたので、パワーポイントを利用して視覚に訴える講義形式に変えた。この意味では、開講当初の授業内容が少し変わったという点では問題は残るものの、評価数値も自由回答の内容も良好なので、臨機応変の対応だったと言える。「現代社会とリンクしながら歴史を語ってくれた」「アジア圏について興味が増した」「中国や周辺社会、経済、時事問題を知ることができた」「中国を身近に感じ、政治についてもっと考える必要を感じた」「自分で収集できない情報に接することができた」などの予想以上の好意的な反響がそのことを裏付けていると言っても過言でないだろう。

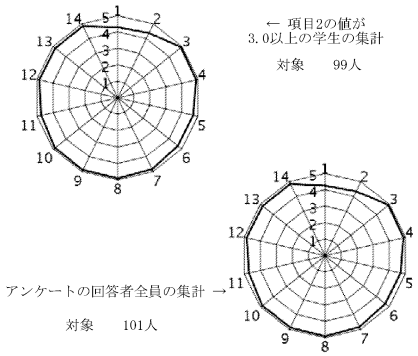
この科目でPPTを利用したのは初めてであったが、好評を博したので、今後も多用したいと考えている。

また、そもそも、授業の内容や形式の変更を迫られた最大要因は「他学科、他学部の受講可」への制度変更であった。この点はむしろ学内の関係委員会などで慎重な検討をお願いしたい。曜日と時限の都合で大量の他学科生が受講するとなると、本来の開講対象である学科生への配慮が激減せざるを得ないからである。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国近現代史研究
授業コード　35C16-001
教員名　宮原　佳昭
教員コード　102232
登録人数　141
回答数　101
回答率　71.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①近現代の中国における重要事件や人物、各政権のイデオロギーを理解している。②それぞれの事件の根底にある「中央と地方」「政府と民衆」それぞれの論理とパワーバランスを理解している。③平素より、中国に関する最新情報を積極的に収集し、その内容を理解している。

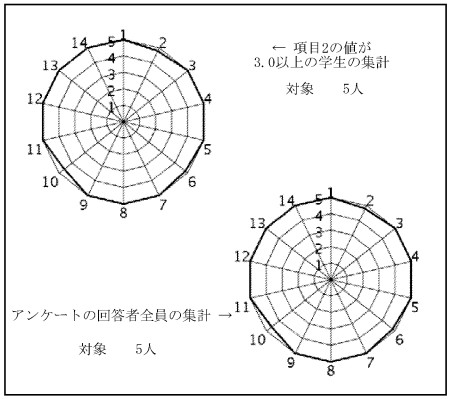
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の2点である。①授業内容に関する映像資料や新聞記事を活用して、学生のイメージ形成を促すしたこと。②毎回の授業でリアクションペーパーを配布し、「この1週間に起こった中国・台湾関連ニュースとその情報源」を自分で調べてまとめさせ、学生が平素より情報収集する習慣を身につけさせること。これらは授業評価の数値データ・自由記述ともに好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

一方で、学生1名からコメントとして、「教員が引用する新聞が朝日新聞のみで、考えの偏りが気になる」というものがあった。これは授業中に「中国・台湾関連記事の内容のクオリティから選んだものであること」、「新聞とはそもそも意見の偏りがあるものだから、各社の傾向を理解したうえで読みこなすのがよいこと」、「教員の考えはあくまで参考であり、そこから自分の意見を持つようにしてほしいこと」と学生に常々呼びかけ、配慮したつもりであった。今後は複数社の記事を参照するようにしたい。

外国語学部 アジア学科
間瀬　朋子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　インドネシア社会研究
授業コード　35D11-001
教員名　間瀬　朋子
教員コード　103607
登録人数　12
回答数　5
回答率　41.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目が目的とした「インドネシアの多様性を具体的に知っている」「インドネシアの社会や文化がいま次第に変容している様相やその背景を理解している」という2点には全受講生が到達した、とみている。というのも、授業内容を踏まえて自由にサブテーマを設定し、調べたり考察したりした内容を発表するクォーター末のグループ・プレゼンテーションにおいて、全受講生が大いに力を発揮したからである。数値データに表れているとおり、全受講生が予習や復習を含めて主体的に授業に参加できた。彼ら自身が「授業の到達目標に向けて力がついてきている」と感じられたことは、教員として喜ばしい。

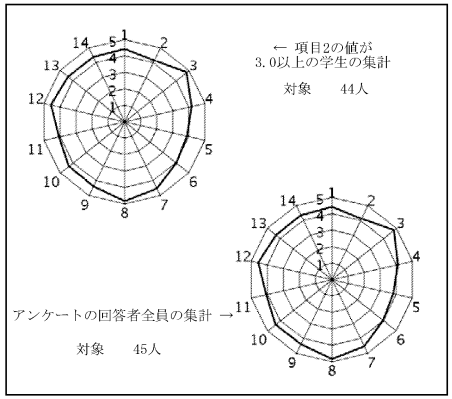
授業内で相当数の文献・論文を紹介したが、そのなかにはインターネットでアクセスできるものが複数あった。他方で、紹介した文献・論文が南山大学の図書館ではみつけにくかった、という受講生の声があった。数十年前の文献・論文や専門的な文献・論文も含まれていたので、かならずしも簡単に入手できなかったことは推察される。しかしそこには、取り寄せなどの方法も通じて、時間と労力をかけて重要な資料を収集する方法を学んでほしいという意図もあった。そのあたりについて、授業でもう少し説明しておく必要があっただろう。この反省は来年度以降に活かしたい。

受講生が積極的かつ主体的に参加できる授業をめざして、今後もいっそうの努力をつづける所存である。

経済学部 経済学科
實多　康弘　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A2
授業コード	12C08-002
教員名	實多　康弘
教員コード	100751
登録人数	75
回答数	45
回答率	60.0%
休講回数	4　回
補講回数	4　回



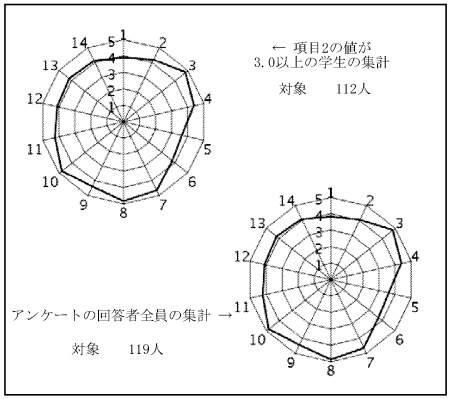
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に引き続き担当して、今回で3回目の担当となる共通教育科目である。重版を毎年している評判のよいテキスト『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）を使用して講義を行った。第一に、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。昨年度は初学者にはやや難しい経済学の概念の多い箇所を講義したので、改善を求める声があった。そこで、今回は基本的な内容を丁寧に説明することに集中した授業を行った。その結果、学生からの評価はとても高いものになった。自由記述欄において、丁寧な説明でとても分りやすかったとの高い評価の記述が多数あった。第二に、例年通り、理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。学生の理解度を把握して授業内容や進め方を調整することができた。第三に、どの学問の導入科目も同じかもしれないが、初学者が興味を持つきっかけになるが、初学者にはこの授業を学んでいる時点では、学んだ内容が今後のどの科目と関連が深いか、役に立つかを本当に理解することが難しい。今後の学びにどのようにつながるかをより一層丁寧に説明して、学ぶ意欲を高められるようにする。応用科目を履修してはじめて価値が分ることもある。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マクロ経済学1
授業コード	40B02-001
教員名	太田代　幸雄
教員コード	100347
登録人数	134
回答数	119
回答率	88.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】
　この科目は，経済学科1年次生以上向けの必修科目であり，経済学部における基礎的科目の1つであると位置づけられている。今回の講義は，昨年度も担当した科目であったため，具体的に目標・到達度を確認しやすい状況にある。数値データで見ても，学部平均を上回る項目が多かったため，客観的にまずまず目標を達成できているのではないかと考えている。また，昨年度よりも評価が上がった項目が多かった。

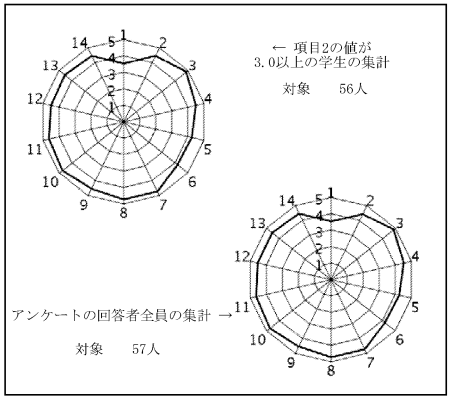
【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
　データとしては，回収率が全受講生中88%と，これまで担当者が実施したアンケート中でもかなり高い数字であったことが挙げられる。アンケート結果としては，全設問の平均値，設問3～14の平均値がともに学部平均を上回っている。ただし，設問1，5，6，12が学部平均よりも低い値を取っている。5については，講義の中でも説明しているし，12についても，出来るだけ早いレポート解説を心掛け，講義終了後にも質問の時間を取っていたが，殆ど質問に来ない状況が続いた。本当に学生が望んでいる事前・事後指導を検討したい。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】
　自由記述欄を見ると，多くは好意的な意見であるように思われる。ただし，授業内容に判り辛い点があったと感じている学生が存在しているので，今後修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学のための数学1
授業コード　40B04-001
教員名　西森　晃
教員コード　100624
登録人数　69
回答数　57
回答率　82.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

問3～14の平均値が4.56，問14の平均値が4.47だった。全体的にはまずまずの評価ではないかと思う。必修科目なので問1が低いのは仕方のないことだが，それを除けば極端に悪い項目もないようである。

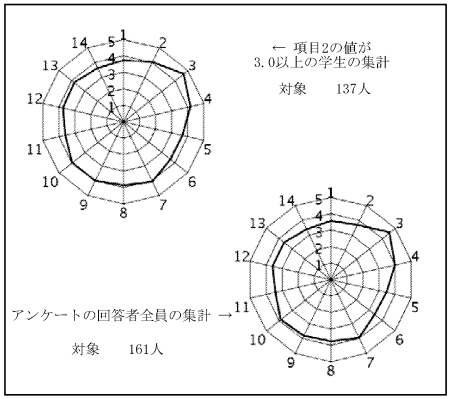
自由記述欄を見ると，授業の難易度，ペース，教え方などに関しても概ね好意的な評価をしてもらえているようである。しかしながら一方で，スピードが速い，難易度が高いという意見も一部あり，最近その数が増えてきた。期末試験の結果を見ても，そのような学生が存在していることは承知しているが，正直なところ当初の想定よりもかなり遅いペースでしか授業を進められず，また，難易度に関しても相当落とさざるを得なかったという事実がある。実はこちらも相当譲歩しているのである。よって，これ以上このような意見の学生に合わせた授業をするのは難しい。

ここ数年の傾向を見ると，今後も同じようなことが起こるだろう。ほとんどの学生は自分たちのやるべきことを理解しているのだが，自分の受講態度を棚に上げてただ要求をするだけの学生も一部いる。後者に合わせた授業をすれば前者が不利益を被るので，それは避けなければならないが，後者を単に切り捨てるわけにもいかない。ただ座っているだけでは大学の授業は理解できないこと，至れり尽くせりを望むのではなく，自分の力で理解する努力をすることなどを訴え，彼らの意識を変えることの必要性を強く感じている。

経済学部 経済学科
梅垣　宏嗣　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　西洋経済史入門
授業コード　40D02-001
教員名　梅垣　宏嗣
教員コード　102397
登録人数　242
回答数　161
回答率　66.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

入門科目として果たすべき目標は到達できたものと考えているが、学生の興味を引き出すための、いっそうの努力が必要である。

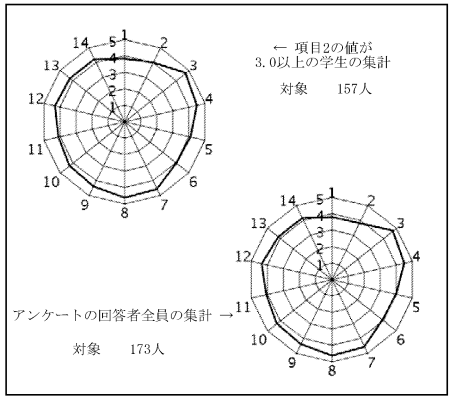
数値データおよび自由記述から看取できる改善すべき点は以下の通りである。まず、声が小さい、声が聞き取りづらいという指摘である。この点については、過去にはほとんど指摘されてこなかったが、本講義担当者の体調不良で声が出にくくなっていたという自覚はあり、体調管理の面で改善を図っていきたい。また、「配布資料の内容を読み上げてるだけではないか」との指摘があったが、この点については、聞き逃して困ることがないよう、話す内容をできるだけ配布資料に載せておこうという意図が裏目に出た。ただし、これを「配布資料がわかりやすい・丁寧である」と好意的に受け止める意見もあり、講義内容をどのような形で伝えるのか、綿密に検討したい。

練習問題を出題し、その解説を行うというやり方に対しては、別の担当科目では全く同じやり方で好意的な意見が大多数であったが、本科目では賛否両論であり、否定的な意見としては、「結局、練習問題の解説を丸暗記するだけではないか。それに意味があるのか」といったものが見られた。学生の講義に対する向き合い方は様々であり、そうした中でのひとつの落とし所としてこうしたやり方を採用してきたが、否定的な意見に見られる不満点を解消できるよう、より良いやり方を模索していきたい。

経済学部 経済学科
林　順子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済史入門
授業コード	40D03-001
教員名	林　順子
教員コード	101007
登録人数	245
回答数	173
回答率	70.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



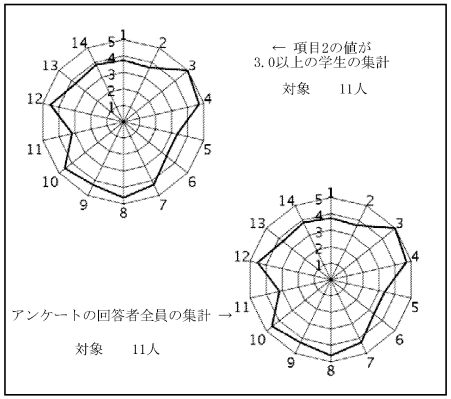
授業評価結果を踏まえた点検・評価

試験の解答から判断するかぎり講義目標「①江戸時代以降の日本の経済的な現象とその背景や影響を理解している。②歴史的な視点から、現在の日本経済の成り立ちを考えることができるようになる。」について、多くの者がなんとか到達、という程度までには導けた。
授業評価の数値データをみると、例年よりは高めであった。これまでもwebclassを通じてもらったコメント、特に質問と要望にはなるべく答えるようにしているが、今回は、教材の形式について小さいながらも具体的な改善案が一人の受講生から出され、早速直してみたところ、他の受講生にも好評で、私としてもとても嬉しい出来事であった。このように、例年よりも受講生とのコミュニケーションがとれたのが、数値での評価が高くなった理由であろう。
授業評価の自由記述欄も、いつもよりも多くのコメントがあった。そのひとつに、講義中によく「日本史をとった人は聞いたことがあるだろうが」というフレーズがきかれたが世界史しかとっていない学生がいることも認識してほしいとの指摘があった。その通りで、反省するしかない。ただ、webclassに寄せられた感想をみると“難しかった”と“すでに知っている内容だった”という内容が半々で、多様な学生にどのように配慮するか、難しいところである。そのほかにも、板書が少ない、講義中のチェックテスト（成績には反映しない）の出題ミス、私語の注意が足りない、話が単調、といったコメントもあった。ここでは全てに答えることができないが、今後の参考にしていきたい。ミスの件については、第三者に事前チェックを頼んではとの具体的な方策案も寄せられたが、残念ながら依頼できる人員がいないことを理解していただきたい。

経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計量経済学A
授業コード	40D11-001
教員名	大鐘　雄太
教員コード	103641
登録人数	16
回答数	11
回答率	68.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業では、「正しいデータ分析の初歩的・基礎的な考え方について理解できる」ことを目標とした。この目標は、シラバスだけでなく、初回の授業で配布したプリントにも記載したが、設問5は3.36であったため、目標の到達には至らなかったと考えている。

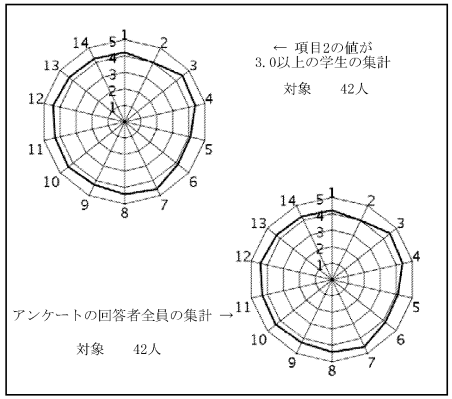
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　数値データでは、設問3から設問14の12項目のうち、設問5、6、11、13、14が3点台であった。特に、設問5、 6、11は、それぞれ3.36、3.36、3.18と低かったことから、授業の到達目標の周知（設問5、6）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための情報提供（設問11）、がそれぞれ不十分であったことが、この授業の改善すべき点として挙げられる。一方、全体の満足度に関する設問（設問14）は3.71から3.82へと若干上昇したため、全体的な満足度としては昨年よりもわずかに改善できたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　来年度の計量経済学Aでは、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための情報提供を増やすことにより、全体の満足度をさらに改善していきたいと考えている。

経済学部 経済学科
小林　佳世子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報経済学A
授業コード	40D17-001
教員名	小林　佳世子
教員コード	100487
登録人数	116
回答数	42
回答率	36.2%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、2年次生以上の選択科目です。今クウォーターは、私自身の突然の体調不良で、正直講義が最後までできるかどうか不安に思った時もあったほどでしたので、声が聞き取りにくいなどあったのではないかと心配しています。そんな中、ほぼすべての項目で、学部の平均点を上回り、素直にほっとしています。

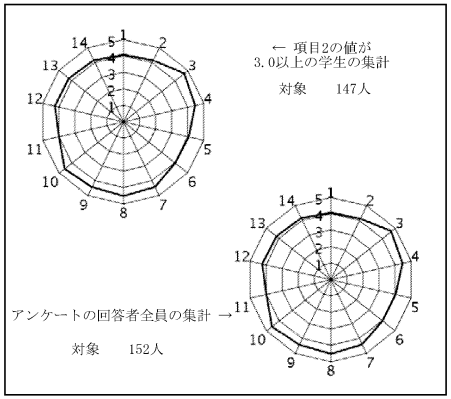
講義の目標は、「基本的な情報経済学の考え方を理解すること」と、「情報経済学の考え方を現実の事例に自分で当てはめて考えられるようになること」でした。自由記述欄でにの、「非常にわかりやすかった！」、「事例を豊富に使い、経済学の面白さが初めてわかった！」などのコメントをみると、そうした講義の目的は、一定程度果たせたのではないかと思っています。また、学ぶ楽しさが伝わったことが、何よりうれしく思っています。

そんな中、最も評価が低いのが、設問２の、予習や復習を含め、主体的に授業に参加したか、という項目です。先日学部が行った学生からの聞き取りでも、予習や復習などといった主体的な学びは、あまり行われていないようでした。講義からの発展的な内容を何度も聞きに来る積極的な学生さんもいましたが、こうした主体的な学びをどう作り出していくかは、今後の最大の課題です。

経済学部 経済学科
都築　栄司　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	金融論A
授業コード	40D28-001
教員名	都築　栄司
教員コード	103265
登録人数	423
回答数	152
回答率	35.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に予定していた講義の内容は過不足なく扱うことができた。また、中間試験の結果から、およそ８割の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていることが分かる。（期末試験はまだ採点していない。）

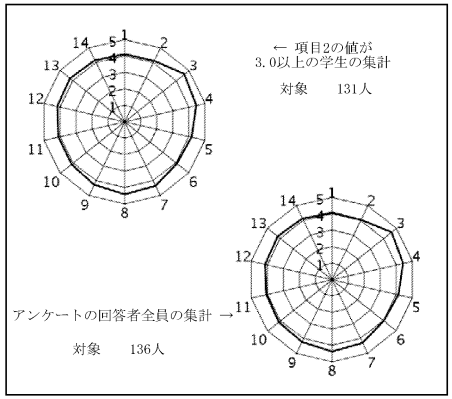
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
この科目は受講の上で若干の数学的な予備知識が必要となるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人とで理解の速さに差が出ることは仕方がない。この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。
また、毎時限、理解度の確認のために練習問題を配布している。授業内で解説をするだけでなく、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるように、WebClassを活用している。毎回の講義資料もWebClassにアップロードしているが、煩雑にならない程度に、幾分詳細な作りとしている。こちらは好評のようなので続けていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
分析方法それ自体の理解度は十分であると思われるが、その実際の問題への応用については、時間的な制約もあり、あまり解説しなかった。
吸収した知識をいかに身の回りの事柄に役立てられるかは、学問を習得するうえで最も重要なことの一つであると思われるので、今後はそのような内容をさらに充実させていきたい。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　労働経済学A
授業コード　40D30-001
教員名　岸　智子
教員コード　100346
登録人数　455
回答数　136
回答率　29.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



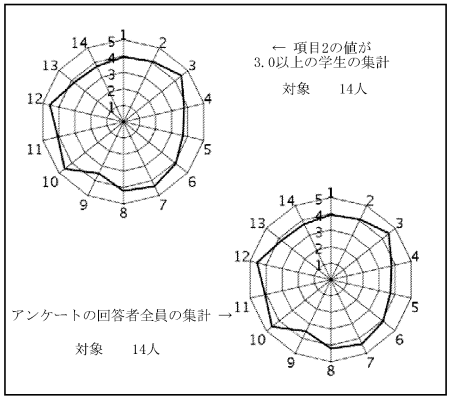
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が全般的に高い本学にあって、平均値が4をわずかに超えただけであったことを恥ずかしく思っている。400人を超える受講者のニーズに合った授業は難しく、向学心の強い学生には物足りなかったのではないだろうか。労働経済学はミクロ経済学や計量経済学に依拠しているので、少しレベルを上げようと思えば、数式がどうしても必要になる。しかし、数式を使うと法学部など、他学部の学生からの不満の声が寄せられる。過去には数式がわかりにくいので履修を中断したいができない、という苦情が法学部の学生から寄せられたこともある。そこで、授業ではなるべく数式を避け、平易な日常用語を使わざるを得ない。ところがそれでは、労働経済学の深奥が伝わらないこともある。
受講者の多い教室で授業を進めていくことに、どうしても困難を感じる。携帯電話の使用、授業の途中での退出や私語が絶えない。過去には学生の座席に行って携帯電話や私語を注意したこともあったが、今回は授業の進行が遅れることを恐れてつい注意を怠った。真面目な学生は不満を感じたのではないだろうか。多人数の授業を、他の先生方はどのように進めていらっしゃるのだろうか。学生が私語もせず集中するような講義をなさる先生や、大教室でも参加型の授業をなさる先生もいらっしゃるが、自分にとってそのような授業は非常に難しい。
毎回、授業での配布プリントをWebclassに掲載したが、レポートなどにWebclassを活用することはできなかった。もう少しWebclassを効率的に使えるように勉強しなければならないと思うが、その時間がとれない。第二クオーターは月曜日から金曜日まで5日間すべて授業日で、第一クオーター の授業を反省し、来年度に向けて改善の方法を考える余裕がないのである。残念ながら、授業評価には、自分の授業を改善する効果がほとんどないように思われる。

経済学部 経済学科
焼田　党　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公共経済学A
授業コード　40D32-001
教員名　焼田　党
教員コード　102065
登録人数　44
回答数　14
回答率　31.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



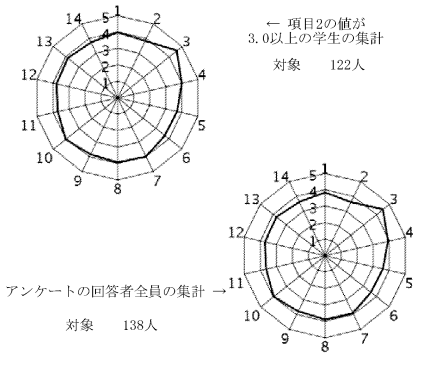
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業内容としては当初の予定を終えたが、前半の市場の効率性に関する議論を紹介するのにかなりの時間を費やしたので、後半の公共財供給の問題について、やや急ぐことになってしまった。このため、試験でも後半についての問題の回答は予想よりかなり不満の残るものとなった。試験問題の提出時には予想していなかったので、受講生には申し訳なく思う。②授業の資料をレジュメとして用いているつもりであったが、さらにレジュメを求める声が記述してあった。単一の教科書を指定していないのでやや詳しくはなっているが、今後の考慮点ではある。字が汚いことと、話す速度が速いのはなかなか治らないようで、今回も指摘されている。しかし、授業自体は、休憩時間を短縮している分を考えても、質問時間を十分に取ってあり、また、授業途中での質問もしてくれるように言っているので、これ以上の対応は事実上難しいように考えている。2コマ続きでの開講なので、途中で次の話題に移ることはあるが、少し気をつける必要があったことは指摘のとおり。全体としては、前回よりも聴講学生の反応を確かめながら進めている（指名して理解したかどうかを頻繁に尋ねた）つもりであったが、内容が難解であるためか、理解が進んでいなかったようである。その意味では、改善の余地がある。③何を説明しているか、どのように日常生活に関連しているか、を一層知らせる必要があると考えている。同時に、それを経済学の道具でどのように表現しているかも。

経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税論A
授業コード	40D34-001
教員名	岸野　悦朗
教員コード	103035
登録人数	366
回答数	138
回答率	37.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業は、我国の租税制度全般及び所得税並びに相続税といった個人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
　授業に際しては、昨年度と同様、パワーポイント資料を見直し、授業の進め方等改善に努めた。その結果、試験による評価成績が向上し、理解度が上昇したことが窺われる。ただし、試験結果については、Q制が定着した中で、短期間で要領よく試験勉強を行う能力が身についたことも要因と考える。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　パワーポイント資料に対する評価、改善要望等両方意見があり、特に、声が聞き取りにくい等の意見を述べる者がかなり増加している感がある。本年度は受講生が多く、大教室での授業となったことから目が行き届かない点があり、全体の評価も低下した。今後はできる限り、目配りすることが求められる。一方、授業冒頭での時事問題の紹介は好評で、今後も続けたい。なお、資料配布の要望が散見されたが、予算・事務量的に対応困難なことから、WEBクラスを用いての勉学に向けて学生の意識改革に努めたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　次学期以降、各科目について充実した内容となるよう上記評価を踏まえて取り組んでまいりたい。

経済学部 経済学科
赤星　立　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	産業組織論B
授業コード	40D37-001
教員名	赤星　立
教員コード	103866
登録人数	16
回答数	4
回答率	25.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「囚人のジレンマ」と呼ばれる状況に直面する企業がどのようにしてその状況から脱却するのかという一貫したテーマのもと、さまざまな「策」について、それらがどの程度効果的なのかを理解することを目的としていた。講義内容としてはそれに沿った物を提供できた。試験結果を見ると学生はそこに到達していない。

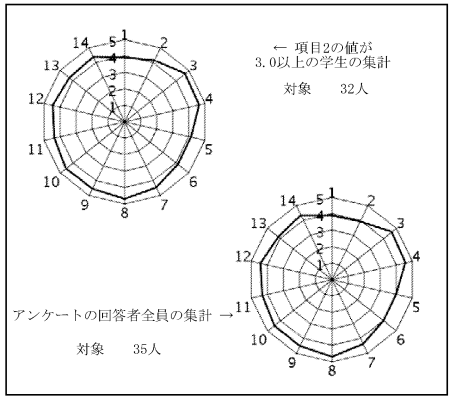
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
データについてはサンプルサイズが小さすぎて何とも言えない。相変わらず出席者の少なさが気になる。受講者のうち全15回の授業のうち半分以上出席した学生はほとんどいないのではなかろうか。経済学は積み重ねの学問であり、部分的に聞いて理解できることはほとんどないと思う。カリキュラムの問題や学生のこれまでの習慣の問題もあるので、少なくとも出席するような仕組みを取り入れる必要があるかもしれない。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
必修の「ミクロ経済学」と「ミクロ経済学特論」だけを前提にして科目にするために、内容を全面的に改定する。昨年度Q3に着任し、今回で本講義は2回目の担当であった。その2回の経験では、本学の学生はじっくり考えるという経験をしてこなかったのかもしれないと思った。試験やレポートでは論述をさせる問題ではなく、細かく確認するタイプの問題に変えようと思う。

経済学部 経済学科
相浦　洋志　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域経済学B
授業コード　40D41-001
教員名　相浦　洋志
教員コード　103642
登録人数　56
回答数　35
回答率　62.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



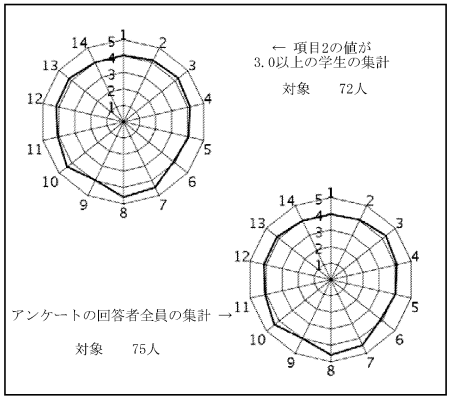
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、地域の経済政策や公共政策をマクロ経済学およびミクロ経済学の知識を生かして解説を行った。昨年度に実験的に行ったグループワークを改良して、今年度は本格的にグループワークを導入した。グループワーク参加者(40名強)の内、不合格者(X,F)は2名だったので、積極的に参加した学生はおおむね本講義の内容を理解できたのではないかと思われる。その結果、項目３から項目１４のすべての項目について学部平均を上回った。また、今回の工夫として、授業前半までにグループワークに必要な知識を解説し、授業時間外に十分にグループワークに取り組めるようにしたのと共に、授業後半では、グループワークにおける質問を受け付ける時間を十分に設けた。そのため、アンケートの自由記載欄で「先生が質問に快く応じてくれる。」「興味を引くような話題を取り入れている点がよかった」といった回答が得られた。今回はたまたま受講生が少なく比較的スムーズにグループワークが行えたが、受講生が多い場合に上手くいくかどうかはまだ分からない。今回の内容を踏まえ、受講生が多かった場合においてもスムーズに授業が行えるように対応策を考えていきたい。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　開発経済学A
授業コード　40D46-001
教員名　林　尚志
教員コード　017897
登録人数　149
回答数　75
回答率　50.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、発展途上地域の貧困、ならびに貧富の格差に関わる諸問題を概観したのち、“マイクロ・ファイナンス”の事例を中心に、近年の制度的イノベーションの動向を紹介しながら、途上国における“貧困削減に向けた取り組み”に関する理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

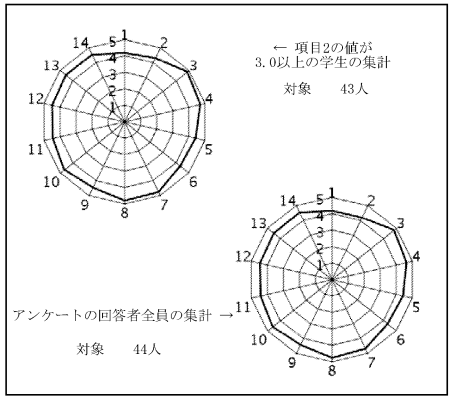
この目標の到達度については、１）授業の話の流れがわかりやすく、理解しやすかった、２）図や表を用いて、視覚的に理解することができた等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（９）と関連し、「板書のまとめ方がきれいで、わかりやすかった」、「説明がわかりやすかった」等のコメントがある一方、「板書が見にくく、書き写しにくかった」「板書の量が多すぎる」等のコメントも見られたため、「内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、学生の問題意識を高めるにあたって、何回か「授業中の問いかけ」や「次回内容に向けた予習課題」をもうけたが、今後も、授業進度に支障のない範囲でこれら内容を充実させていきたい。

経済学部 経済学科
稲垣　一之　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　特別テーマ講義(国際)B
授業コード　40D59-002
教員名　稲垣　一之
教員コード　104110
登録人数　90
回答数　44
回答率　48.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）受講者から「説明が丁寧で分かりやすい」というコメントが多数寄せられた。そのため、講義中に解説した内容を、学生は十分に理解できるようになったと考えられる。そのため、時事的なトピックスを経済学的に理解できるようになるという目標は達成できたと判断される。

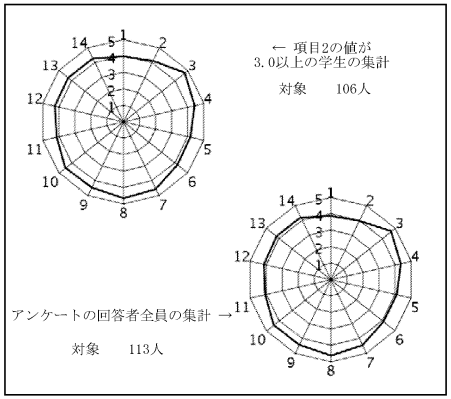
（2）設問14が学科平均点を大きく上回り、また他の項目も平均点を上回っているため、講義の内容や進め方については特に問題なかったと判断される。ネガティブなコメントも特に寄せられなかった。なお、ホワイトボード用マジックのインクが薄いという意見が多かったが、教室においてあるマジックの候補が限られているため、どう対処すればよいのか考えたいと思う（例：自前のマジックを持参？そこまでしなければならない？）。

（3）説明が丁寧であること、解説した経済学の考え方を時事的なトピックスに関連させるという進め方、という2点に対して特に好意的な意見が寄せられたため、次回以降も意識して継続させていきたいと思う。

経済学部 経済学科
川本　真哉　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本経済史A
授業コード　40D62-001
教員名　川本　真哉
教員コード　103865
登録人数　269
回答数　113
回答率　42.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
　本講義の目標は、①日本経済発展の軌跡について、マクロとミクロの視点から体系的に理解する、②現代日本経済が抱える諸問題に対し、歴史的な視点から処方箋を提示する思考方法を身に付ける、ことであった。講義では、戦時期から平成不況期までをカバーするとともに、それら歴史的事象の今日的意義を適宜解説し、この目標の達成に努めた。

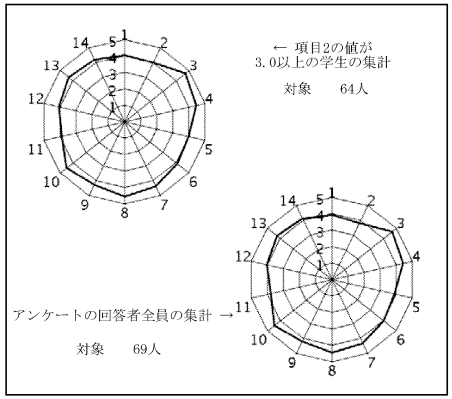
②総合的な自己点検・評価
　質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）のスコアは、4.20であり、概ね肯定的な評価を受けたものと理解している。また、受講者からは「練習問題が用意されていた」、「歴史的な事実に関する丁寧な解説があった」などのコメントがあった。その一方で、質問項目11（学生の学習意欲を引き出し～）のスコアは4.08となっており、この点についてのケアが必要に感じられた。また、「プリントの図表が読みにくい」のコメントもあり、改善が必要だと思われる。

③改善点、今後の抱負、方針など
　単元ごとの練習問題については、受講者個々人が理解度を計るうえで有効だと思われるので、継続していきたいと考えている。改善点としては、受講者のさらなる学習意欲の引き出しのために、経済の歴史を学ぶ意義について、より明確に強調する必要があるように感じた。その他、レジュメの印刷方法についても改善を図りたいと考えている。

経済学部 経済学科
阪本　俊生　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	消費社会論A
授業コード	40D68-001
教員名	阪本　俊生
教員コード	017020
登録人数	138
回答数	69
回答率	50.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



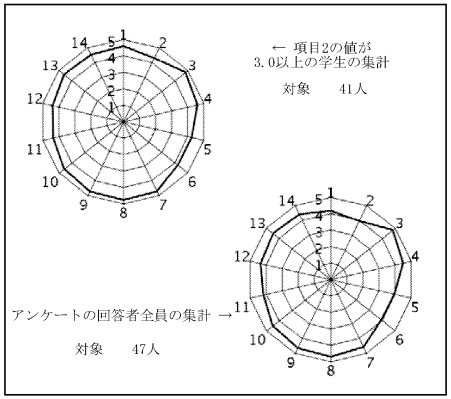
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義の到達目標としては、「1.消費について、幅広い観点から理解し、考えられるようになること、2.現代経済や仕事の価値を、一般常識とは異なる角度からとらえられるようになること、3.流行の基礎理論を学ぶこと」の３つを立てていた。「内容がとても新鮮だった」「消費問題等を歴史的に捉えることで視野が広くなった」「考えさせられることが多く、なぜを追求していた」「自分の生活と結びつけて理解できるようになった」といった意見からは当該目標が学生に伝わったと感じる。ただ「学科の科目なのに他学部の内容のようで、難しく感じた」という意見も一件あった。経済学以外の社会学や文化人類学の視点から幅広く経済を考え視野を広げるという目標は、シラバスや講義で何回も述べたが伝わらなかったのは残念だ。
②平均が4を超えているので、まずまずの結果だと考えている。学科のほぼ平均レベルである。４を切っていた項目は、設問１、２、５、１１であった。５については、①でもふれたが、本講義の到達目標は学生には伝わりにくかったようだ。１１については、以前からの課題であるが、今回から質問や要望を書かせるアンケートともにミニテストを実施し、次回の講義で回答するというかたちで、学生について講義内容に基づく問いを自ら考えさせる機会を与えた。
③本講義の到達目標について、もっと丁寧に説明したい。引き続き、学生の学習意欲を引き出す工夫を検討する。

経済学部 経済学科
宮崎　浩伸　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学 / Economics
授業コード	48C11-001
教員名	宮崎　浩伸
教員コード	101892
登録人数	89
回答数	47
回答率	52.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



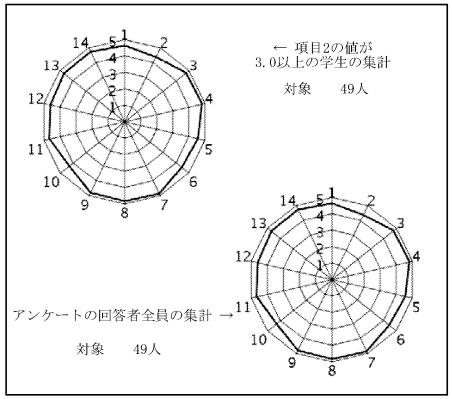
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値が4.37、設問3～14の平均値は4.42であった。今年度は履修学生が89名となり、国際教養学部でのアクティブ・ラーニング形式の授業を行うのが難しかった。また、学生からの要望も様々となり、授業の運営に非常に苦労し、開講当初に設定していた目標を達成することはできなかったように思う。
個々の授業評価項目では、設問5,6,11で低い評価となっており、何らかの対策が必要である。そこで、今後の改善すべき点としては、以下の2つが挙げられる。
1.授業の到達目標を理解し、到達目標に向けて、力がついてきたことを実感してもらう。
2.学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導・情報提供を行う。
これらの課題には、例えば、授業内で、到達目標を繰り返し明示し、その目標に向けて、理解度が上がっていることを実感できるテストを数回実施することや時事問題に関連した課題設定型の宿題を課すことが有効かと思われる。
最後に、自由記述欄では、「説明が丁寧でわかりやすい。」、「面白かった。」といった好意的な意見が多くあったので、これらは今後も継続していきたいと考えている。

経営学部 経営学科
堀田　治　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学A3
授業コード	12C06-003
教員名	堀田　治
教員コード	103646
登録人数	93
回答数	49
回答率	52.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



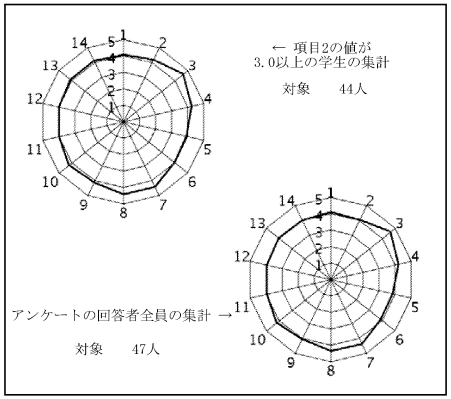
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度は認知／社会心理学を中心とした消費者行動論に重点を置いていた。今回は、この内容を重要な点のみに絞り、経営学部以外の学生に向けて社会とつなげた観点から、マーケティングや消費者コミュニケーションの基本にしっかり時間を割いた。この点で、「理論や知識を体系的に修得し、様々な消費者行動を説明できる」「企業が展開する消費者コミュニケーションやマーケティングを理解し、賢い消費者となる」を達成できた。また、ネット、SNSを中心としたデジタルやAIにおける昨今の技術革新から、それに伴うマッチングやシェアリングといった新しいビジネス、ネット上での口コミの実態など、最新の傾向にも時間を割き、これは経営学部生にも有用な内容となったと考える。トータルで「顧客志向を身につけ、理論を応用しながら自らマーケティングを実践する」との目標に近づけたと考える。
評価3~14項の評価平均は4.68となった。自由回答では「授業が工夫されていてとても分かりやすかった」「マーケティングというものが、私たちの身近に存在する親しみのあるものだと多数の動画の使用などから解らせてくれた」「難しい内容もあったが身近な物事とリンクさせて理解しやすかった」といった評価が多かった。
今後の抱負として、今期もそうであったように、できるだけ身近な、かつ最新の情報をニュース等で集めながら、背景となる社会的な事象、理論を理解させる形を一層進めたい。

経営学部 経営学科
宮元　忠敏　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学A
授業コード	12E01-001
教員名	宮元　忠敏
教員コード	017293
登録人数	153
回答数	47
回答率	30.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



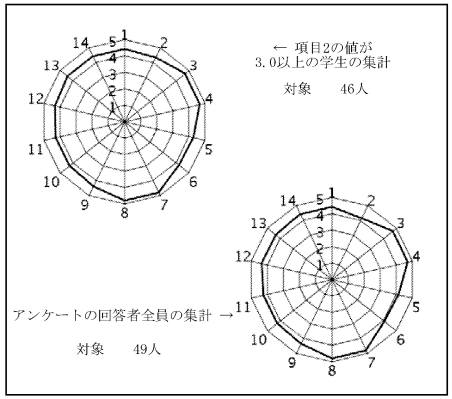
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標と到達の程度：素材を有理数の範囲に限定し、図形数、ピタゴラス数、曲線上の有理点、ユークリッドの互除法等を話題とした。数値（手計算、計算機出力）による予想、図による表現（グラフ、ラベル、矢印、まる、四角、点）、論理による表現（文字の選択、変数宣言、変数の衝突、アルゴリズムの表現）、各種ポイントの解説を行った。全体として、はじめての整数論を素材に、初めての数学的表現、初めての数学的作法・論理・理論を解説した。話題の選択に難易度の差があるものの、シラバスに載せた項目をおおむねカバーできた。
総合的な自己点検・評価：Ｇ３０教室には６面の白板があり、自由に使用できたが、字が小さいとの評価が寄せられた。毎回紙を配布し、簡単な課題に解答を求め、回収した。以下は、履修生のコメント「字が小さい」(4)、「プリントに書かれた事柄を説明する形のほうが理解し安い」、「わかりやすかった」(4)、「復習を長めにとってくれる」、「自分で考えなければならない課題があった」、「数学以外の知識を取得可能な点」、等。
改善点、今後の抱負、方針：　毎回、紙を配り回収する方法は続ける。復習は行う。話題の選択に関しては、教育的観点から、変化の可能性を残す。各種ポイントの説明は、なぜそのような事柄を取り上げるかが、理解されなければならない。教室サイズについては、選択の余地が存在しないが、かすまずに書けるマーカーを毎回、準備しなければならない。

経営学部 経営学科
中尾　陽子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学A3
授業コード　12E03-003
教員名　中尾　陽子
教員コード　064188
登録人数　75
回答数　49
回答率　65.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



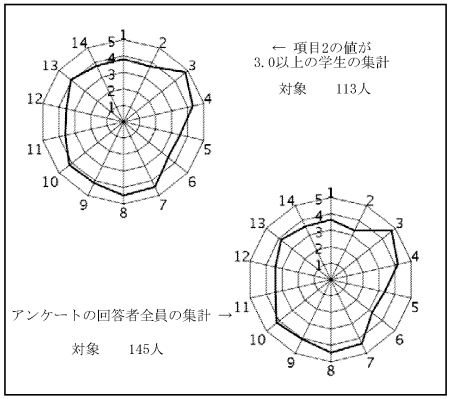
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理学の基礎的分野の概要を知識として理解するだけではなく、それを日々の生活の中で活用できるようになることを目標としながら展開していきました。また、一方的に教員の講義を聴くだけではなく、参加者同士のディスカッションやグループワークを通して、自分たちで充実した学びの時間を創りあげていくことにも取り組んできました。
授業評価の数値は、多くの項目において平均値からそれ以上の値となりました。
自由記述には、グループワーク、特にメンバーとのわかちあいに対する肯定的な反応が多く記述されていました。話し合いを通して多様な考えに触れ、自分の考えの幅が広がることを実感していただけたことはとてもよかったと感じ、今後も積極的に続けていこうと思っています。
一方今回は、コミュニケーションペーパーの評価基準や、レポートとテスト両方を実施したことに対する不満の声もありました。受講生の方の多様な取り組みを評価対象にすることは、私にとっても大変なことではありますが、皆さんの学びの多様性と質を高めるために大事なことだと考え、実施しています。今後、このような思いがよりきちんと伝わるような説明を心がけ、大変さの中にある意味を見出していただけるよう努力していこうと思います。

経営学部 経営学科
薫　祥哲　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会システムと環境1
授業コード　13D06-001
教員名　薫　祥哲
教員コード　018168
登録人数　164
回答数　145
回答率　88.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



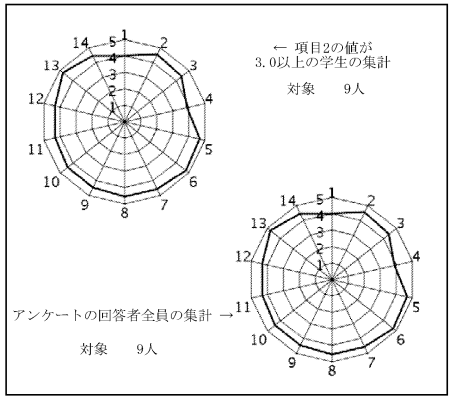
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ゴミ問題やリサイクル法規制を中心に、社会システムが抱える問題点を環境経済学の視点から講義した。汚染問題やゼロエミッション、環境税、そしてグリーンGDPに至るまで、幅広いトピックスを扱った。関連する新聞記事を多数配布し、身の周りで発生している社会現象として興味を持ってもらえるように努めた。授業では毎回講義のレジュメを配布し、その内容に沿って授業を進めた。廃棄物問題などが発生する裏には、社会経済システム的な原因があることを理解してもらうことを目的としたが、概ねこの目的は達成できたと思われる。
登録学生数164人に対して、145人(88.4%)から授業評価回答があり、とても高い回答率であった。全体平均は3.90であり、概ね満足できる結果であったと判断しているが、もう少しこれを高めるように工夫を重ねたい。良かった点として「授業を進めるスピードが適切」、「声が聞き取りやすい」、「レジュメがわかりやすかった」、「説明がていねい」という記載があった半面、改善すべき点として「教科書を買ったけど授業で使わないのでもったいないと思った」といった記載が多数あった。この点については、教科書を読んでレジュメの理解を深めるように数回授業中に説明している。実際、学期中3回実施したリアクションペーパーには「教科書を読むと、内容がわかりおもしろかった」、「レジュメは教科書の内容がわかりやすくなってて助かる」といった記載もあり、本来のレジュメと教科書利用の意味を理解している学生達も多数いたと思われるが、このような勉強方法についての理解をもっと広めて行く必要があると感じた。

経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報機器の操作1
授業コード　14D02-001
教員名　長谷川　高則
教員コード　000162
登録人数　16
回答数　9
回答率　56.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



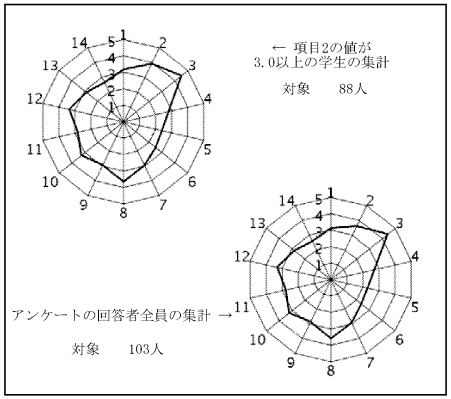
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標
　この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回は受講者数が少ないクラスであったが、パソコンのスキル差は大きく授業の進行状況は遅れ気味であった。
２．目標達成度
　出席状況は概ね良好であったが、パソコンのスキル差の影響も有り、開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。
３．授業評価
　前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.43から4.44に僅かながら向上した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問6（授業の到達目標に向けて力がついた）4.78、設問13（新しい技術や能力を得た）4.78であり、評価が低いのは、設問4(授業の構成や進行速度）3.89、設問1(履修する前の授業内容への興味）4.00であった。設問1の評価を改善するのは履修前の事なので難題ではあるが、設問4に関してはデジタル教材を作成し改善中である。
４．今後の抱負
　eラーニングを活用して授業の予習・復習のボリュームを調整しながら、次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、デジタルテクノロジーを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

経営学部 経営学科
松井　宗也　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　統計学I1
授業コード　42B01-001
教員名　松井　宗也
教員コード　102275
登録人数　135
回答数　103
回答率　76.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



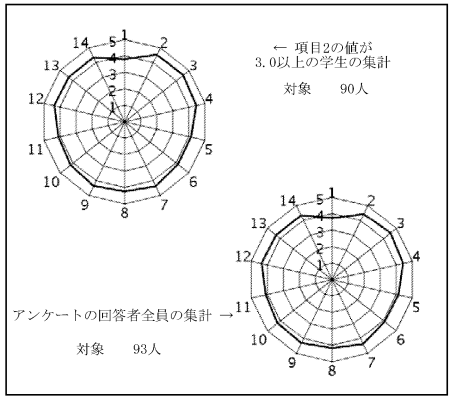
授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年度と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いたごく初等的なものである。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれれば良い。
　以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問3～14の平均値と設問1～14の平均値は3点前後であり、後者は評価基準がクリアーできず、この点は大いに反省したい。4学期制導入以来2学期制の場合と同程度の評価が得られたことはない。そのことを考えると不本意ではあるが、授業内容をより重点的なものする必要が考えられる。授業内容についてはもう少し様子をみたい。平均値が低いのは評定5と6、と評定13と14である。特に前者のグル―プは2点台前半の評価しか得ておらずこの点は反省したい。考えられる原因としては、１年次は経営学を学んでおらず統計学がどのように役立つのか見えにくい。さらに１年次はごく基礎的な理論を学び、応用から想起される到達目標が意識しがたい。といったことが考えられる。（今年度は授業中に言及したが、それでも理解が難しかったようである。）今後は到達目標を具体的に5つぐらいに設定し、それを授業用のWebページに記載したい。評定13においても到達目標が不明確であったため、目標へ向けた新しい知識の習得や理解が進んだとは認識し難かったようである。上記の方策に加え、コメント欄の「内容、レポートが難しい」を考慮し、次年度以降はレポート課題を徐々に簡単にして、「解ける、理解できる」といった学生の満足感を高めていきたい。そして設問14の結果を改善したい。

経営学部 経営学科
奥田　隆明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学I2
授業コード	42B01-002
教員名	奥田　隆明
教員コード	102600
登録人数	132
回答数	93
回答率	70.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

データの収集方法、その統計的分析方法を修得し、分析結果の適切な解釈ができることを到達目標とした。この到達目標に対して、受講生の77%が「力がついた」または「どちらかと言えば力がついた」と回答している。毎回、授業の後半には演習問題を解かせ、次の授業ではその解説も行った。こうした演習を通して授業内容を具体的に理解することができたのではないかと考えている。

また、授業に対する全体的な満足度については、受講生の86%が「満足した」または「どちらかと言えば満足した」と回答している。一般に数学の授業は抽象的な内容になりがちだが、できる限り実務での活用方法などについても触れながら授業を進めた。その結果、具体的なイメージで授業内容を理解することができたものと考えている。あわせて演習の時間には個別の質問も受けたため、これによって理解を深めた学生も多いものと考えられる。

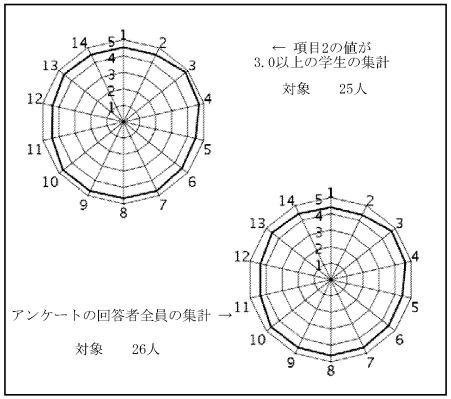
他方で、受講生の数が多く、教室が広いこともあって、音が聞き取れないとする学生もいるようである。今後、私語など、授業の妨げになる行為については、さらに厳しく注意していく必要があると考えている。

理系の学生に比べると文系の学生は直感で理解しようとする学生が多い。加えて、高校数学を十分に勉強していない学生もいるため、できる限り具体的な内容を取り上げて説明していく工夫が必要である。今年度の経験も活かして、さらに分かりやすい授業とすることを心がけていきたいと考えている。

経営学部 経営学科
池田　亮一　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済原論I
授業コード	42B05-001
教員名	池田　亮一
教員コード	101880
登録人数	111
回答数	26
回答率	23.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



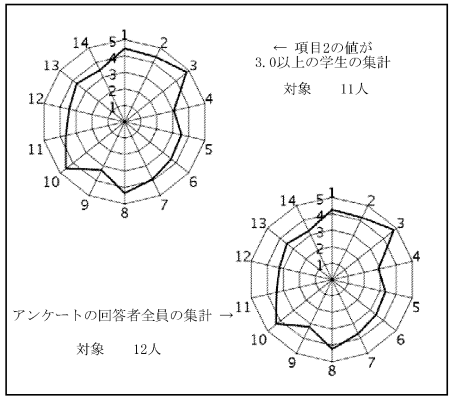
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は①需要曲線と供給曲線の理論に関する基礎的な知識を学ぶことにより，財の価格や需要・供給量に関して経済学的予測を行うことができるようになる，②ゲーム理論の基礎を学ぶことにより，戦略的思考を身につける，の2点であった．去年と同じように，特に①の内容に重点を置くため全15回中10回程度の時間を割き，残りをゲーム理論の講義を行ったが，どちらかというと学生の意欲はゲーム理論のときの方が感じられた．内容としては前半の方が重要であると考えているが，この配分は見直す必要があるかもしれない．学生からの授業評価結果については，去年と同様良好であった．去年あった意見として，レジュメが多すぎて重いという意見は，（別の理由によるものであるが）両面印刷にすることで解消され，片面印刷ではないことによる苦情は来なかったので，今後は両面印刷で授業をしていきたいと考えている．テストの出来は去年よりも良かったので，来年はもう少し難易度を高くしたいと考えている．

経営学部 経営学科
赤壁　弘康　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ファイナンスA
授業コード　42C07-001
教員名　赤壁　弘康
教員コード　100788
登録人数　51
回答数　12
回答率　23.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



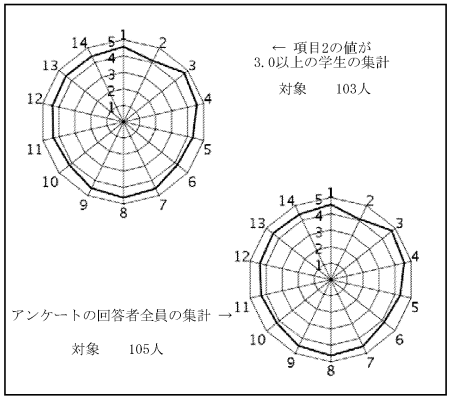
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標・到達度は当初設定した通り実施できた。授業時間中の問題演習以外に、映像資料視聴・まとめの問題演習の時間もそれぞれ1回・2回分確保できた。
②ショートペーパー提出状況から、履修登録者51名のうち授業に出席した学生は毎回30名をわずかに超える程度であったことがわかる。その数字から見れば11名のアンケート回答者数がやや少ないことが気にかかる。
③11回のショートペーパーと提出課題（宿題）の評価を加味して、レポート提出者38名を全員合格とした。レポート問題は、本来定期試験で出題する予定であった問題を印刷し、提出までに1週間の時間的余裕を与えた。当然の結果ではあるが、ショートペーパーの提出回数・評価が低い受講生はレポートの評価も低い傾向があるので、次年度以降の授業ガイダンスで注意を促したい。

経営学部 経営学科
川北　眞紀子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マーケティング論A1
授業コード　42C09-001
教員名　川北　眞紀子
教員コード　102879
登録人数　246
回答数　105
回答率　42.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



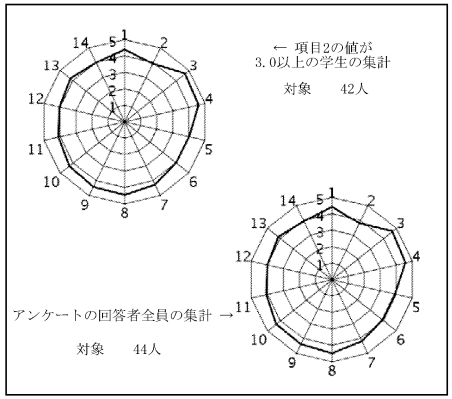
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①マーケティングの基礎的知識をみにつけること、現象と理論を行き来でいることが目標であったが、授業内容はそのように構成できていたと思う。試験ではその知識を問うているため、その成績を見ていると概ね理解していると思われる。
②大教室での講義で、総合満足度（14）が4.40と平均を上回っているので概ねよい結果であろう。学生の私語への対処については、対処できているという意見と、そうでもないという指摘が両方あった。パワポがわかりやすいという意見と、多すぎるという意見があった。また、事例が豊富であること、クイズを導入したインタラクションについては、ポジティブに捉えられているようだ。ただ、説明が早い、雑などという意見もあったことは反省すべきだろう。
③年々、事例を増やしてしまい、全部を説明しきれなくなっている部分もあるので、少し情報を整理して伝えることを考えたい。

経営学部 経営学科
湯本　祐司　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング論A2
授業コード	42C09-002
教員名	湯本　祐司
教員コード	017533
登録人数	153
回答数	44
回答率	28.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



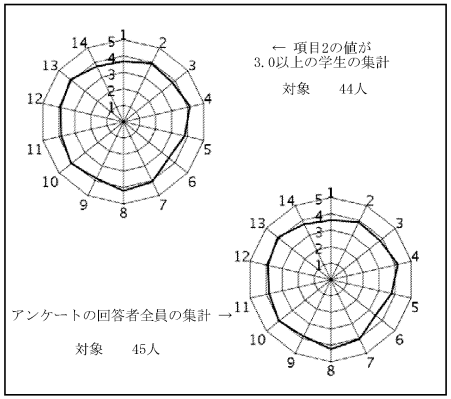
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はマーケティングの基礎的な理論や考え方および事例とマーケティング理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択必修科目（基本科目）であり、登録者153名の内訳は、経営学部86名、経済学部61名、外国語学部、人文学部、総合政策学部各2名である。学年別では2年生が122名で約8割を占める。定期試験の解答を見る限り、およそ７割の学生は目標を達成しているといえる。学生の授業評価では履修登録者153名のうち44名が回答し、項目１から14の平均と項目３から14の平均はそれぞれ4.21と4.23で、前年度とほぼ同じであった。学生の評価の高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(4.70)、4「毎回の授業の構成や進・速度は適切なものでしたか」(4.57)、8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」(4.48)である。一方、6「この授業の到達目標を理解することができましたか」(3.95)、7「あなたはこの授業の到達・標に向けて・がついてきていると思いますか」(3.95)であり、前年度と同じか若干改善されている。自由記述欄には、「授業進度がちょうど良かった」「基礎から丁寧に解説されていたため、マーケティングの概要が理解し易かった。また、この分野への関心が以前より湧いた」など好意的なコメントのほかに、「グループワークをもっと増やしてほしい」という要望があった。今年度は同様の要望に応えて、出席者が100名を超えるクラスではあるが「グループワーク」を1回導入してみた。次年度にはさらにもう1回増やすことを検討したい。

経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営史A
授業コード	42C15-001
教員名	中島　裕喜
教員コード	103065
登録人数	101
回答数	45
回答率	44.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



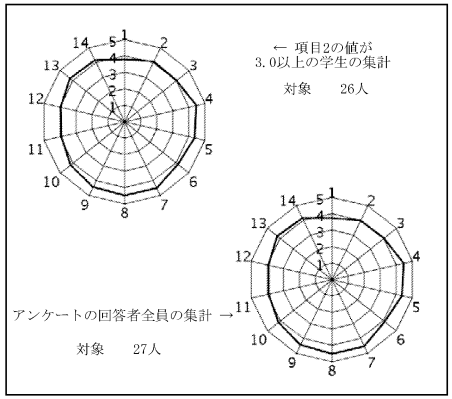
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問１「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」が3.60と低く、経営学部や経済学部が大半を占める履修者にとって歴史はなじみのない科目であると考えられる。設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」について4.09という評価で、受講した学生が何らかの学びを得てくれたことについては嬉しい気持ちである。一方、設問６「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については3.49と芳しくない。なぜ、このように評価が分かれるのか判然としないが、本講義は毎回説明される内容をしっかり理解していないと全体的な理解にはいたらないため、欠席などで講義についてくることが難しくなった学生も少なからず、いたのかもしれない。講義の後に質問に来る学生への対応など努力はしているつもりで、設問１２「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」も3.91と決して悪いとは思わないが、上述のように歴史的な内容を勉強することに慣れていない学生が多いことをもっと意識して、予備知識の提供など、学生の理解を促す方法を考えていきたい。

経営学部 経営学科
安田　忍　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外部監査論
授業コード　42C39-001
教員名　安田　忍
教員コード　101561
登録人数　57
回答数　27
回答率　47.4%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



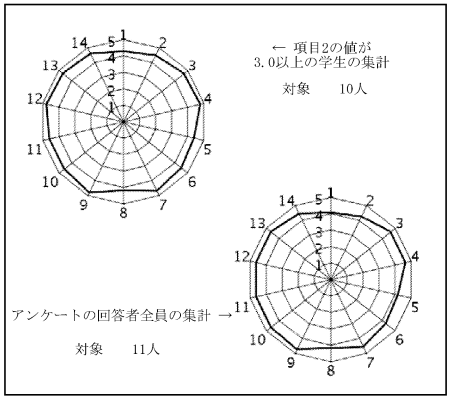
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、監査基準をベースにして監査の目的、実施プロセス、監査報告の内容等を学習し、財務諸表監査の基本的な枠組み、ならびに監査基準の内容を理解することを目標としている。授業の初めにシラバスを確認している効果の表れか、学生による到達目標の理解（設問5）は高かった。
アンケート結果では、受講前の興味（設問１）はそれほど高くはないが、授業を通して新しい知識を得たり理解が深まった（設問13）とする数値が高くなっているので、目標は概ね達成できたと思われる。自由記述では、レジュメが分かりやすいという意見や、復習を取り入れながら進めていたことが良かったとの意見があった。レジュメは、テキストをベースに、書き込み式のものを作成しており、テキストと同時に利用することで一層理解が深まることを想定しているのであるが、学生のテキスト保有率は今回極めて低かったようにみえた。今回、監査基準の改訂があったため、レジュメ内容の一部修正にあわせて、基本事項も充実するようにし、テキストの音読や資料の配布によって学習事項を補うことも行ったが、レジュメだけで受講が可能となり、テキストによる学習をしなくなると、表面的、基本的な理解にとどまることとなり、深く考える学習をしなくなるおそれがあるので、このような状況が学生にとってはたして良いのか、疑問を感じているところであり、レジュメのあり方を今後も検討したい。

経営学部 経営学科
安藤　史江　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　意識調査法
授業コード　42D06-001
教員名　安藤　史江
教員コード　019554
登録人数　48
回答数　11
回答率　22.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



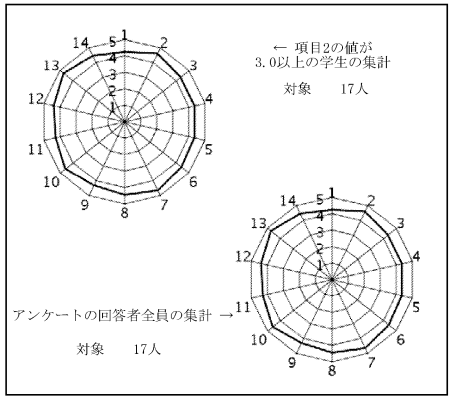
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、統計パッケージを用いて、量的なデータを統計的に分析する基礎力を受講者が得て、本授業での課題はもちろん、今後ゼミや別の機会に自ら調査を設計・実施し、それを統計的に正しく解釈できるようになることを目標とした。受講生は皆、非常に大変そうであったが、初年度であった昨年度よりも課題の数を減らし、進み方を調整するなどの配慮を行った結果、最終提出物をみる限り、当初の目標に到達する成果をげてくれたと考えている。実際、授業評価の数値データをみると、設問６「到達目標に向けて力がついたと思うか」に対して、学部の平均は3.88であるが、本授業では4.27という高めの値になっている。また、設問13「理解が深まったか」に対しては、学部平均は4.13だが、本授業に対しては4.64という高い値がついている。これは、設問14「全体としての満足度」に関しても同様で、4.45という値が得られた。このような結果に結びついた理由としては、相談の機会を多く設けたり、進み方や配布する資料に対して配慮をしたことがあると考えている。実際、配慮について尋ねる設問9は4.73、相談の機会についての設問12は4.64という高い結果となっている。来年度以降に向けての改善点としては、第1クォーターの開講ということもあり、就職活動を行っている受講生は欠席が多くなってしまったが、一度ならば取り戻しがきくが、二度三度の欠席となると、後半はついていくのが前半に比べ難しくなる。その点について、何らかの工夫が必要な可能性があると考える。

経営学部 経営学科
姜　秉国　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス・シミュレーション
授業コード　42D11-001
教員名　姜　秉国
教員コード　019547
登録人数　23
回答数　17
回答率　73.9%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は「不確定な要素を含む問題のシミュレーションシートが作成できるようにし、小規模なビジネス問題のシミュレーションができるようにすること」であった。学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。評価項目②の「自主的な参加」、⑥の「授業到達目標に向けて力がついてきているか」、⑦の「教員の授業に取り組む姿勢」、⑬の「新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったか」に4.5以上の高い評価を得ている。

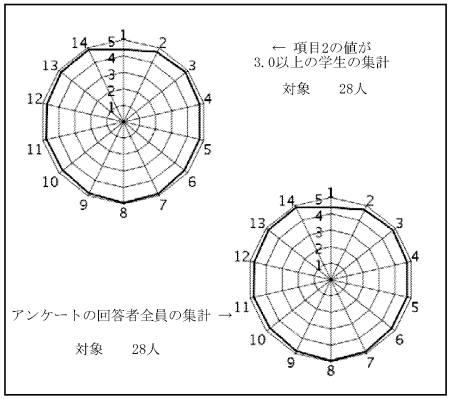
ただし、表計算ソフトの使い方に関して、生徒の習熟度のばらつきが大きい。中にはほぼ初めて表計算ソフトに触れるような生徒もいる。そのため、できるだけ講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていくことに努めている。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。

－Excelに慣れてない生徒にもゆっくり丁寧に対応してくれた。何度質問してもしっかり最後まで答えてくれた。
－実用的なスキルを身につけることができた。
－シミュレータのつくり方がなんとなく分かったので、今後自分で作って使ってみたい。
－課題が出るので、知識を整理することが出来た。

経営学部 経営学科
上野　正樹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営戦略論A
授業コード　42E13-001
教員名　上野　正樹
教員コード　101365
登録人数　33
回答数　28
回答率　84.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営戦略論Aは、サービス企業に関するビジネスケースをもとに、ディスカッションによって授業を進めた。登録人数33人、月曜4限と木曜4限、毎回の授業準備に1時間前後の予習を要求した。アンケートの回答者は28人、回答率84.8%である。設問1～14の平均値は4.77、設問3～14の平均値は4.81であった。

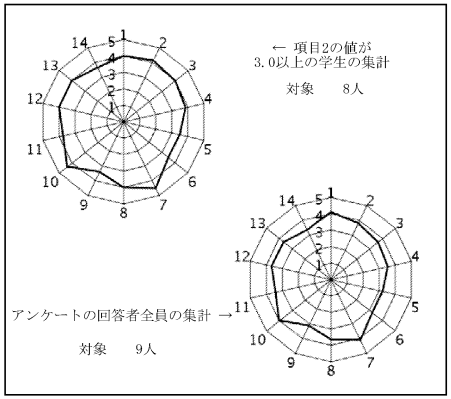
設問2「予習・復習、主体的な授業参加」の平均値は4.71、設問6「到達目標に向けて力がついてきている」は4.75、設問13「新しい知識の獲得、理解の深化」は4.82であった。論理的思考力の獲得という目標について、8割以上の学生は到達している。

自由回答には次の記述があった。楽しい・面白い（8人）、発言・ディスカッションができて良い（10人）、論理的思考の力がつく（2人）、難易度があがっていくのが良い（1人）である。また、ディスカッションの時間を増やして欲しい（1人）、教科書以外のケースもやってみたい（1人）、グループメンバーの入れ替えが頻繁なほうが良い（1人）という意見もあった。シラバスに論理的なディスカッションの意義を記述し、受講生を増やすようにする。

経営学部 経営学科
澤井　実　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(総合商社論)
授業コード　42F01-001
教員名　澤井　実
教員コード　103270
登録人数　51
回答数　9
回答率　17.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

総合商社の歴史と現状について理解し、21世紀に入ってからの日中経済関係のあり方が総合商社の業績を大きく規定する点を認識させることを目標とした。総合商社の現在の活動については理解が得られたものと思われるが、明治以来の三井物産の歴史、またなぜ日本においてのみ総合商社が成立したかについての理解がなかなか得られなかったように思われる。

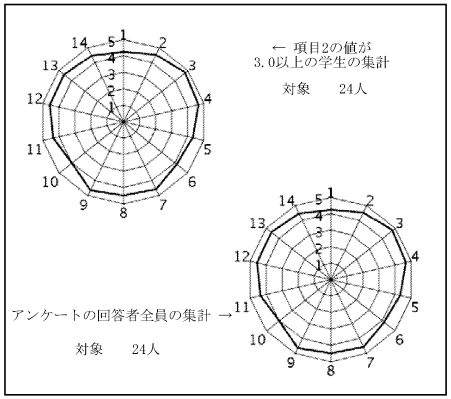
まず板書の汚さの指摘が多く、反省点の一つである。もう少し板書内容を厳選して、その内容を丁寧に板書するように心がけたい。ただし講義中にノートを取らない学生がいることが気になる。話を聞きながら要点をノートに取る能力をどうやって身につけさせるか、難しい課題であるが、工夫しなければならない。

次回以降もたんなる現状の解説ではなく、歴史を踏まえた講義を心がけたい。歴史的事象を理解するためには最低限の語彙と文法を身につけることが不可欠である。断片的な歴史事象ではなく、意味のある物語としての総合商社の歴史を語れるように改善していきたい。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　職業指導
授業コード　42F09-001
教員名　高田　一樹
教員コード　102887
登録人数　53
回答数　24
回答率　45.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本科目は経営学科科目であり、高等学校商業科の教職課程の必修科目でもある。将来、高校生を対象として職業指導を行うことを想定し、受講者が基礎的知見を修得することを講義の目標に掲げた。発達心理学分野で提唱されたキャリア論に加え、ビジネス、若者、女性など今日的なテーマを取りあげ、文献に基づき講義を行った。また、高校生向けのキャリア教育の導入教材を試技し、グループごとに意見交換や教材審査の機会も設けた。15回の講義計画を当初の予定通り実施できたと考えている。

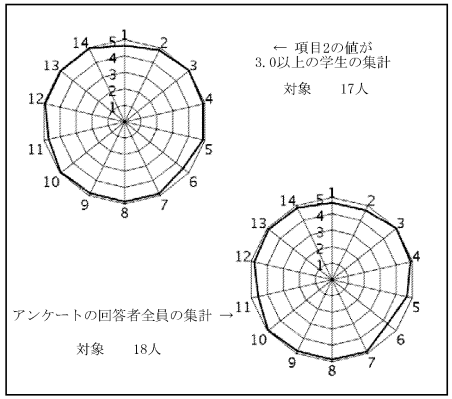
② すべての項目で4点以上の得点評価を受けた。学生の出席率も良好で、今期の講義に満足していると推察している。1つの要因として初回に講義概要を詳しく説明したため、興味を寄せる学生が比較的多く受講したためだと推測している。また講義に加え、対話型のグループワークを複数回設け、インタラクティブな授業を心がけたことも、肯定的な評価を受けたと考えている。

③ 本年度の履修者数は昨年比で倍増し、教職課程を履修しない学生が多数受講した。そのため自身のキャリア発達にも興味を持てるよう、取り上げる文献や話題に工夫を凝らした。所期の講義目標を適えるべく、次期以降も講義の準備に取り組みたい。ただ、「学生による授業評価」機会を授業中に2回、10分ほど時間を割いたにもかかわらず、回答率が履修者の半数にとどまった。次年度の教示法を改善したい。

経営学部 経営学科
BIERI, Thomas　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語ビジネス・ディスカッションA1
授業コード	42G10-001
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	22
回答数	18
回答率	81.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



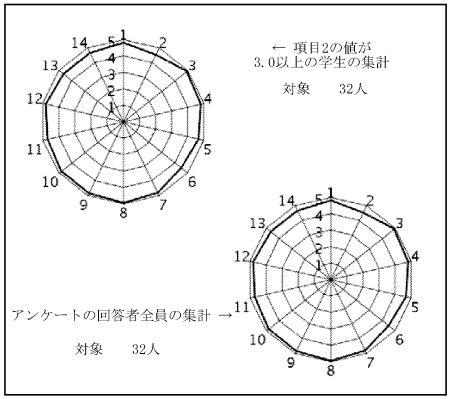
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Course objectives were met by all students who attended the course. Some deeper discussion and engagement by some students would have been desirable, but overall I was satisfied.
2. All scores were above departmental and school averages, and all evaluations of the instructor scored higher than 4.8. The lowest scores were primarily a result of one student who indicated they were not active in the course, and then gave very low ratings on the items related to their understanding, progress, and my provision of information (item 11). The latter is probably due to their lack of attention and engagement, since the majority of students rated that item as 5 and all the rest as 4. In contrast, a student who rated their initial interest in the course as a 1 then rated all but one other item either 4 or 5. The three student comments were all positive. They felt the active discussions with other students had improved their skills and deepened their understanding.
3. There were no negative comments or suggestions for improvement. However, I am always striving to improve the materials and evolve and adapt my own delivery in order to best suit each group of students I encounter.

経営学部 経営学科
HEATHER, James　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	TOEIC Preparation1
授業コード	42G14-001
教員名	HEATHER, James
教員コード	103649
登録人数	74
回答数	32
回答率	43.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning of the course were achieved. Each part of the TOEIC test was taught and in the final class we were able to complete the final exam.

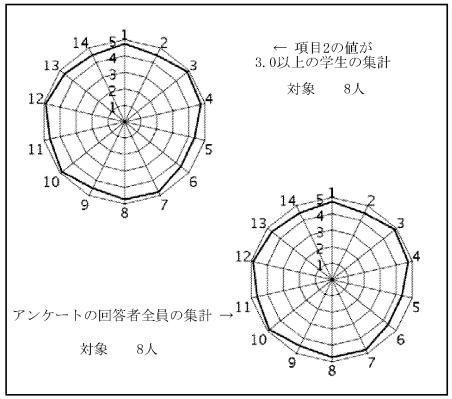
I am pleased with the overall comments from the students. One student wished she could do more practice questions in the class however as mentioned from the outset that is not the goal of the class. Students can easily practice questions in their own time. Links to websites that offer sample questions was given to students. As for the size of the classroom in relation to the number of students I could not agree more with the student who commented. Moreover the number of students enrolled for the course was too much (over 70 students!).

It is important to keep a low affective filter for this class. It can easily become boring so I am constantly trying to find new and fun ways to improve the course.

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	International Management A＜国際科目群＞
授業コード	42G17-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	8
回答数	8
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



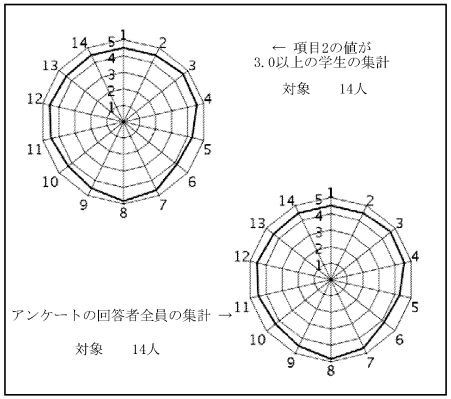
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in any multinational enterprise. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.08 and 4.15 for the courses in the band of 42001～42H04-999, the scores of this course were 4.75 and 4.50. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.57, 4.22, 3.97, 3.88, and 4.24 for all courses, the scores for this course were 4.88, 4.75, 4.38, 4.38, and 4.75. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.37, 4.17, 4.21, 4.03, and 4.22 for all courses, the scores of this course were 4.75, 4.50, 4.88, 4.63, and 4.88. Regarding “overall evaluation” (Q13 to Q14), compared with scores 4.17 and 4.05 for all courses, the scores of this course were 4.63 and 4.50. All these are higher than the averages. It appears that compared with the other courses in this band, the evaluation of this course was very high. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very positive comments. At this moment, it seems that the course contents and class delivering styles are very sound. I would like to introduce some new features in most of these areas in the coming year.

経営学部 経営学科
石垣　智徳　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ビジネスと消費者行動)
授業コード	42G25-001
教員名	石垣　智徳
教員コード	101889
登録人数	30
回答数	14
回答率	46.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定した目標は、消費者の行動に関する理論枠組みを用いて様々なマーケティング現象を解釈できるようになる、消費者行動とマーケティング・リサーチに関する英語専門用語の語彙を増やすである。前者の目標については演習（一部、宿題）によって、充分目標に到達できたと認識している。後者の目標についてもある程度は達成できたと思うが、学生からのリアクションから積極的に専門用語や語彙が増やせたような実感はない。

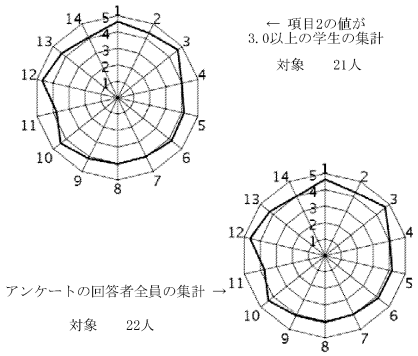
最高評価がQ6「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか（4.86）」であったが、最低評価がQ6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか（4.14）」であり、目標達成について学生も相対的に手ごたえを感じていないことが確認できた。

次クォーター以降に向けて、第2番目の到達目標が学生に認識してもらえるような授業構成ならびに教材の工夫などを考えている。しかし、現時点では具体的な内容があるわけではないため、今後の課題である。

経営学部 経営学科
白木　俊彦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　商業簿記中級I
授業コード　42H01-001
教員名　白木　俊彦
教員コード　101090
登録人数　30
回答数　22
回答率　73.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



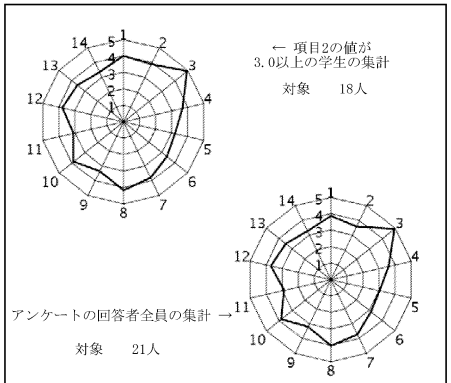
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、日本商工会議所主催の商業簿記検定試験2級程度の内容を理解することとしている。会計原理の内容を基礎として、さらに株式会社の会計処理の理解を深め、会計理論への関心を持つように講義及び演習形式で進めている。近年の、電子記録、クレジット、ソフトウエアなどの内容も取り入れ、学習すべき内容も多く複雑になっている。そのため、十分な演習時間をとることが難しかったことから、到達目標を達成できた学生は少なかった。授業評価では、質問、相談の機会が十分で、指導について高い評価であったが、十分な成果につながらなかったことは、原因分析が必要であると感じた。講義によって新たな知識、技術の習得はできたと感じた学生は多かったようであるが、他方で、講義の進行が速すぎたという記述も見られた。講義外の演習不足が感じられるので、課題を提供するなどの工夫はしなければならない。また、ワークブックの演習も、前回の講義運営と比較して少なかったので解説時間も配慮して、演習を多く取り入れていきたい。全般的に、授業評価は前回よりも高まったが、学習の意欲を引き出すこと、より積極的に授業参加させるような授業運営に関する評価が低いことから、対応していかなければならない。講義内容について関心がある学生が参加しており、講義を進める環境は良かったが、不得意な内容を理解しようとして参加する学生もいることにも今後配慮したい。

法学部 法律学科
西村　邦行　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済と人間の尊厳1
授業コード　10D04-001
教員名　西村　邦行
教員コード　104090
登録人数　57
回答数　21
回答率　36.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、次の三点を学生の到達目標としてシラバスに記載していた。
1. 日常的な道徳規範と集団の秩序とに様々な緊張関係があることを理解している。
2. 国際政治学の基本的な考え方を理解している。
3. 今日の国際社会における主要な争点について、その概要を理解している。
尊厳科目の趣旨からして特に重要なのは1だったが、アンケート結果を見る限り、その点が十分に伝わっていなかったように思われる。初回の授業でも説明はしていたが、最終的に受講生が1/5ほど入れ替わったことも影響している可能性があり、今後、進め方を検討したい。

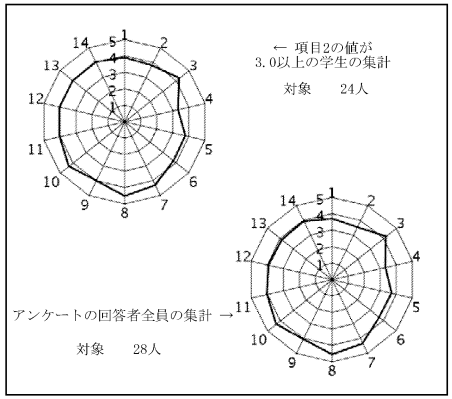
また、話す速度が速い、中心的な論点がわかりにくい、という記述が散見された。なるべくゆっくりと話し、重要な点は何度も繰り返していたつもりだったが、Q2でのリピート講義に向け、配布資料の見直しも含めて検討することとしたい。

なお、板書がわかりにくいとの記述が若干あった。この点は、懇切丁寧な板書が学生の聴く力やまとめる力を阻害しているように思われたため、かつて構造的に行っていた板書を敢えて解体した結果である。今回は少数だったため当面は様子を見たいが、義務教育レベルではパターナリズムが広まっている現状もあり、今後同様の意見が増加して内容理解が滞る問題の方が大きくなってくるようであれば見直すこととしたい。

法学部 法律学科
服部　寛　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法と人間の尊厳1
授業コード　10D05-001
教員名　服部　寛
教員コード　103600
登録人数　63
回答数　28
回答率　44.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



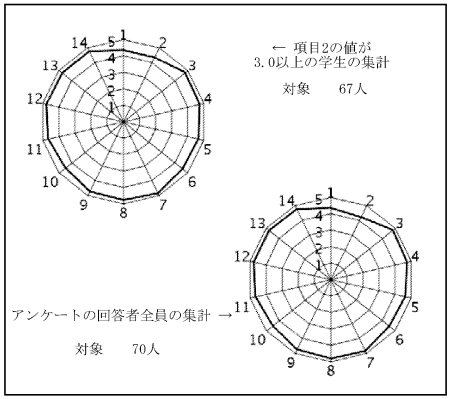
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度の同科目に比べて、平均の「数値」としては、だいぶ上がっていることにつき、授業内容をブラッシュアップし続けてきたことの一定の成果が現れたものと拝察している。もっとも、その背景的要因の一つとしては、アンケートの個々の設問において上昇した数値から読み取れることとして、おそらく、受講者の学生（とりわけ受講態度のよさ、例：静謐な環境の保持など）も関わってくるものと思われる。その他、スライドだけでなく、新聞記事やＨＰなど、豊富な資料をビジュアル的に提示できたことも、評価の改善に繋がったものと思われる。①目標・到達の程度としては、最終的には、「学習の到達目標」には達することができるように講義全般を計画立てているものの、シラバスに予定していた内容から徐々に遅延せざるを得ず、この点は、授業内容のうちどの箇所かを割愛するなどの工夫をはかる必要があるかもしれない。②総合的な自己点検：講義の「勘所」とでもいうべきところを徐々につかみつつある。他面で、授業で提供する情報量（の多さ）については、時間の制約、あるいは学生側からのニーズや理解力とのマッチングを適宜見ながら、ボリュームを適度にできるように改善したい。③としては、②で述べたところほか、講義の教室の環境、とりわけ、登録者ないし実際に出席する学生と、講義の教室の大きさとが適度にマッチしており、こちらとしても大変やりやすかったことを付言しておく。

法学部 法律学科
森山　花鈴　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳7
授業コード　10D06-007
教員名　森山　花鈴
教員コード　103223
登録人数　188
回答数　70
回答率　37.2%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



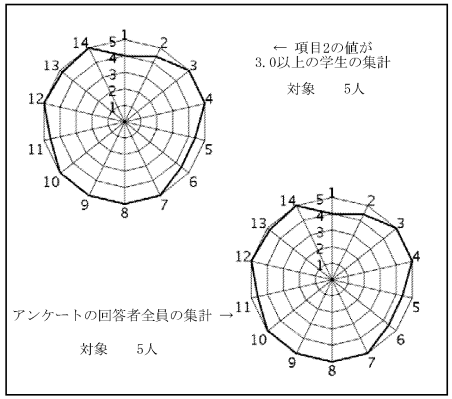
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標については到達していると考える。質問の内容や課題から見ても、普段から授業で取り扱うさまざまな問題に対して真摯に向き合ってきたことが感じ取れる。
②数値データでは、すべての設問において、大学全体の平均値、人間の尊厳科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができた。ただし、これは以前からの課題であるが、設問2の「予習・復習」の項目については、全体としてみるとやや低いため、注意していきたいと考える。自由記述欄では、オリジナル教材や映像教材も併用した点に対する評価もあがっており、「とても自分のためになる授業で、興味深いテーマだった」「板書が分かりやすい」「レジメが見やすいし、ためになった」との評価もあったので、今後も引き続きわかりやすい授業を心がけていきたいと思う。
③現在は、リアクションペーパーを用いて質問にも答えるようにしているが、これまで通り学生との双方向のやり取りを失わないようにしつ つ、次クォーター以降も真摯に取り組んでいきたいと考える。

法学部 法律学科
ALVA, Reginald Joaquim 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倫理学2
授業コード 12A09-002
教員名 ALVA, Reginald Joaquim
教員コード 102369
登録人数 6
回答数 5
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



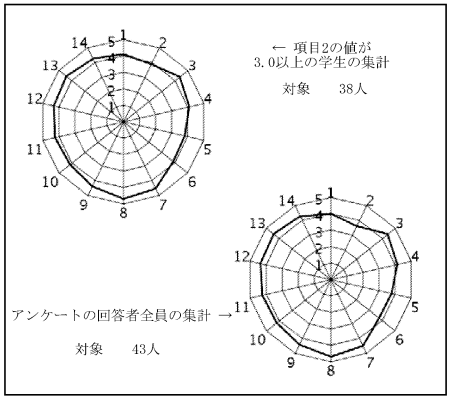
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全学部かつ全学年の学生が倫理学の授業を履修することが出来るので授業の内容を決めることはかなり難しいことでした。学生に自主的に倫理について考えてもらうために様々な工夫をしてみました。全ては上手く行ったと言えないですが学生の以下のコメントに書いてある通り効果があったと思います。
「先生の真摯な姿勢と非常にためになる講義内容です。」「とても宗教についてというと難しく胡散臭く感じてしまうものですがわかりやすく偏見なく受け入れることができました。」「 物語を具体例にして、そこから学べることを詳しく解説していただける。」「過不足ない時間で行われていた授業が素敵でした。」「 説明が詳細で分かり易かった点。」「 少人数だったので、周りの人との意見交換が行えてよかった。」
質疑応答のために毎回授業中に質問コーナーを設けました。それはとても効果的だったと思います。学生たちは気楽に教員とコミュニケーションをとることが出来たと思います。また、教員も学生たちの意見等に耳を傾けることが出来たと思います。これからも学生たちが良い教育を受けられるように努力をしたいと思います。

法学部 法律学科
菅原 真 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本国憲法1
授業コード 12C03-001
教員名 菅原 真
教員コード 102064
登録人数 49
回答数 43
回答率 87.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



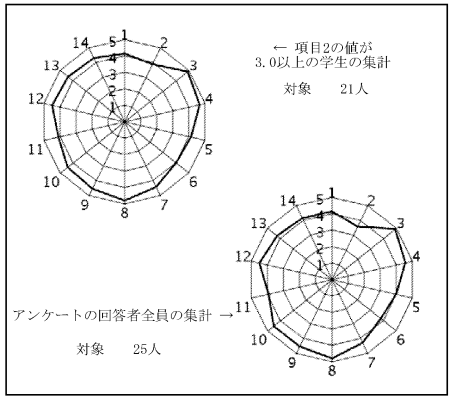
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、学生の授業に対する反応や定期試験の結果をみると、概ね達成したと考える。履修者は法学部以外の学生で、かつ1年生が多いため、毎回、授業について論点を明確にした上で、日本国憲法の理念とその運用について学んでもらった。事前にテキストでの予習を指示し、授業開始時には詳細なレジュメ・資料および設問用紙を配布し、そのレジュメに基づいてレクチャーを行い、特に過去の歴史的事件（判例等）と現在の新動向を比較しながら憲法の果たしている役割とその重要性を理解してもらえるように授業を展開した。学生の理解を促すために、厳選した映像資料を準備し、必要に応じて学生にマイクを向けて意見を表明してもらい、授業の最後に設問用紙に記入してもらい、授業の感想やわからなかった点を書いてもらった。
項目1～14の平均値が4.20、項目3～14の平均値が4.26だったので、まずまずの評価であると考える。個別意見を拝見すると、特に厳選した映像資料を見ることでレクチャーの内容が補足され、また時折学生にインタビューして意見を表明してもらい、さらに出された意見や質問に教員がフィードバックすることによって、授業内容の理解が進み、また授業に参加している意識が高まっているようである。
来年度以降も引き続き履修者の声を聞きながら、多くの履修学生が授業目標を達成できるよう努力していきたいと考える。

法学部 法律学科
三上　佳佑　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法3
授業コード	12C03-003
教員名	三上　佳佑
教員コード	103637
登録人数	55
回答数	25
回答率	45.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



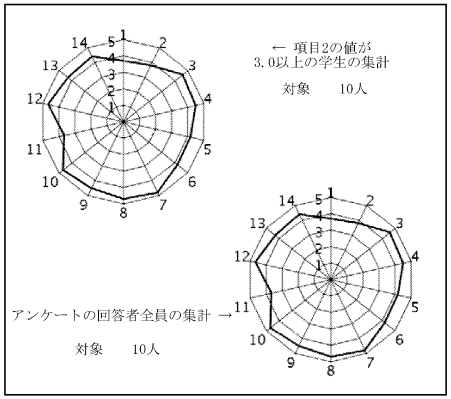
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標に対する到達の程度は、最低限の理解度を水準に取る限りでは、八割方達成されたとみてよい。ただし、前年度に比べると、講義で扱った基本概念・基礎知識に対する理解が疎かなまま、より発展的な自己見解の形成に走る受講者が目に付いた点で、問題はやや複雑であり、教員としては反省すべき点である。
②数値データおよび自由記述等を踏まえて自己点検すれば、自身の教学方針・方法はほぼ全面的に功を奏したとものと評価してよいと考える。講義内容の質・量の水準は法律学を専門としない多くの受講者にとってはやや厳しいものもあったかもしれないが、受講者の満足度自体はかなり高いものであり、自由記述欄等を見る限りでも、アクティブ・ラーニングを意識した講義手法は大いに功を奏したものとして評価できる。
③定期試験の結果から、学生が混同・誤解しやすい概念・論理が、概ね把握できたので、次クオーター以降の講義において、折に触れて受講者の注意を喚起することとしたい。また、自身の見解を論じるうえで、基本概念・基本判例など、講義で得られた知識を飽く迄も下敷とすることが重要であるという点に関しても、今後の教学において強調していきたいと考える。

法学部 法律学科
沢登　文治　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	憲法C
授業コード	44A07-001
教員名	沢登　文治
教員コード	017863
登録人数	32
回答数	10
回答率	31.3%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



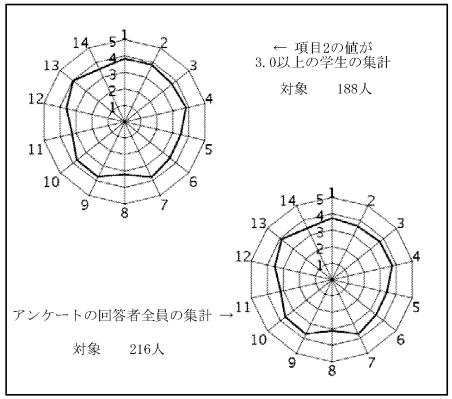
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達度については、後述のようにある程度の達成度と思われる。
②2年次生以上を対象にした授業で、受講生も30人強と少人数で、かつ回答が10人であったことから、数値に依存することに若干の抵抗はあるが、以下の通りである。(2)「予習や復習、主体的に授業に参加」は、予習・復習が大切である旨、また課題を示している旨話したが3.80と低い。予復習の程度で理解度が全く変わるから一層の働きかけをする。(5)「授業の到達目標を理解すること」が4.20と低いのは統治機構という、中学生から勉強してある程度知っていることで、改めて目標と言っても意識がないのかもしれない。しかし、到達目標を確認しながら授業を進めたい。また(11)「学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促す工夫」は、3.70と4.0に届かないので、さらに工夫したい。今回のレジュメでは、WebClassを用いて、最近の新聞記事やWebsiteを紹介し、レジュメから飛べるよう工夫したが、さらに効果的な方法を検討したい。(12)「質問や相談の機会」については、毎回時間を取っていたためか4.70と高かった。これも継続して時間を取っていきたい。自由記述の(15)に、丁寧に質問に答えた、との丁寧なコメントをもらった。(16)では、授業で話すスピードが速いとの指摘があった。特に難解用語は意識的に注意したい。

法学部 法律学科
副田　隆重　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民法総論A
授業コード　44A08-001
教員名　副田　隆重
教員コード　045880
登録人数　270
回答数　216
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

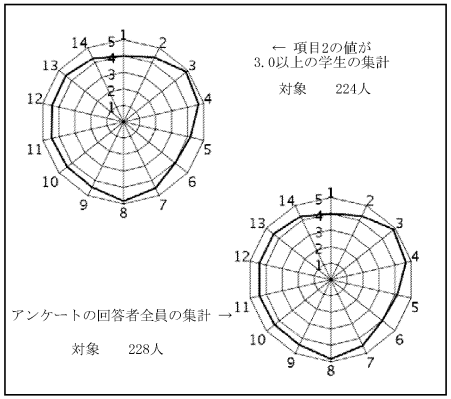
当初の目標としては、各項目について、少しでも改善・向上をめざしたいと考えていたが、新年度早々体調を崩したこともあり、昨年度の同じ科目と比較しても、数値が遺憾ながら下回ることとなった(全項目の平均値が昨年度の3.78から3.56へ)。目立って低評価であったのは、教員の声や音声機器が聞き取りにくいという点であった。例年、改善を求める個別の意見としてしばしば指摘を受けることでもあり、以後は注意を心掛けたい。そのほか、ホワイトボードへの板書の文字が小さい、読みにくい等の意見も少なくなかった。大きく太く書くように心掛けているが、書き初めはともかく、徐々に小さくなるようなので気を付けたい。

肯定的な意見としては、具体例や設例が多くてわかりやすかった、レジメを含めて、説明がわかりやすかった、授業の進行のスピードが適切なものであった点などが示された。今後は、よりわかりやすいレジメを準備し、わかりやすい内容の授業を進めていきたい。

法学部 法律学科
小原　将照　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　裁判法
授業コード　44A12-001
教員名　小原　将照
教員コード　102897
登録人数　242
回答数　228
回答率　94.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



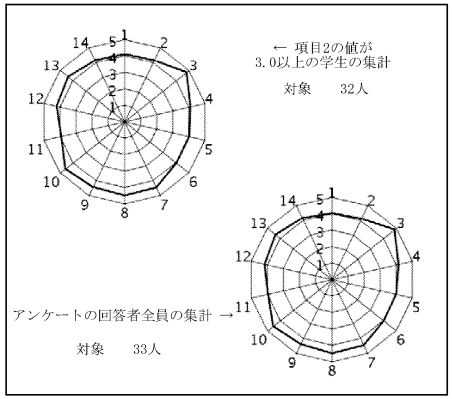
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度も例年と大きく変わりない評価と思えるが、目標到達度がやや下がった印象を受ける。そろそろ内容の見直しをすべきではないか、と思えるが、そのような教材研究の時間が無い。現状では、目標とその到達度は十分達成できていると思えるので、マイナーチェンジを繰り返すことでよりよい方向を目指そうと思う。
学生からの自由記載は、励ましを受けているが、一部検討の余地のある指摘もある。問題は、そのような指摘についてこちらでも理解しているが、より良い解決方法が見つからないことである。授業評価アンケートでは、意見の言いぱなしになりがちで、学生との積極的な意見交換ができないと思われる。より良い改善策は、教員1人の頭から生まれるものではないので、もう少し別の方法を大学全体で検討してほしい。
さて、次学期以降であるが、講義科目を担当していないのでしばらくインターバルがある。教材研究に充てるべきと言われるが、大学での研究をおろそかにするわけにはいかないため、そちらの方に傾注したい。したがって、改善については、Q単位、学期単位ではなく、年度単位にならざるを得ない。

法学部 法律学科
榊原　秀訓　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　行政救済法
授業コード　44B06-001
教員名　榊原　秀訓
教員コード　100548
登録人数　99
回答数　33
回答率　33.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



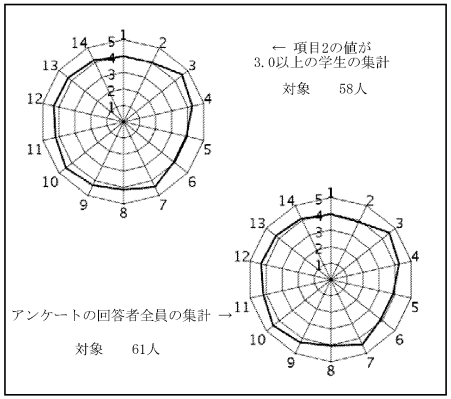
授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政救済法は、クォータ制が導入されてから昨年の第3Ｑに評価の対象となったが、開講時期が変わったため、その時と同じ学年の学生を対象に開講することになった。内容はやや異なるものの、かなり共通したものである。昨年と若干の比較を行う。履修登録者数は、今回の方が若干多いが、100名弱という点では同様で、回答数も33で昨年の33と同様であるが、履修者数と比較してかなり少ない。1項目を除いて4点台であり、昨年3点台であった、設問5「到達目標の理解」が3.87から4.00に、設問6「到達目標に向けて力がついた」が3.90から4.03になった。他方、設問11「学生の意欲を引き出したか」が3.87から3.97にとどまり、この項目が唯一の3点台として残っている。ただ、この三つの項目の点数が他の項目よりも低い状況は変わらないので、引き続き改善の努力をしたい。自由記述をみると、説明がわかり易いという意見が複数ある一方で、進行が早い、量が多い、内容が難しいという意見もあった。「基礎」に絞りつつ、全体をカバーし、新設した「応用」と差別化を図ったが、絞ったことを積極的に評価され、他方で、全体をカバーしているので、それが消極的評価になっているのかと考えた。しかし、以前の1科目2単位の行政救済法でも全体をカバーしており、今回よりもレジュメのボリュームは大きく、進行が早い、量が多い、内容が難しいと評価されても、それへの対応は簡単ではないと考えるが、「基礎」と「応用」で扱う範囲や内容を明確にしつつ、授業を行っていきたい。

法学部 法律学科
王　冷然　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　不法行為法
授業コード　44B19-001
教員名　王　冷然
教員コード　103577
登録人数　222
回答数　61
回答率　27.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

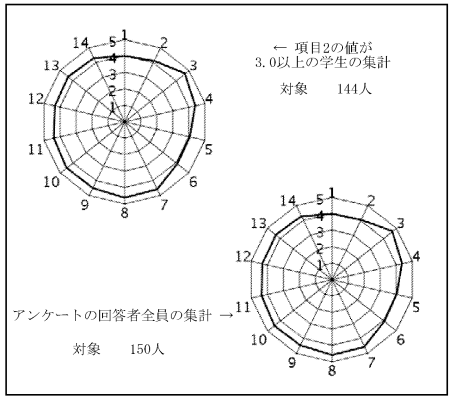
本講義は、民法典における債権各論の一部にあたる「不法行為法」を中心に、不法行為領域における基本的制度および不法行為責任の認定方法に関する基礎知識を解説するとともに、民法の他の領域や実社会の実例等とも有機的に関連づけながら、当該領域における諸制度の意義や問題点をも検討することによって、学生たちに不法行為法に関する基本的な知識を理解してもらい、具体的な法律問題について、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を身につけてもらうことを目標としています。講義期間中に出した練習問題の解答状況からみますと、当初に設定した目標はほぼ達成したと考えられます。

数値データや自由記述などの内容をみますと、講義の内容について学生たちから良い評価が得られています。たとえば、毎回の講義の構成や進行速度に関する質問や教員の授業に取り込む姿勢に関する質問などの平均値が高く、また自由記述でレジュメの内容や練習問題およびそれに関する解説などが良い点として挙げられています。ただ、講義内容の量や難しさに関連して、取捨選択して講義したほうがいいのではという意見がありました。ある程度の取捨選択をして講義を行いましたが、学生にとっては量的に多く、説明が足りないところがあるようです。来年度、同科目を担当することになった場合、講義の内容についてさらに吟味して授業を行うように努めます。

法学部 法律学科
渡邉　泰子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法A
授業コード	44B25-001
教員名	渡邉　泰子
教員コード	101553
登録人数	255
回答数	150
回答率	58.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



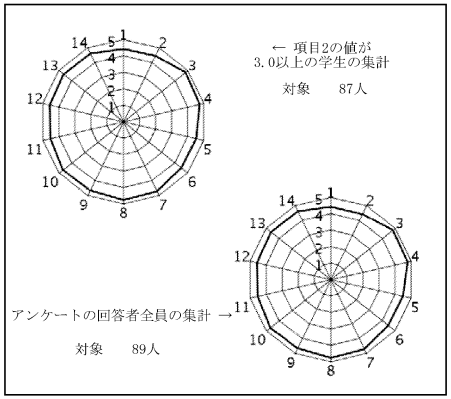
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、民事訴訟手続の基本構造を理解し、民事訴訟法に関する体系的な知識を得ることにある。今回の授業評価で、到達目標に関する設問5は4.04、設問6は4.07であり、多くの学生が目標に到達できたものと考えられる。授業評価項目全体の平均値は4.33（設問3～14は4.39）となっており、授業満足度に関する設問14は4.27であることから、おおむね良好であったと受け止めている。学生の主体的な学びができるように、予習用に比較的読み進めやすいテキストを指定し、次回学ぶ内容をあらかじめ読むよう促す一方、復習用にレジュメ末尾に掲載した問題を解かせることで学生に自らの理解度を認識できるようにし、次回授業のはじめにその解説をおこなうことを徹底した。この方法につき、自由記述の中で、手続の流れや繋がりを理解しやすかった等のコメントがあり、また、予習・復習に関連する項目2の平均値も4.02となっていることから、全体的に学生の学ぶ意識が高かったことがうかがえる。自由記述で改善すべき点として挙げられている声量や文字の大きさについては、マイクの音量調整、板書の説明や図を配布レジュメに落とし込むなどの方法で対処したい。自由記述で評価できる点として、レジュメの内容や授業での説明の仕方がわかりやすいという意見が複数あった。今後も、受講する学生が理解できたことを実感できる授業を心がけたい。

法学部 法律学科
緒方　桂子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	労働法A
授業コード	44B27-001
教員名	緒方　桂子
教員コード	103261
登録人数	436
回答数	89
回答率	20.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に予定していた進度で進めることができた。
②学生評価の自由記述欄をみると、「進度がちょうど良かった」というものと、「進度が遅い」というものがあったが、第１Q期末試験の採点結果をみるかぎり、現在の速度でも十分に理解できている者が多くないため、今後も進度を変えるつもりはない。

また、板書の方法については、現在の方法を採用し続けるつもりである。ただ、色マーカーを使った部分で色が見にくいところがあるとのことなので、別の色を採用するなどの方法をとりたい。

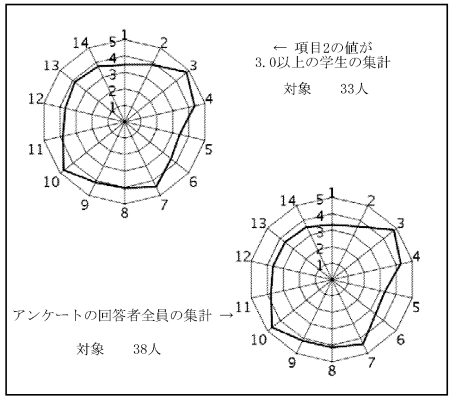
「レジュメのどこに書けばいいかを指示しろ」といった意見があったが、その意見を書いた学生は、おそらく、何について話をしているかが理解できていなかったのであろう。

以上の点について、第２Qに開講する「労働法B」の冒頭において、私の方からのコメントを述べ、必要な注意を促すつもりである。
③全体的には、私語もほとんどなく、また1限目と2限目の休み時間には質問等もあり、たいへん有意義に進めることができたと考えている。次期も同じように進めて行きたい。

法学部 法律学科
田中　実　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　西洋法史A
授業コード　44B35-001
教員名　田中　実
教員コード　017038
登録人数　163
回答数　38
回答率　23.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



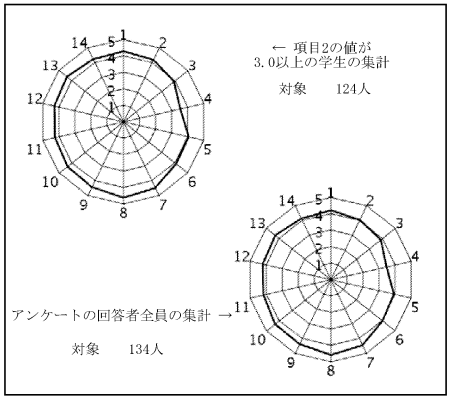
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定目標と到達の程度について、数値としては分かりづらいが、自由記述の肯定的なコメントには目標に対応するものが複数あった。もっとも、全体としては、項目1と項目5の回答の数値が低い。法学教育の中にあって、通常の法解釈学の科目ではないために、どのような位置づけの科目であり、とりわけ担当者がどのようなコンセプトで講義を行うのか、より丁寧な説明を心がけたいと考える。今回も、7の評価が相対的に高く、担当者としては嬉しい限りである。
とはいうものの、従来に比べても、全体としての満足度が低い数値であり、これもどのような位置づけの科目であるかの説明のみならず、様々な観点から、工夫改善を試みたいと考える。また答案結果の実情など鑑み、配布資料から説明を割愛した部分が年ごとに増えている。そのために、配布資料の順序を無視した解説となり、この点、自由記述欄にコメントで指摘を受けた。順序の変更や割愛を行うときは、時間をとってその意味を説明するように心がけたいと考える。

法学部 法律学科
水留　正流　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑法各論A
授業コード　44B90-001
教員名　水留　正流
教員コード　101566
登録人数　227
回答数　134
回答率　59.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



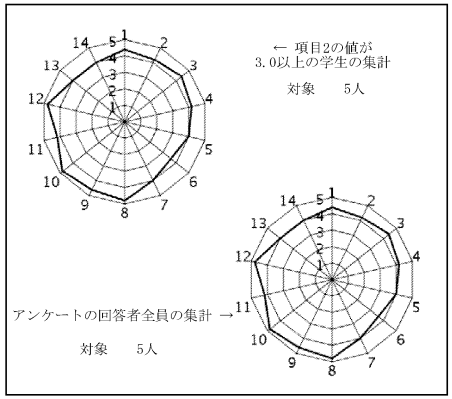
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．個人的法益に対する罪の成立要件を理解し、学生自らがその犯罪の成否を検討できるようになることが本講義の到達目標であった。
２．項目全体の平均は4点を超え、一定の評価を得たものと考える。また、アンケートの回収率が55.3%とかなり高い数字を得た。これは授業への参加度をある程度反映したものと考えられ、実際に出席率も高いまま推移していた印象であった。
　他方、大きな反省点としては、直前準備が遅れて授業開始が時間通りにならなかった点であり、これはアンケートにも現れた（設問4：3.47）。また、科目特性の問題でもあるが（一般的には4単位配当となる刑法各論の全体のうち、概ね2/3程度の部分だけを「刑法各論A」として切り分けている。）、授業内容を詰め込みすぎてわかりにくいという意見が自由記述で散見された。これとの関係で、レジュメが授業に比して詳細にすぎるとの意見もあった。
３．次回担当する際は以上の反省を生かしつつ、引き続き、学生がより興味を持てる授業を展開できるよう心がけたい。
また、1年次の刑法総論A・Bを担当する立場から今回の定期試験結果を見ると、刑法総論で学んできたことを刑法各論の論述に生かし切れていないさまが見受けられた。総論と各論が、本来は、犯罪の成否という同一の問題を扱うものであるという法律学のイロハについては、刑法総論の段階から学生が意識できるよう、授業を展開していきたい。

法学部 法律学科
佐藤　勤　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法学　/ Legal Studies
授業コード　48C13-001
教員名　佐藤　勤
教員コード　101599
登録人数　15
回答数　5
回答率　33.3%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、「株式会社の運営機構における各機関の役割、責任を理解することを目標とする」と設定している。法学を専攻しない学生に対してどの水準まで理解を求めるか、法律学の基本的事項を履修していないなかで、どの水準まで理解を求めるか、手探りな状況であった。しかし、株式会社は、現代社会において極めて重要な役割を果たしており、持続的な社会を形成していくうえでも、その理解は必要と考え、少なくとも株式会社の運営機構については、法学部生と同じ水準までの理解を求めることとした。

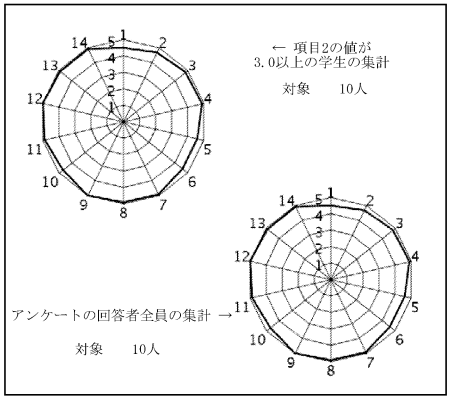
このような狙いで授業計画を立案し、実施した。受講生の中には、資格試験等の受験を計画している者など、意欲的な取り組みを行う学生とそれ以外の学生に分化し、前者の学生は授業中にも積極的に発言を行うとともに、定期試験も良い結果を得ていた。他方、後者の学生は、授業中における発言は消極的であったが、定期試験では一定の結果を出していたものと思われる。このことから、私自身としては、当初設定した目標は、達成できたものと思われる。ただし、設問６（力はついているか）は、3点をつける学生が40%いた（5点をつける学生も40%いる）。この点については、来年度の授業では改善したい。

来年度については、今年度行った授業内容を再検証し、よりよい授業を行うよう、改善に努めたい。

法学部 法律学科
野口　博史　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策外国文献講読I(英語)3
授業コード　70101-003
教員名　野口　博史
教員コード　100473
登録人数　22
回答数　10
回答率　45.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は政治学に関する英語文献を購読し、卒業論文などで引用する方法を修得することであった。本講義が2016年度以前に入学したものを対象とする科目であるため、本年度は４年次生以上が受講者であり、このため多くが就職活動中に受講することとなった。

このため、単位取得者が登録者23名中17名にとどまったが、単位取得者の大半が良好な成績をおさめた。このため、本講義の目標はおおむね達成できたと考えられる。

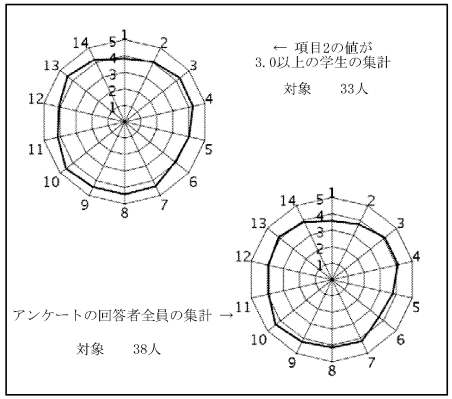
授業評価の数値データは昨年度における本科目のデータと基本的には類似しており、大きな問題はないと考えられる。回答件数が10件にとどまったため、自由記述欄への記載は１件のみであり、改善すべき点についての指摘はなかった。

これらのことから、今後、本科目の方針はおおむね昨年あるいは今年同様でよいと思われる。

総合政策学部 総合政策学科
井上　洋　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済と人間の尊厳6
授業コード　10D04-006
教員名　井上　洋
教員コード　100177
登録人数　93
回答数　38
回答率　40.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



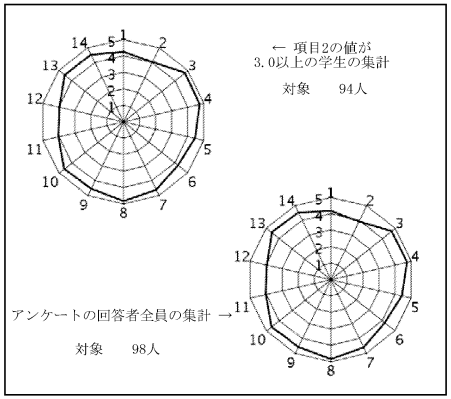
授業評価結果を踏まえた点検・評価

政治・経済と人間の尊厳の授業では、受講者が、尊厳とは何かを、尊厳を奪われている状況への講義や、まさに今尊厳を奪われた人の悲しみを、映像資料などを通じて見、感じ、考えることを意図して構成し、講義をしたつもりである。アンケートの数字はおしなべて4前後の数字なので、さほど悪くはなく、一見目的がそこそこ達成されたかに見える。しかし、毎回の受講生の受講態度や反応を見ていると、ただ単に必修科目であり、単位を取る必要があるからという以上の、切実な精神的あるいは知的欲求を感じることはなかった。サハラ砂漠にじょうろで水をまいているような感じである。ぶあついゼラチンで現実世界から自分を隔離している彼らに、その現実世界の叫びを届けることがどうしたらできるのか、いろいろ考えはするが、ため息しか出てこないのが実情である。それでも現実世界に目を向けるよういざないを続ける力業を息絶え絶えに行なっていくしかないとは考えている。

総合政策学部 総合政策学科
三輪　まどか　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法学A2
授業コード　12C01-002
教員名　三輪　まどか
教員コード　102263
登録人数　203
回答数　98
回答率　48.3%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標の達成については、自由記述欄を見ると、普通の生活に役立つことが学べた、身近なトラブルを解決できそうだといった感想が主であり、その目標は十分に達成できたと思われる。

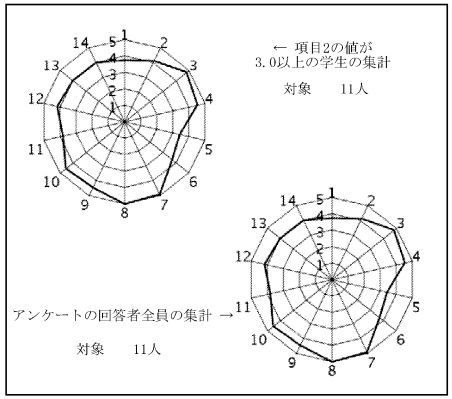
授業評価の数値データを見ると、全体の満足度（設問14）が4.54であり、設問3～14の平均も4.49と平均を上回り、履修生にとっても満足いくものだったと思われる。これはひとえに、教員の熱意を受け止め、真摯に授業に臨んでくれた学生のおかげと言える。この場をお借りして感謝したい。唯一設問12の項目の数値が低く、授業を早く終え、質問の時間を設けていたつもりであったが、今の学生に対しては、「質問がある学生はどうぞ」という言葉かけが必要であることも痛感させられた。

改善点について、教科書をなぞっているだけという内容のものがあった。しかしながら、この指摘について、教科書指定の意味や、単に教科書を読み上げるのではなく、図表化したものや端的にまとめたものを板書した上で、教科書の記述以外のことも解説していたことが全く伝わらなかったことが、大変残念である。また、法学部の学生で、この科目の単位が認定されないことをオリエンテーション時に伝えなかったことが不親切だという指摘もあった。指摘を受け、履修要項を確認したところ、確かに除外されており、このことは学部より科目担当者に伝えていただきたかった事項であったことも申し添えたい。

総合政策学部 総合政策学科
中島　靖次　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識の探求5
授業コード	13E03-005
教員名	中島　靖次
教員コード	000246
登録人数	14
回答数	11
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



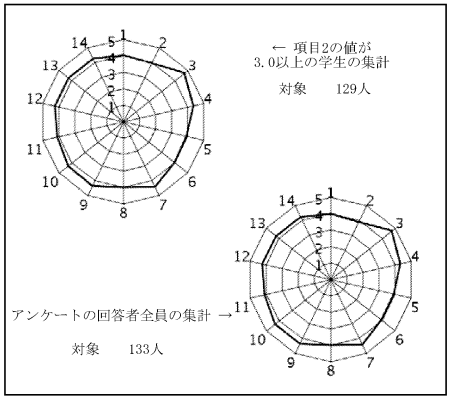
授業評価結果を踏まえた点検・評価

問５と６について、評定の4を下回った回答となったことは、反省すべきと考える。この授業はテキストをもとに進めているが、テキストが歴史的観点から、現代の知や科学の問題を扱うという方法を取っているために、現在の学生には、そもそも方法論がわかりにくいという前提があるように思われる。毎年、そのことは承知の上で、テキストに入る前に現代のどのような問題について考察を進めるかについて、あらかじめ問題の所在とその考察の方法（科学哲学史的）について、準備としての授業を2回ほど展開し、それからテキストに入るようにしていたが、今年度は、学生の人数も少ないということで、その都度、個々の学生に語りかけるようにすすめてしまい、テーマに対する授業全体の取り組み方の注意を喚起することがおろそかになっていたかもしれない。そのために、この授業の到達目標を明確にすることがおのずと難しくなってしまったと思われる。そのことと連動して、学習意欲がわきにくかったという問い11の評定についても、理解できるように思われる。人間の知の歴史が、いかに現代の知の問題につながっているか、この論点に集中して理解が進むよう授業の力点の置き方など見直し来年度に臨むことにしたい。

総合政策学部 総合政策学科
POTTER, David M.　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際政治学A
授業コード	44B47-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	324
回答数	133
回答率	41.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

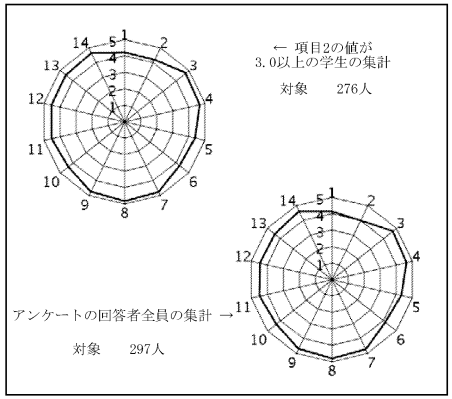
This is a survey course on international politics, the first part of a two-quarter course. It is given lecture-style in one of the largest classrooms on campus.
In general, the response to the course was good. The students liked the use of powerpoint and the instructor's concern to convey the meaning of key points and so on. Given the large size of the classroom there were a few comments about ability to hear lectures and climate control in the room.

In future, I expect to teach the course as I have done but will 1) try to better pace powerpoint presentations so that students can record key information more easily; and 2) pay closer attention to microphone volume.

総合政策学部 総合政策学科
山田　望　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史と文明
授業コード	46B10-001
教員名	山田　望
教員コード	000211
登録人数	375
回答数	297
回答率	79.2%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



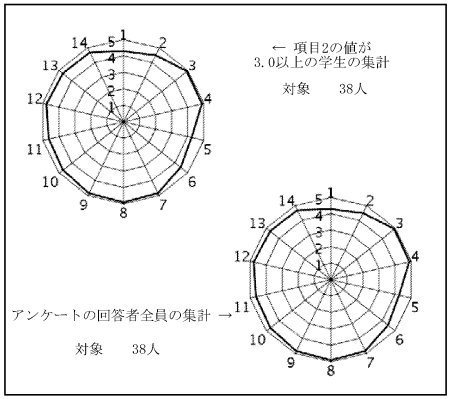
授業評価結果を踏まえた点検・評価

各設問に関する総合政策学科科目平均の数値と本科目の各設問の数値とを比較すると、全体としての満足度を問う設問１４の数値が、学科科目平均値を２ポイント上回っており、設問１３の新しい知識や理解を得られたかについても0.３ポイント上回っていたので、開講当初設定していた目標はほぼ達成できたと考えている。学科科目平均値を下回っていたのが、設問２の予習や復習を含め主体的に授業に参加し、内容を理解しようと努力したかと、設問１０の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して適切な対処がなされていたか、という問いであった。配布資料やパワーポイントを用意して学生の便宜を図ったことは、良い評価に繋がってはいたが、逆に、お膳立てをしすぎて学生が主体的に学ぶチャンスを奪ってしまう結果になっていたかもしれない。その点は今後の課題として反省し、いかにしたら、学生の主体的な学習を引き出せるか、考えていきたい。自由記述欄の記載内容から、分かりやすかった、映像が効果的だった、話が面白い、など肯定的な評価が多く、大変励まされた。反省すべき点としては、教室の冷房が効きすぎて寒かったとの指摘が数名の学生からあったので、空調のコントロールには気をつけたいと思う。

総合政策学部 総合政策学科
久村　恵子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数量的アプローチ2
授業コード	46E07-002
教員名	久村　恵子
教員コード	100026
登録人数	59
回答数	38
回答率	64.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、問題意識を数量的根拠に基づき検証し解決に繋げるまでのプロセスと手法を理解することである。質問紙調査の計画や遵守すべきマナーの理解、質問紙の作成、統計パッケージソフト（SPSS）の使い方と出力結果の解釈、報告書の作成技法を習得するため、講義形式と演習形式を組み合わせた授業運営を行っている。

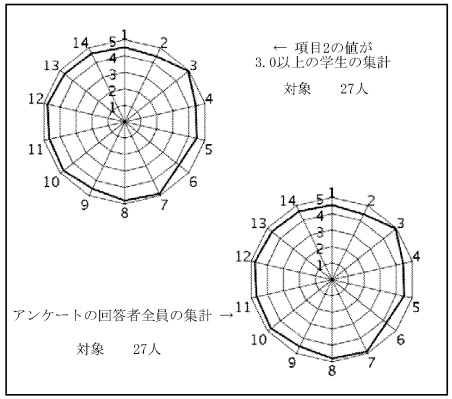
今回の結果では、設問3～14の平均値は4.71（昨年度4.59）であり、授業運営および全体として肯定的な評価が得られた。自由記述欄でも「いつも難しいことを簡単に分かりやすく説明してくれた」、「学生の理解度に合わせ、細やかに説明してくれた」といったコメントが寄せられた。さらに、「到達目標に向けての力」に関する設問6では4.45、「新しい知識の習得・理解」に関する設問13では4.68であり、自由記述欄でも「卒論作成や就職後にも活かせる」、「力がついた」といったコメントが寄せられていることから、今年度も到達目標をほぼ達成できたと言えよう。

また、「主体的な学習」の設問2では、前年度比で平均値が僅かに増加（+.05）した。この点はWebClassでの講義資料の公開とその使用方法の指導、「課題が多すぎる」というコメントはあったが、トピック単位の課題と各自へのフィードバックにより、学生たちの自主的な学習の促進に繋がっていると判断できよう。しかし、ここ数年、履修学生の間でのPCスキルの差が広がっているようにも見受けられ、この点については、継続して授業運営やTAのサポートの在り方を含め検討し、次年度の授業で改善を図っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
O’CONNELL, Sean　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策英語I1
授業コード　46F01-001
教員名　O’CONNELL, Sean
教員コード　100448
登録人数　34
回答数　27
回答率　79.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

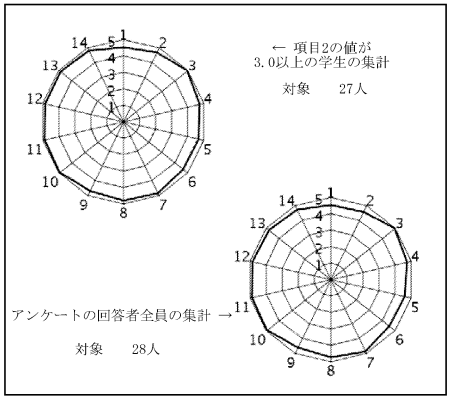
This course aimed to give students opportunities to further deepen their knowledge of policy related topics through the medium of English. This was the advanced-level class and was chosen as one of the NU-COIL basic/academic type classes. As such, for the first half of the quarter, we collaborated with a Japanese-language class at the University of Maryland Baltimore County. The students were highly motivated and capable.

The collaboration involved creating and presenting on topics related to environmental policy in Japan. The Nanzan students conducted their presentations in English and the UMBC students did theirs in Japanese. Video presentations were shared via YouTube and the students gave their feedback on the partner university presentations via a written feedback sheet. Overall, the students was satisfied with the class design and activities as shown by their evaluation (4.62 average) and comments. However, more time will be given for preparation and reflection in the future.

総合政策学部 総合政策学科
CROKER, Robert　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策英語I4
授業コード　46F01-004
教員名　CROKER, Robert
教員コード　100082
登録人数　36
回答数　28
回答率　77.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



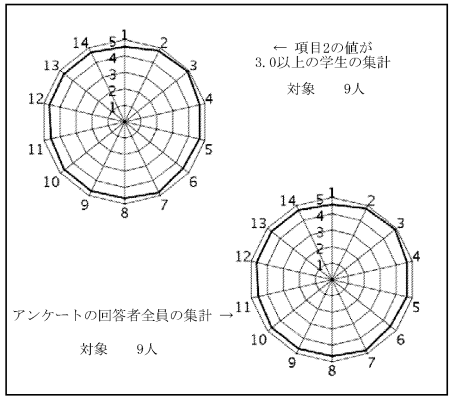
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring basic topics such as family, education, health, and gender. The students chose which country they wanted to focus upon, and each week researched about that country. In the first week, students read a book about the country; in the second, they compared their country to another country. From the third class, each week a different sociological theme was explored: education, food and health, changing family structures, life course, and gender. In the final class, each student gave a 5~7 minute presentation to a small group about the country that they had researched about. The results of the student feedback were quite positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. Few students wrote comments; one student wrote that student that the goals were clearly stated and achieved, another that completing the report each week was challenging and demanding, and another that learning how to read charts and graphs was motivating and useful. Informally chatting to students, I learned that they enjoyed being able to learn about one country that they had chosen, found the topics interesting, and enjoyed working with different partners each week, even though there were about 35 students in the class.

総合政策学部 総合政策学科
原田　直枝　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策中国語I1
授業コード　46F04-001
教員名　原田　直枝
教員コード　018754
登録人数　16
回答数　9
回答率　56.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



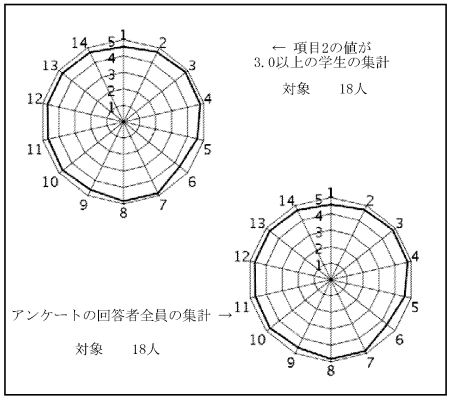
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「総合政策学的アプローチの視野を広め、政策実践、プロジェクト研究の成果を深めるための中国語運用力の養成」をめざして、Ⅰ～Ⅲと連続する科目のⅠである。特に、Ⅰ年次の共通教育・中国語で未到達の「時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する」ことを重視して、語彙・語法学習に力を入れたが、学生たちは意欲的に準備し、学び、習得している。
②上記①とも関連して、学生たちの自己評価に当たる項目1～3の数値は高い。一方、教員の授業運営に関連する項目4以下においては、私語等への対応に関する項目10の数値が、他科目での評価で概ね4.0を上回るかどうかのケースが多いのに対し、今回は標準を達成できたようで、ほっとしている。ただし、それも、学生の履修態度が終始真剣で、弛緩・怠慢がまったく見られなかったのに助けられたというのが実情である。学科科目として自ら中国語を選択していること、うまくなって力にしたい、という積極的履修であることがいい形で反映しているのではないか。
③後継科目のⅡ（Q3）、Ⅲ（Q4）での実力養成につながるような基礎作りの場となるよう、教材選択、授業構成について、もっと工夫できる余地はあるので、それを行なっていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
梁　暁虹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策中国語I2
授業コード　46F04-002
教員名　梁　暁虹
教員コード　045229
登録人数　18
回答数　18
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



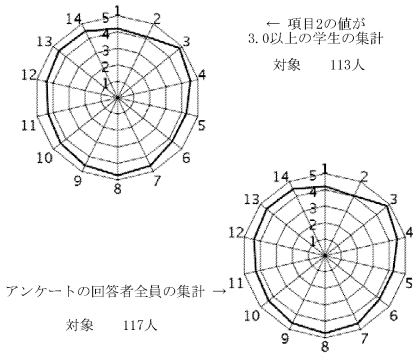
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.69、設問3～14の平均値は4.70、特に設問3、7、8はかなり高い点であり、学生の満足感をも窺えよう。学生の自由記述項目15では、「何度も、丁寧に説明してくれたところ」「授業が主体的にできほんとに良かったです。挙手制をこれからも取り入れてくれると嬉しいです。また中国のビデオが、とても毎回楽しみでした」、「毎回の課で、学習した内容に密接に関わる映像を用意していただき、それを見ることで文字だけのイメージよりも、よりつきました[よかったです]。中国の現状を知りながら、『知っておきたい中国事情』という教科書を用いて勉強したことで、とても力がついたと感じています。今まで受けてきた中国語の中でも最高のクラスでした。Q4が今から楽しみですし、Q1の残りの授業も楽しみです。学びが楽しいと感じられる工夫がたくさん見られるとても良い授業でした」等の評価があった。項目16「この授業の改善すべき点」の所では、特にありませんでした。

総合政策学部 総合政策学科
金綱　基志　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代企業論
授業コード　46K03-001
教員名　金綱　基志
教員コード　102923
登録人数　212
回答数　117
回答率　55.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



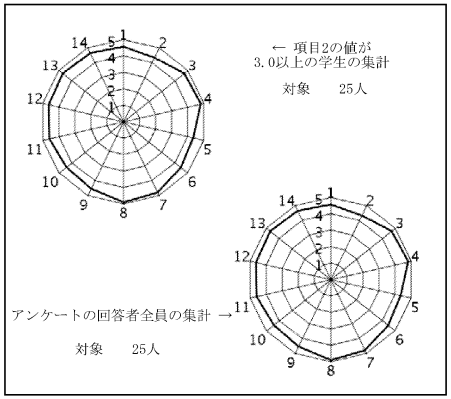
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3から項目14の平均、総合的な評価を示す項目14について、いずれも総合政策学科の平均を上回っている。また受講数別の講義の平均と比較しても評価は上回っている。PPTのスライドや多くの事例を紹介しながらの授業の分かりやすさが評価されたものと考える。また、Exerciseを取り入れて学生に考える時間を設けて、それを発表させる機会を作っていることも効果的であると考えている。ただし、こうした講義形式は、一部の学生には不人気であり、自由記述欄で不満を述べていた学生もいた。大教室の講義で、双方向的な講義形式を取り入れることの難しさということであると考えている。講義内容は、毎年事例を追加するなどの工夫を行い、時代に沿った講義ができるように努めている。企業のウェブサイトの動画を流すなどの工夫をしてほしいとの要望があり、今後講義で使える企業紹介の動画を探すなど、そうした講義が可能かどうかを検討していきたいと考えている。

総合政策学部 総合政策学科
水落　正明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　労働経済論
授業コード　46K04-001
教員名　水落　正明
教員コード　102745
登録人数　35
回答数　25
回答率　71.4%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



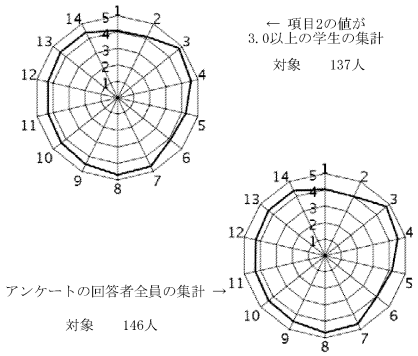
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、経済学の分析枠組みで労働市場に生じている問題（失業や賃金格差など）を、理論的考察と実際のデータ観察を通して理解することであった。評価から判断して、概ね授業の目標を達成したと考える。総合的な満足度（設問14）については4.64と、総合政策学科の平均4.40を上回っており、良好な結果であると考える。教科書をベースに、就職活動に関連するトピックや最近の実際の労働市場で何が起こっているのかの新聞記事等を織り交ぜた内容にした結果、学生の興味を引くことができたと推察され、今後ともこうした内容を充実させていきたい。各項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、下回った項目は1つのみで、ほとんどの項目で良好な結果を得ることができた。下回った項目は、設問10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたか。」であった。今回は履修者数が少なく私語などまったく問題にならなかったため、対処がなかったという評価になったのだと考える。自由記述の感想を見ると、実際の経済の動きに関する紹介や考察が良かったようである。やや字が見にくいという意見もあり、丁寧に板書するべきかという反省もある。

総合政策学部 総合政策学科
石川　良文　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境行政論
授業コード　46M02-001
教員名　石川　良文
教員コード　100650
登録人数　282
回答数　146
回答率　51.8%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



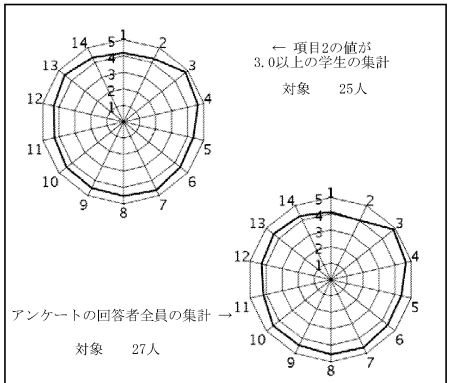
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　開講当初は、予習復習含め主体的に授業に参加してもらうよう、webclassを多用するなど双方向の授業運営を行ったが、設問２は3.97と大学平均を下回った。300人規模の大規模授業での主体的参加については課題である。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　設問項目１４の全体としての授業満足度は4.36と大学平均を上回ったが、過年度より平均点が下がったように思う。例年より授業準備に時間を割いたが残念な結果であった。また、設問9についても大学平均をやや下回り4.47だったが、これも授業準備を十分行ったつもりだっただけに残念である。その他、設問10の私語等の適切な対処も大学平均を下回り4.37だった。大教室にしてはかなり静かだったので私語で叱ることはなかったが、教員の聞こえない範囲で私語が多かったのかもしれない。設問12てもあまり評価は高くなかったので、質問や相談の時間を今後は取ろうと思う。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回評点はそれほど高くなかったが、項目３から１４の平均は4.42と大学平均をほとんどの項目で上回っており大きな問題はないと考える。私語についてはもう少し注意した方がいいと思うため改善する。

総合政策学部 総合政策学科
前田　洋枝　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境社会学
授業コード　46M03-001
教員名　前田　洋枝
教員コード　102264
登録人数　52
回答数　27
回答率　51.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



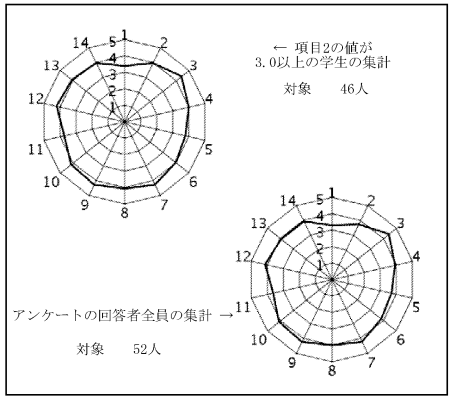
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全ての質問項目とも平均点が４点以上であり、肯定的な評価を得ることができたと考えている。この授業の到達目標の理解（質問項目５）、この授業の到達目標の理解にむけた力がついてきているか（質問項目６）とも、平均値は４．４１であり、学生の自己評価としては、この科目の内容の理解はかなりできていたといえる。自由記述においては、この授業の良かった点、評価できる点として「コメントシートを添削して返却してくれることで学習内容のフィードバックにつながった」という意見があった。成績評価の一部として実施したコメント課題は、多くの回は授業内容に関連したテーマについて自由に意見を書いてもらうものである。ただし、一部の回で実施した授業内容理解に基づいた練習問題的な課題では、学生の回答内容に、正誤と間違いの場合はどこがどのように違っていたのか朱書きして次のコメント課題実施回で返却していた。練習問題的な課題を実施した回の次の授業時には、比較的多い誤答パターンを全体で解説もしているが、個別のフィードバックがあることで各学生が自分のこととして理解を深めることに役立ったと考えられる。できるだけ続けていきたい。担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができた（質問項目７）に対して4.59と比較的高い評価にもつながったと考える。なお、改善すべき点の自由記述において、マイクの使用方法に関する指摘があったため、今後、気をつけたいと考える。

総合政策学部 総合政策学科
森　徹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地方財政論
授業コード　46N07-001
教員名　森　徹
教員コード　101861
登録人数　216
回答数　52
回答率　24.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



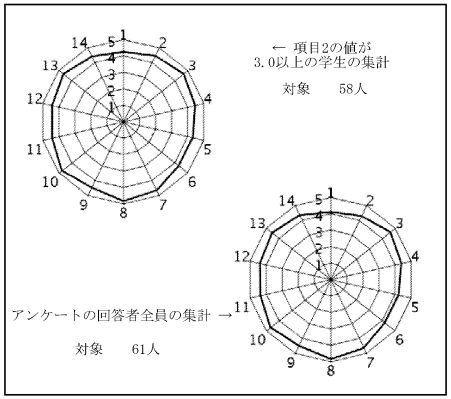
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義では、当初に予定していた講義内容の全てをカバーすることができ、定期試験や講義期間中に行った理解度テストの成績も良好であった。こうした点から見て、当初に掲げた日本の地方財政の意義や課題の理解、改革の方向を考察する能力の養成という到達目標は、かなりの程度達成できたのではないかと考えている。
②講義の方法や教師の取り組み姿勢等に関する設問事項３～14の評価の平均値は４を超えており、本講義に対する学生の評価は、比較的高いと受けとめている。中でも、教員の授業への熱意や真剣さ、学生の理解度への配慮に関して平均4.21と高評価を得たことは、担当者として喜ばしい結果である。反面、学生の学習意欲の喚起に関する評価が3.65にとどまったことは、今後の授業方法の改善に向けた留意点である。
③今後においては、講義内容の精査とコンパクト化を通じた分かりやすい授業内容の提示に一層努めるとともに、学生の授業参加度を高める方法を探っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
小尾　美千代　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際政治経済論
授業コード　46N09-001
教員名　小尾　美千代
教員コード　102453
登録人数　174
回答数　61
回答率　35.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、(1)経済を中心とする国際社会のグローバル化と国際政治との相互関係について理解すること、(2)国際金融、自由貿易、地域統合、気候変動の諸問題をめぐる国際政治について理解すること、の2点を目標としました。履修登録者174名のうち、回答者は61名で、そのうち「受講に際して主体的に授業参加をした」との質問項目２に関して3.0以上の評価をした学生は58名でした。

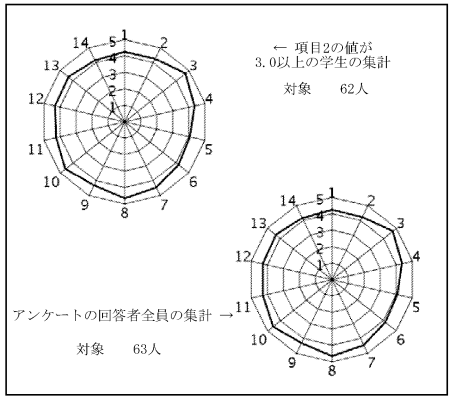
授業評価については、項目1～14の平均値は4.44（キャンパス全体の平均：4.32）であり、項目3～14の平均値は4.48（同4.36）でした。また、授業の到達目標に関する質問（項目6）では4.20（同4.04）、新しい知識や理解に関する質問（項目13）では4.54（同4.34）でした。今回の集計結果は、これまでの授業アンケート結果とは異なり、概ね大学全体の平均よりもやや上回っていました。

授業で利用したパワーポイントについては、情報量が多いとノートテイクが大変との指摘がこれまでに寄せられていましたので、あえて簡潔に留めました。あくまでも講義の補足資料として用意しているため、授業出席の代替にはなりにくいと思います。また、基本的に復習時の利用を想定していましたが、印刷の上、授業時に利用している人も見受けられたので、次回は早めにアップしたいと思います。なお、印刷は人によって必要性が異なり、資源保護の観点から、各自での対応にご協力をお願いします。

総合政策学部 総合政策学科
佐藤　創　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際開発論
授業コード　46N18-001
教員名　佐藤　創
教員コード　103882
登録人数　242
回答数　63
回答率　26.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



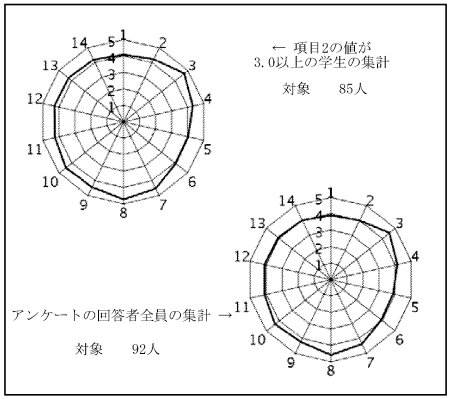
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケートの結果をみると、項目3から14の平均は4.36であり、開講主体別集計と同値であり、また241名以上の登録数授業の平均4.3を上回っており、おおむね達成できたと思われる。なお、回答数が63と250名あまりの登録数に比べて少なかった。授業をすべて終えた後に聞くべき質問項目が多いと考え、今回は、第15回授業まで終了した後でアンケートのアナウンスをしたためかと考えられる。今回は、パワーポイント資料の配布などいわば親切にしすぎて学生の自発性を低めている可能性があるという問題と、資料を事前配布しないと授業進度や学生の満足度が落ちるという問題を天秤にかけ、事前に「キーワードとトピック問題」をWebClassにアップし、パワーポイント資料は事後にまとめて配布する方法を試みた。また授業中にパワーポイントをすべて写す必要はなく、ポイントのみをメモする技術を身に着けるよう要所要所で説明した。この点、アンケート結果をみると対応できた学生が大半のようであるが、どのレベルに水準をあわせ、授業運営をすべきか悩ましいところである。200人を超えるようなマスプロ授業では、「当該授業の理解度」と「自発的な学びの促進」（そして「社会人としての教育」）のバランスの取れた方法をまだまだ模索せねばならないと考えている。Q2のマスプロ授業でまた別なアプローチを試みる予定である。

総合政策学部 総合政策学科
藤本　潔　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地球環境論
授業コード　46N20-001
教員名　藤本　潔
教員コード　100100
登録人数　310
回答数　92
回答率　29.7%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



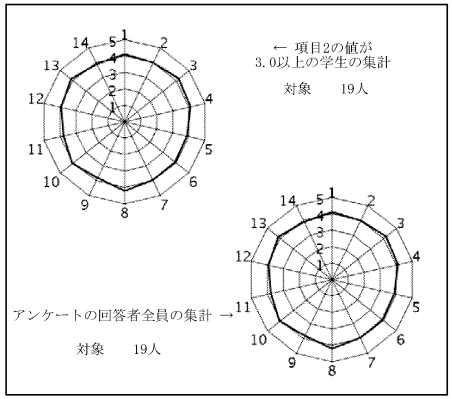
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の授業評価は昨年に引き続き5年連続で行われた。項目3～14の平均値は4.20で、昨年の4.35、一昨年の4.40に比べるとやや低かったが、300名を超えるマスプロ授業であったことを踏まえると、決して悪い値ではないものと評価できよう。
この授業は地球環境の仕組みと変動メカニズム、身近な気候や地形の成り立ちについて自然科学的に解説した上で、現在の地球環境がいかに危険な状況にあり、かつ自然災害に対して脆弱であるかを理解させることを目的としており、環境政策コースと国際政策コースの応用科目に位置づけられる科目である。自由記述欄を見ると、「生活に関わることを知れてよかった」、「地域特性の話が面白く、理解しやすかった」など肯定的な意見がある一方で、「聞き慣れない用語が多く難しい授業だった」、「興味がないので辛かった」などの意見もみられた。試験結果を見ると、不合格者は国際政策コースの学生が多いことから、改めて、自然環境に興味を持っていない学生にいかに興味を持たせるかのさらなる工夫が必要と感じた。

総合政策学部 総合政策学科
平岩　俊司　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域研究論
授業コード　46N22-001
教員名　平岩　俊司
教員コード　103613
登録人数　70
回答数　19
回答率　27.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



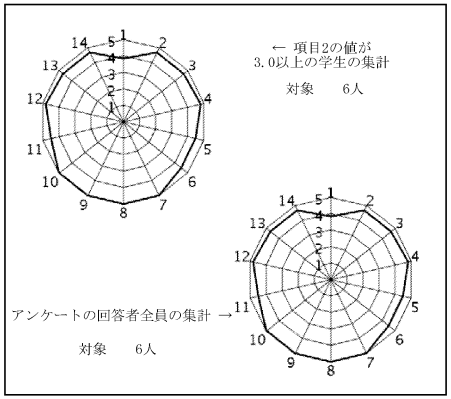
授業評価結果を踏まえた点検・評価

研究対象の森羅万象を検討する地域研究に政策学の視点を加えて朝鮮半島情勢を検討することを目標として講義をしたが、大枠については伝えられたが、詳細について伝えきれなかったことが反省される。朝鮮半島問題の性格、構造的要因などについては詳細に説明できたが、韓国、北朝鮮での時系列的な具体的史実について十分に説明することができなかった。構造的要因についての説明をコンパクトにして具体的史実についての説明を十分できるよう心がけたい。
今期は受講者数が少なかったこともあり、授業の運用は比較的やりやすかったと思う。大教室の場合、板書が見えにくいということもあってモニターを使用しながら講義をおこなったが、今期講義では比較的小さな教室だったこともありホワイトボードでの板書で対応した。そのためかえって見えにくいなどの意見があったので、今後ホワイトボード、モニターの使い方を検討する必要があると感じた。
大教室、大人数の場合は難しいが、今期程度の受講者数の場合には、学生のお反応を見ながら臨機応変に講義を進めることができるのではないかと感じられたので、今後その方法などを検討したい。

総合政策学部 総合政策学科
山田　哲也　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策外国文献講読I(英語)2
授業コード　70101-002
教員名　山田　哲也
教員コード　100839
登録人数　10
回答数　6
回答率　60.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



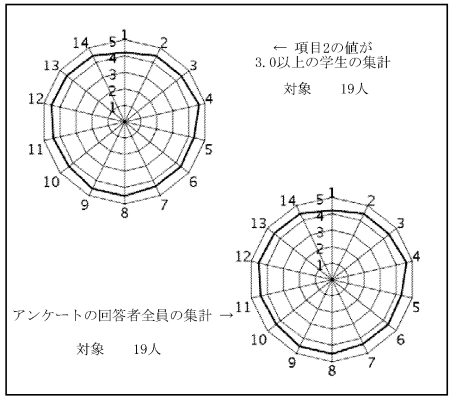
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①受講者が少なかったため、当初、予定していた分量の文章について、全員の訳文をチェックする時間が確保でき、誰がどこで躓いているかを把握できた。また、その結果として、英文読解に関する学生の進歩を実感することができた。
②数値データから見る限り、学生も同様の感想を抱いたものと推察される。使用した教材は、国際法に関する（古典的）教科書の一節で、「国際社会の組織化史」を扱ったものであったが、講義においては、英文の読解法だけでなく、「国際社会の組織化史」そのものの説明も加えた（英文の背景にある事情や理論など）こともあって、その点を好意的に評価した学生がいたことは担当者として嬉しい限りである。ただし、予習・復習には相当の時間を要したものと思われる。
③本科目は、旧カリキュラムの開講科目のため、来年度以降、恐らく担当しない（または一切開講しない）可能性が高いが、少人数のクラスで開講することの重要性を改めて理解する契機となった。

理工学部 システム数理学科
鈴木　敦夫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報を読む5
授業コード　13E07-005
教員名　鈴木　敦夫
教員コード　016469
登録人数　48
回答数　19
回答率　39.6%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



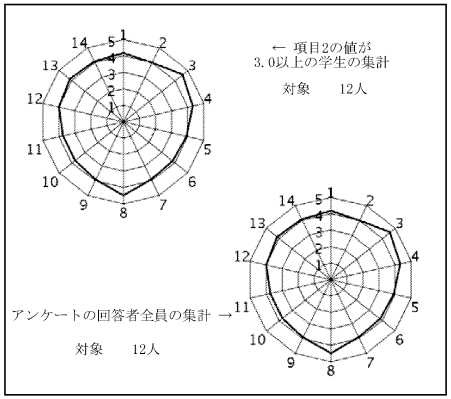
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．開講当初に設定していた目標と到達の程度について
アンケートに回答した学生については，目標に到達していたと判断できる。ただし，回答率が低く（約40%），全体としては，レポートの内容で評価しなくてはならない。現在までに採点したレポートについては，レポートの内容も，開講当初に設定していた目標にほとんどの学生が到達しているように見える。
２．数値データおよび自由記述欄を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検評価
共通教育科目ということで，理工学部以外の学生でも，理解できるように，丁寧に説明をしたことが学生にとっては良い方向に働いたようである。講義をする側は，冗長に思われても我慢して，丁寧さを優先したのが良かったと思われる。
３．次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など
自由記述欄にレポートの課題が英語であったことの改善要求があったが，英語であっても，内容を理解できるように学生にはなってもらいたいので，これは継続したい。ただ，レポートの内容については，より丁寧に学生に説明するようにしたい。

理工学部 システム数理学科
小藤　俊幸　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学I および演習[SE]1
授業コード　50A03-002
教員名　小藤　俊幸
教員コード　101907
登録人数　34
回答数　12
回答率　35.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



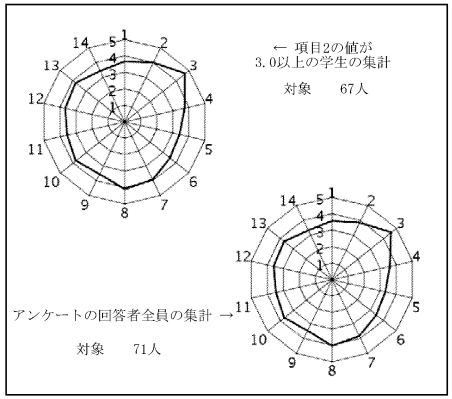
授業評価結果を踏まえた点検・評価

微積分学のうちの微分学を中心に、数学の基礎的な内容について学習する。主な内容は、集合、確率、論理、微分、速度、加速度、ニュートンの運動方程式、平均値の定理、関数の増減、ニュートン法である。授業と演習とからなり、授業は、おおむね１時間を講義に、残り３０分を学生自身が演習問題を解く時間にあてている。演習は、従来通り、演習問題を配付し、答案を回収し、採点TAに採点してもらい返却する形で行った。模範解答をWebClassに掲載したが、過去２年間に、多くの学生や同僚の先生から誤りを指摘してもらったお陰で、「訂正」を掲載することは、ほとんどなくなった。ようやく授業スタイルが固まったように思われる。ただし、今年、入学した学生の中には、かなり学力が低い学生も見受けられ、特に、演習の指導には、苦労させられた。名城大学や中部大学などの近隣の私立大学では、高校数学の復習を中心としたリメディアル教育を行っており、本学でも、そうしたリメディアル教育の導入について、検討に入らなければいけない時期に来ているのではないかと思われる。なお、現在、第２クォーターの「微積分学II」の内容と合わせた教科書「考える力をつけるための微積分教科書」を執筆中である。

理工学部 システム数理学科
松田　眞一　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学III
授業コード　50A10-001
教員名　松田　眞一
教員コード　017566
登録人数　126
回答数　71
回答率　56.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標
　本授業の目的は微積分学I,IIを引き継ぎ微積分学のより高度な学習をすることである。Webclassで14回の課題を出し、授業内の演習時間と時間外学習で取り組んでもらっている。

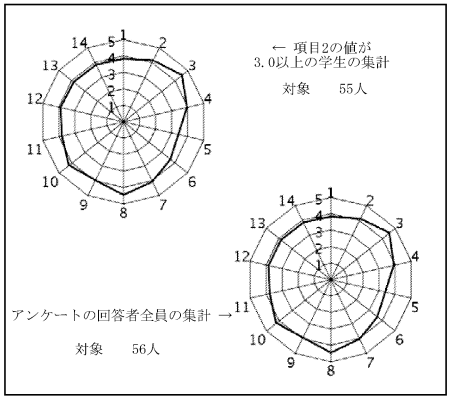
・目標達成度
　単位を修得できた学生は8割後半であった。昨年度より少しだけ問題を難しくしたが、ほぼ適切な感じになったと言える。

・授業評価
　本年度も何度も授業内で時間を取り授業評価を促したにも関わらず回答率は昨年の62%から54%に落ちた。回答率と授業評価には関連があるためそのまま数字を使っても授業改善は行えない。今回は第2問が4以上の学生の傾向と全体との比較を行うことで注意すべき設問を選定した。（チャートでは3以上ですでに表示が得られているが、3以上だと9割5分の学生が該当し設問を選定するのに適切ではないと判断した。）
　4以上の学生がどの設問も平均は上がっていたが、その上がり方が小さいのは設問9と設問11であった。（設問3も小さかったがこれは十分高いため除外した。）設問9は昨年より数値が改善されており、分布もふた山ではなくなったので着実に改善が進んでいると考え、引き続き資料の見直しを図っていきたい。設問11についても昨年より数値は改善している。数学がどこに応用できるかという点について適宜紹介しているが、その点をさらに充実させたい。

理工学部 システム数理学科
阿部　俊弘　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学III
授業コード　50A10-002
教員名　阿部　俊弘
教員コード　103189
登録人数　124
回答数　56
回答率　45.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



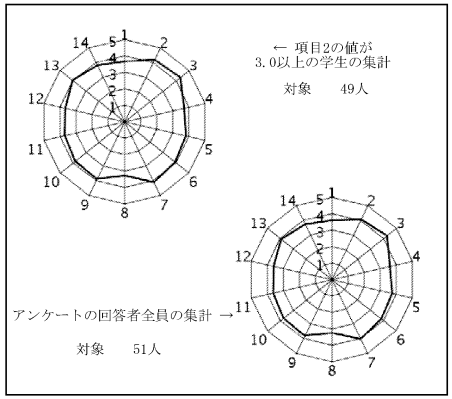
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本授業の目標
1. 微分方程式の応用を知っている。
2. 2変数の微分に関する基本的な計算ができる。
3. 2変数の微分の応用を知っている。
4. 2変数の積分に関する基本的な計算ができる。
はすべて達成された。
本授業では毎回の授業後に演習問題を設定しており、多くの学生が積極的に授業に参加していた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
期末試験の点数は全体的に良好であったが、簡単すぎる、という意見もあるように、高得点者が続出し、あまり差が出なかった印象がある。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：
スライドと板書を使い、学生にもおおむね好評だったので、来年度にはこれをさらに改良したものにしていく。
解答で別解をいくつか用意しながらやってみたところ、思ったよりも良い印象だったので、今後もこれを継続する。

理工学部 システム数理学科
福嶋　雅夫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　線形代数学III1
授業コード　50A11-001
教員名　福嶋　雅夫
教員コード　042820
登録人数　130
回答数　51
回答率　39.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



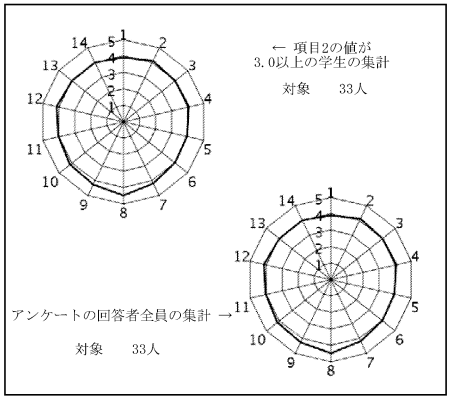
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は1年生に対して前年度のQ3に開講された「線形代数学Iおよび演習」とQ4に開講された「線形代数学IIおよび演習」に引き続き，2年生を対象として，将来専門科目を学ぶ際に必要となる線形代数学，特にベクトルや行列に関する基本的な性質や計算方法について説明している．「線形代数学Iおよび演習」と「線形代数学IIおよび演習」では，奇数解目の授業はもっぱら講義形式で行い，偶数回目の授業は演習形式で，奇数回目の授業で学習した内容に関連する問題をその時間内に実際に解かせていたが，「線形代数学III」ではところどころに空欄を配置した講義資料を配布し，空欄に適切な数式や言葉を埋める作業を行わせながら説明を行い，配布資料に基づいてひととおり説明を終えたあと，資料の最後に付けた演習問題を，別に配布した用紙に回答させ，ＴＡが採点したものを次回の講義で学生に返却した．授業で学習した内容に関連する問題をその時間内に実際に解いてみることは，内容の理解を深める意味で効果は大きいと考えられるが，「線形代数学Iおよび演習」や「線形代数学IIおよび演習」のように改めて演習の時間を設けていないので，学生自身が自主的に復習をすることが望まれる．講義では数学に対する学生の関心と習熟度にかなりばらつきがあることから，丁寧な説明を心がけることにより，学生の学習意欲を引き出すよう努めた．これは学生が自分の手を動かすことにより理解を深めるとともに，授業に対する集中力を保たせることを意図したものであり，学生の回答結果からも概ね目的を達成していると考えられる．ただ，多人数クラスということもあり，一部の学生による授業中の私語がみられ，しばしば注意せざるを得なかった．

理工学部 システム数理学科
小市　俊悟　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　線形代数学III2
授業コード　50A11-002
教員名　小市　俊悟
教員コード　101691
登録人数　137
回答数　33
回答率　24.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

クォーター制になってからも2回目の担当であるので、およそ計画通りに実施し、設定していた目標にも想定される程度に到達したものと考える。基礎理論的な内容になるので、形式的なところも多く、よくもわるくも淡々と進めるしかないところもあるが、毎回、授業の冒頭にその回のポイントを簡単に話し、学生の注意を喚起してから内容に入るようにしている。その効果があったとすれば幸いである。

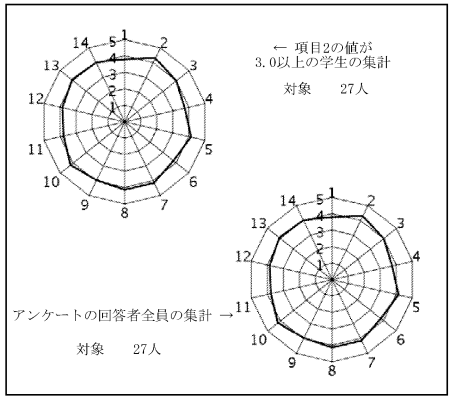
（複数回お願いしたが）回答数が33名と、受講生の4分の1程度なので、そのままが全体の評価にはならないと思うが、回答してくれた学生に関しては、良い評価をもらえたことは確かであろう。コメントも好評が多い。演習時間の短さや例題の少なさに対してやや不満があるようだが、問題を解けるようになることが目的ではなく、内容を理解することが本質的な目的であるので、演習のために説明時間を減らすことや、内容を理解していれば、すぐに解けるような例題に対して解答例を示すことは、学生の理解の妨げにむしろなると考えるので、大きく変更することはないであろう。「真面目に話を聞いていると演習時間がなくなり不利益を被る」というコメントもあったが、（その分、よく理解しているはずなので）そうではなかったと思える時が来ることを信じている。

来年度も担当するかは不確定であるが、担当する場合は、学生が自ら思考する機会をなるべく与えられるような授業内容・方法を考えたい。

理工学部 システム数理学科
佐々木　美裕　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　線形計画法
授業コード　51B03-001
教員名　佐々木　美裕
教員コード　019463
登録人数　264
回答数　27
回答率　10.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



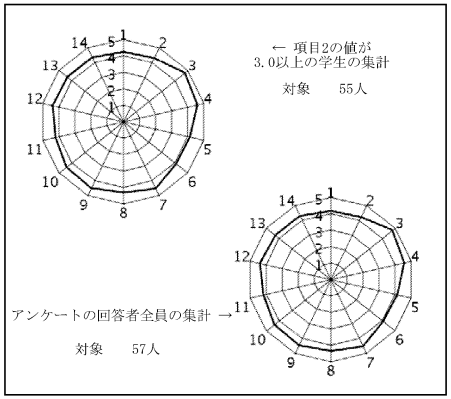
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業形式について周知徹底し、受講生が授業時間を有効に使い、集中して学習できる環境を作ることを目標とした。そのために、授業形式については、初回と第2回の授業開始直後に説明するだけでなく、「受講上の注意」として文書にまとめてWebClassで公開した。受講者が260名を超えており、大教室での授業であったため、板書したものを撮影することもやむを得ないと判断し、ゲームなどをしないという条件で授業中のスマホの使用もあえて許可した。ルールを守って真剣に授業に臨む学生が多く、昨年と比較すると、板書後の説明の時間になってようやくノートを取り始める学生は減少したと感じている。一方で、自由記述欄にも書かれている内容からも読み取れることであるが、授業開始直後の前回授業の復習時間や質問応対時間に対する理解が十分でない受講生も少なからずいたようである。来年度は、授業形式の理解と授業時間の有効活用についてさらに周知徹底し、1人でも多くの受講生に興味を持ってもらえる授業運営を心掛けたい。回答率が10%程度のため、集計結果から判断することは難しいが、どの項目も平均値が4.0程度であり、一定の評価はされていると判断している。

理工学部 システム数理学科
三浦　英俊　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　シミュレーション
授業コード　51B05-001
教員名　三浦　英俊
教員コード　102259
登録人数　250
回答数　57
回答率　22.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバス記載の到達目標
１．シミュレーションの基本（モンテカルロ法、乱数の使い方、等）を知っている。
２．シミュレーションを用いた問題解決の手順を理解している。
３．マルコフモデルについて理解している。
４．待ち行列モデルについて理解している。
について，おおむね目標に到達できた．

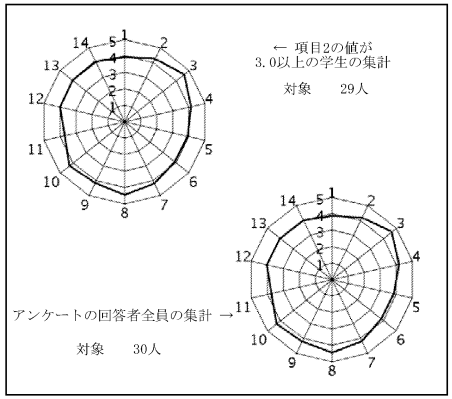
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今年は演習課題に力を入れて授業運営を行ったが，おおむね目的通りできた．
また，課題の出題と提出を全てウェブクラスで行った．これによって採点と採点の管理がかなり楽になった．
数理モデルとコンピュータシミュレーションの間のギャップの大きさに学生が戸惑うことがないように注意を払って授業を行った．これについてもおおむねうまくできたと思う．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
c言語の実行環境として，Linuxをはじめから想定しておくべきであったと反省している．
声が聞き取りにくいという自由意見があったので次からは改善したい．

理工学部 システム数理学科
白石　高章　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数理統計学
授業コード　51B06-001
教員名　白石　高章
教員コード　102104
登録人数　184
回答数　30
回答率　16.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



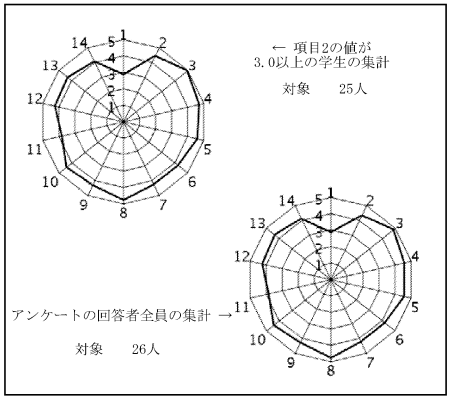
授業評価結果を踏まえた点検・評価

白石のテキストと講義ノートを使って講義した。テキストの特長は以下である。(1) 統計学の基礎となる事象，確率測度，確率変数の理解でつまずく学生も多い。確率の基礎は，論理の綺麗な部分である。しかしながら，論理が弱いと理解することが難しい。この理解を容易にするために，数理論理学(記号論理学)の初歩を説明することから始める。また，第2章2.1節の「数理論理と事象」は，高等学校の数学の教科書の項目「論理と集合」に対応している。高校時代曖昧であった論理が記号論理を介して明瞭に理解出来る。(2) 統計学の理論の構築に，微分積分学と行列の知識が頻繁に使われている。使われる直前に，高等学校数Ⅲからの微分積分学と行列の内容を説明する。(3) 通常の統計書は，各章の最後に演習問題をいれている。本書では，定義や定理の直後に，それに関係した難しくない演習問題を配置している。これにより，順を追って円滑に理解できるようにしている。(4) 現在高等学校の教科書で使われている記号と用語を出来る限りとりいれた。また，通常の数理統計学の教科書よりも行間を埋める必要がないように証明や解説を詳しくしている。以上目標通りに行った。
演習問題を時間内に解きたいとの自由欄に書いているが，当然家庭学習が必要である。学生の認識不足と思われる。学生にこの科目が役にたっているかの質問はおかしい。学生にこの判断させることは理解できない。

理工学部 ソフトウェア工学科
大月　英明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[E]6
授業コード　10C01-032
教員名　大月　英明
教員コード　047340
登録人数　30
回答数　26
回答率　86.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　グループディスカッションや e-learning を通して，概ね目標は達せられたと思われる．自由記述欄では，グループディスカッションが特に効果的であったと読み取れる．

②数値データおよび自由記述等を踏まえて
　1つの項目を除けば，4以上の平均値の評価である．設問11のみが4未満であるが，この設問は「学生の積極的授業参加や自主性」に対する設問である．この授業はもともと学生が主体的に学ぶ科目であるので，この設問に対する評価をさらに上げる方法というのはなかなか思いつかないところがある．
　自由記述欄では「作業の時間的区切りをつけて欲しい」という要望があった．前年度まで「区切りをつけると時間が無駄になる」という要望が散見されたので，今年度に関しては時間配分を各ディスカッショングループに任せたという経緯がある．どちらにしても不満を抱える学生はいるようなので，今後も様子を見て運営を考えていきたい．

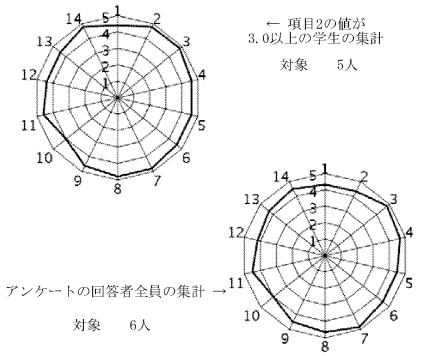
③次クォーター・学期以降に向けての改善点
　前年度までは授業評価の提出割合が低かったが，今回はかなり改善されたように思う．できるだけ多くの学生に評価をしてもらい，今後の授業運営の改善に役立てていきたい．

　この授業は，クラスに活発な雰囲気があると，最後まですべてのグループが意欲的に参加してくれるが，逆もまた真なりである．学部学科が同じであっても雰囲気が全く異なることもあり，どうすれば積極的な参加の雰囲気が作れるか，を今後の課題として模索していきたい．

理工学部 ソフトウェア工学科
佐々木　克巳　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数学科指導法
授業コード　15B79-001
教員名　佐々木　克巳
教員コード　018051
登録人数　41
回答数　6
回答率　14.6%
休講回数　0 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【授業目標】2つの目標，すなわち，「学習指導要領に示された教科「数学」の目標や内容を理解する」，「基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける」を挙げた．第2の目標においては「指導上の留意点」，「統合的・発展的に考察すること」，「学習評価」，「情報機器の活用」を扱い，とくに，「統合的・発展的に考察すること」の理解を深めることに重点をおいた．
【目標達成度】授業展開は，学生の理解度等に柔軟に対応したが，予定の最終目標には概ね到達できたと考える．また，2コマ連続であることを利用して，演習の時間を有効利用できたと考える．授業評価の数値からも，設問3～14の平均が4.50で，自由記述欄にんも肯定的な意見が1件あり，概ね目標は達成されたと考える．ただし、登録者数42に対し回答数6だったことは留意しなければならない。
【今後の方針】2019年度は，新課程の内容での最初の授業であった．今年度の経験を踏まえ，本学の学生により適切な授業展開を考えたい．具体的には，扱う内容を整理して，各週の内容をより関連付けること，2コマ連続の各コマの内容をより連続性を活かした形にすることを考えたい．

理工学部 ソフトウェア工学科
沢田　篤史　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報科指導法A
授業コード　15B84-001
教員名　沢田　篤史
教員コード　101413
登録人数　9
回答数　4
回答率　44.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

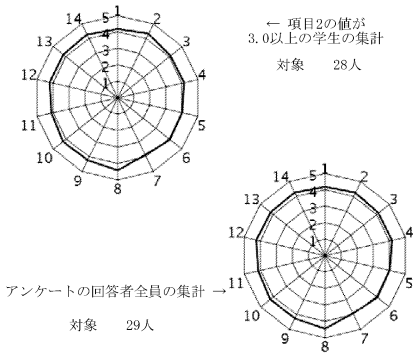
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は，教職課程の履修者向けである．教科「情報」の指導要領を理解し，特定の教科書に基づいて，学習指導案の作成ができるようになることを目的として行った．
主に履修生の自主的な学習と実践を促す方法で，座学的な講義は最小限にとどめ，毎回課題を出題し，それについての取組み結果を一部の学生を指名し，次回の授業で発表させる形式で行った．
履修者数９名に対し，回答者数が半数以下の４名であったことについては残念に感じている．最後の授業時間において回答時間を設けたが，協力を得られなかった．今後は，より「しつこく」回答を呼びかけるようにしたい．
自由記述にも何も記載がなかった点も残念である．
回答された数値からは，おおむね良好な反応であったと評価している．理工学部向けの設問では，「学習指導案の作成」についての理解度を問うたが，この点に関してはおおむね授業目標は達成できたと考えている．
この授業に続き，学生らは「情報科指導法B」を履修する．シラバスによると，その授業で実際に模擬授業を行う予定である．この授業で得た知識が，「情報化指導法B」やそれに続く教育実習で活かされることを期待している．

理工学部 ソフトウェア工学科
野呂　昌満　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　プログラミング言語[S]
授業コード　52B03-001
教員名　野呂　昌満
教員コード　016477
登録人数　254
回答数　29
回答率　11.4%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度
当初は簡単なコンパイラを作ることを可能にする技術と知識を教えることを目標とした。
まだ成績をつけていないが、課題の出来等から判断するに、A以上の判定ができる学生については目標が達成できたと推測できる。

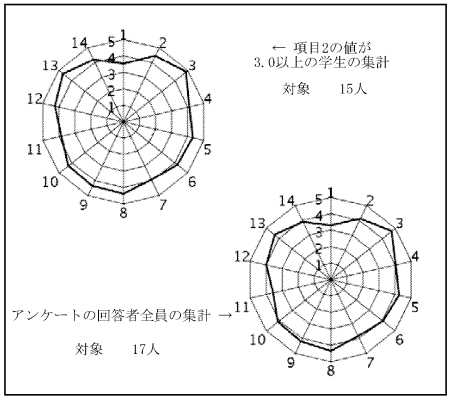
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえて...
かなり専門性の高い学科科目であるにも関わらず平均が4.18設問13および14がそれぞれ4.21および4.24であったことは「難しいことを分かりやすく講義する」ことができたと考える。

3. 次クォーターに向けて...
設問20の設定が不十分であった。成績として半数程度以上はA以上にはならないであろうと予測できる。
前者は忘れないようにしたい。後者はさらに資料等を充実させて次回に臨みたい。

理工学部 機械電子制御工学科
杉原　桂太　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[E]4
授業コード　10C01-030
教員名　杉原　桂太
教員コード　101115
登録人数　30
回答数　17
回答率　56.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

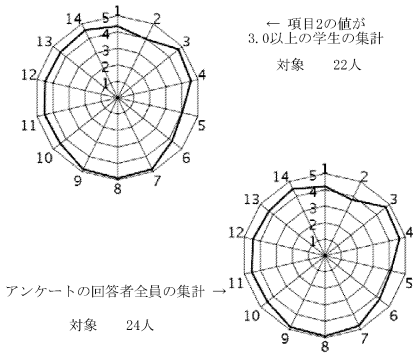
この授業は，「アクティブラーニング」を採用し，「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった．そのため，そのような授業が問題なく展開し，受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった．設問項目（1-14）では概して4点台の評価が得られたが，以下の設問項目の評価は3点台であった．設問1（3.29）から，受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる．設問7（3.82）から，授業の進行についての肩肘の張らない担当者の発言を受講者が真剣味に欠けた姿勢と受け取ることがあることが分かった．設問11（3.59）より，学生が授業の内容についての情報提供を求めていることが分かる．設問14（3.88）から，受講者の満足度を高める方策を検討する必要があることが分かった．なお，設問19は3.88，設問20は2.94であった．自由記述からは，設問15について，「身近な情報に関する問題について理解できた点」などの評価がある一方で，設問16では，「話しがよく脱線すること」という記述があった．設問16については，授業の進行において，授業内容に関する事項を肩肘の張らない仕方によって提示したつもりであったが，そのことを受講者に明示しなければ，受講者は講義に関連しない話題，として受け取ることがあることが伺われた．

以上を踏まえ，諸所の改善点が必要であることが分かる．さらに，この科目では，「アクティブラーニング」，「反転授業」等を実施しているため，対面授業では，「アクティブラーニング」等について受講者の主体的・協力的姿勢をより引き出していく必要がある．次のクォーター以降のこの科目においても，「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい．学生による授業評価を含め，受講者からの指摘は，担当教員間でも共有したい．

理工学部 機械電子制御工学科
藤井　勝之　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報社会の構造2
授業コード　13E06-002
教員名　藤井　勝之
教員コード　101244
登録人数　36
回答数　24
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



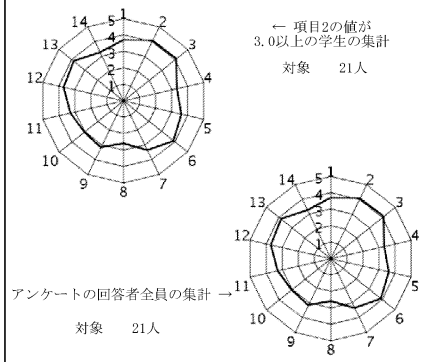
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初に設定していた目標はシラバスの通り，受講生が技術的な知識を持たないことを前提として，情報社会の発展の歴史，インターネットの基礎知識，情報社会の特徴や問題点，ディジタルとアナログの違い，ハードウェアとソフトウェア，コンピュータの内部構造などについて知識を得てもらえるよう講義することであった．設問項目13と14の結果から，平均値はそれぞれ4.33，4.50と多くの受講生に内容を満足してもらえたのではないかと考える．また，毎回講義の感想や質問，意見などをリアクションペーパーとして提出してもらい，講義の開始時に全ての内容の回答を行ったことも受講生の満足度を上げたのではないかと考える．自由記述欄の内容も「スライド・教材・先生の説明がとても分かりやすかった」など肯定的な内容が多かった．改善すべき点として「スクリーンが少し見えにくい」という記述があったが，前のほうの席はたくさん空いており，見えづらかったら前に移動して構わないと講義では伝えている．今後の課題として，当科目は一般教養を扱うため，当方自身も日々幅広く教養を身につけ，それを毎年の講義に反映させていきたいと思う．

理工学部 機械電子制御工学科
杉浦　洋　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学I および演習[SE]2
授業コード　50A03-005
教員名　杉浦　洋
教員コード　100769
登録人数　34
回答数　21
回答率　61.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定した授業目標
　週１回ずつ講義と演習を繰り返す講義形態である．
　講義についても毎回20～30分程度の演習を行う．それに伴い講義時間が減少するため，項目を厳選し講義する．また，講義内容をA4版2ページにまとめたプリントを配布する．発展的な内容に関しては資料をweb公開する．
　演習については，基礎的な問題に加え，実践的な問題を比較的多く取り上げることにより，微積分の応用力を養うと共に，専門教科に対する関心を高めるよう配慮した．

・実践状況（目標達成度）
　講義，演習とも，毎回レポートを提出させ，次週には採点したものを授業冒頭で返却した．理解の不十分と判断した問題は次の講義で解説した．授業は教科書の基幹的な内容にとどめた．レポート課題となった問題の解答を授業後webで公開した．全体的に，実践的な授業内容となった．

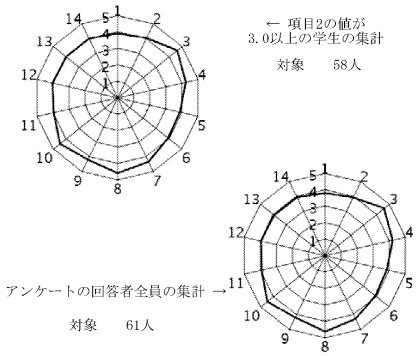
・授業評価
　授業中の私語も少なく，毎回数件ある『私語を制止しろ』とのコメントがなかった．とはいえ，学期後半では私語が増えてきた．こちらも注意するが，学生も「勉強するぞ」という覚悟で授業に出ていただきたい．
　演習は小教室で行い，マイクは使わなかったが，解説が聞き取りにくいという苦情があった．

・改善点抱負方針
　演習では，学生の自主性になるべく委ね，しかも，適切なヒントを提示する必要を感じた．板書をうまく使ってゆきたい．

理工学部 機械電子制御工学科
大石　泰章　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　物理学基礎2
授業コード　50A13-002
教員名　大石　泰章
教員コード　101405
登録人数　122
回答数　61
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

〇当初の目標と到達の程度
　当初計画していた内容はすべて講義できた．高校レベルの内容から始めて，大学らしい進んだ内容まで，無理なく構成できていると考える．

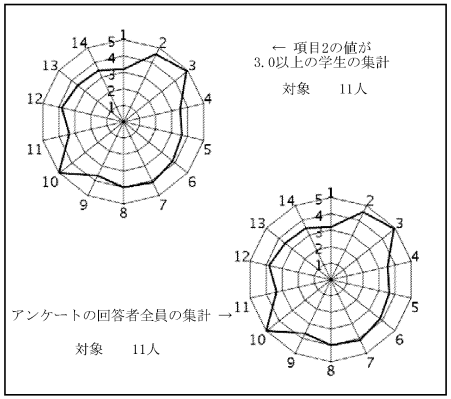
〇数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価
　数値評価は，全項目で４点前後もしくはそれ以上であるので，数理的な内容の授業としては悪くないと考える．
　評価できる点（設問15）には，「説明がわかりやすい（５件）」「問題を解く時間があるのがよかった（４件）」「板書が見やすい（４件）」「初歩的な内容から始めるのがよかった（２件）」などとあり，学生のニーズに合った授業ができていると考える．
　改善すべき点（設問16）には，「もっと練習問題がほしい（３件）」とあった．演習書を指定しているので，それを活用してほしい．「簡単な内容の説明を減らして，難しい内容の説明に時間を割いてほしい」との意見もあったが，上記のように初歩的な内容から始めてほしいという人もいるので，全員の希望に合わせることは難しいと思う．「写真撮影を許してほしい（２件）」との意見もあったが，決して写真撮影を禁じているわけではない．写真を撮って安心して，勉強しないことが多いので，それよりノートを取りなさいと言っているだけである．

〇今後の改善点，抱負，方針など
　時間の余裕がなくて難しいのだが，意欲的な学生のために，もっと進んだ内容を増やせないか検討したい．

理工学部 機械電子制御工学科
陳　幹　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　制御理論I
授業コード　53B04-001
教員名　陳　幹
教員コード　100770
登録人数　22
回答数　11
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



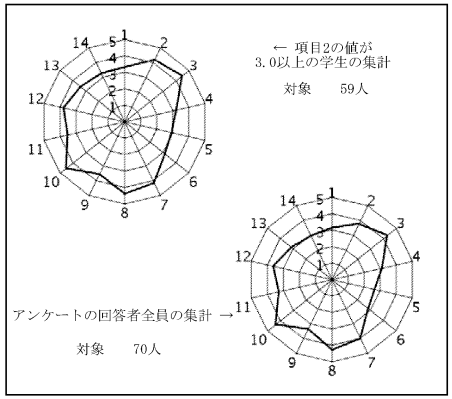
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標に対する説明は講義内ですべて行えた。しかし、学生の準備が十分でないため、こちらが説明した内容は、たぶん正しく伝わっていない。受講学生は web に掲載されている講義概要を読んでおらず、【授業時間外の学習】に明記した内容を復習していなかった。講義開始後も毎回の講義に対する復習をしていないことが発覚した。微分積分に対する正しい理解がない以上、この講義に対する正しい理解はなく、多くの学生は到達目標を達成できていないと考える。
2. 学生は毎回の講義で課される課題に取り組むことをもって「予習復習を行った」と考えているようである(アンケート項目18)が、この講義の基礎となる微分積分に対する理解が浅く、砂上の楼閣のようである。アンケート項目19,20,21の低さがそれを示している。基礎ができていない者になにかを教えることが困難であることを再確認した。
3. 講義開始時における準備状況が不十分である以上、講義初回の時点で講義についてくることはほぼ不可能だったと考えられる。次年度は、準備を行っていない学生がこの講義の内容を理解することはほぼ不可能であることを、講義初回に説明したい。

国際教養学部 国際教養学科
VOLPE, Angelina　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[G]
授業コード	10A51-019
教員名	VOLPE, Angelina
教員コード	000167
登録人数	143
回答数	70
回答率	49.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



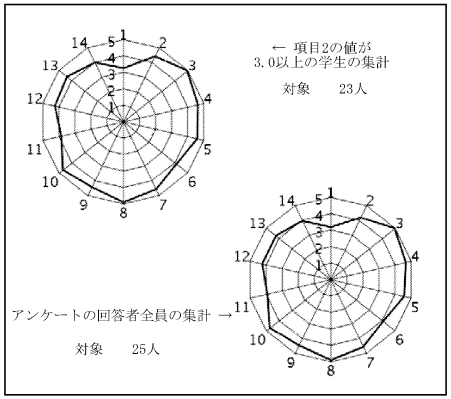
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義の到達目的（1. キリスト教の神観を理解している。2. キリスト教は人間の尊厳を目指す人間学であることを理解している。3. キリスト教の中心は友愛であることを理解している）として「見出す」「発見する」というレベルまで到達したと思います。最終レポートを分析すると、特に第3. に関しては、深い理解を示した学生もいました。
第14事項の「全体として、あなたは授業に満足しましたか」に対する平均値が低い点（レーダーチャート2.94）に関しては今後検討の余地があり、改善すべき点は積極的に行いたいと考えています。１）履修生150人のうち70人のみの回答でしたが、「授業評価」の意味と重要性を学生に周知していきたいと思います。２）「キリスト教概論」の国際教養学部における評価が他学部の授業評価（同科目）に比べると低い点について。自分の意見と異なる考え方を否定せず、文献を読み思考を深め議論する「批評的」思考を理解してもらうよう指導していきたいと思います。３）キリスト教に対する偏見は社会や歴史と関わる深刻な問題であり、将来において大きなチャレンジであると考えています。

国際教養学部 国際教養学科
吉田　敦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[E]8
授業コード	10C01-034
教員名	吉田　敦
教員コード	101920
登録人数	30
回答数	25
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



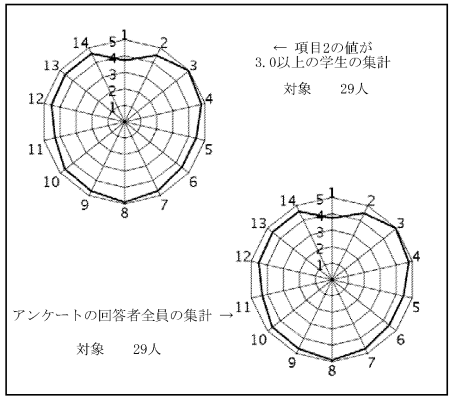
授業評価結果を踏まえた点検・評価

情報倫理は、最初の期待は低く、全体としては高い評価になるという傾向は変わらなかった。しかし、実感とアンケートと一致する点として、学生の意欲を引き出せたか、という点は低かった。全体的に大人しい学生が多く、また、受け身の姿勢が強かった。発表においても、他の資料に書いてあることを話すだけで、理解して自分達で組み立て直すといったことをやらないので、質問が理解できなかったり、噛み合わない部分があった。それに対して、改善していくという部分がうまく指導できなかったと反省している。3コマ連続で授業をやっていて、その3コマ目であったので、体力的な問題で、私自身の取り組みにも積極性に欠ける部分があったと思われる。一方、この授業では、留学生が5名参加しており、各グループに加わってもらった。留学生の学部が異なるので、うまくグループ活動に加われるか心配であったが、トラブルなく進めることができた。日本人学生からのコメントには、留学生と仲良くなれたという意見も頂いた。今年度の情報倫理の授業で取り入れる可能性を検討しているのが、グループを途中で変えることである。学生にはそのことを考えていたことは伝えたので、アンケートにはグループ分けについての意見が入っていたが、グループを変えた方が良いという意見の方が多かった。ただし、変えた方が良いと思う学生だけがコメントをしてくれている可能性がある。グループ内での連絡体制の再構築など、様々な課題があり、簡単にグループの変更ができないが、学生の意見も聞きながら引き続き検討をしたい。

国際教養学部 国際教養学科
後藤　邦夫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理[J]2
授業コード　10C01-044
教員名　後藤　邦夫
教員コード　016428
登録人数　30
回答数　29
回答率　96.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、真面目に授業を受けた受講者が良い成績を修めることである。このクラスは全員がA以上の成績を修め目標を達成できた。他に、共通のテキストの内容に加え、約1年前に発効したThe EU General Data Protection Regulation (GDPR) などの発展事項も教えられた。

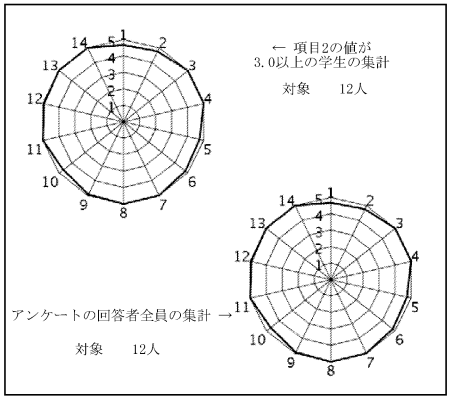
評価の平均値は低い順に設問1(3.72: 事前の興味)、設問11(4.34: 学習意欲喚起)で、どちらも情報科目の平均値は上回る。他の設問の平均値は4.4を超え、設問14(全体満足度)が4.59と喜ばしい結果になった。自由記述には、「解説がわかりやすかった」、レポートの書き方、引用のルール、著作権、個人情報保護」などが学べてよかった等の肯定的なコメントがあった。回答率も29/30と良かった。

今年度工夫したことは、「細かく誤りを指摘するが、ひどくなければ減点しない」と初回授業で明言したことである。学生にはレポートの名前記入漏れ、文体や参考文献情報の不足などの細かい誤りを指摘されることを嫌う傾向があるが、指摘するが減点しないと言えば気分を害さないようである。次年度も同様に指導する。さらに、余裕がある学生には発展事項も学習できるように工夫する。

国際教養学部 国際教養学科
MILES, Richard　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[G]1
授業コード　11A05-032
教員名　MILES, Richard
教員コード　101363
登録人数　12
回答数　12
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. I taught these students four times a week, in two different courses, so we got to know each other very well. The students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students become more independent writers, and editors, so that they can work autonomously when they have to write essays during their studies abroad next year, and for their graduation papers/reports after that. Students answered with a perfect score of 5.00 to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot and had improved their writing skills.

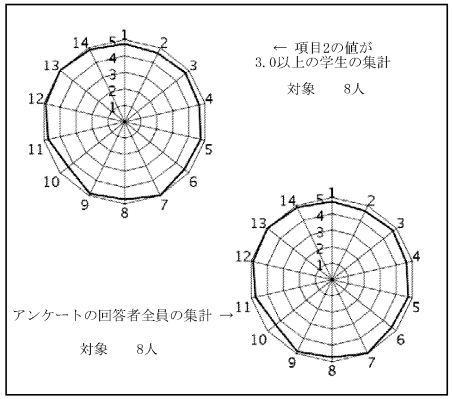
2. The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students. A few students mentioned that other students were a bit too active, but this is to be expected in an advanced level class and one with students from different cultural backgrounds. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as there was a wide range, in terms of the students' abilities and English level.

3. For next year, I intend to continue to concentrate on teaching writing skills, but to also try and focus more on developing the students' reading skills.

国際教養学部 国際教養学科
大竹　弘二　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語III＜G＞
授業コード　11C03-011
教員名　大竹　弘二
教員コード　101968
登録人数　30
回答数　8
回答率　26.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

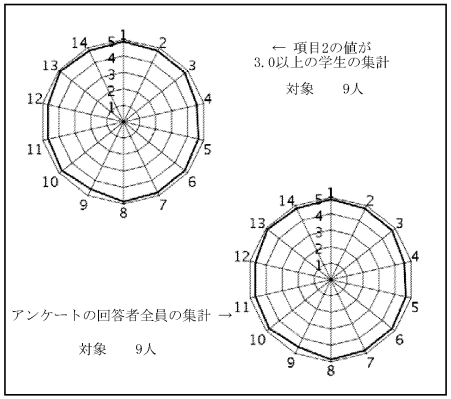
本科目は国際教養学部生が2年次Q3に履修する「ドイツ語I」と同年次Q4に履修する「ドイツ語II」の継続授業であり、履修者がすでにある程度のドイツ語知識があることを前提としている。とはいえ、教えるべき初級文法もまだ数多く残っており、またすでに教えた文法事項もまだ十分身に着いていない学生も多くいるので、それほど高度な内容は教授せず、既習事項を適宜復習しながら、あせらず適切な進度で授業を行うように努めた。また、この授業は3年次Q2に行われるドイツでの「GLSフィールドワーク」の準備としての性格もあったので、多くの文法事項を教えるよりも、日常生活で使えるドイツ語表現の練習なども取り入れながら授業を進めた。最終的に、著しく学習に後れを取る学生は出なかったことに安堵している。

とはいえ、ドイツ語学習も3クオーター目に入ると、学習に若干飽きが来てる学生も散見される。できる限り映像資料なども用いて授業を進めているが、一部にモチベーションが低下している学生がいることも否定できない。フィールドワークに行かない、それゆえドイツ語の学習意欲がなかなか維持できない学生のモチベーションをいかに保つかが非常に難しいと感じる。単に外国語を教えるだけではなく、第2外国語を学ぶことが3年次後半から4年次にかけての専門の学習にとっても役立つということを、いろいろな機会を通じて学生たちに理解してもらうことが今後重要になると思う。

国際教養学部 国際教養学科
森山　幹弘　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　インドネシア語III＜G＞
授業コード　11H03-005
教員名　森山　幹弘
教員コード　100090
登録人数　14
回答数　9
回答率　64.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



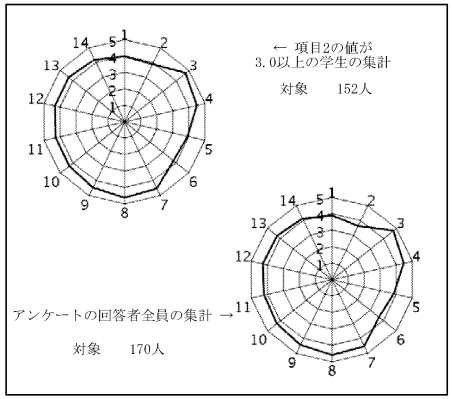
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、小テスト及び期末試験の結果から判断して数名の学生をのぞいて達成できたと考えられる。つまり、本科目は３つのクォーターを通してインドネシア語の文法を学修することを目標とした第二外国語科目であり、この最後のクォーターでほとんどの学生はその目標を達成できたと言える。そのことは、学生の授業評価の自己評価の13番にも表れている。ほとんどの学生が初習外国語の基礎的な運用能力を身につけることができた授業が運営できた点は評価できる。一方で、数名の学生については、学生の自己評価は良いものの、日頃の勉強に対する動機付けを促すことが十分にできたとは言えず、この科目の到達目標には達する文法理解とインドネシア語の運用能力の獲得には至らなかった。この点は今後の課題として授業運営を見直したい。自由記述の評価できる点としてあげられていた「コイルでインドネシアの学生と交流する機会があった」点については、今後も継続して実施したい。実際の取り組みとしては、授業の中でインドネシア大学の学生とのメイルやSNSを通じた交流を促し、期末試験でその交流の中で議論したテーマについてインドネシア語で記述を求めた。今後もこのような学生の学びを高める取り組みを通じて多様な学び方を取り入れた授業の運営を心がけていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
吉田　早悠里　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化人類学A
授業コード　12B13-001
教員名　吉田　早悠里
教員コード　103066
登録人数　199
回答数　170
回答率　85.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



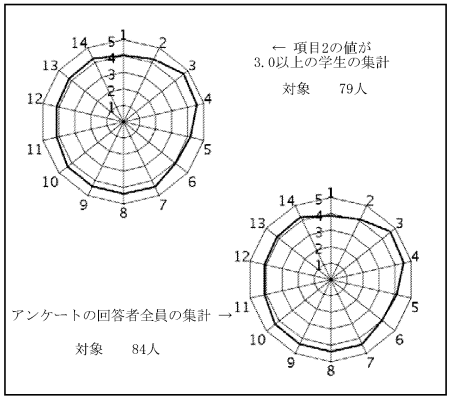
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、文化人類学の基礎的な知識を学び、物事を柔軟かつ多角的に捉え、分析する力を身につけることである。各回の授業では1講に1つのテーマを取り上げ、毎回レジュメを配布するとともに、授業内容に関連する短い映像資料を用いて学生の理解が深まるように心がけた。2018年度より、授業の冒頭で前回の授業時に学生が記述したリアクション・ペーパーをもとに、学生の感想を紹介するとともに、質問に回答する時間を設けた。また、授業時間中に学生が話し合ったり、発言したりするアクティブ・ラーニング形式を導入した。その結果、自由記述の欄では「質問・感想コーナーが充実しており、他学生の意見を知ることができた」「映像が多く、理解が深まりやすい」として評価を得た。
学生の評価の平均値は設問(3)～(14)では4.29、(1)～(14)では4.21であった。14の設問のうち、大半が4点台を超えているが、設問(2)3.62、設問(6)3.65となっており、値が低い。設問(1)と設問(14)を比較すると、学生は授業を履修したことで内容に関心を抱くようになったことが読み取れる。しかし、授業の到達目標にむけて自主的な学習に取り組んでいない点、実際にどのように力がついてきているのかを実感することができていない点が問題として浮き彫りになっている。
全体としては、本授業の目標はおおむね達成することができたといえる。しかし、今後は学生の能動的な学習意欲を引き出すとともに、到達目標にむけて力を獲得してきていることを実感できるような機会を授業のなかに設けることで、問題の改善に努めたい。

国際教養学部 国際教養学科
神崎　宣次　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境と倫理問題4
授業コード　13D01-004
教員名　神崎　宣次
教員コード　103280
登録人数　409
回答数　84
回答率　20.5%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



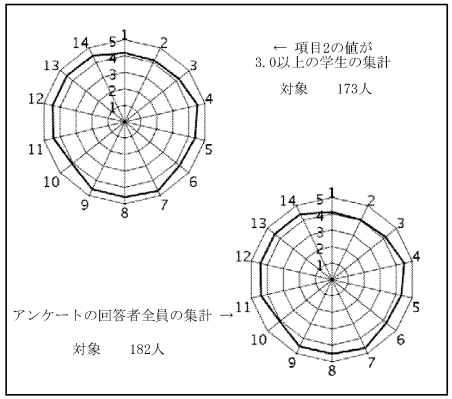
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定していた目標に関しては、ほぼ到達したものと考える。
(2) 学生からの評価の数値や自由記述からしても、おおよそ問題なく授業を運営することができたと言えるだろう。自由記述に挙げられたいくつかのコメントについては、大人数、大教室で行っていることに起因する問題と考えられる。授業の性質上、資料の原典の文章を受講者に読ませる必要があるが、それらを印刷して配布することは資源の無駄遣いという点から避けている。そのかわりスライドで提示しているが、大教室で、正面のスクリーン以外に資料が映し出される場所が無いために、後方の席からは文字が小さく感じられたかもしれない。この点については、第四クォーターで同タイトルの授業を行うまでに、何らかの対応を考えたい。
(3) 上で述べたように設定していた目標についてはおおよそ到達したと考えるが、最終回はやや内容的に多く、説明が駆け足になってしまった。この点についても、第四クォーターの授業までに、全体の進行速度の配分を再検討しておきたい。

国際教養学部 国際教養学科
MUNSI, Roger Vanzila　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教人類学
授業コード	22C33-001
教員名	MUNSI, Roger Vanzila
教員コード	101925
登録人数	395
回答数	182
回答率	46.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



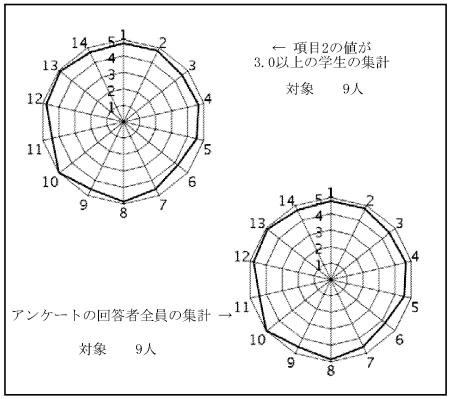
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course on Anthropology of religion was designed as an introduction to some of the basic problems faced by religions and by the study of religion from anthropological perspectives. I tried to instill the interest of students in these subjects by working with some case studies from Africa and Japan. In the second part of the course I brought up contemporary religious issues (i.e. shamanisms, religious rituals and festivals, myths and afterlife, religion and gender, religion and environment, world religions and globalization) from around the world, including both local, non-scriptural religions, and the more widely-known so-called “world religions.” I was glad to realize that most students raised questions about the difficulties involved in studying other people’s most strongly held values and beliefs, and the relations between tolerance and faith. The outcomes of their Quiz and Term-papers also showed the degree of their comprehension and awareness of the anthropological analysis of religious issues. Since I dealt with a large class of 399 students it was not so easy to follow the performance of each student in the class. However, the weekly reading of their reflection papers and feedback helped me to adjust some considerations throughout the course. It must be said that the students were more collaborative, participative, and wrote good term papers compared to those from last academic year. I have taken into consideration the students’ evaluation, comments, and suggestions. I will based on them to redesign the outline of the course and selected materials for the next academic year.

国際教養学部 国際教養学科
森泉　哲　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English I8
授業コード	48A05-008
教員名	森泉　哲
教員コード	100542
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Ｑ１では3年続けて本科目が授業評価該当科目であり、同時期の学生と小職の相互作用を分析・検討するには、大変有用である。本科目の目的は、国際教養学の基礎的内容を扱いながら、総合的・実践的英語能力を養成する科目である。

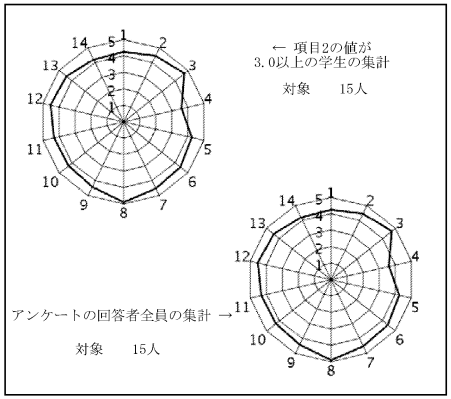
今年度の評価結果から判断すると、現時点でのその目的は達成されたと考えられる。具体的には、受講生も、本科目に対する興味・関心は高く、また主体的に授業に参加していたという自己評価を行っており、それは担当者の授業から受ける印象もそのようであった。昨年度は、授業運営がうまくいかなかったこともあり、今年度は昨年度と比較して、前半に早めに宿題のやり方に幅を持たせて、いくつかの手法で実施し、そのあと学生の意見を聞きながら課題のやり方を変更するという形で後半授業を行ったことが学生にとり満足度の高い授業につながった可能性がある。

一方で、この改善方法が大方の受講生には、「いろいろな方法で学べて飽きなかった」と好ましく受け入れられていたようだが、「活動の方法がわかりづらい」「効率が悪い」のではないかというコメントもあったので、引き続きより丁寧に、かつくどくなりすぎないようにこちらの活動の目的・意図を説明しながら、お互いに対話をし、よりよい授業を作りあげていくという姿勢を大切に授業を行い、目的である英語能力の伸長が実感できるような工夫を引き続き行っていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
山岸　敬和　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V1
授業コード　48A09-001
教員名　山岸　敬和
教員コード　101411
登録人数　18
回答数　15
回答率　83.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
英語によるディベートを行なったこの科目で、学生は、当初の目標である与えられたトピックについて自らが英語でリサーチをして、それを整理して、それを簡潔にまとめるということを学ぶ機会を得た。そしてまとめた意見が、どれだけ論理的で、説得性があるのかについても学んだ。さらには、意見は独自性が求められるということも強調したため、それについても考えるきっかけとなった。学生によっては、達成度はまちまちであるが、全学生がディベートのフォーマットと目標を理解し、しっかりとしたパフォーマンスを見せていたことから、各自成長したことは確かである。

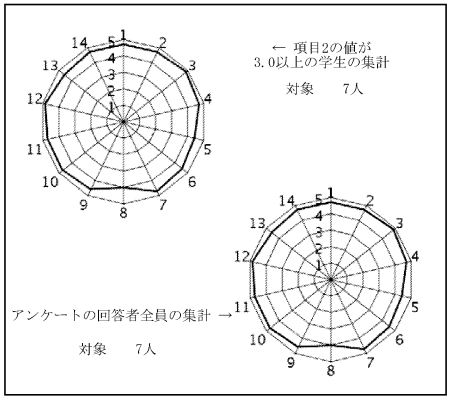
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
国際教養学部の平均（項目1から14の平均4.45）と比べるとこの科目の数値（4.38）は満足行くものではない。一点このクラスについては、そのメンバーと彼ら・彼女らの英語力からしてももっとレベルが高い目標まで到達できるのではないかと思い、かなり学生の背中を教えたつもりである。それがもし自由記述の中の「上から目線」というコメントで評されたのは残念である。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回のクラスは期待値と実際の様子との大きな乖離があったため、私自身もどのような姿勢で授業を続けていったら良いのか迷った。学生のレベルに合わせてゆっくり進めるべきか、学生を厳しく叱咤激励して高みを目指させるのか。もちろん大学教員としては後者を選択すべきであると信じる。しかし、私の期待を、そして学生の到達目標について、より丁寧に学生に伝えることは今後は注意していこうと考える。

国際教養学部 国際教養学科
YARDLEY, Gabriel　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V3
授業コード　48A09-003
教員名　YARDLEY, Gabriel
教員コード　016998
登録人数　17
回答数　7
回答率　41.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



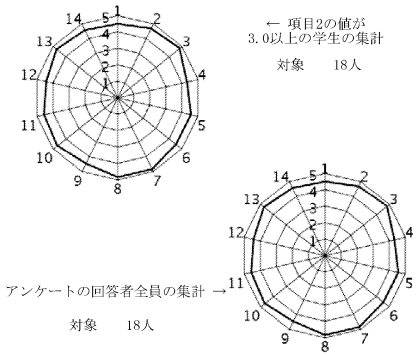
授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with this course in terms of the syllabus, the knowledge acquired and the materials and teaching methods used. The objectives as presented in the course outline were met in full. The issue raised in answers to Question 8 will be addressed, not only in future GLS English V classes but in all other courses, too. The instructor will ensure that his voice can be heard by all students in future sessions. Audio devices used in class were those provided by the students themselves (smartphones or tablets), rather than class facilities. As in previous sessions of this and other classes, progress and individual concerns were discussed with students during personal interviews at the end of Quarter 1 and helpful, constructive feedback was both given and received. Overall, students were enthusiastic and diligent throughout the course and participated actively in all aspects of the course. As on previous occasions, the instructor will endeavour to provide a more thorough learning experience in all areas covered by this survey. All students were asked—and reminded—to participate in the class survey but disappointingly few class members responded to this request. Where appropriate, additional activities and materials will again be introduced or extended as requested by the comments and suggestions presented in both this and a supplementary course evaluation (which all students completed).

国際教養学部 国際教養学科
DEACON, Bradley　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V4
授業コード　48A09-004
教員名　DEACON, Bradley
教員コード　046920
登録人数　18
回答数　18
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

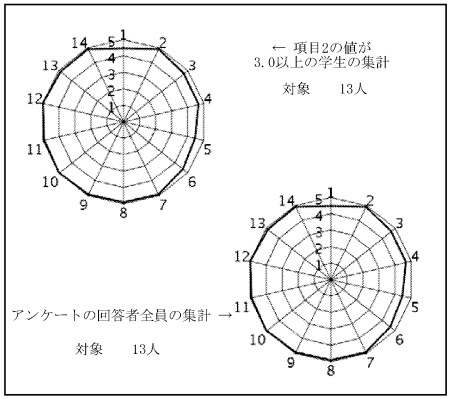
The students in this class were challenged to build their schema and language in English that related to several mature debate topics including: immigration to Japan, whether or not to increase the consumption tax in Japan, and other topics related to the UN SDGs. In addition, students were required to come up with logical arguments that were supported through carefully prepared resources. Groups had to present using appropriate NVC and in ways that appealed to the audience judges. This was challenging course, but students worked well together to meet the goals of the course.

I did my best to help the students to develop confidence in themselves through their arguments in front of their classmate. We worked on creating a supportive environment in which students could feel more comfortable to speak. I was please to see that students were pleased with the course. From their responses on the survey, it is clear that students were able to build confidence and learn other skills that helped them to become better at English in general and in debate in particular.

国際教養学部 国際教養学科
鹿野　緑　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V7
授業コード　48A09-007
教員名　鹿野　緑
教員コード　101092
登録人数　18
回答数　13
回答率　72.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

GLS English Vは、国際教養学科の分野や扱うイシューについて、英語ディベートを通して考え学ぶ授業である。イシューの背景と考え方の枠組みを確認し、チームごとにリサーチし議論を組み立てる手順で授業が進められた。出席率はほぼ毎回100%で協力的な取り組みが見られた。目標は、図書館やオンライン資料などで調べる、自らの立場と意見をエビデンスを持って論理的に英語で述べる、Q2アリゾナ州立大学短期留学を見据えて、海外でも機能する自律学習者になることであった。系統的に調べる力（英語で）が不足していると思われるが、自らの立場を論理的に示すという点はかなり進歩したのではないかと感じた。

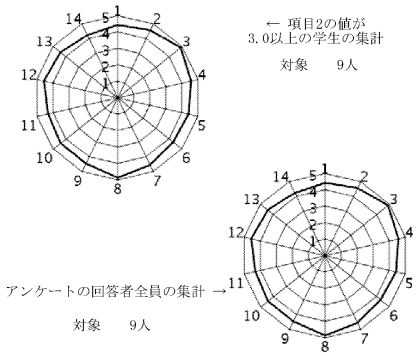
授業評価アンケートの数字（項目１～１４平均４．８１、項目３～１４平均４．８３）からは、ある程度の成果が見て取れ、また学生がきちんと取り組んでいた様子がわかる。1回のディベートごとに、評価ルーブリックを示し、一人ひとりにフィードバックを行なったのが次に繋がる学びとなっていたら幸いである。また、ディベートの運営（moderator, timekeeper）を学生に任せたが、責任を持って果たしてくれた。final paperのまとめも完成度の高いものが提出されたことは良かった。

全員がアンケートに回答しておらず、促しがやや足りなかったことが反省点である。

国際教養学部 国際教養学科
松永　隆　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English V8
授業コード　48A09-008
教員名　松永　隆
教員コード　015081
登録人数　18
回答数　9
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



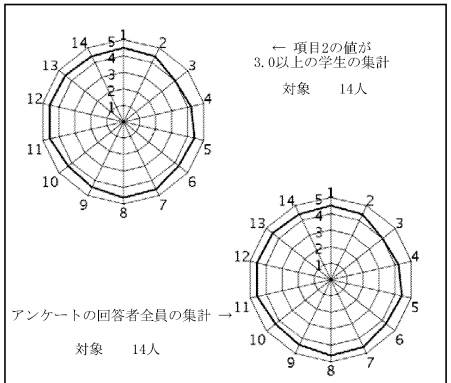
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course outline:
This course will be delivered using the lecture and practical session style, using the CLIL (Content-Language Integrated Learning) approach. In GLS English V, students make full use of the four major language skills as they engage with the GLS research field elements in the Japanese context, including the issues of energy, immigrants, wars, education, social security, religion, and freedom of speech. Class time, meeting twice a week, will be used for doing research on one day and debating on the other. Students are expected to learn how to debate in English as well as to improve their skills to gather/sort information and to think critically. Students will prepare themselves for their education abroad, such as ASU Sustainability Program and others.

国際教養学部 国際教養学科
斎藤　衛　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Advanced English Literacy1
授業コード　48A11-001
教員名　斎藤　衛
教員コード　018333
登録人数　18
回答数　14
回答率　77.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



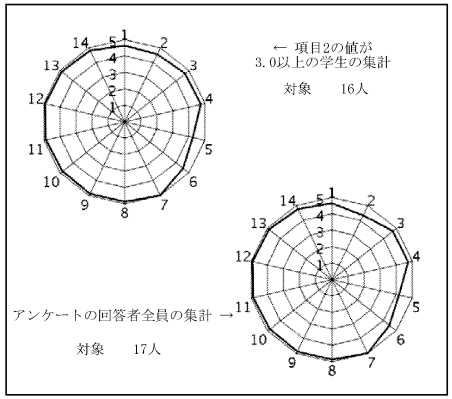
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価の平均値は、設問11：4.57、設問12：4.57、設問13：4.50、設問14：4.43であり、悪くはなかったが、英語科目を32年ぶりに担当したこともあり、反省点は多い。この科目の主要な目標は、研究論文を英語で執筆できるようになることである。しかし、前半では、英文記事に関するコメント執筆、ディスカッションに時間を使いすぎ、論文の書き方に関する指導の時間が不足する事態を招いてしまった。後半では、添削を含め、指導に多くの時間を割いたが、受講者のコメントも、「論文の書き方について詳しく学べた」、「しなくてはならないことが明確でした」、「英語以外に学ぶことができる、教養が身につくリテラシーの授業だった」といった肯定的なものがある一方で、「もっと最初からペーパーに向けて学んでいきつつ書き始めたかった」、「エッセイを書く力は最後の方でしか身につかなかった気もします」と問題点を指摘するものもあった。この科目を再度担当する機会があれば、単なる意思疎通の手段としてではなく、大人としての（学術的な）英語の使い方に加え、研究テーマの設定の仕方、研究の進め方、論文の書き方についても、当初から集中して教えることとしたい。多くの改善すべき点に気付かされたものの、国際教養学部で初めて担当した少人数（18名）の授業であり、受講生一人一人の成長を確認しつつ、楽しい時間を過ごすことができた。

国際教養学部 国際教養学科
平岩　恵里子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学　/ International Economics
授業コード	48C17-001
教員名	平岩　恵里子
教員コード	100953
登録人数	22
回答数	17
回答率	77.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



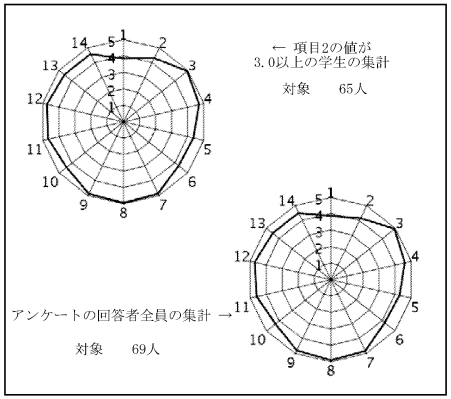
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①国際経済に関する現象や問題について（主に貿易）、通俗的な説明に惑わされることなく、学問的な裏付けとともに整理し議論できるようになることが目標であった。理論を説明する際には、現実に起きている現象と結び付けるようにしたことによって、ある程度は到達できたのではないかと考えている。また、国際経済に関する様々な身の回りの事象に関心を持つようになってくれたのではと思う。
②少人数、かつ活発に発言してくれる学生が受講してくれたことが幸いし、理解度を確認しながら進めることができた。また、グループで課題に取り組み、その成果をプレゼンする（逆授業）双方向の議論ができたことはお互いの学びとなった。ただ、①で述べた目的については、毎回の講義でリマインドする必要があった。理論の理解に注力すると同時に、「なぜこれを学ぶのか」に立ち戻る必要があったことがアンケートから分かった。
③改善点としては、②の後半で述べた点と、当初の学習範囲のすべてに取り組むことができなかった点である（為替レートの基礎に取り組めなかった）。今後は、学生の理解度を確認しつつ、学習範囲をカバーできるよう、効率的に進める工夫をしたい。

国際教養学部 国際教養学科
篭橋　一輝　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と社会　/ Globalization and Society
授業コード	48D05-001
教員名	篭橋　一輝
教員コード	102569
登録人数	139
回答数	69
回答率	49.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講時に設定した目標は、（1）自由貿易や経済のグローバル化の歴史や政策に関する基礎知識を習得している、（2）自由貿易のメリットについて、経済学の基本的な考え方を用いて説明することができる、（3）貿易自由化がもたらす影響とその是非について、農業や環境の観点から議論することができる、の3点であった。（1）についてはTPPの政策的背景や現状について丁寧に説明し、目標は概ね達成された。（2）については経済学の理論（余剰分析、比較優位）を重点的に解説し、自由貿易のメリットを十分に理解させることができたと考えている。（3）については授業の中で十分に扱うことができなかったため、今後改善を図りたい。

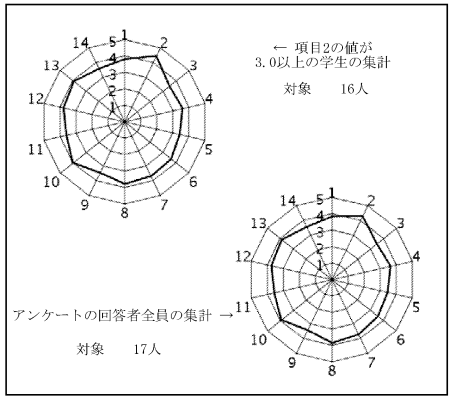
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
授業の内容が分かりやすかったという評価が得られた反面、経済学の理論に関する説明が長いことへの批判が１件、学生から自由記述で寄せられた。自由貿易の是非を考えるためには経済学の理論的知識が欠かせないと考えて授業を行ってきたが、もう少し「社会」に関する側面にも焦点を当てて授業構成を見直したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
多くの学生からはポジティブな反応をもらったので、良い点は残しつつ、より学生の意欲を引き出すような授業を行いたい。

国際教養学部 国際教養学科
安原　毅　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティと開発 / Sustainability and Development
授業コード	48G03-001
教員名	安原　毅
教員コード	017905
登録人数	87
回答数	17
回答率	19.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



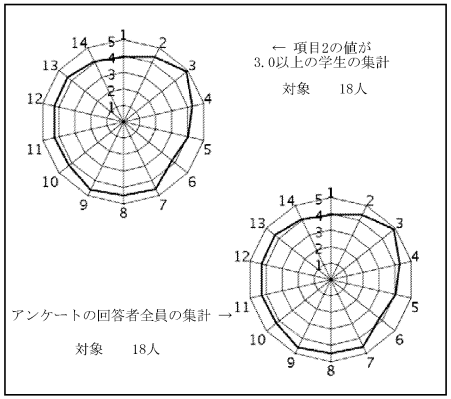
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業中に時間をとってスマホから回答するよう促したが，依然として回答数は１７名で十分とは言えなかった。この点は今後改善を目指したい。
全体的には平均値で4.0前後でほぼ目標値は達成できたといえるが，設問９と設問５が3.5以下で低いのは改善を要する点と受け止める。デジタル版のテキストをWebクラスにあげてつかったが，Q1修了直前になってこれが開けなかったといってきたものが数名いた。Webクラスの使い方には担当者も不慣れなところがあるが，今後は鋭意努力したい。
自由記述の回答ではわかりやすかった，Webclassを使ったのがよかった，といった記述が多いが，回答では理解度に対する配慮が足りなかったということになる。この点については最後の２回の授業で全体の復習とデイスカッションの時間を設けたが，こうした取り組みがもっと多くあってもよかったかと考える。

短期大学部 英語科
丹羽　牧代　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English I5
授業コード	48A05-005
教員名	丹羽　牧代
教員コード	055715
登録人数	19
回答数	18
回答率	94.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



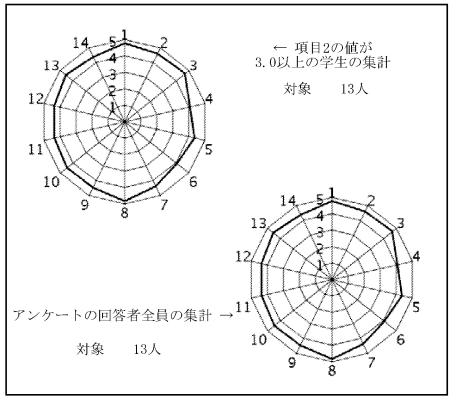
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は3年目（実施回数3度目）にあたり、経験的な蓄積も出来てきたものでもあり、授業評価の結果としてはまずまずであると考える。が、今年度に関しては過去二回とかなり違った感触があった。この点を踏まえて記述する。①まず到達目標を達成できたかどうかであるが、過去2年間と比較すると、受講生の反応に個々の学生の中での偏りが感じられた。理解度も到達度も高い学生とそこまで達しない学生が偏在するのは例年のことであり、ある程度予測のうちであった。しかし、アカデミック表現を用いて議論する土台を作っていくという目標に関して、「議論する」以前に「（英語で）表現する」という姿勢そのものへの躊躇を持つ学生がかなり多く見られた。英文で書かせてみればそれなりの表現ができることから考えて、狭い意味での英語力というよりは、今までの訓練の機会の問題ではないかと考えられる。抽象化・一般化という練習もかなりの学生が苦手とするように見受けられた。②授業計画進行のうちにこの傾向を感じ取ったので、学期中に授業デザインをいくつか変更し、より具体的でより分解されたレベルから英語での思考や分析が可能となるようにワークショップをつくり直したものの、最終回にいたるまでに劇的に効果が出たとはいい難い。そのことは学生たち自身の「到達度への自己評価」に表わされていると感じる。③この傾向が次年度も続くのか、今年だけの現象であるのかについては不明だが、学科科目として期待されている内容を前提としつつも、場合によっては学生により合わせたデザインに改変する必要を感じる。

短期大学部 英語科
中田　晶子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy6
授業コード	48A11-006
教員名	中田　晶子
教員コード	055624
登録人数	16
回答数	13
回答率	81.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、２年次必修科目で、１年で履修した「英語リテラシー」の上級科目である。グローバリゼーションやサステイナビリティに関する英文エッセイを教材として、クリティカルリーディングを学び、アカデミックなテーマについてのレポートをAPA（American Psychological Association）のフォーマットで書けるようになることが目標である。Q2で大多数の学生が参加する短期海外留学の準備として、アメリカの大学で要求されるタームペーパーの書き方を学ぶものである。1年で学んだ基本的なエッセイライティングの延長ではあるが、英語で本格的な論文形式のレポートを書くという目標は、アカデミックな文献を読む訓練を積んでいない２年生にとって難度が相当に高い。

担当者がこの科目を担当するのは昨年度に引き続き、2回目である。前回の反省を活かした授業運営がある程度できていたという実感は、設問3－14の平均が0.3点ほど上がり、すべての項目が4点台になったことに裏付けを見ることができた。

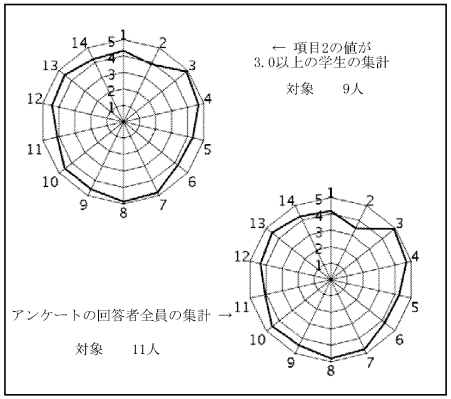
設問４と設問６が共に4.08と明らかに低い。到達目標の理解は4.69で問題ないが、「本当にアカデミックレポートが書けるようになるのだろうか？」「この授業の進め方で到達目標に達するのだろうか？」という不安、疑問が相当に大きかったことがわかる。前年度の反省を基に今年度は授業内の個別指導の時間を増やすとともに、早い段階で中間発表も実施して、不安の解消に努めたが、十分ではなかったようである。レポート提出時には全員が到達目標を達成したが、授業評価の段階ではそこまで行っていなかった学生が多かったということであろう。次年度は不安の解消に積極的に取り組みたい。

自由記述では、説明のわかりやすさ、参考資料や個別指導の充実を評価したもの、個別指導に関してさらに早い段階での情報提供を求めたものがあった。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
豊島　明子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と人間の尊厳6
授業コード	10D05-006
教員名	豊島　明子
教員コード	101192
登録人数	18
回答数	11
回答率	61.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

人間の尊厳科目については、例年、どのように行うのがよいか、試行錯誤しながら担当しており、今年度もまだその渦中にいると自覚している。特に、クォーター制導入以降は、週1回2コマ連続の形で実施しているため、180分間、いかに学生の関心をひきつけて授業運営をするかが課題だと感じている。そこで今回は、講義形式の合間に、学生にグループディスカッションをさせ、その内容を発表させる形式を盛り込みつつ運営することを積極的に試みてみた。

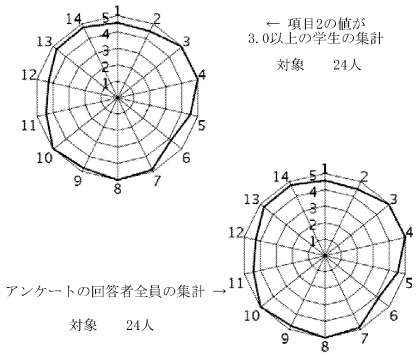
授業評価結果を見ると、どうやらこの形式が好評だったようである。自由記述の授業の良かった点評価できる点として、 グループディスカッションがあったことを評価する意見が複数あり、さらには、グループワークでいろんな学部の人の意見が聞けたことを挙げる者もあった。

履修登録者が多くなれば現在の運営を続けるのは難しくなるだろうが、幸か不幸か、私の尊厳科目には、せいぜい20名程度の履修者しか集まらない状況が続いているため、今回の学生の好評価を踏まえ、ぜひ次年度も、ディスカッションを積極的に採り入れた授業運営を行いたいと考えている。このような授業運営を通して、私がシラバスに掲げた「孤独死・孤立死・貧困・高齢者介護をめぐる現状について、主体的に考えることができる。」との到達目標にもいくらか接近できるのではないかと考えている。

教職センター 教職センター
宇田　光　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教職入門1
授業コード　15A02-001
教員名　宇田　光
教員コード　100494
登録人数　26
回答数　24
回答率　92.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

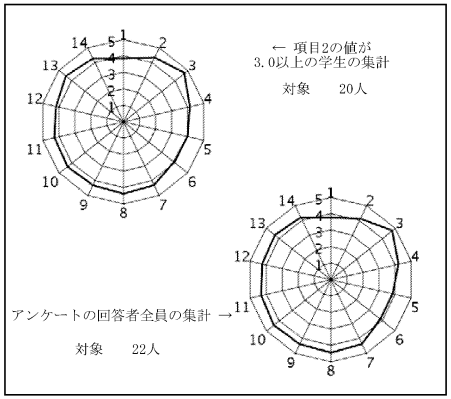
教職課程の主に１年生を対象とする必修科目である。今回、履修登録者数は26名と例年よりかなり少なく、回答数は24名である。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。項目３から14の平均値は4.70、満足度を示す設問14の平均値は4.75となっていて、ほぼ満足であるという回答を得た。

個別の自由記述では（ａ）良かった点として「毎回の授業でレポートを提出する点。内容理解が非常に深まった」、「授業最後にその日の授業内容についてのレポートを書くことによって、より理解が深まった上に、頭に残りやすかった。時間が過ぎるのが早く感じた」など、BRDに言及した意見が多かった。また、「話し合いの時間などがあり、ただ話を聞くだけの授業ではなかったこと」、「自分たちで考え、相談し意見をまとめることが出来る点」など、アクティブラーニング方式で進めている点も、評価された。このほか、「皆が教職に興味があり望んで授業を受けているので、より、教員になりたいという気持ちが高まった」など。一方、（ｂ）改善すべき点については、「プリントの裏の答えを配って欲しいです」との意見があった。ほぼ毎回、穴埋めなどの課題をハンドアウトに印刷しているので、そのことと思われる。この点は今後、改善したい。

教職センター 教職センター
山崎　智子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育行政論
授業コード　15A17-001
教員名　山崎　智子
教員コード　103555
登録人数　60
回答数　22
回答率　36.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

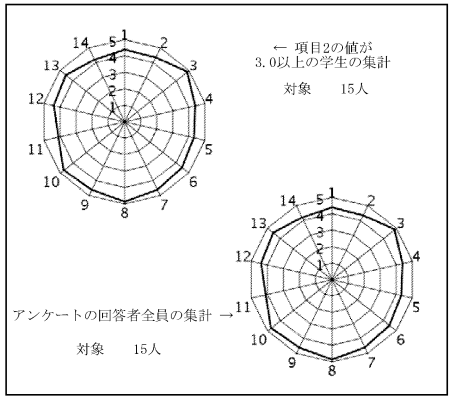
本授業は、主に日本の教育行政の特質と構造に関する知識・理解を深めることを目標として設定していた。学問分野の特性上、講義ベースかつ暗記する事項の多い授業であり、受講生のニーズとの不一致が起こることもあるため、履修登録期間に本授業の進め方については繰り返し説明し、納得した上で履修するように推奨した。そのためか、受講生の多くは授業の各回におけるポイントを自分なりに整理することで、必要な知識を十分に得ることができたようである。

各回の授業では、基本的な事項に加えて、教育行政を取り巻く最新の動向についてもできるだけ触れるように心がけてきた。受講生からは、「世の中で起こっていることを扱っているため、普段あまり意識していなかった教育関連の記事を見るきっかけになった。また、話が分かりやすい。聴講表に習った内容を書くことで整理する時間が設けられており、内容が濃い分とても助かった。」等のコメントがあった。

教職センター 教職センター
笹尾　幸夫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生徒指導・進路指導論2
授業コード　15A21-002
教員名　笹尾　幸夫
教員コード　103858
登録人数　36
回答数　15
回答率　41.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



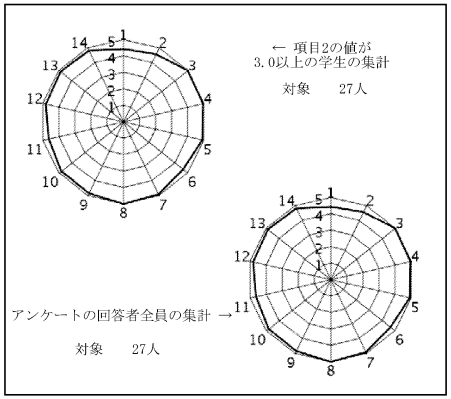
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講座は、今回から生徒指導論に加えて進路指導論も併せて指導することになり内容が量的に増加したが、テストの結果は昨年とほぼ同じであり（平均得点７割超）、概ね達成できたものと考えている。
②授業評価の平均は約4.5であった（ただし、回答数が15名と少ない）。ＤＶＤ教材を用いて具体的な事例を示したり、経験談を話したりした点が評価されたのではないかと考えている。使用したＤＶＤ教材がやや古くなってきているので、配布資料には最新のデータを記載するようにした。授業内容が増えたためか、授業進度について、やや速いという意見があった。
③授業進度を適切なものとするため、教材をより精選する必要がある。また、ＤＶＤ教材は少し高価ではあるが、新しいものがあれば購入を検討したい。本講座は教職を目指す学生が履修するため、定期試験に加えて講座に関する書物を読んでレポートを提出させている。しかし、クォーター制となって期間が短くなったことから、学生の負担も考えレポートの在り方を検討したい。

教職センター 教職センター
大塚　弥生　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育相談2
授業コード　15A22-002
教員名　大塚　弥生
教員コード　000065
登録人数　41
回答数　27
回答率　65.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問13（新しい知識の獲得と理解の深まり）のポイントが4.85であり、設問14（授業の満足度）が4.81であったことから、本授業の目標は達成されたものと考える。本授業は教職科目の必修授業であることから、受講生の参加意識も高かったと思われる。特に、授業ではグループ実習を数回行っていることにより、自身の体験を通して理解を深めていると考えられる。

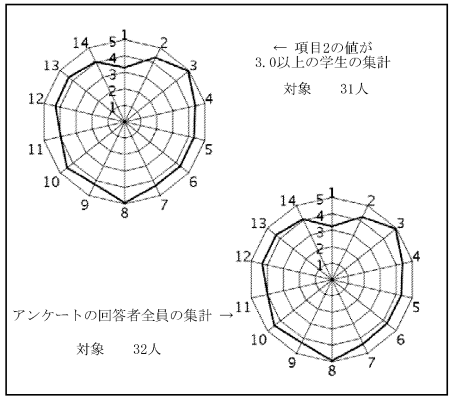
自由記述においても、良かった点として、「人との交流で考え方の共有ができた」や「実習をすることで、身をもって人との関わり方や相談を受けることの難しさを感じることができた」とあり、参加型の授業であることが効果をもたらしているものと思われる。また、授業では毎回、その授業で感じたことや考えたこと、気づいたことを「ジャーナル」として言語化し、その内容をまとめたものを次の授業時に学生に返すことをしているが、このことについても「自分たちの意見をそのままプリントにして紹介してもらえた」「毎回ジャーナルを書いたことにより、その日学んだことの頭の整理ができた」と評価されており、このような受講生の体験を生かす授業は、今後も続けていきたい。

一方で、グループ実習では、グループメンバーによる影響が大きい。グループを作る際に戸惑うことも実習の大切な要素ではあるが、グループの作り方については、今後の課題として考えていきたい。

情報センター 情報センター
桒原　寛明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[E]2
授業コード	10C01-028
教員名	桒原　寛明
教員コード	103522
登録人数	35
回答数	32
回答率	91.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

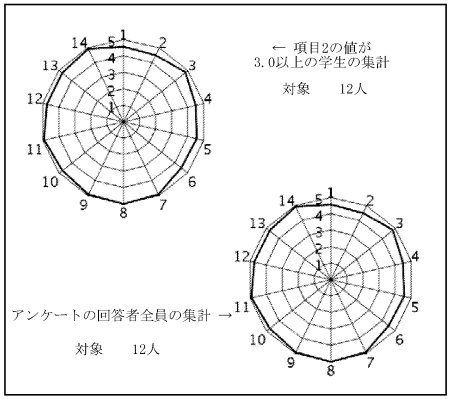
本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特に、インターネットを用いた活動とプライバシーや著作権との関わりに対して理解を深められたと思われる。

授業はe-learningと対面授業を組み合わせて実施され、e-learningで学習した内容に関して対面授業でグループディスカッションや発表を行うことで理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は理解を深められたと思われる。一方、e-learningにおいて教材の一部あるいは大半に目を通した記録のない受講生が見受けられることは非常に残念である。小テストやレポートとは異なり必須としていないが、教材も必ず読むあるいは視聴するようにしてほしい。対面授業については、授業の中心となるグループ活動に十分な時間を確保するように努めた結果、いずれのグループも十分にディスカッションや発表の準備を行うことができたと思われる。技術の進化や社会の変化など我々を取り巻く状況は刻々と変化しているため、教材には含まれていない最新の話題や出来事を継続的に取り上げていく必要がある。

外国語教育センター 外国語教育センター
BROADBY, Deborah　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B]1
授業コード	11A01-008
教員名	BROADBY, Deborah
教員コード	103594
登録人数	15
回答数	12
回答率	80.0%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



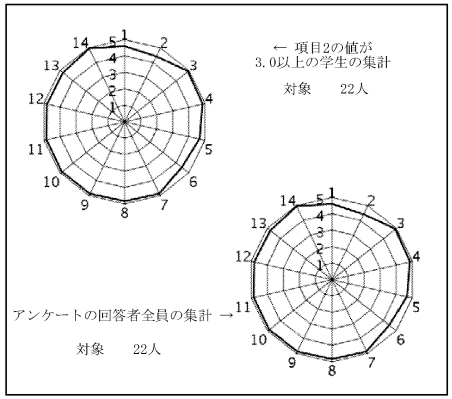
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals set at the beginning of this course were met to a high degree. Whilst the numerical data and comments were extremely positive, I believe that as a teacher I can always try my hardest to improve my teaching and learn from my mistakes. This was a not only a new class for me to teach but I also decided to try some different teaching techniques in this class. Therefore, I am very happy with the results. From the results, I become aware that not all students filled out the questionnaire even though I asked them to do so. In the future, I will be more diligent in making sure that more students fill it out. In the following quarter, I hope to continue to listen, adapt and modify my lessons to suits the needs, level and interests of my students. I will also continue to ask my peers and senior advisors for advice on ways to help me be a better teacher. I would like to continue to create a positive and enjoyable learning environment for my future students.

外国語教育センター 外国語教育センター
FILER, Benjamin　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 9
授業コード	11A01-016
教員名	FILER, Benjamin
教員コード	103850
登録人数	22
回答数	22
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



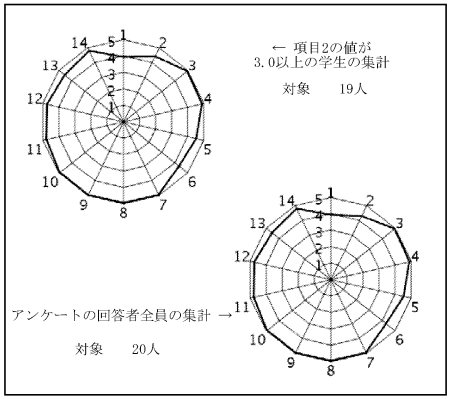
授業評価結果を踏まえた点検・評価

There are many course goals for this course that are stated on the syllabus. Essentially, these goals are to be achieved by the end of the four quarters. However, there are certain specific goals that I believe were met - such as giving a 2-3 minute self-introduction and giving a 5-10 minute presentation on a personal or academic topic.
I am satisfied with the results from the student feedback. The results are pleasing and I will endeavour to maintain these standards in my teaching of this and other classes.
In terms of how I will develop my teaching and improvements into the future, I have two points to make. First, I will find a way to make the reporting of student's self-study homework a little more interesting and varied. There is a danger that with repetition the students may become bored and their motivation may drop. Secondly, I am going to aim to make the content of the classes a little harder than in the first quarter - it was a gentle start for them, but I feel that they are now ready for more of a challenge. This will also mean that they have slightly more challenging homework tasks to tackle.

外国語教育センター 外国語教育センター
都築　千絵　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 5
授業コード	11A01-024
教員名	都築　千絵
教員コード	103924
登録人数	20
回答数	20
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、口頭での英語コミュニケーション能力の向上を目指した。通年のクラスであるが、第１クォーターの目標は、英語だけで話すことに慣れ、自己紹介のプレゼンテーションができること、基本的な会話スキルを積み上げながら、会話を続けることができることであった。第１クォーターの中間には堂々とクラスメートの前で自分のことを話せ、最後には6分間二人で履修した会話スキルを使いながら話を続けることができるようになった。毎回授業後に書いているセルフリフレクションでも、少しずつ英語だけで意思疎通をはかることができるようになってきているという記載が増えてきていることから、第１クォーターの目標は概ね達成されたと思う。

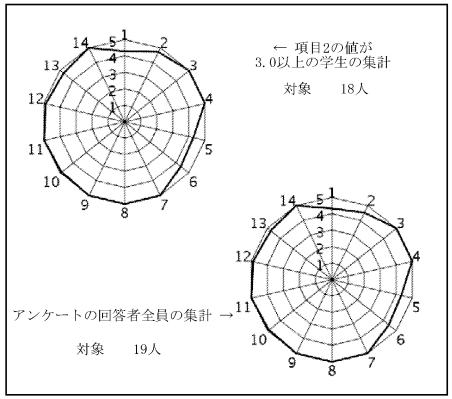
学生の授業評価の結果では、設問3から設問14の平均が4.78と高めであったことは素直に嬉しい。しかし、去年課題であった到達目標に関する数値だけが4.5を下回ったので、引き続き到達目標への意識付けをしていきたい。自由記述では、改善点として「もっと深く理解したい」と書かれており、理解が浅いまま授業が進んでしまったことがあったと思われるので、今後は気をつけたい。改善点の記述はこの1点で、良かった点には19の記述があった。「グループワークが楽しかった」というコメントが6点あり、毎回授業で学生同士のペアワーク、グループワークを多用しているので、その評価がわかり良かった。

今回の授業評価の結果を踏まえ、今後も英語を話す楽しい雰囲気作りを続け、授業の到達目標をはっきりと示しながら授業運営をしていきたいと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
LOTT, Danielle　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 6
授業コード	11A01-025
教員名	LOTT, Danielle
教員コード	103593
登録人数	19
回答数	19
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



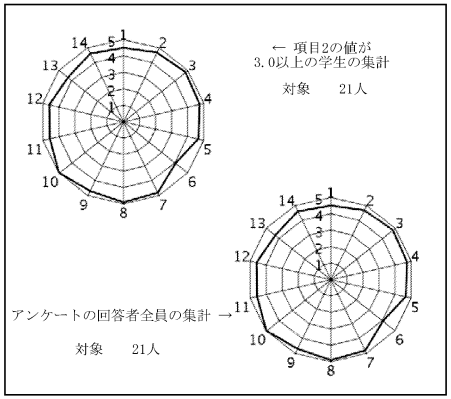
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) My goals were to develop students' communicative competence through recursive practice, conversation strategies, and self-assessment. I conducted two speaking tests and allotted some time for review. Students were able to use conversation strategies in the speaking tests. They were also able to discuss the content they had covered with some depth. In addition, according to their final reports, the students felt more competent. They particularly credited pair work and strategy use for their improvement, but naturally felt that they wanted more vocabulary work.
2) Based on the numerical data and the students' final reports, I feel that from their point of view the course was a success.
3) In quarter one, I conducted two speaking tests, and I spent much more time on discussion and review. Based on the results of their speaking test recordings, a slower pace was successful. However, now we're behind on content. I'd like to administer only one speaking test and cover more topics in quarter two. This would also give me more time to give detailed feedback. In addition, I'd like to work more on vocabulary, as it could improve their confidence, not to mention their ability. Lastly, I'd like to help students set their own language-learning goals for the remainder of the year.

外国語教育センター 外国語教育センター
OTTOSON, Kevin　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 7
授業コード	11A01-026
教員名	OTTOSON, Kevin
教員コード	103121
登録人数	21
回答数	21
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



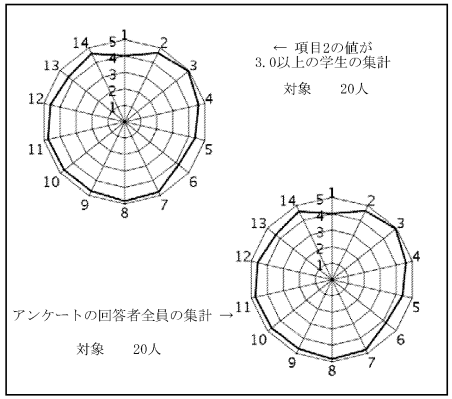
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) The students in this oral communication class were able to complete some of the goals for this year. One area they excelled was in being able to communicate on various topics for 3-7 minutes. They also showed an emerging ability to complete listening and dictation tasks.
2) Based on the feedback from the students, they were not completely confident in their ability to achieve the goals for this class. This was largely my fault as I did not provide enough time to reflect on what we had learned over the quarter.
3) I will provide more time at the end of each class, unit, and at the end of the quarter to reflect, assess, and communicate to what extent we were able to reach this class' stated objectives or goals. I feel that this will give them more confidence in their abilities to reach the goal and thus helping them set more specific goals for their future learning in the next quarter and throughout the year.

外国語教育センター 外国語教育センター
TAYLOR, Jamie　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 12
授業コード	11A01-031
教員名	TAYLOR, Jamie
教員コード	104100
登録人数	20
回答数	20
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) Q1 goals: Give a 2-min self-intro; Use classroom expressions + convo strats to start/maintain/conclude convos; describe daily routines; discuss personal topics - family/college; Understand/explain schedules/dates/times; Take notes from 2-min listening; Understand main points of clear speech on familiar work/school/leisure matters.

All students were able to meet most goals; several met all goals.

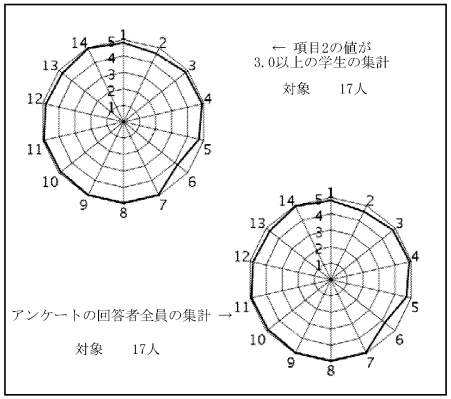
(2) I think this class went well overall. The group has a relatively low English proficiency, but they came to every class and did all their homework. I planned a lot of group and partner work and several communicative activities for each lesson. The group has really started to develop listening skills, and little by little they are becoming more confident to use the English they know.

(3) In quarter 2 I want to work on improving their ability to maintain conversations, and continue to develop their listening skills. Currently, they are able to maintain conversations for only about one minute, and their ability to ask follow up questions is limited. Group/partner work seemed to be very good for them because it gave them opportunities to communicate, so I want to continue these.

外国語教育センター 外国語教育センター
HOWREY, John　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[G] 3
授業コード	11A01-034
教員名	HOWREY, John
教員コード	100371
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course develops students' fluency and confidence in speaking in English over a variety of topics. Students spent 5 class periods per unit with emphasis on conversation, discussion and presentation skills. Students also do listening proactice online through Schoology.

I was extremely pleased with the responses. I had actually scolded the class on the use of Japanese and students responded well to that. One student wrote "When students speak in Japanese, John let me think about why we should speak in English in this class. And since then we rarely speak in Japanese and I think our English speaking abilities are improve." Students also commented that they got a lot of time to use English in discussion, ask questions and learn new vocabulary.

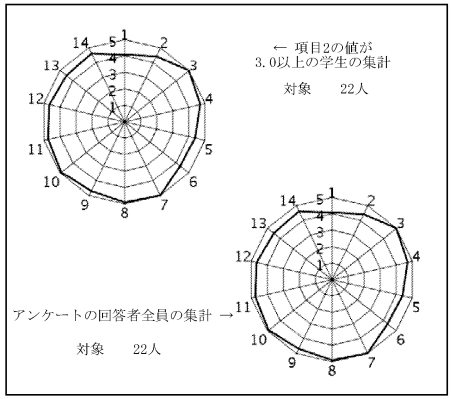
Students also remarked about my positive attitude, enthusiasm, clear directions, and individual attention. They enjoy the classroom atmosphere and their classmates. The only real complaints were about the air conditioning and narrow windows.

I have no plans to change the course but I will have them for three more quarters so things might change later on.

外国語教育センター 外国語教育センター
ELLIOTT, Darren　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[FB]2
授業コード	11A05-002
教員名	ELLIOTT, Darren
教員コード	101579
登録人数	22
回答数	22
回答率	100.0%
休講回数	2 回
補講回数	1 回



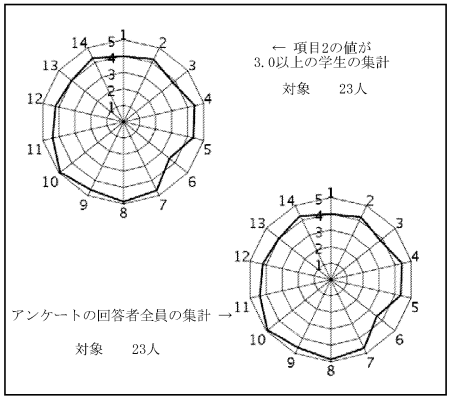
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a challenging class for me from the outset, as there has been a noticeable drop in language proficiency in comparison to the literacy classes of the previous two years. Although I have adjusted my expectations, I could feel that the students were very nervous in the first few classes and were overloaded with work. This was the most commonly cited complaint.
Having said that, once I understood what these students are currently capable of and what I need to do to raise their levels, I felt an improvement in the atmosphere of the class. The final portfolios, which I have in front of me now, are actually at a pretty good standard.
It was gratifying to read the students comments about my approachability and availability - I did my best to react to the initial difficulties and was able to repair the relationship. Students commented that they are getting used to the workload, that they feel motivated, and that they are happy to have their questions answered carefully and in good time.
One or two misunderstandings still need to be clarified, and I will have to further adjust my plans to support the less proficient learners. My curriculum has the learners reading young adult novels by quarter 3, which I don't think is a realistic goal for many of these students. I am also aware of the incoming re-takers - students who are already challenged dropping into an existing class culture will need even more nurturing.

外国語教育センター 外国語教育センター
TIDMARSH, Andrew　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]5
授業コード	11A09-005
教員名	TIDMARSH, Andrew
教員コード	104101
登録人数	23
回答数	23
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this class, the goals were not set too high because it was the first time to get used to the levels system at Nanzan. The course aimed to establish a solid conversational framework that we can build on for the rest of the year. The students, for the most part, reached these goals and are in good shape for the coming quarters.

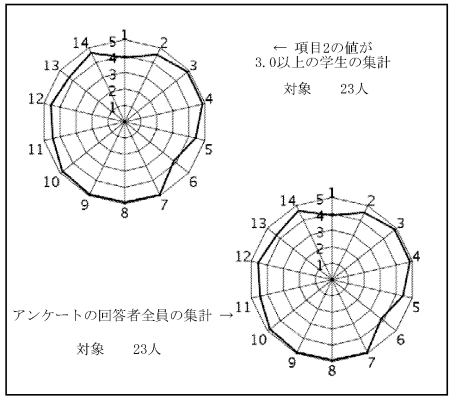
Since it is the first year for me teaching at Nanzan, I had to select textbooks based on a lot of guesswork about the level system and prepare for the eventuality that it may be either too difficult or too easy. In this class, some students have said that it is on the easy side, but I think this can be remedied with extra materials. For most students, it seems at an appropriate level. Some students are asking to learn more expressions, so now that the foundation has been set in Q1, they will get their wish, starting in Q2.

Many students are getting used to having a class entirely in English, so they worry about the details of homework. Sometimes it was not sufficiently clear for them without clarifying with me later, so from Q2 I will be using Schoology to manage homework materials, which makes things easier as students can check again anytime.

外国語教育センター 外国語教育センター
GOTOH, Mie　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]7
授業コード	11A09-007
教員名	GOTOH, Mie
教員コード	100186
登録人数	23
回答数	23
回答率	100.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



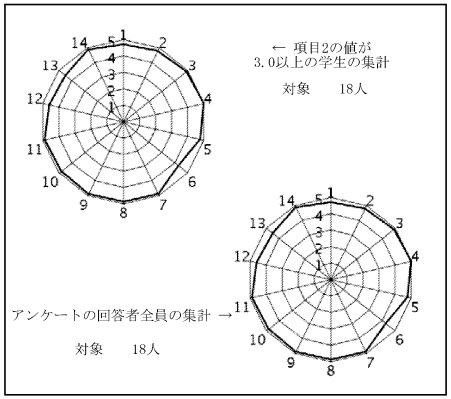
授業評価結果を踏まえた点検・評価

オーラル・コミュニケーションでは、できるだけ生徒が英語を聞き、話す機会を増やす機会を増やすこと、そしてリーディングでは、テキストとGraded Readersで様々なトピックの英文を読み、英文を読むことが楽しめることに努めました。グループワーク、ペアワークなどを多く取り入れて楽しく、興味を持てる授業作りを心がけ、多くの生徒が抱いている英語に対する苦手意識を少しでもなくせるよう努力しました。生徒のコメントには、「教え方が分かりやすかった」「ペアワークが多く英語で様々な人とかかわれることができた」「毎回席がかわるので同じクラスの子とすぐに仲良くなり楽しく学べる」「実践的な英語を学ぶことができた」などの内容が多かったです。
ただ、入学してまだ数か月しかたっておらず、英語力が伸びているか、授業の目標に到達しているかが、実感として感じてもらうことが難しく思いました。今後の課題としては、毎回の授業での到達目標を明確にし、生徒にも着実に力がついていることを実感してもらえるように工夫したいと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
KUMAI William N.　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]5
授業コード	11A09-019
教員名	KUMAI William N.
教員コード	000204
登録人数	20
回答数	18
回答率	90.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



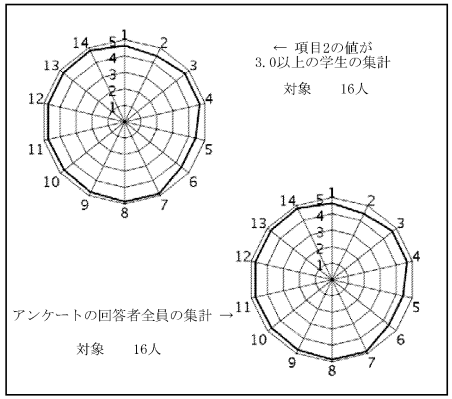
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The first quarter represents the inaugural class, for this instructor, of English I: Communication Skills. Some experience gained from V and VI from last year were applied to this class. There were 34 goals listed in the syllabus provided by the Foreign Language Education Center; simplified, the present class focused on conversation skills and reading skills. Special care was taken to ensure high motivation in the speaking activities and that all students would be participating in English. Students indeed improved in speaking skills and performed well on the final examination based on the readings in the Reading Fusion 1 (Nan'un-do, 2011) textbook. The student complaint on question 16 related to active learning. Students are expected to follow the textbook regularly in addition to extensive reading on their own; any questions arising from the text would be dealt with in the class. Obviously no questions were asked in the class. Thus in quarter 2 students will be again reminded that they may bring their questions to class about the reading assignments.

外国語教育センター 外国語教育センター
BAILDON, MARTIN　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[E] 2
授業コード	11A09-026
教員名	BAILDON, MARTIN
教員コード	102326
登録人数	20
回答数	16
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



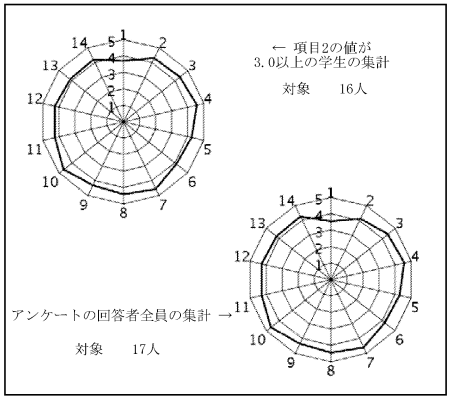
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was satisfied that the majority of the students reached the reading targets, performed well on vocabulary quizzes and were able to discuss their ideas and opinions on topics in English. I am satisfied with this evaluation especially since students gave high scores and positive comments for questions relating to attitude of the instructor (Q7&8). Written comments also referred to the professionalism of the instructor and opportunities to speak and communicate in English.
Regarding lower scores from the questionnaire which mainly referred to understanding and implementation of the class goals (Q5&6), I would like to remind students of course goals and what is expected at lesson 7. I will refer them to the front page of the textbook where the syllabus is printed. I will take a survey of what they believe are the goals and remind the students of differences with actual objectives of the class. In Quarter 1, although these goals were highlighted at the beginning of the course they were not repeated throughout. One comment referred to amount of homework. I will endeavour to provide some time in lessons for students to complete some of the homework tasks in class.

外国語教育センター 外国語教育センター
KLUGE David E.　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[S] 1
授業コード	11A13-007
教員名	KLUGE David E.
教員コード	100398
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course and the extent to which they were achieved.
The goals for the course for Q1 were to improve the reading and speaking abilities of the students. Both goals have been accomplished to a large degree. For the reading goals, students have been continuously working on the readings in the text (both essays and poems), newspaper articles, SRA reading laboratory cards, and extensive reading. For the speaking goals, students have done activities to improve conversation, discussion,and interpretive performance. Students had many handouts and performances which showed their improvement.

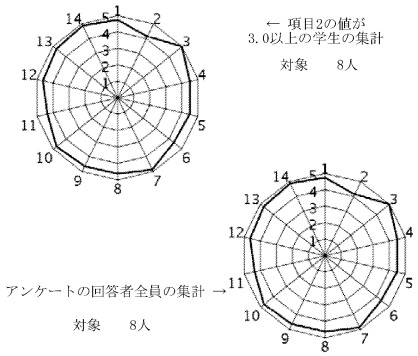
An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc.
I was quite happy with an overall average of 4.38 for the class. I was especially pleased with the 4.59 scores for composition and progress speed (Question 4) and for the honesty and seriousness of the teacher (Question 7). I was also happy about the 4.65 score for Question 10 about appropriate action against student actions that were disruptive.

Thinking ahead towards the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures etc. you will take.
I would like to improve the score for Question 13 regarding overall satisfaction with the class (4.24) through more attention to what the students want to learn and how they want to learn it.

外国語教育センター 外国語教育センター
OLIVERO, Regis　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語I＜F＞
授業コード　11B01-003
教員名　OLIVERO, Regis
教員コード　104119
登録人数　22
回答数　8
回答率　36.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



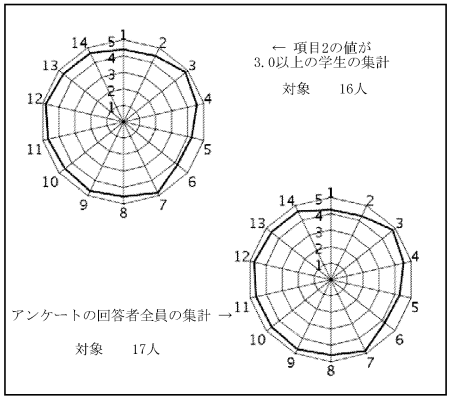
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Since I was in charge of students who were all beginners in French, the goal was to help them acquire basic skills such as how to introduce themselves and interact in the classroom. Grammar and vocabulary also allowed them to get familiar with the structure of the language while written and comprehension exercises were carried out in order to get them ready for the quarter final test. The results were quite satisfying since almost all the students did well and passed the final exam.
If possible, I would like the students to be more proactive in the classroom and make sure they know what is expected from them. It is Indeed vital to give them clear instructions and ensure they review lessons and do their homework.
On top of getting the students prepared for the second quarter final test, I intend to focus on oral communication and comprehension. I believe that by doing so, students will gradually be able to express themselves much more effectively and gain confidence. Therefore, I want to carry out a mid-quarter oral test to balance the different skills they need to acquire. To make the students work together is self-motivating and also an effective way to achieve that goal.

外国語教育センター 外国語教育センター
梶浦　直子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語I＜E・B＞1
授業コード　11C01-007
教員名　梶浦　直子
教員コード　102557
登録人数　18
回答数　17
回答率　94.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



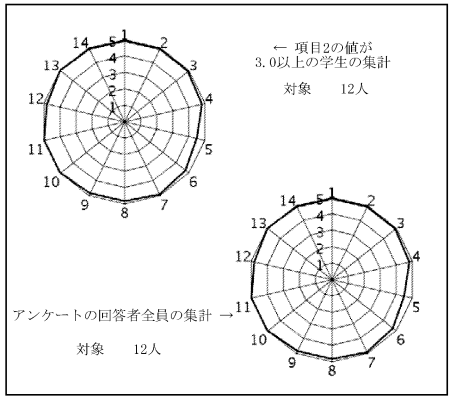
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、ドイツ語の基礎知識を覚えることでだけなく、ドイツ語の運用能力を習得することにある。
授業では多くのグループワークを取り入れ、学生は積極的にグループワークに参加することが求められた。このクラスは規模が小さいこともあり、学生同士が活発に意見交換しながら協力的に課題に取り組んでいた。自由記述においても授業の進め方に関して評価されていることから、学生たちがはじめの一歩をうまく踏み出したと感じている。
　また、学習態度だけでなく、学習の成果も授業内でおこなったプレゼン等において表れていると感じる。しかしながら、設問６「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」（4.18）の評価が低いことから、学習者は自身の学習成果を十分に評価していないことがうかがえた。その要因として考えられるのは、グループワークを中心とした学習に馴染んでいる学習者が増える一方で、従来の受動的な学習方法から抜け出せない学習者がいることである。今後はこの点に留意し、授業においてこれまで以上に授業の目標を明確に伝えるようにし、問題や不安がある場合は設けている学習相談の機会を気軽に利用してもらえるように努めたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDEROS NERI, Sergio Gustavo 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語I[FS]2
授業コード	11D01-006
教員名	LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード	103688
登録人数	13
回答数	12
回答率	92.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

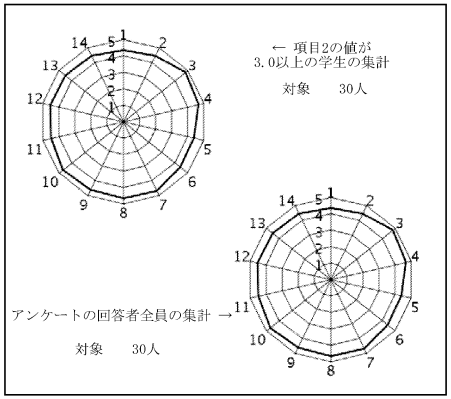
Evaluation report for class 11D01 006. 2019-1Q.
Prof. Sergio Neri

The original objectives for this class were as follows:
1)-Developing a foundation for the pronunciation of Spanish phonemes and its correspondence with graphic signs. This was presented in a natural way, yet rationalized step by step with special emphasis on prosody, the patterns of stress, intonation and rhythm.
2)-Developing functions and notions of Spanish language according to a constructivist approach, taking advantage of the knowledge already acquired by the students in Japanese language and adjusting them to the Spanish particularities.
3)-Developing a communicative competence that allows students to:
-Express and respond to greetings and farewells.
-Introduce themselves with name, origin, nationality, age, profession, phone number, e-mail address. Also, to ask other people this information.
-Describe other people's aspect, character and their relationships with other people.
-Talk about likes and dislikes, and compare them to the ones of other people.
-To talk about places and the existence or lack of services in a certain location.
As for the results of the survey, it can be interpreted from the graph that the answers of the students were positive compared to the media.

外国語教育センター 外国語教育センター
虞 萍 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語I＜E・B＞6
授業コード	11F01-016
教員名	虞 萍
教員コード	101432
登録人数	30
回答数	30
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

教科書の一部の内容は「期末試験の出題範囲外」となっているため、シラバスの「到達目標」に書かれている「1. 基礎単語250語を習得している。」は到底達することができません。「2. 韻母、声母と声調を正しく発音できる。」と「3. 中国語の音を正確に聞き取ることができる。」の「到達目標」はきっちんと到達している、と実感しています。来年度以降は採用する教科書の難易度や出題範囲についてもっと工夫しなければなりません。

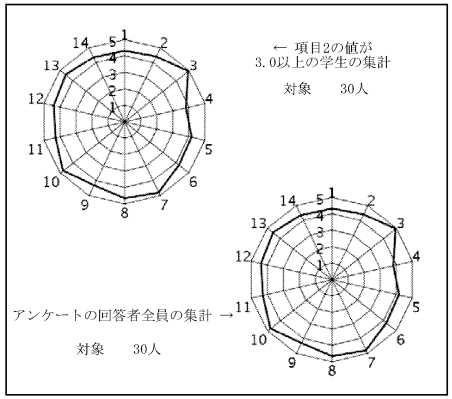
今期も学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対して、以下のような称賛するコメントをいただきました。「発音が聞き取りやすかったです。褒めるところを褒めて、直すところを適切に指示してくれた。」、「教科書にそって丁寧にすすめられていた。」「小テストは大変だけど覚えられて良かった。」「授業の中でたくさん発音したりしたから覚えやすかった。」「参考文書を教えてくださったり質問に対して分かりやすく説明してくださいました。」「書けるだけではなく口述のテストをしたことで話せるようにもなった。発音を間違えていたらその都度指摘してくれることが良かった。」「小テストがあったため、少しずつ頭に入れることができました。」「言語についてのみではなく、教科書に書いてあるタクシーのイラストから、『普段は中国人はタクシーに乗る時～する。』など、教科書には書いていない事まで教わることができたこと。」

今後も学生と力を合わせて、楽しくて且つ充実な授業ができるように模索したいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
陸　心芬　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国朝鮮語I＜J・P＞1
授業コード　11G01-005
教員名　陸　心芬
教員コード　101225
登録人数　30
回答数　30
回答率　100.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1で授業の目標にしていた、文字と発音を習得し、読み書きができることと、自己紹介及び簡単な挨拶表現や相槌表現ができることについては、おおむね達成したと言える。学生による授業評価の項目3～14の平均値が4.44を示しており、評価にそれが表れていると思われる。

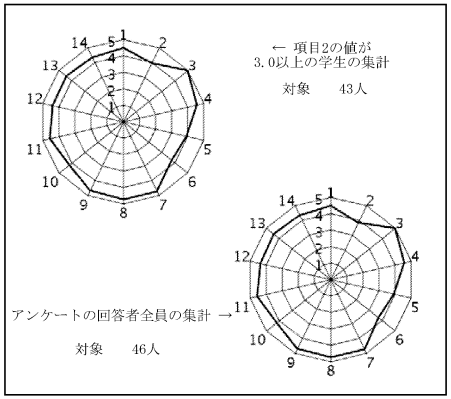
自由記述欄の良かった点としてたくさんのコメントを書いてもらった。具体的な内容は、短時間で韓国語の基礎力が付いたこと、分かりやすさ、プリントが分かりやすく工夫されたこと、たくさんの小テストでハングルを身につけられたこと、適切な発音ができるまで丁寧に指導してくれたこと、質問がしやすかったこと、回数を重ねていくうちに韓国語が理解できるようになったことなどである。私にとって良かった点は、クラスの人数が30名になり、学生と向き合って指導ができたことである。なお学生たちが学習意欲を維持しながら最後まで頑張ってくれたことである。

改善すべき点としては、「授業の進みが少しはやい」の意見が8名に達していた。来年度は学習進度を改善して学生の負担を軽くするように工夫していきたい。他の意見としては「小テストまでの期間を延ばす」の意見があり、小テストが一週間2回連続であったことについては一週間1回に再調整していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
六川　雅彦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教育入門
授業コード　24C05-001
教員名　六川　雅彦
教員コード　101221
登録人数　69
回答数　46
回答率　66.7%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の自己点検・評価報告を何度も書いているが、今回はこれまでと違うところが2点あった。それは、Q1に開講したこと（これまではQ3に開講）、受講者数が100名以下だったことである。個人的には1つ目の違いが2点目に関係しているように感じているが定かではない。また、これまでと違う点があるので前回までの評価結果と単純に比較できないことも自覚しているが、今回の結果から気が付いたことを前回までの評価結果と比較しながら以下で紹介する。

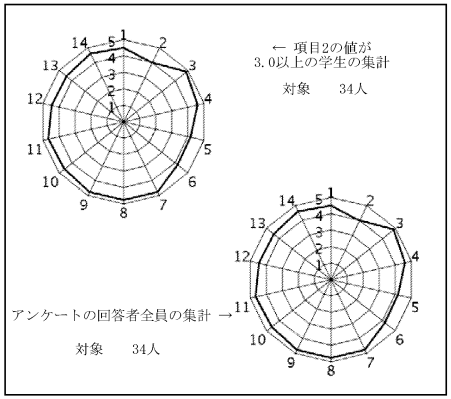
まず、前回に比べて全体的に評価が高く、全体の平均が0.15ぐらい改善できた。前回は前々回よりも評価結果が良かったため、上昇傾向にあると言える。この傾向が維持できればと考えている。平均値が4.0を超えた設問の数は前回が10だったのに対し、今回は11と微増であった。今回の結果で否定的な評価が最も多かったのは設問6で、前回も同様であった。次回担当する時の重点項目としたい。

自由記述に関しては、今回も授業の進め方、私の熱意に関する好意的なコメントが最も多かった。この点には満足している。また、今回のアンケートの回答率が高かったことにも満足している。到達目標の達成具合に関しては、今回の評価コメントから、おおむね達成できたと判断している。受講者の約7割からの回答が得られたため、今回のアンケート結果は受講者全体の意見を反映していると言えるだろう。

外国語教育センター 外国語教育センター
町田　奈々子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教育文法(初級)1
授業コード　24C61-001
教員名　町田　奈々子
教員コード　017483
登録人数　43
回答数　34
回答率　79.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

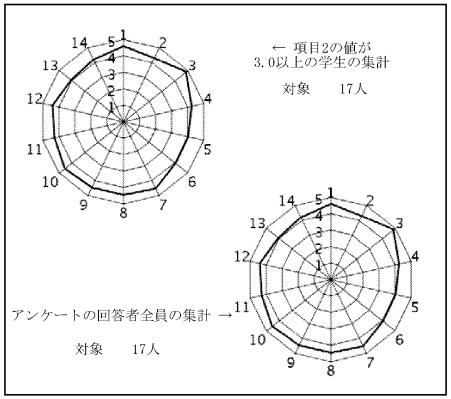
このクラスは、日本語初級を教えるために必要な文法について理解することを目標とした授業であるが、出席率も高く、真面目に取り組む学生が多かったため、授業運営は非常にスムーズに行うことができた。評価の平均も4.6以上であり目標は概ね達成できたと思われる。特に設問の7.8.9.11の評価が高く、教員の授業に対する誠実な姿勢や学生の理解度への配慮及び積極的に学習意欲を引き出すような工夫という点について高く評価されたことは嬉しい。母語である日本語の文法は、普段意識することがほどんとないだけに、内省や話し合いによって意識化することが非常に重要である。実際別科で使用している教科書の内容を取り上げ、実際の授業方法などにも触れながら、できるだけアクティブラーニング的な授業形態を取り入れるようにしたが、自由記述にも「グループワークやペアワークなど、能動的な学習があったので理解しやすかった」「聞くだけでなく参加できるので集中しやすかった」などのコメントがあり、功を奏したようである。今後も様々な工夫をして、学生が興味を持てる授業にしていきたい。

他の設問に比較すると、設問の5.6の評価がやや低かった。到達目標の理解にやや困難を感じる学生があったようである。この点は今後の課題である。学期途中に学生が達成目標を確認したり、理解を実感できるような授業工夫が必要かもしれない。

外国語教育センター 外国語教育センター
石崎　保明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English I3
授業コード　48A05-003
教員名　石崎　保明
教員コード　102444
登録人数　18
回答数　17
回答率　94.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

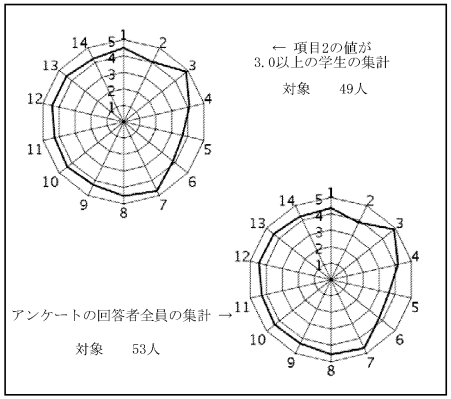
今回授業評価を受けた科目は、新入生向けの国際教養学科科目で、昨年度同時期と同じ科目となったことから、ここでは前回の結果と比べながら自己評価することにします。前回の結果の反省点として、項目5, 6, 13で1の評価を付けた受講生が各1名いたことから、今回は、毎回の授業の冒頭で、内容と学生が取り組むべき課題の範囲を前回よりも詳しく説明するよう心がけました。今回、上記項目を含むすべての項目で2以下の評価をつけた受講生がいなかったことから、当初の設定した到達目標に対して、おおむね受講生から満足を得られと考えます。

前回と比べて今回は、項目1から14の平均値が0.2ポイント、項目3から14の平均値が0.12ポイント、それぞれ改善されました。これは、家族問題や集団行動といった、新入生にとってはやや難しいとも思える社会問題に対して、グループで考え、発表するための時間を前回よりも多く設けたことが良い評価につながったと考えています。また、自由記述欄を見ても、プレゼンテーション技術が身についた社会問題等のアカデミックな問題について議論する機会を持てたという意見が寄せられていました。他方、もう少し早い進度を希望する学生が1名おりましたが、次回は、クラス全体の状況を見極めながら、個々の受講生が手持無沙汰にならないよう、継続的な問いかけをすることにより、改善を図りたいと考えています。

体育教育センター 体育教育センター
金　興烈　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スポーツ科学論1
授業コード　12D08-001
教員名　金　興烈
教員コード　102721
登録人数　93
回答数　53
回答率　57.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



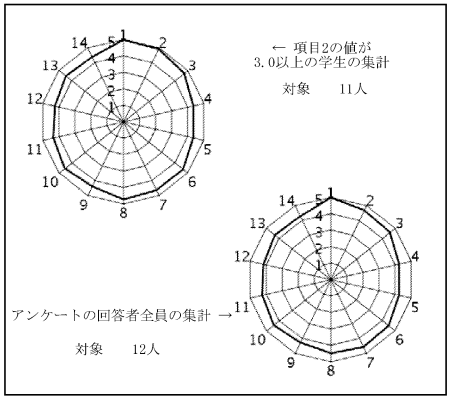
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.0点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかと思う。しかし、評価項目の、「I(5).この授業の到達目標を理解することができましたか。」の設問項目においては平均3.60%という全体平均に比べ、多少低い結果となっている。また、自由記述式設問の回答結果(項目16)では、「文系の学生でも理解できるような内容にしてほしい」という意見があれば、「簡単な内容なのに話を聞いていない学生のため、ゆっくり反復する時間がもったいなかった」という意見もあった。この授業が「難しかった」と回答した学生たちの共通点は、高校で「力学、物理、生物など」科目について苦手意識を持っている学生が多く見受けられた。しかし、苦手意識を持っていた学生の中でも、しっかり授業に出席し質問をするなど、向上心を持って取り組んでいた学生は、それなり良い成績を収めていることが確認できた。今年も、身体運動のメカニズムを一層深める目的として、エクセル分析を用いたデータ解析も試みたが、昨年と同様に約7割近くの学生がエクセル分析に親しんでおらず、苦戦する様子が見られた。個別アンケート集計でもエクセル分析に関する改善点(難しい、進行が早いなど)が最も多かったので、次年度はこれらの学生の意見を十分に考慮し、改善に向けて取り組んでいきたい。しかし、興味や新しい知識の習得などに関する設問において、一定以上の高い評価が得られたのは、授業運営に関する教員の取り組みが評価された結果であると考えられる。次年度の授業においても、自主的な学習が取り込めるような授業展開を工夫していきたい。また、毎回の授業において教員の熱意が全員に十分に受け止められているかといえば、必ずしもそうではないので、学生にどのようにして伝えていくかを工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

体育教育センター 体育教育センター
中路　恭平　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スポーツ実技(生涯スポーツ)バレーボール
授業コード　14E05-002
教員名　中路　恭平
教員コード　015255
登録人数　14
回答数　12
回答率　85.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。
学生の評価は概ね良好であったが、授業の進行や指導,説明に関してやや低い項目も見られた。回答者が12名しかいなかったため、1人の回答が低いことで全体に影響を与えている可能性がある。この授業ではバレーボールを行ったが、経験者がほとんどで技能レベルが高いクラスであった。経験者は同じサークルに所属する仲間同士という中で初心者には個別指導を心がけたが、もう少し手厚い指導が必要であったかもしれない。
履修者は14名と少なく、4年生の割合が多かったため、就職活動で欠席する者が目立った。チームスポーツなので、人数が揃わないと予定した練習やゲームが行うことができないという難しさがある。選択の科目であるため、途中で履修放棄する学生がいるが、それが多いと授業計画が狂ってしまう。このことは毎年感じるが、解決策は容易には見つからない。

体育教育センター 体育教育センター
飯田　祥明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)バスケットボール
授業コード	14E05-003
教員名	飯田　祥明
教員コード	103610
登録人数	13
回答数	3
回答率	23.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①
本科目の目標は「バスケットボールのルールを理解している」「チームでの自分の役割を理解している」「バスケットボールの基礎的技術とゲームにおける戦術を実践できる」であった。まず前提として、今学期に関しては恒常的な受講人数が10名に満たず、5人制のバスケットボールがほぼ実施できなかった。そこで、近年正式種目となった3人制のバスケットボール（3x3）を題材にして授業を展開した。序盤は主流である5人制のバスケットボールのルールとの違いに戸惑う様子も見られたが、最終的にはルールや役割分担や必要な技術・戦術の理解が進み、3x3らしい展開のゲームが実施できるまでに習熟が進んだ。

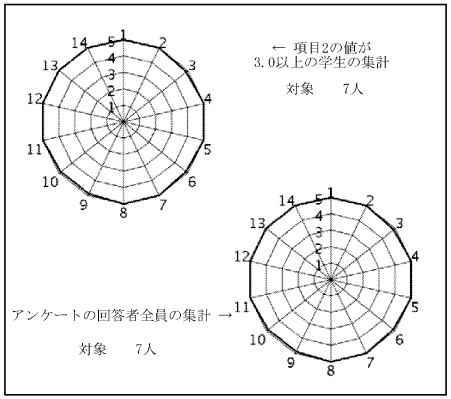
②
回答データによると、どの項目も平均4.66以上であり、全体的な満足度は高かった。ただし、受講人数が少なかった点に関しては改善した方が良いという意見があった。

③
今学期では受講人数が少なかったこともあり、初めて3人制のバスケットボールを題材に授業を展開したが、大学体育の教材として充分活用できることが確認できた。一方で、やはり5人制のバスケットボールを実施したいという要望もあったため、曜日時限などを変更することも含めて受講人数の確保に努めたい。また、貴重品管理の問題でスマホなどを教場に持ち込まない受講生が多いため、呼びかけだけではアンケート回答者が少なくなってしまう点も改善していきたい。

体育教育センター 体育教育センター
加藤　孝基　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(フィットネス)フィットネス
授業コード	14E06-001
教員名	加藤　孝基
教員コード	104117
登録人数	29
回答数	7
回答率	24.1%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



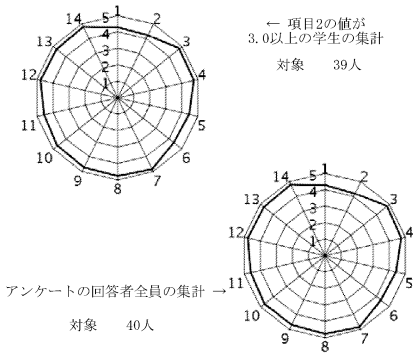
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、体力・競技力を向上させるための多様なトレーニング方法について学習し、生涯にわたる健康づくりの礎を築き、自身の体を変化させることの楽しさを実感してもらうことを目的とした。多くの学生にとって、これらの目標はおおむね達成できたと感じている。授業内での学生との対話を多く設け、学生各々の健康づくりを見直すきっかけを作ることをより強く意識した。
②いくつかの項目は5点であったが、そうでない項目について授業法を見直す必要があると感じる。例えば、配布資料をより多く用い、実践に加えて知識をより多く教授できるよう、工夫したい。
③一部の学生が出席不良により単位不認定となったが、そのような学生を極力減らすことができるような取り組みを行いたい。具体的には、授業の前半でこの授業の面白さや重要性が伝わるよう、全ての学生とコミュニケーションを多くとり、健康づくり等を各々意識することができるような工夫を行いたい。

研究所 南山宗教文化研究所
斎藤　喬　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化の比較3
授業コード　13A01-003
教員名　斎藤　喬
教員コード　103192
登録人数　49
回答数　40
回答率　81.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



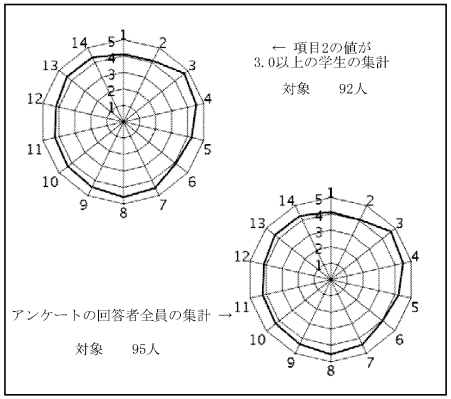
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①全7回のミニテストの経過を見る限り、大半の生徒において具体例の提示による記述力の向上が確認でき、内容的にも深めて考察できるようになっていた。また、最終的なレポートにおいては、ほとんど全ての受講者に授業の内容をさらに深めて自分なりに分析しようとする努力の成果が見られ、充実したものとなっていた。そのため、トータルで75%程度は到達目標を達成したと考えている。
②３１～６０名の科目における質問1-14の平均値4.38、質問3-14の平均値4.42であるのに対し、当該科目は前者4.62、後者4.68と、0.24～0.26ポイント上回っている。また、自由記述を見ると好意的なコメントが多いことから、これらは授業の内容及び形式に関してシラバスで掲げた目標を受講者がきちんと受け止めることのできた結果であると判断している。
③授業の改善点について、自由記述では話すのが少し早いという指摘を受けたので、この点は次クオーターから注意していきたい。また、設問２に関して、事前・事後学習についての指示が行き届いていなかったため、この点は次クオーター以降徹底していきたい。

研究所 人類学研究所
宮脇　千絵　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民族問題と人間の尊厳2
授業コード　10D08-002
教員名　宮脇　千絵
教員コード　152580
登録人数　187
回答数　95
回答率　50.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



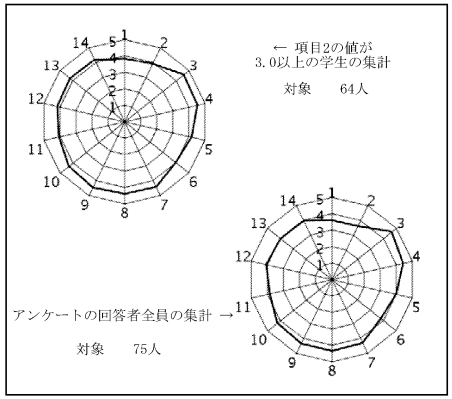
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初設定していた目標と到達の程度については、おおむね達成できた。昨年度に続き2年目の内容なので、内容を少し修正しながら、時事的なトピックも盛り込むことができた。また今年度は、学生に多くの「問い」を投げかけることを意識し、「自分で考える」、「身近な問題としてとらえる」ことを促すようにした。
②同じ内容で複数回授業をおこなっているが、開講時間によって学生の姿勢や態度に違いがある。今年度の対象となったのは、比較的落ち着きのない雰囲気になることが多い講義だった。そのためかは分からないが、2回にわたって入力を呼びかけたが回答率が低かった。
高評価を得られたものは、3番、4番、5番などであったため、授業の進め方には問題がないようである。一方で、2番や6番など、学生の主体的な取り組みに関する部分では低めの評価となった。
自由記述は、おおむね好意的な意見であった。特に、授業冒頭で前回のリアクションペーパーを紹介することが、「みんなの意見をシェアしてくれる」、「前回のコメントとともに先生の考えを伝えてくれるので、そういうことだったのか！と自己解釈をする機会となり、良かった」等の評価を得た。また「説明が分かりやすい」との評価も得た。
一方で、授業前に配布資料だけみてリアクションペーパーを書き、授業を受けずに帰ってしまう学生がいることも指摘された。大人数講義ゆえ、代理提出をどう防ぐかは引き続いての課題である。
③講義がすすむにつれて問題意識や関心を広げていく学生と、そうでない学生とに差ができてしまうことを感じる。多くの学生に、身近なところから問題意識を持ってもらう機会となってほしいと思い、成績評価のハードルを低めに設定しているが、意欲的な学生をより正当に評価できるような仕組みを考えていきたい。

研究所 社会倫理研究所
MERE, Winibaldus Stefanus　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済と人間の尊厳4
授業コード	10D04-004
教員名	MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード	101180
登録人数	119
回答数	75
回答率	63.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



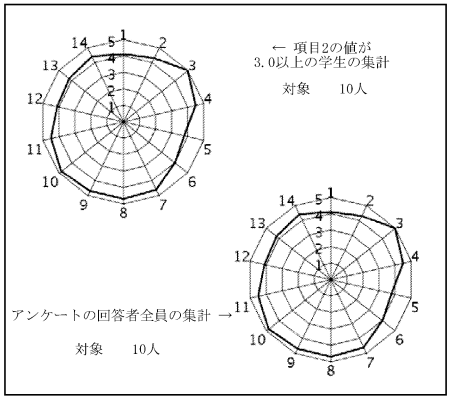
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1). In general the course was carried out in accordance with the objectives setting up in the syllabus. Looking back at the whole process and the reactions from the students as appeared in the reaction papers at the end of every class, it can be said that the course had achieved itsx objectives, as it enabled the students to realize and deepen the understanding about the central role of human dignity as an ethical foundation and guiding principles for every economic and political activities.
2) Over all it can be said that this was an 80% successful course, utilising an effective teaching method that combined dialogic process of teaching and learning, and means (such as slide/power point and hand out) that enabled students to easily understand the course.
3) More time span will be provided and more number of students are expected to be involved in the discussions during the class.

人文学部 人類文化学科
吉田　泰幸　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代の考古学
授業コード	22C12-001
教員名	吉田　泰幸
教員コード	150655
登録人数	15
回答数	10
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



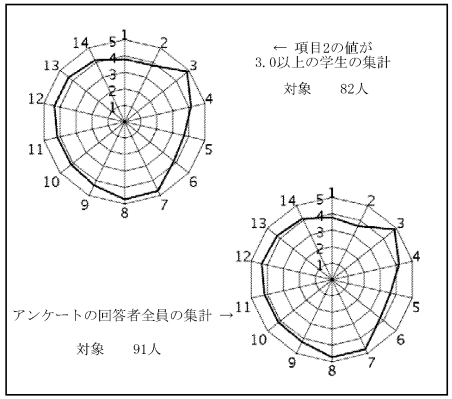
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目は講義担当者が共編著者となっている300頁超の図書を学生が事前に読み感想と質問を小リポートで毎回提出し、それらをもとに授業を進めた。課題図書は金沢大学リポジトリからPDFで取得可能である。この授業方式はシラバスにも記載したが、事前にシラバスを読んだ学生は少なかった。授業初回で授業方式を伝えたところ、受講者数は仮登録26名から15名に減った。この減少は残念だが、15名の毎回の小レポート提出率は高く、定期試験レポートでの理解度も高く、概ね目標は達成できた。
②本科目の平均値が学生評価対象科目全体、人類文化学科科目の平均値を上回ったのは評価できる。自由記述は二名のみであったが、ポジティブな評価であった。毎回のレポートの質問にすべて授業内で対応できた、対応できる学生数であったこと、二コマ連続授業の特性をうまく生かせたのではないかと分析している。平均を大きく下回ったのは項目5（授業理解度）であった。課題図書が大学院生以上向けであることが原因だろう。しかし定期試験レポートの結果は良好なものが多く、今回受講の学生は本人たちの理解度に比べて、自己評価が低いのかもしれない。
③本科目については金沢大学大学院や英国の大学のサマースクールなどで、主に大学院生向けの少人数授業を数多くこなした経験が生きたと考えている。学生数が多い時や週二回授業の場合にも対応できる引き出しを教員としては準備しておくべきであろう。

人文学部 心理人間学科
米山　薫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　神経・生理心理学
授業コード　23C69-001
教員名　米山　薫
教員コード　104086
登録人数　130
回答数　91
回答率　70.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



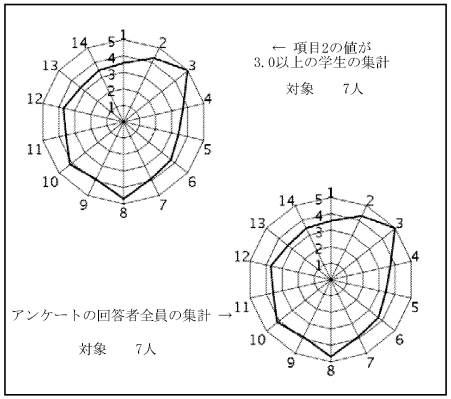
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①神経心理学及び生理心理学の基本的な知識の習得という点については概ね目標を到達できた学生が多かったように見受けられる。
本講義は2年生から4年生が履修しているため知識レベルにやや差があり，2年生については基本的な心理学的知識についても若干の補足が必要であると感じた。今後は補足資料等を利用して予習・復習などを促し，さらに理解が進むよう改善していくつもりである。
②授業内容及び授業の進め方については大きな問題はなかったと思われる。他方，配付資料については「字が小さい」などの指摘を受けた。今後はより適切な資料を配付することを心がけるが，WebclassでもPDFをアップしているため必要に応じて各自で適宜大きさを調整しながら印刷するよう周知する。
③本講義は専門的な内容が多く含まれ，2，3年生にはやや高度であると予想されたが，学生自身の向学心もあり，難しい内容にもかかわらず積極的に学んでくれたように思う。その一方で，知識レベルの差を埋めるための基本的知識の補足をするためにしばしば授業時間が足りなくなるもあった（結果として「進度が速いときがある」との指摘もあった）。来年度以降については，レベルは落とさず，しかしテーマを少し絞ることにより，より理解が深まるように授業を進めていこうと考えている。

人文学部 日本文化学科
土谷　薫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　からだとことばI
授業コード　24C06-001
教員名　土谷　薫
教員コード　064352
登録人数　36
回答数　7
回答率　19.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



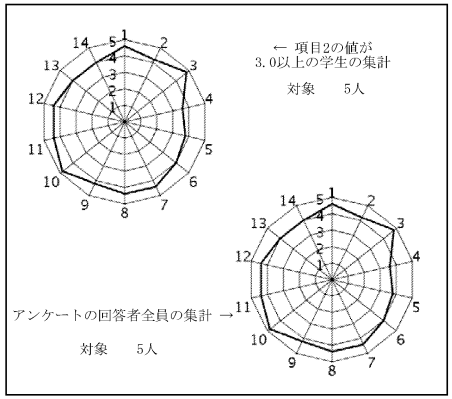
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、初回の授業でこの授業についての概要を伝え、学生自らが授業へのモチベーションを見つける（高める）ことから始まった。
例年、「何のためにやるのか」わからず、参加意欲が湧かないという学生の感想を見てきた。特に第１クオーターでは、悶々としたまま終わってしまった。という感想も度々あったため、今年度は授業に取り組む意欲や各自の目的について話し合う時間を持った。その結果、毎時間の学生の授業への取り組む姿勢や集中度が変わったように感じる。
書籍を読み進めてのレポートを定期的に提出してもらうことで、授業で体験していることの理解がより深まったように思われる。
第２クオーターに向けては、まず第１クオーターで体験して得たことを明確にし、第２クオーターに向けて各自が目標を持つことから始めたい。
個人（自分）のからだと向き合うことからチームでの「表現」の場になるため、他者との協働作業にどう取り組んでいくのか自分自身の表現にどう向き合っていくのか・・
第２クオーターでは、上演に向けての稽古を通し、一人一人のからだ・ことば・表現と向き合い各学生の気づきを深めていきたい。

人文学部 日本文化学科
大井田　晴彦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　王朝文学研究
授業コード　24C34-001
教員名　大井田　晴彦
教員コード　101186
登録人数　29
回答数　5
回答率　17.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



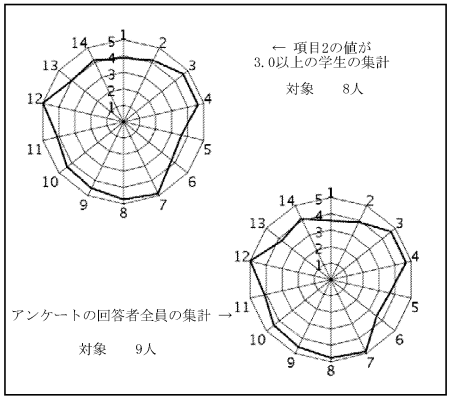
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①概ね目標は達成した。
②学生の受講態度は良好であるが、やや消極的である。質問をしてもあまり反応がない。
③クォーター制が学生の学力向上に有効なのか検討したほうがよいと思う。予復習も不十分で理解が深まらないうちに、授業が終わってしまう面があるのではないか。一年時に基礎的な知識が身につくような授業をしていただけると、ありがたい。

人文学部 日本文化学科
三宅　宏幸　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近世文学研究
授業コード　24C36-001
教員名　三宅　宏幸
教員コード　103077
登録人数　46
回答数　9
回答率　19.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は江戸時代の小説―特に曲亭馬琴の読本―を通じて、〈史実〉と〈虚構〉について考察するものである。

開講当初に設定した目標は、①曲亭馬琴読本の性質やその読み方について理解している、②文学研究を通して小説の〈虚実〉や〈趣向〉について理解している、であった。しかし、江戸時代の小説は一般的に認知されているとも言いがたい。

そこで、今期の授業では以下の工夫を施した。１、２限が連続で行われる時間割を利用して、１限目に大まかな概要を説明した上でテキストを読み、学生に気になった点などをコメントシートに書いてもらう。休み時間中にそのコメントからいくつかを取り上げ、様々な意見を紹介、２限目に担当者が準備した読み方の一例を紹介した。

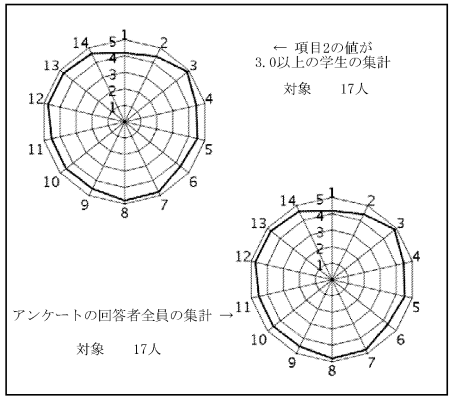
江戸時代の読本は今で言う時代小説であり、〈史実〉に沿いながら〈虚構〉を混ぜ込んでいく。その観点から、作者の執筆に対する工夫を見出すことを学生とともに行った。

アンケートでは、授業の進め方やスピードについては評価が高かった。総合的な自己評価としては「可」であるように思う。一方で、あまり知識を持ち合わせていない対象を扱ったためか、到達目標に及んでいないという学生自身の評価も見られた。だが、授業中のコメントシートを拝見する限り、学生は高いレベルで理解していたと感じている。今後は、学生における理解について、授業中に反応を返していこうと考えている。

外国語学部 英米学科
山中　美潮　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies E
授業コード	31C20-001
教員名	山中　美潮
教員コード	104034
登録人数	25
回答数	17
回答率	68.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



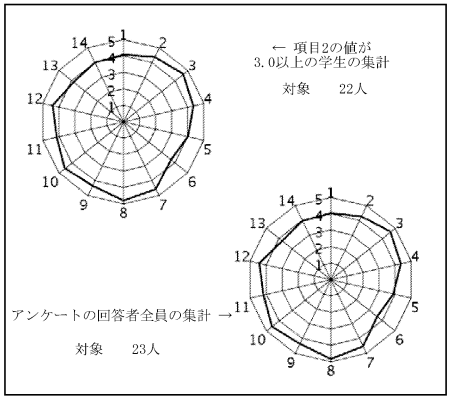
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義の到達目標は、1. Understand the characteristics of American society from multiple actors, standpoints, and events、2. Analyze American society from historical perspectives、 そして、 3. familiarize themselves (students) with primary sourcesであった。設問5については4.53の数値を得たが、設問6では4.35と若干数字が下がっている。学生は目標を十分に理解していると考えられるが、その達成に向けた道筋を更に明確にする必要があるだろう。
②今回初めて教える講義ということもあり、学生の理解に合わせ微調整をしながらの運営であったが、設問13では4.71という評価を得た。自由記述欄によると、資料読解だけでなくパワーポイントなどで視聴覚資料も組み入れたことが好評であった。また、毎回ディスカッションを行う時間を設け、質問のしやすい環境作りを心がけた。結果、設問12で4.76の評価を得た。
③英語での専門用語の理解に想定以上に時間を要することがあった。用語集を配布するなどして対応してきたが、自由記述欄でパワーポイントを共有してほしいなど要望があったので対応を前向きに検討したい。

外国語学部 英米学科
吉田　江依子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語の構造
授業コード	31E15-001
教員名	吉田　江依子
教員コード	103084
登録人数	87
回答数	23
回答率	26.4%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



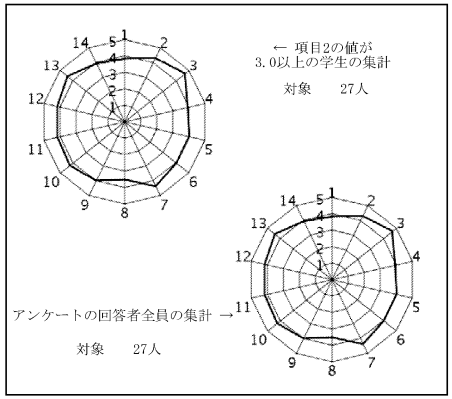
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定した目標と到達について
シラバスに従って当初の目標どおり講義を進めることができた。到達度を図る定期試験については64.1点であり、学生の習熟についても一定の目標は達しているのではないかと考える
②総合的な自己点検・評価
今年度の学生からのアンケートを見る限り、授業の形式、内容等、概ね良好であったのではないかとの感触を得ている。特に自由記述においてこれまでと比べて本講義におけるよい評価が多かった。これは毎年のアンケートの指摘点を真摯に受け止め、改善を行ってきた結果であると考える。また、特に講義内容である英語の構造について興味が持てたという意見もあり、本講義の目標が達せられたように思われる。自由記述については、資料が分かりやすいという学生がいる一方で、資料をもう少し分かりやすくしてほしいという学生もいる。また、授業が分かりやすいという学生と進度が速すぎて分かりづらいという学生もいる。学生のレベルによるものでもあろうが、試験結果からも両極端な結果（最低点19点、最高点100点）があり、学生のレベルに対する対応は今後も考えていきたいと思う。
③改善点
学生に評価を受けた点については、次年度以降も継続して行っていきたい。問題点として資料をweb classではなく配布してほしいという意見があったが、本講義のように多人数のクラスでは確実に資料を得られるということからも今後も継続していくつもりである。

外国語学部 英米学科
藤本　博　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際関係特殊研究A
授業コード	31E32-001
教員名	藤本　博
教員コード	100125
登録人数	54
回答数	27
回答率	50.0%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、従来の講義と同じく、三つの工夫を行った―①テキストを指定し、予習を促す。②毎回、リフレクションペーパーを提出してもらい、そこで出された質問に関しては次の講義で回答する。③映像教材を多用し、関連図書等を随時紹介する。

全体として，期待した数値を下回る結果となった。項目1から14の平均値は「4.12」で、とくに、講義の満足度に関する項目14では平均値が4.0を下回って「3,93」の数値であった。ただ、内容理解の努力等を問う項目2、新しい知見を得たか等を聞く項目13で、それぞれ「4.30」，「4.41」と、リフレクションペーパーの活用等の結果、受講生の勉学意欲は一定得られたと考えている。自由記述欄では5名（回答数27名）の受講生が好意的評価を書いており、中でも「映像を交えてわかりやすかった」等の意見は、今後の授業展開に参考にしたいと考える。

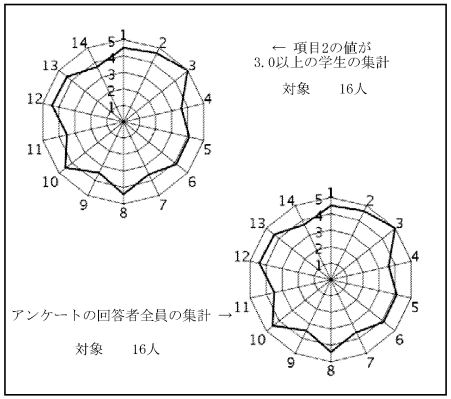
上述のように満足度を問う項目の平均値が「4.0」を下回る結果であったことから、今後かなりの工夫が必要であると痛感している。今後の課題としてとくに以下の2点に留意したい―①テクニカルな点では、教員の声が聞きとりやすいよう心がけるとともに、授業改善の自由記述欄に「パワポとレジュメが対応していない」との意見があったことをふまえ、パワポとハンドアウトの整合性に留意する。②討論の時間があったことについて自由記述欄で好意的評価があったが、討論の時間を十分とり相互共有も図ることによって、興味・関心を喚起し、学習意欲を高めるよう一層の工夫をする。

なお付言すれば、授業評価回答の受講生が授業登録者の7割程度であり、回答者数を増やすことも心がけたたい。

外国語学部 英米学科
クマイ　恭子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy4
授業コード	48A11-004
教員名	クマイ　恭子
教員コード	101131
登録人数	20
回答数	16
回答率	80.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

リサーチペーパーを一本書きあげることとコンテンツ・リーディングの読解力増強を目標として授業を行った。原則として火曜日をライティング、金曜日をリーディングという形にして授業を進めた。

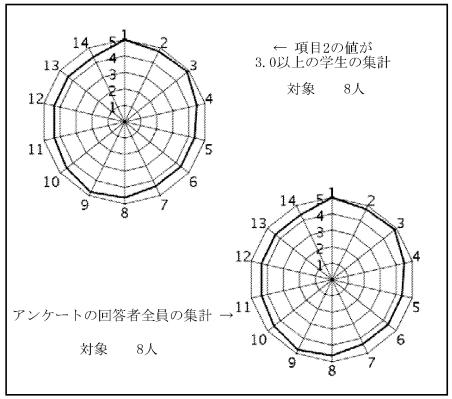
ライティングはリサーチペーパーを書くことが目標だが、初めての概念やルールが多く、英語で運営するのは難しいと思われる部分があった。間違えやすい（課題や提出物で誤りが多い）ものに関してはハンドアウトやマニュアルを作ったり、参考になるウェブサイトを紹介し、授業内でも４－５回繰り返し、日を変えて強調してきたつもりだが、「個人的に質問したが教えてもらえなかった」というコメントがあることから、数回繰り返していることが学生には伝わらなかったようである。今後の課題としては、学生が読みやすいマニュアルを作成することと、適宜日本語に切り替えて説明するようにすることだと思われる。具体的には参考文献リスト作成と引用の仕方に困難を感じたようである。個人的質問の時間をおおくとり、個々に対応したのは功を奏したと思われる。

リーディングは、グループでディスカッションしてもらうことが多かったが、練習課題の中にライティングで履修する要素も盛り込んだため、それなりにスキルを習得できたのではないかと感じている。特にSustainabilityというテーマにそった概念についてはほかの授業でも勉強しているため、英語であってもなじみやすかったようであるが、読解課題でも引用を組み入れたものは誤りが多く、「引用と参考文献リスト」は学生にとってなかなかなじめないものだということを実感した。学生には、自分でマニュアルから必要情報を積極的に探すことも評価の対象であることを積極的に伝え、自分でできることの大切さを伝えたいと思う。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
VILLALOBOS Antelma　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IB2
授業コード	32A11-002
教員名	VILLALOBOS Antelma
教員コード	101011
登録人数	22
回答数	8
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年は、去年と同じように生徒たちの授業参加はとても活発でした。しかしながら、生徒の10%くらい３回以上欠席しました。そのため、最終の試験では成績があまり高くといえません。

学生の全体的な態度は、相変わらずとても良かったですが欠席していた生徒たちが宿題を提出しなかったり、練習問題が完了できなかったりしました。

コースの担当者として、全力を挙げながら、授業ごとに学生の状態を観察しながら改善しながら進みました。

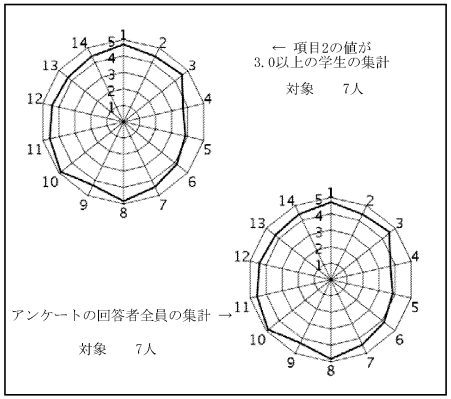
全般的に、このコースの最終目標を達成したため、とても満足しています。

Q3で再び同じクラスに教える機会がありますので、今現在はその準備中です。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
HOPKINS Mariella　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IB3
授業コード	32A11-003
教員名	HOPKINS Mariella
教員コード	103653
登録人数	23
回答数	7
回答率	30.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



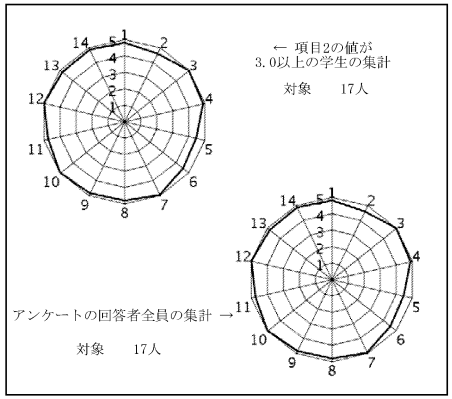
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)Los objetivos del primer trimestre fueron cumplidos de acuerdo a la programacion marcada en el syllabus. Haciendo enfasis en la buena participacion de los alumnos en las diferentes actividades que se planificaron para las clases sean estas individuales, en parejas o grupales.Por ser el primer trismestre de un grupo que recien empieza a estudiar un nuevo idioma destacamos que han realizado un gran esfuerzo de participacion durante toda la duracion del primer trimestre.
(2)La estructura de las clases se da en cada una de ellas, empezando por la revision de tareas asignadas en las clases anteriores, continuamos con el desarrollo del programa del dia correspondiente y por ultimo hacemos una retroalimentacion para verificar si el conociemiento ha sido asimilido. Este nuevo trimestre dejaremos mas clara esta informacion para que los alumnos puedan profundizar en los objetivos del curso y de la clase en especifico, relacionando este tema con el conocimiento que ellos deben de tener sobre la adquisiucion de una nueva lengua.
(3)Para el siguiente trimestre implementaremos nuevos mecanismos para que los alumnos tenga mayor precision y claridad en los objetivos y metas que queremos cumplir de acuerdo a la programacion presentada.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB1
授業コード 32A20-001
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード 103464
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) スペイン語会話中上級クラスで気づきはたくさんありました目標達成は、できました。自身の意見をスペイン語でいない学習者がいたこと、自身の能力を知らない学習者がいたことです。そのため、学習者にあった内容、そしてスペイン語での会話力を意識しました。
スペイン語で話したいけど、ことばが出ない学習者に対して、ゆっくりと指導し自信を持ってもらえるように努力をしました。言語×自信はどれほど重要なのかを深く考えさせられました。

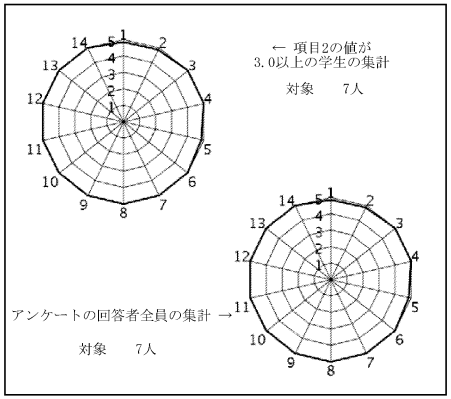
2) 学習者の能力、そしてやる気を引き出すことができました。カリキュラムに沿って授業を行い、様々な観点から考える力、分析力、そして発話力を鍛えることを意識し、学習者も目標を理解し努力しました。

3) 次クォーターでは、作文と会話力を上げて、自身で向上点を実感してもらえるよう努力します。そして、クリティカルシンキングとスペイン語を両方鍛え様々な観点から物事を考えていただけるよう、授業内容を設定します。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
JAIME LAZO, Alan Christian 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB3
授業コード 32A20-003
教員名 JAIME LAZO, Alan Christian
教員コード 103654
登録人数 21
回答数 7
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 1 回



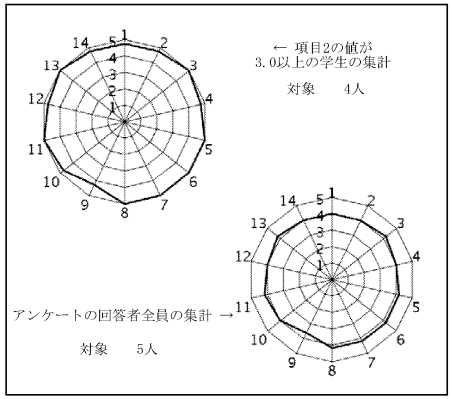
授業評価結果を踏まえた点検・評価

In order to develop some skills related to the description of the main features of relevant objects, to the interaction with many types of agents who produce and consume a lot of services as well as to the presentation of advantages and drawbacks of everyday articles, this Spanish communicative course has focused on the use of texts and discourses adequate to express personal needs as long as its performance in interpersonal relationships. Indeed, the reach material and activities in the textbook has contributed to implement current patterns that lead the students to acceptable interactions in possible contexts. Moreover, along the course I have stressed that the diversity of Spanish language is open to several paths of specialization and for the students it becomes a useful resource that shows some possible applications such as economic development or technical progress, fields that in the future will trend to increase. Now, I think, each student is aware of the opportunities fostered by the presented communicative functions and the challenge is to find the suitable communities, beyond scholar scenaries, that will allow to keep and integrate the acquired strategies so as to tackle or solve linguistic and cultural problems. These potential users have the motivation and competences to participate actively in various contexts which in the long term would provide successful results.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
SALA, Lidia　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語III2
授業コード	32A26-002
教員名	SALA, Lidia
教員コード	101563
登録人数	35
回答数	5
回答率	14.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

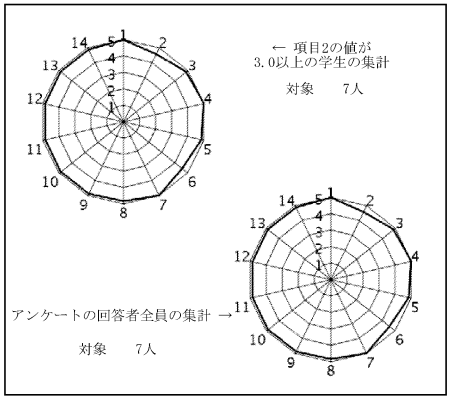
Based don student’s evaluation’s results, course objectives were achieved. High percentages in questions 13 (4.2%) and 11 (4.3%) show that students feel that they improved their reading skills and, as their personal comments show, appreciate teacher efforts to make the class both profitable and enjoyable. Advanced Spanish III is a demanding course but percentages in question 1 (4%), 2 (4%) and 11 (4.2%) show both teacher and students willing efforts to overcome it. This year I put special attention to vocabulary activities in order to help students improve their text insight and, as proposed last year, increased conversation group activities to share knowledge about the text and preserve oral skills.

Having that in mind, question 9 average (3.60%) is of some concern. It appears that, despite all efforts, course materials and activities are too demanding. It is therefore important to address this issue in Q3 by revising teaching materials and teaching techniques in order to decrease such perceived hardness. I am also planning to select new texts, more up to date and appealing to students, and introduce a wider range of activities so that deepper text comprehension might occur.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
エルビーニア　ユリア　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語通訳法I
授業コード	32D08-001
教員名	エルビーニア　ユリア
教員コード	102926
登録人数	8
回答数	7
回答率	87.5%
休講回数	2 回
補講回数	0 回



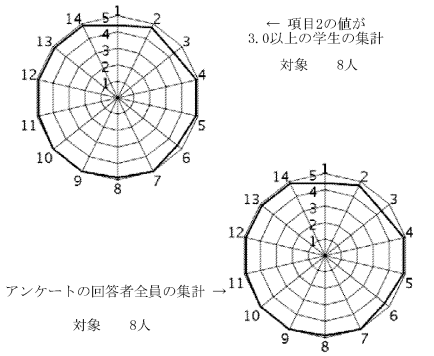
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初と比較して、受講学生のスペイン語聴解力、理解力、およびスペイン語、日本語両言語での表現力や通訳実技に関する知識およびスキルの上達が見受けられ、授業目標は達成したと思われる。また、多岐にわたるテーマ（時事、社会、ビジネス、医療、スポーツなど）についての知識も深まったことが確認できる。
前半は、通訳理論を交えながら毎回異なるテーマの音源を通訳題材として扱った。時事・社会・環境問題等のハードな教材からスポーツ・文化のソフトなテーマまで、幅広い分野を取り上げることで、異なるニーズに対応できたと思われる。また、複数のスペイン語圏地域の音源を利用することで通訳の難しさを感じとってもらうことができた。
後半は、通訳者としての体験談を授業の随所で紹介することで学生の授業に対する意欲を高めることができた。スペイン人通訳者の一日を紹介した動画や日本を代表する通訳者の仕事に密着したドキュメンタリーはかなり好評のようであった。また、企業の社員、クライアント、通訳者という役割で行ったロールプレイなどは、一層参加型で実践的となったことで評価を得た。次年度以降も、理論の学習に加えてこのような実践的なトレーニングをさらに取り入れたいと考える。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
佐竹　謙一　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語翻訳法I
授業コード　32D10-001
教員名　佐竹　謙一
教員コード　017418
登録人数　13
回答数　8
回答率　61.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



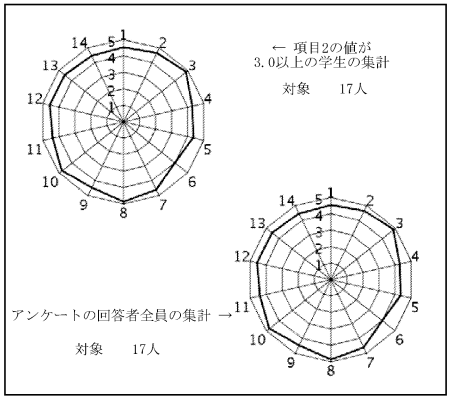
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、一般的な翻訳上の諸問題、日本人が苦手とされるスペイン語の接続法、スペイン語と日本語の言語構造の明確な違いを念頭に置きながら日本語に訳すときの注意事項などに力点を置いて授業を進めた。とりわけ学生の脳裏に焼きついている教室で学ぶスペイン文の訳し方と、実際に出版する際の日本語の文章表現の違いについて、現代スペイン語（文学、エッセイなどの作品）を例にとり翻訳の実践を試みた。
また、学生一人ひとりに文学作品、海外の映像や歌の翻訳に関するテーマを任意で選び、授業中に発表してもらった。これによって教員側の一方的な授業とはならず、学生にとっては自分自身の視点から翻訳を考える時間が持てたものと思われ、訳出する上でプラスになったのではないだろうか。
①開講当初に予定していた目標は、多少のずれはあったにしても、ほぼ達成できたものと考える。
②学生は授業が進むにつれて翻訳に興味を覚え始めたようで、一番重要視しているこの点については、自分でもおおむね満足している。
③今年が最後の授業でした。
総じて、学生の評価によれば、ほとんどの人がこの授業に満足してくれたこと、また教員としても楽しみながら授業ができたことや、やりがいを感じられたことを考えると、とても有意義な授業であったと結論づけられる。最後に、長年南山大学で教鞭を執らせていただいたことに対し、心から感謝の意を表します。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
GONZALEZ　DIAZ, Alejandra　Maria　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Advanced English Literacy7
授業コード　48A11-007
教員名　GONZALEZ　DIAZ, Alejandra　Maria
教員コード　103652
登録人数　18
回答数　17
回答率　94.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



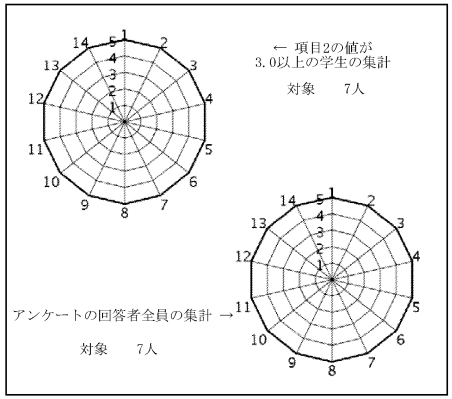
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students were expected to engage in content - based intensive readings and to learn how to write segments and at the end a research report in an academic writing style, specifically in APA academic writing style.
We achieved the main objectives of the class. With the readings, students learned vocabulary and phrases on specific contents related to sustainable development. With the writings, students learned how to write proper abstracts, introductions, bodies, conclusions, and how to properly cite and reference their writing. This was the first time that students learned academic writing, so citing and referencing seemed like a challenge. However, we practiced in class, they did their own research in library and online, they submitted rough drafts, they worked in pairs and small groups, and at the end they could successfully submit a proper research report written in APA style.
In the future, we will make more citation and referencing exercises to practice even more English academic writing. This will be helpful even for their graduation theses.

外国語学部 フランス学科
清水　ベアトリックス　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語実践演習A
授業コード	33C05-001
教員名	清水　ベアトリックス
教員コード	047845
登録人数	17
回答数	7
回答率	41.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the course were to prepare students for various examinations, specifically the 仏検 and the DELF B1.

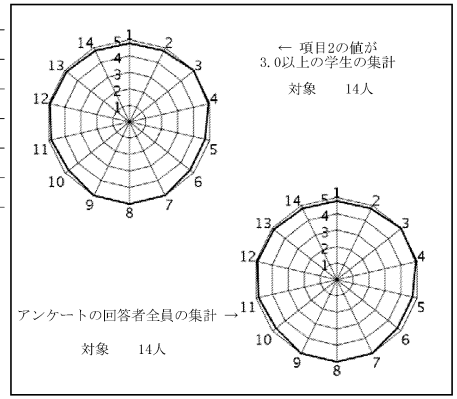
Preparation for this lecture was done meticulously so as to ensure that students' interest would will stimulated and sustained during the 3 hours it lasts.
The contents of the course included:
-reviewing important grammatical points: we reviewed various grammatical tools to create sophisticated sentence patterns, trying to contrast and compare French syntax with the Japanese and the English one.
-improving written skills; we focused on the expression of one's opinion regarding documents read in class and dealing with important topics that help understand French culture and France as a country.
-improving oral comprehension skills and spelling; every week we had a dictation based on the written document studied the previous week.

This quarter's evaluation by students has scored top grades and show that they were fully satisfied with the contents and the structure of the course. In the future, the course will continue to be organized along its present lines, always adjusting its contents and degree of difficulty to the actual level of proficiency of students.

外国語学部 フランス学科
七條　めぐみ　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文化特殊講義B
授業コード	33C13-001
教員名	七條　めぐみ
教員コード	103896
登録人数	29
回答数	14
回答率	48.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業ではフランス音楽の歴史について、(1)学問的な関心を抱くこと、(2)西洋史と関連づけながら理解すること、(3)他の地域と比較しながら説明することを目標としていた。これらのうち(1)と(2)に関しては、大半の学生が授業に積極的な関心を持ち、世界史等の知識と結び付けながら理解しようとする姿勢が窺えた。一方で(3)に関しては、授業で学んだことを記述する能力に個人差が見られ、到達が十分でない受講生もいた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
アンケートでは項目3～14の平均が4.88点と、かなりの高評価を得ることができた。この数字は、昨年度の4.05点と比べて大きく改善している。今年度は授業展開や受講生とのコミュニケーションにおいて様々な工夫をすることができ、そのことが数値にも反映されたと考えられる。ただし、「楽譜を理解するのが難しい」、「私語への注意が足りない」などの意見も見られ、より一層受講生の授業理解度・満足度を上げる努力が必要と感じた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
より多くの受講生が授業に能動的に参加し、内容を十分に理解できるよう努めたい。具体的には、私語や居眠りをしてしまう受講生への指導、音楽の知識にかかわらず内容を理解し学習意欲を高めさせる授業展開、音楽・歴史に関する事柄を客観的に記述するための実践的課題の設定である。そのために、授業者が一方的に講義を行うだけでなく、受講生が演習を行う時間を設けるなど、授業内容の改善を行いたい。

外国語学部 フランス学科
HERGOTT, Florian　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLSフランス語III
授業コード	48A17-001
教員名	HERGOTT, Florian
教員コード	101725
登録人数	13
回答数	1
回答率	7.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was designed to develop students' oral proficiency in French.

Compared to the previous courses (GLS & フランス語I & GLSフランス語II),the learning of the new content was done almost exclusively around the realization of language workshops.

Although the most motivated students seemed interested in this approach,others felt that the workload and preparation was too important.

As for the future modifications that I want to make to the course,it will surely be a level of evaluation. I would like to be able to reduce the time spent on each evaluation, but multiply their frequency.

外国語学部 ドイツ学科
WITZEL, Antje　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級ドイツ語I3
授業コード	34A17-003
教員名	WITZEL, Antje
教員コード	104068
登録人数	17
回答数	3
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

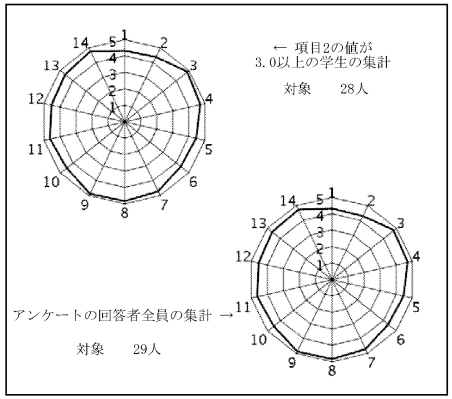
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I taught this class for the first time. The course level B2 requires students to understand and express complex ideas both orally and in writing. The students were very motivated and eager to participate. Thanks to a short stay in Germany they had some practical experience in oral expression and did their best to speak in German. However, they struggled with some of the more complex grammar and expressions, in particular in oral discussions. Although only few students replied to the class evaluation questionnaire, I had the impression that they were satisfied with the course and definitely improved their proficiency. I am very grateful for the continuous exchange of ideas about teaching strategies with Prof. Oliver Bayerlein and Prof. Aki Mizumori, who had taught the students before. The three of us agreed that the level B2 was a bit too high for many of the students, so in the future it might be good to make some adjustments and start at a slightly lower level with less complex grammar and vocabulary.

外国語学部 ドイツ学科
加藤　博子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ文学研究
授業コード　34A22-001
教員名　加藤　博子
教員コード　100480
登録人数　90
回答数　29
回答率　32.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



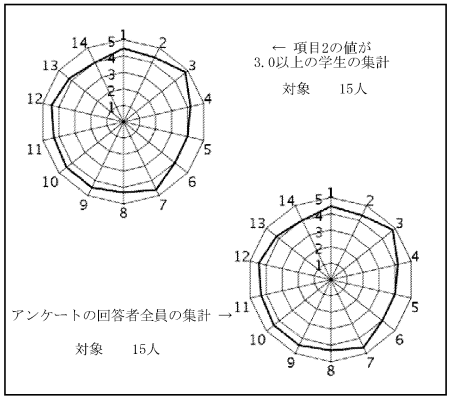
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は、ほぼ達成できたが、到達の程度は個人差が大きい結果となってしまった。それは出席率の違いに起因するものと思われる。二時間連続の授業だが、一時間で帰ってしまう学生が多かったのも、残念であった。一方で、延長してまで映像を観続けてくれた学生もいた。熱心な学生には、より一層、便宜を図りたいと思う。
②数値データと自由記述に関して、コミュニケーションカードを毎時間、配布していたのだが、授業期間中に改善できなかった点は、今後に改善したいと思う。特に、映像を観ている時の照明については、学生の手元が少しは明るい方が良いかと思い、照明を暗くしなかったが、それが苦痛である学生もいたことが残念である。その折々に問うべきだったと反省している。
③次学期以降、今後も担当するかどうか未定のため、漠然とした展望しか記せないが、クォーター制に対応した授業展開をもっと工夫して、充実感を抱いてもらえる授業にしたいと思う。そうすることで、出席率の向上を図りたい。

外国語学部 アジア学科
趙　晴　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語III読解
授業コード　35C03-001
教員名　趙　晴
教員コード　100960
登録人数　41
回答数　15
回答率　36.6%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



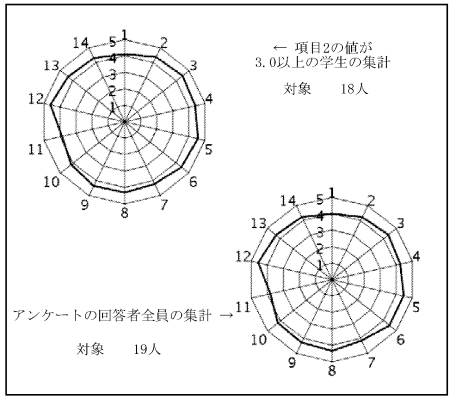
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは、開講当初に設定した目標にほぼ達成したと思います。
中国の文学作品から有名な文や段落を選んで解読していくという授業なので、予習復習が要する少し難易度の高い授業です。
少し難しいにも関わらず、殆どの学生は真面目で熱心に勉強し、学習する雰囲気もとても良かったです。学生たちの努力にありがとうと言いたいです。コメント欄に「語彙量が増えた」とあって、嬉しく思います。
今後は学生たちの為になりそうないい文章をもっと精選し、学生たちと一緒に読んでいき、解読の力を確実に身につけていきたいと思います。
解読は読んでから訳すので、発音の練習にもなりますし、そして、翻訳には文字表面の意味だけでなく、文に隠されている意味も理解しなければなりません。したがって理解力も更に高めていくと思います。
上達するには、続けることが大切です。
学生諸君、続けて頑張りましょう！
同学们，让我们一起继续加油吧！

経済学部 経済学科
西　一夫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門2
授業コード	40B03-002
教員名	西　一夫
教員コード	103655
登録人数	36
回答数	19
回答率	52.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



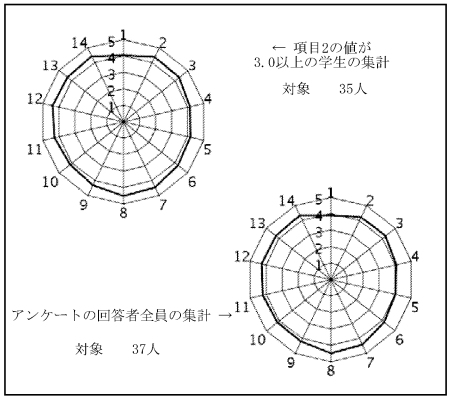
授業評価結果を踏まえた点検・評価

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目番号５（この授業の到達目標を理解することができましたか。）と６（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）において４．４７の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。
　これに対して、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」の評価が３．８４と思わしくなかったため、これと類似の自由記述の項目１６（授業の改善点）において「もう少し技能的な面を鍛えたかった」との指摘とも踏まえて、今後は講義資料以外の類題の解法やEXCELを用いて可能な様々な統計分析関数の紹介や、利用方法なども含め多く提供してゆきたい。

経済学部 経済学科
安藤　隆穂　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済思想史A
授業コード	40D64-001
教員名	安藤　隆穂
教員コード	100507
登録人数	231
回答数	37
回答率	16.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



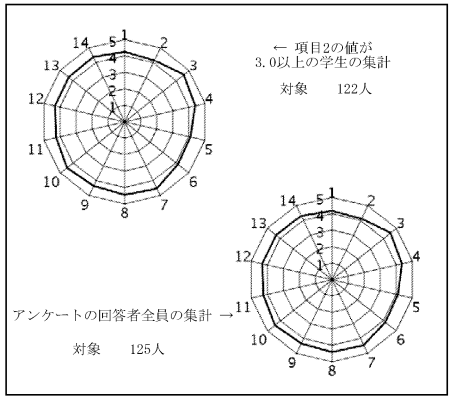
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① クォーター制に少し慣れ、また、今回受講者が200人程度に減少したので、久しぶりにやりやすい講義でした。資料を配る時間も短時間で終えることができるなど、本来の講義時間も十分確保できました。ただし、時間配分には失敗し、シラバスで予定していたのとは、かなり力点の起き方が異なってしまい、戸惑った方も多数おられたと思います。たとえば、宮沢賢治の童話についてなど、ある意味での番外の話に、熱心に聞いていただいたので、時間をとりすぎてしまったことが、原因です。また、板書の文字の大きさ、声の大きさ、マイクの使い方等、適切でなかった面も多々あったと反省しています。
②　評価結果は、ほぼ平均並みでした。200人の受講者という適切な規模での講義となり、もう少し上がるかなと期待していたのですが、やや残念です。しかし、今回も、また、相当数の受講者から授業後に毎回熱心で内容の濃い質問を受け、手ごたえも感じましたし、とても水準の高いレポートに恵まれました。
③ 今回も、知識を幅広く獲得することよりも、経済思想史という方法意識を軸とする基礎的学力を身につけることを狙いとし、文学などの分野に積極的に踏み込みました。今の時代の話題に直接結びつかないという不満が出るのは覚悟の上でした。宮沢賢治の童話の読み方などが大変好評であったことに自信を得て、今の方向を変えず、板書やパワーポイントの使い方などの講義技術の改善に努めます。

経済学部 経済学科
中矢　俊博　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学史A
授業コード　40D66-001
教員名　中矢　俊博
教員コード　015099
登録人数　324
回答数　125
回答率　38.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



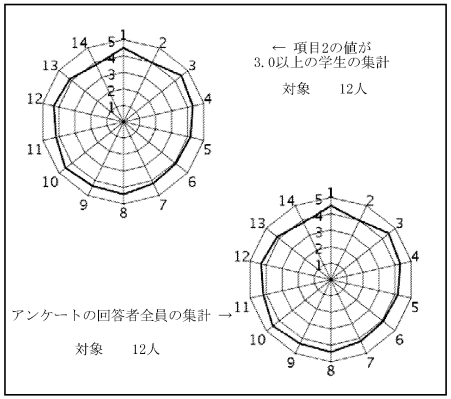
授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスは、火曜日と金曜日の2時限目に設定したので、毎回多くの学生が出席していただけでなく、熱心に私の話を聴いていた。講義では、私が作った教科書を用いたので、授業がとてもやりやすかった。また、講義のはじめに、「今日の日経」と題して、火曜日と金曜日の日経新聞を少しだけ解説した。優秀なサラリーマンは、必ず日経新聞を読んでいるので、南山の学生諸君も日経を読むべきだ、と力説した。経済学の歴史を、天才経済学者の考え方を紹介しながら講義を進めたために、学生諸君も私の意図をよく理解してくれたようであった。それは今回の数値データにも現れており、ほぼすべての数値データで4ポイントを越え、全体として満足している学生は4.3ポイントであった。ただ、残念だったのは、自由記述の中に、講義中にスマホをいじったり、講義とは関係の無いおしゃべりをしている学生がいる、との指摘である。私語については、講義中に何回か注意をしたが、300人の学生に徹底するのは非常に難しい。学生に聞いたところ、私の講義は他の講義に比べて、私語は少ないということであった。

経済学部 経済学科
坂村　道生　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　企業と業界の研究1
授業コード　40E03-001
教員名　坂村　道生
教員コード　104074
登録人数　29
回答数　12
回答率　41.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



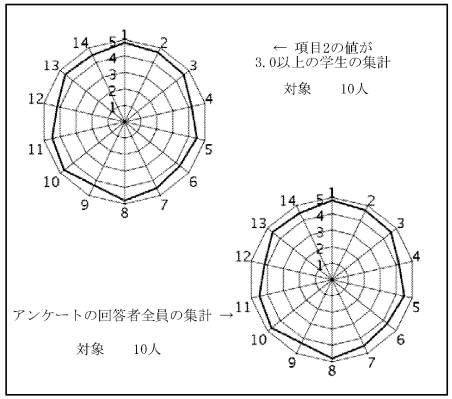
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①受講者が2，3，4年生の3パターンあり、就職に対する切迫感や情報量・問題意識に開きがあったせいか、筆記試験結果を見る限り、当初の目標を十分にクリアできたか、やや疑問な点もある。しかし、感度の良い学生に対しては「気づき」や意識付けが出来たのではないかと感じている。
②14項目の数値データによれば、13項目について平均値が4点以上であったことには安堵している。ただ、自由記述の中に「資料が少し多い」「講義回数が15回のはずが16回だった」といった指摘もあったことは反省点と考える。南山大学での初めての非常勤講師としては、自分でいうのもおこがましいが、一応合格点を頂けるのではないかと思う。
③受講者全員に常に関心を持ってもらえ、満足してもらえるような講義を理想とはしながらも、やはり、授業中に寝たり、他の作業に精を出す学生までを引き付けるような講義は現実的ではない。いい意味で緊張感のある話し方や話題の提示の仕方、資料の作りこみに知恵を出して、学生が自ら考え、質問するような講義にしていきたいと考えている。

経済学部 経済学科
秋田　貴美子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス英語B3
授業コード　40E05-003
教員名　秋田　貴美子
教員コード　047613
登録人数　21
回答数　10
回答率　47.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標はビジネスの基礎英語語彙習得と基礎英会話力を高める。学生の英語レベルに合った英会話反復練習を頻繁に行い、英会話をするチャンスを増やした。参加型の興味深い授業になるよう努めた。小テスト、英会話発表、 英語プレゼンテーションを実施。教科書４章まで終え、副教材も利用した。学生は積極的に参加し、実践英語を習得し、自信を持って英語を話せるようになったようだ。目標は達成できたと思う。

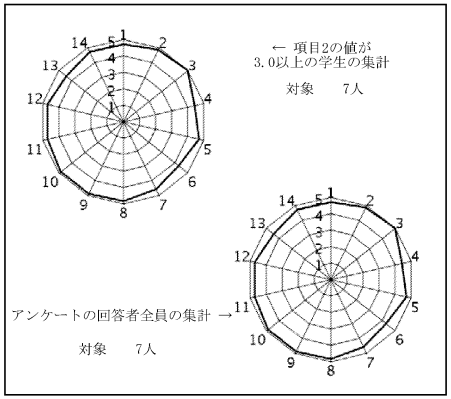
② 履修生21名のうち10名がアンケート回答。 項目平均は4.5で、「 教員の声が聴き取りやすい(4.80) 、授業妨げに対し適切な処置(4.70)、新知識を得て理解が深まった(4.60)、授業に満足(4.50)」であった。自由記述は 「グループワークが多く実践的。教員が意欲・ユーモアあり楽しい授業。将来英語教員志望のため参考になった。リズムを使って英語学習、頻繁にペアが変わりクラスメートと仲良くなれた。」英語レベルに相違があったが、参加型の授業ができた 。

③ シラバスにはTOEIC600点以下の学生を対象と示したが、TOEIC800点前後の学生が大勢履修し、英語のレベルがかなり違う学生が混ざったクラスになった。このため、 教材、授業内容に修正を加えたが、教科書はいつもと同じ範囲をカバーできた。また、副教材を活用し、授業中もレベルの違う学生同士がお互い安心してペア練習や演習ができるように工夫した。将来の英語レベルギャップ状況に対して対策を考えていきたい。

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事英語A1
授業コード　40E06-001
教員名　森川　信子
教員コード　100136
登録人数　8
回答数　7
回答率　87.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、The Japan Timesなど日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、スポーツなど身近なトピックを中心とした記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的として、授業を行いました。開講曜日を変更したためか、昨年度の同学期と比べて受講者数がたいへん少なかったのですが、結果的に、少人数クラスであることを活かし、受講者に合わせた授業展開をすることができたのでよかったです。開講当初に設定していた到達目標は達成できたと言えると思います。今学期は全員がそろってとても真面目に取り組んでいたため、予定の教材を早く終えてしまい、別の教材を追加し、主体的に学ぶ学習方法を試してみることとなりましたが、それがたいへん良い結果を生みました。受講者の学習意欲を発揮できる授業を行うことの大切さを実感させてもらったように思います。どのような工夫をすれば学習効果をもっと高めることができるか、引き続き考えていきたいと思います。

経済学部 経済学科
NORTH Cameron　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語A3
授業コード	40E06-003
教員名	NORTH Cameron
教員コード	100400
登録人数	16
回答数	4
回答率	25.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

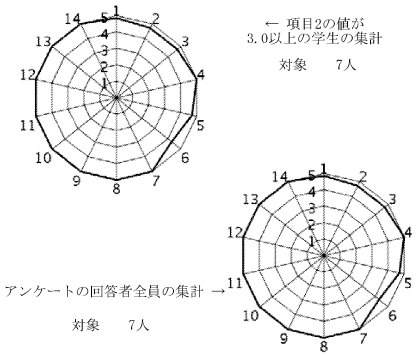
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1)Overall, the goals set out at the beginning of the class were met. The students were able to practice new vocabulary and expressions pertinent to the course outline. Depending on the amount of homework done, individual students will have better improved their English abilities.
2)In general, I was able to properly assist the students throughout the class. Of course, there are some cases where a different approach may be more helpful.
3)For future classes, I always try to make the class more instructive and to some extent enjoyable. It is extremely important that students do the required homework to ensure a smooth learning process inside the classroom. In particular, it is important to try to match the level of instruction with the level of the student.

経済学部 経済学科
太田　幸治　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学総論A
授業コード	40F01-001
教員名	太田　幸治
教員コード	103267
登録人数	12
回答数	7
回答率	58.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本講義の目標は達成できたと判断している。
しかしながら、大きな目標は達成できたが、各回の授業計画が通りには講義は進まなかった。

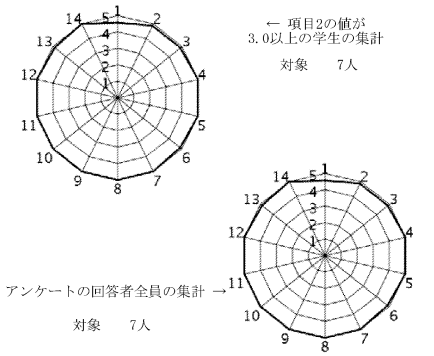
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
今回もかなり高いスコアを頂き、学生諸君に感謝している。
講義でも学生には話したが、講義は教員一人が作るものではなく、学生と教員で作り上げるものである。学生とのコラボレーションの成果が、このハイスコアにつながったと確信している。
改めて学生諸君に感謝を述べたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
南山大学における私の講義の最大の問題点は、履修生が少ないことである。
履修してくれた学生諸君の満足度は高いが、多くの学生の履修につながらないのが問題である。
私の講義の履修生に聞いたところ、多くの学生から「ヤバイ講義」の認定を受けているらしい。それは毎週若干ながら宿題が出て、毎週講義中に指名され解答しなくてはいけないから「ヤバイ」講義なのだという。
かような講義スタイルが履修生からは好評を得ているが、履修していない学生には鼻をつままれ避けられている。
なんとかして履修生を増やせないものか。それを今後も考えていきたい。

経営学部 経営学科
藤川　なつこ　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営管理論A
授業コード　42E03-001
教員名　藤川　なつこ
教員コード　101618
登録人数　32
回答数　7
回答率　21.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解した上で、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が4.86、設問14の回答の平均値が5.00であることからも、学修目標を概ね達成できたと判断できる。

また、全ての設問項目で学科平均を超える高い評価を学生から得ることができたが、これは以下の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。

①小テストの実施
単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、講義の最後には小テストを実施し、その日の講義内容について学生に考える時間を与え、理解を深めるようにした。

②学生からの質問への対応
講義の最後に質問を書いて提出してもらうということを行った。また、そこで出た質問に対しては、次回の講義の最初に全体に対して回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生からの意見や質問にも応えることによって、双方向の関係を築き、学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの一定の評価に繋がったと考えられる。

しかしながら、以下の課題も残されている。

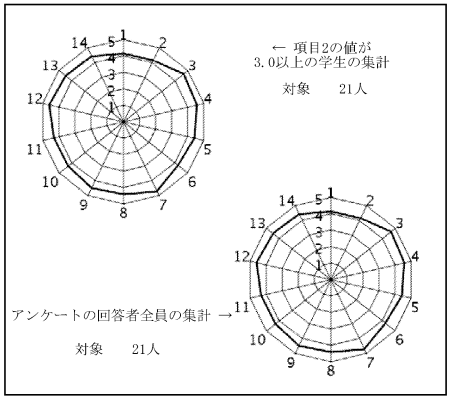
①アウトプットの時間および映像資料の視聴時間の配分
②授業外の自主的な学習意欲の喚起

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次クォーターはさらなる努力をしていきたい。

経営学部 経営学科
塩川　順久　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代産業論(電子・電機産業論)1
授業コード　42F03-001
教員名　塩川　順久
教員コード　103587
登録人数　98
回答数　21
回答率　21.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
海外に対する興味の喚起、電子電機産業に関しての一般知識の習得、経営理念と基本方針の学習、電子電機産業の最新状況（自動運転車、
電気自動車の動向）について、学生さんの強い関心を得る事が出来たと思う。
講義中には質問も無いし、反応があまり感じられないが、Reaction Paperへの質問を見ると強い関心が感じられる。
会議中の私語・途中退席・遅刻がちょっと目に余る、注意してもあまり改善されない。

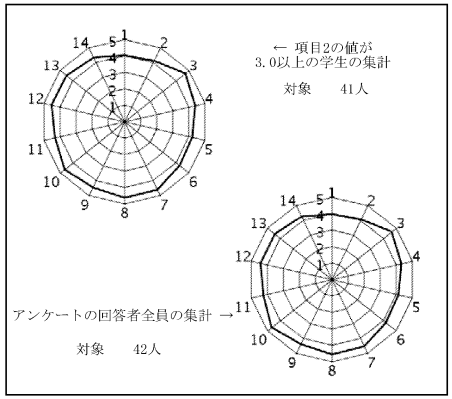
②数値データおよび自由記述に対する自己点検・評価
平均点以上の評価を学生さん方に頂いているが、更に高く評価されるよう内容を精査すると共に、受講前の関心の低さと受講事前予習の
少なさが課題なので如何に改善できるか検討したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
政治・経済と電子電機産業自体の動きが激しく急であるが、常に最新の論評と数値にしていきたい。

経営学部 経営学科
村井　清　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(自動車産業論)1
授業コード	42F04-001
教員名	村井　清
教員コード	103111
登録人数	95
回答数	42
回答率	44.2%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



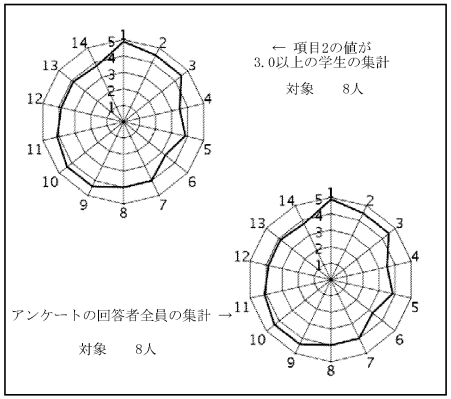
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業前は授業内容に興味を持っていたものは３．９８であったが、新しい知識を得たり、理解が深まったとするものが４．４０となっており目標到達の程度は満足のゆくものであった。②歴史的事実に立脚した内容に加えて百年に一度の大変革の時代と言われる自動車産業のダイナミックな動きを最新のニュースソースを取り入れ授業を進めた。学生に授業の冒頭「今日のトップニュース何か」と問いかけることにより社会情勢を理解させる工夫も凝らした。担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができた４．５２、自由意見に「わかりやすかった」「為になる話が多くよかった」ことはその一端が表れていると思い満足のゆくものであった。③次クオーターに向けては指定教科書（トヨタ生産方式、自動車クロニクルの２冊）の購入者が低いことは「指定教科書の授業での利用頻度が低い」なども一因と考え改善を要する。今回は質問票の活用が低かったことは学生の理解が進んでいるからであると思うことなく別の手段で理解度を確認しつつ進めたい。最新情報は継続して授業で引用してゆく。また授業前後の「起立一気をつけ一礼」は今後とも社会人として必要な姿勢であるととらえ続けてゆく。自分の会社生活を時折話すことによって社会人とはどんなものかを理解させていく。

経営学部 経営学科
IVANCHENKO, Andriy　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語Iオーラル・コミュニケーション3
授業コード	42G01-003
教員名	IVANCHENKO, Andriy
教員コード	102754
登録人数	8
回答数	8
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The learning objectives as presented in the course description seem to be achieved. The students who received at least the passing grade had fulfilled the course requirements with regard to class participation and homework assignments. The students' coursework was of good quality, showing attention to the class contents.

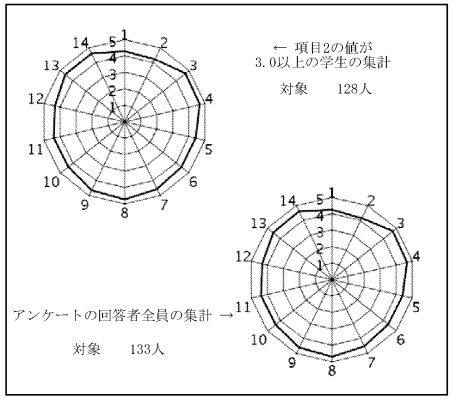
Most students seem satisfied with the course in general, as well as the class management, including effective use of materials. Most students report having improved their skills and knowledge through the course, the classroom environment being conducive to leaning and participation. Moreover, most demonstrate improvement of their existing skills through the course, which becomes evident through their classwork and participation.

My goal is to continue working to stimulate everyone's interest in the subject and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. Individual guidance will always have an important position, while the course level normally is adjusted as far as possible to fit each group of students. I shall keep up my efforts aiming to increase overall satisfaction with my course in the future.

法学部 法律学科
長谷川　一年　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治思想史A
授業コード　30645-001
教員名　長谷川　一年
教員コード　103576
登録人数　655
回答数　133
回答率　20.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



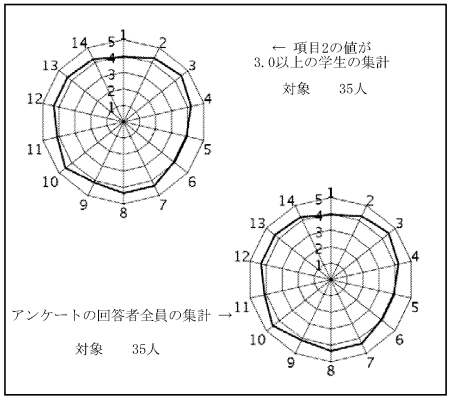
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、「１．政治理論の形成・発展・変容の流れが理解できること、２．現代の政治問題を理論的・歴史的な観点から捉えることができること、３．さまざまな政治的トピックスを主体的に学ぶことができること」の三点を目標に掲げていた。授業はシラバスに沿って予定どおり進められたので、さしあたり当該目標はほぼ達成されたと考えている。
②受講生から得られた数値データは、おおむね良好な水準にあると思われる。また自由記述から判断するかぎり、授業内容そのものに対する大きな不満は見受けられない。ただし、授業中の私語についての指摘が散見されたことは、今後の改善点としなければならないと考えている。
③授業の内容や進め方については、従来どおりの方針でよいと考えている。学生の私語については、受講生の数が６００人を超え、教室の規模が大きくなると、教室のすみずみまで目を光らせることはむずかしくなるが、できるかぎりの対応をしたいと考えている。

法学部 法律学科
野田　雄二朗　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　企業法総論
授業コード　44B22-001
教員名　野田　雄二朗
教員コード　104132
登録人数　206
回答数　35
回答率　17.0%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　本講義の目的は「商取引に関する基本的な法規制を理解し、社会に出た際に活用できること」という点においた。商取引の特色である反復継続性、取引の安全、履行確保という点は十分理解されていたと思われる。また講義中は受講生が社会に実際に出た場面を意識した設例を豊富に用いて、実社会において商取引に関する法知識を活かすことの意識付けと基礎を得ることができたと思われる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　リアクションペーパーにおいて講義の改善点について意見を求めた。ケーススタディを基礎としたこと、実務家である講師の実務的な経験を時折織り交ぜたことについては、「具体的なイメージが持てる」とか「興味が増した」などの意見があり、好意的な評価であった。他方、民法や会社法をまだ履修していない学生からは「理解していない知識が当然の前提として説明され、理解が困難な場面が多かった」との指摘が多く見られた。この点は相応に配慮する必要があった。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　本講義の柱は法的な知識の習得のみならず、商取引を題材として具体的な事例をもとに法的安定性と具体的妥当性を両立させる思考方法を確立するという点にあった。事案に対する詳細な検討をもとに具体的妥当性を導き出すという点自体は法的な知識がなくとも可能であること、また上記基礎的な法的思考方法は早く身につければ身につけるほどよいことから２年時の受講を可としたものである。２年時の受講は今後も継続したいが、基礎的な法的知識不足が学習効果を阻害しないように配慮していきたい。

法学部 法律学科
石井　三記　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス法
授業コード	44B39-001
教員名	石井　三記
教員コード	101849
登録人数	26
回答数	4
回答率	15.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　開講当初に設定していた目標と到達の程度については、「フランスの法制度の基本的な成り立ちを歴史的に理解し、日本の法制度を広い視野から検討する参照枠を獲得する」ことを目標にし、フランスの法制度を学ぶ意義を念頭に置きながら、日本の法制度へのフランス法の影響なども考えてもらい、授業の内容としては第五共和制憲法までの憲法の歩み、第五共和制憲法の現在のトピックスのひとつとして男女平等のパリテ法や憲法院での法令の合憲性コントロール、、フランスの司法制度、その法学教育と法曹養成、フランスの民事法と刑事法、そのトピックスとしてパクス法と陪審制度、ヨーロッパ人権裁判所とフランスなどを講義してきた。下記の②とも関連するが、受講生が少なかったこともあり、各人の知識および理解に合わせることによって、目標到達も概ね達成できた。

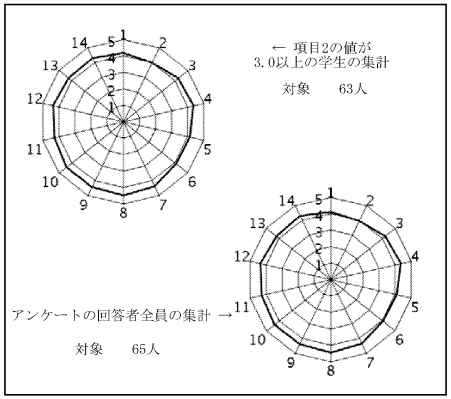
②　今年度は第１クォーターでの開講にしたため、受講者数は少なかったが、その分、密度の濃い講義をおこなうことが可能になった。アンケート回答自由記載には、発言の機会が多くあったことや配布資料が充実していたことを評価してもらった。

③　今回は受講者数の少ない点が講義をスムーズにおこなうことのできた要因であったことは間違いなく、人数が多くなれば、どのようにフランス法およびフランス法制度に興味関心を引き付けていくか、考えて行きたいと思う。

法学部 法律学科
荒木　隆人　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学原論A
授業コード	44B40-001
教員名	荒木　隆人
教員コード	103862
登録人数	333
回答数	65
回答率	19.5%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



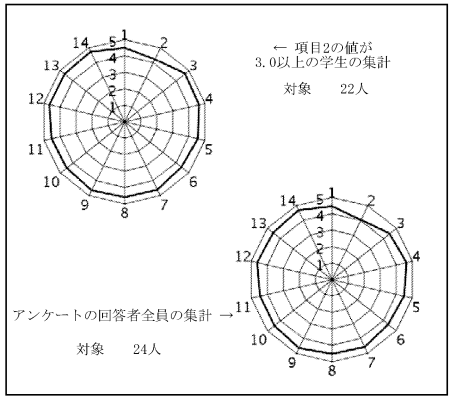
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　本講義の目標としては、政治学の分析視角を身に着け、政治学の基本概念である国家、権力、民主主義、自由、正義といった概念を理解できるようになることであったが、受講者の定期試験の採点結果から判断すれば、おおむね上記の目標を達成できていると言える。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　授業全体についての平均値は4.29であり、受講生はおおむね本講義に満足を感じているように思われる。
　予習・復習を含め主体的に授業に参加しているかどうかについての値が、3.94であった点から、十分に予習復習の重要性を理解させることができなかったといえる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
　本講義では、授業量が少なく感じられたとの自由記述による回答もあったので、次回はその点を特に改善していきたいと考えている。

法学部 法律学科
尋木　真也　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法各論A
授業コード　44C09-001
教員名　尋木　真也
教員コード　104091
登録人数　233
回答数　24
回答率　10.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生のみなさんの授業アンケートへのご協力に感謝申し上げます。本講義では、国際人道法の体系的な学習を通じて、戦争について法的観点から考える能力を涵養することを目的としていました。15回の授業で、国際人道法の全体像についてはおおむね講義できたと考えられる一方で、戦争に対する法的思考能力の向上への寄与については、一層の改善が必要と思われます。

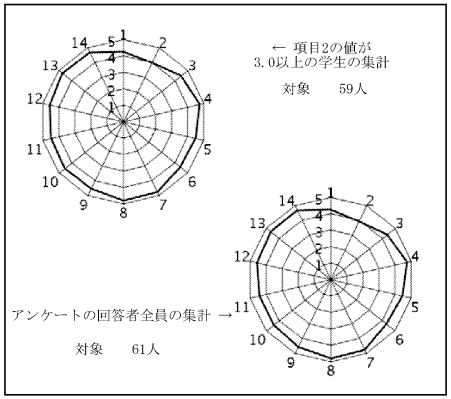
授業評価については、全体としてよい評価がいただけました。教室の狭さの指摘については、教務課等と相談しつつ、可能な限り改善を図ります。自由コメント欄では、教員の海外の実体験に基づく話に多くの高評価をいただきました。また、レジュメの形式や、パワーポイントの内容にも、肯定的な評価をいただきました。

今回、南山大学での初めての授業であったため、教室の使用や講義形式についてわからず時間を要してしまうことが何度かありました。今後は、授業をスムーズに展開できるよう、事前の確認をよくするようにします。また、講義が机上の空論に終わらぬよう、実社会のニュースや自らの体験談を織り交ぜ、アップデートを繰り返していきます。こうした手法を通じて、国際法をもとに社会をみる能力の醸成にも寄与していければと思います。

法学部 法律学科
村林　聖子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ジェンダーと法
授業コード　44C26-001
教員名　村林　聖子
教員コード　102382
登録人数　149
回答数　61
回答率　40.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



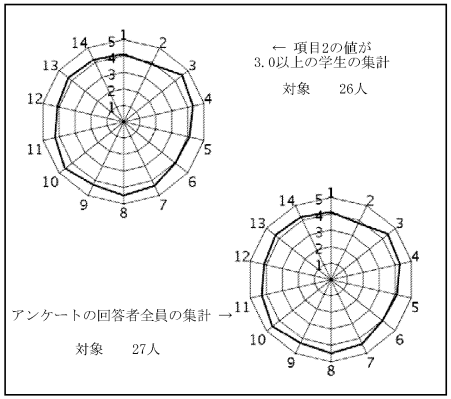
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①質問票への記入率と内容、また試験の解答などから、２つの到達目標（ジェンダーという視点の意義理解と法的また法律上の問題の検討）については、一定程度達成できたと思われる。
②授業運営に関する設問3と設問4また設問7~12については、平均値が最も低かったものは設問3（授業時間：4.38）、最も高かったものは設問8（教員の声など：4.82）であった。到達目標また授業全体については、設問5（4.48）、設問6（4.34）、設問13（4.66）、設問14（4.69）であった。
自由記述の設問15では、前回への質問票へのリプライ、現状や具体例の提示などにより、わかりやすかったとの記述が多くみられたが、すべての設問のうち設問2（主体的努力：3.93）が最も平均値が低かった。各回ごとに講義内容を完結していることの両面の結果が示されたと考える。
③設問16への回答にあったホワイトボードでの字の大きさ、配布資料の文字サイズと頁付け、マイクのハウリングには次年度十分注意したい。また授業時間（設問3）については、2コマ連続での休憩時間の取り方により終了時間が変動したが、次年度は注意したい。

総合政策学部 総合政策学科
松戸　武彦　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会学総論
授業コード　44A14-001
教員名　松戸　武彦
教員コード　100357
登録人数　68
回答数　27
回答率　39.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



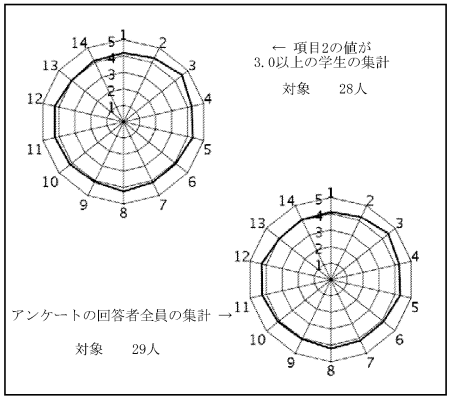
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標はおおむね達成できたと考えられる。社会学総論ではあるが、法学部向けの学科科目である点、および教職資格をある程度念頭に置いた科目である点を考慮し、取り上げるトピックスも一定の配慮をした。この点で受講生の理解も良く、リアクションペーパーには法学教育との対比で社会学の考えたについて言及したものが多く見えた。特に規則、規範を社会学はどのようにとらえ、どのように扱ってきたかをLIVE-door事件を事例として講義した時には、法とは何か規則とはどのようなものとして日本社会の中で今まで考えられてきたか、またそれがどのような変容を見せているかについて強い興味を示す学生が少なからずいた。このような意味でねつまり法学との対比の中で他の社会科学の研究を見せることは、専門というものを学生が意識するという意味でも一定の意味があったと考えられる。また、社会政策の必要性を教育社会学的研究を例に引き話した時には政治学、法学、政策学の接点にどのような問題が横たわっているのかを受講生に気付かせることができたのではないだろうか。規範的に考えることとは別に実証的な地平で社会現象について考えるきっかけを与えられたと考えている。

総合政策学部 総合政策学科
Jean Claude AHWENG　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　総合政策英語I6
授業コード　46F01-006
教員名　Jean Claude AHWENG
教員コード　104148
登録人数　34
回答数　29
回答率　85.3%
休講回数　3 回
補講回数　3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were threefold, namely, for the students to: (1) undertake independent research, think and report about assigned policy related topics; (2) transform what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) to share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research.

The students took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports.

The students liked the approach and benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. I can, therefore, conclude that the course attained its goals.

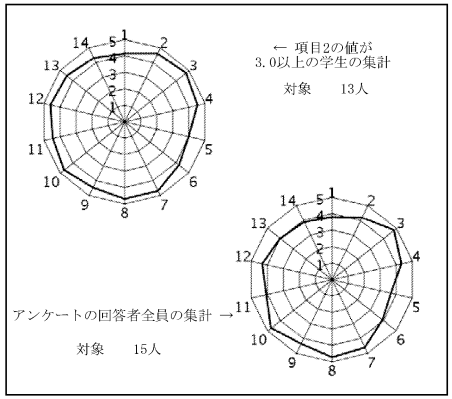
Good learning needs good teacher-student communication. Right at the outset, I explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus their energies on the assignments.

The students were highly motivated, had good educational foundation and a lot of potential. As a teacher, I got great satisfaction seeing that the students benefited from the course and that I could contribute, even if in a minor way, to the future of the students.

総合政策学部 総合政策学科
東田　明　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境会計論
授業コード　46N13-001
教員名　東田　明
教員コード　101591
登録人数　68
回答数　15
回答率　22.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



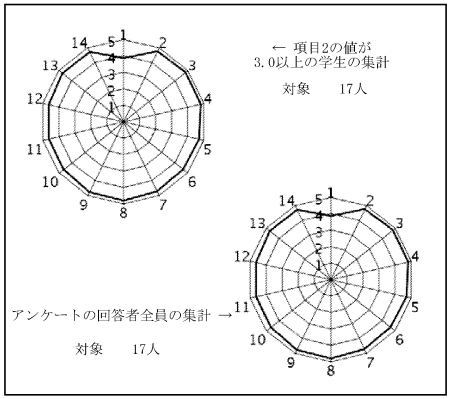
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の方法自体についての学生の評価は悪くないようだが，授業到達目標の理解および，全体の満足度が他の項目と比べると低い。到達目標については初回の授業で話をしており，またシラバスにも記載している。学生の理解が低い可能性の一つは，シラバスを見ていないことだろう。ただし，初回の授業では講義内容を学習する前であるので，１５回の授業の中でも，学習目標のどの部分を学習しているかについて補足する必要は感じる。また，全体の満足度が他の項目と比べて低い点は，教員の立場として反省すべき点である。出来るだけ企業が公表しているサステナビリティレポートなどから，授業内容に合わせて資料を配布し，実際に企業が取り組んでいることや考えていることを参考にしながら授業を進めたつもりであるが，学生の興味を引く工夫を今後も続けていく必要があるだろう。これらの点について，今後も改善しながら，次年度以降に授業を担当する期間があれば，よりより授業になるように努力を続けていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
栗濱　竜一郎　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　監査論
授業コード　46N16-001
教員名　栗濱　竜一郎
教員コード　103902
登録人数　67
回答数　17
回答率　25.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



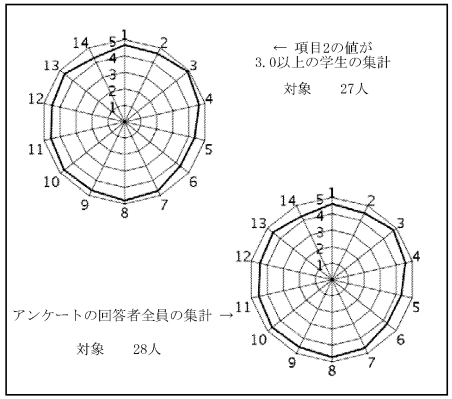
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は，学生が財務諸表監査の基本的な考え方を理解できるようになることである。この目標を達成するために，シラバスに記載した内容に沿って授業を行った。
さらに，授業では，学生の理解度が高められるように，以下のことを行った。
１．　専門用語や難しい内容などに関しては，身近な例や事例などを用いて，できるだけ分かりやすい説明をするように努めた。
２．　学生が見やすいように，また復習しやすいように，字の大きさ，色使い，図表など，板書の仕方に工夫を施した。
３．　授業中に学生に質問をし，自らの考えを発言してもらった。この質疑応答は，より授業に集中してもらうと同時に，授業内容をより理解してもらうことを目的としたものである。
４．　知識の定着を図るために，毎回授業の初めに前回の復習を行った。
５．　質問の機会を設け，質問に積極的に応じた。 このように，学生の視点に立って授業を展開したので，本授業の目標は概ね達成できたと思われる。また，上記に関して，学生の反応は概ね良好であったと思われる。なお，授業をより良くするために，上記および授業内容などに関してまだ改善の余地があると思われる。 より一層の良い授業を目指して，今後とも精進していく所存である。

国際教養学部 国際教養学科
APAZA, Pablo　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLSスペイン語III
授業コード	48A23-001
教員名	APAZA, Pablo
教員コード	100878
登録人数	42
回答数	28
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

After to see the results of the evaluation, and the comments from students, we understand that they gained lots of knowledge and abilities in Spanish. As we see the chart, students were highly satisfied with the class on every item, they knew that we had to work harder to achieve the objectives, and we end up achieving them, we think that they will continue studying by their selves us some of them expressed.

The comments from the students give us more positive energy to continue introducing different topics for the conversation class, like introducing countries and culture, economy, geography, world heritage, etc., those aspects stimulated more, that some students visited those countries during their vacation, which is very stimulating.

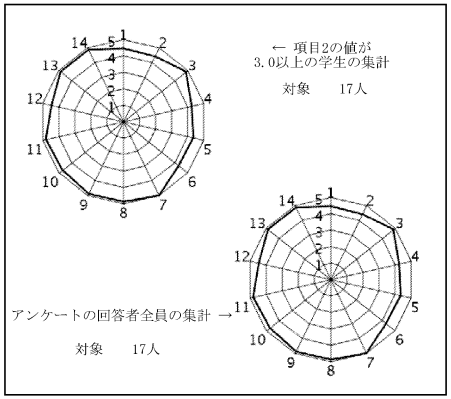
The methodology and didactic used were well adjusted for this class, and students followed properly, besides we find that students of this faculty were very well self motivated to learn and share their thoughts, that’s why the results are 4.54 from question 1-14, and 5.53 from 3-14.

So, we conclude that the objectives of the syllabus were achieved, and we hope that this class may have at least one more quarter to get into the next level of consolidation of the language, as some students ask as during this first quarter. As a teacher we hope to keep working on the same pad, with more fresh knowledge to share with the students.

共通教育 仏語
NISHINO, Aurelie　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語II[FF]3
授業コード	11B02-006
教員名	NISHINO, Aurelie
教員コード	103640
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals we had at the beginning of the quarter were to give the first basic knowledge of French as the students were almost all beginners. I think I manage to give my students a good base for their French studies. The students were very willing to learn new things and it was a very good class.

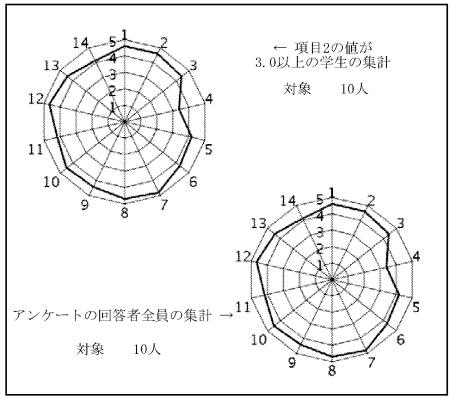
2. French is not an easy language so at the beginning when the students see the difficulties, they tend to get discouraged. However by showing them that this is only the first impression and if they study they can learn a lot and improve, we can make them better.

3. According to the results it appears that my students didn't perfectly understand the objectives of the lessons, so I think during this quarter, I am going to emphasize the objectives a little more. I will also try to make them speak as much as possible to make them improve their speaking abilities.

共通教育 仏語
遠藤　美加　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法I1
授業コード	33A17-001
教員名	遠藤　美加
教員コード	101551
登録人数	39
回答数	10
回答率	25.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、中級レベルのフランス語文法について理解を深め、和文仏訳等の練習問題において、その文法を適切に用いることを目標としている。定期試験結果の平均が80点に達しており、約40名の学生の多くが高いモティベーションを維持し、学習事項の大部分を吸収、またアウトプットできるレベルに達したと言えよう。

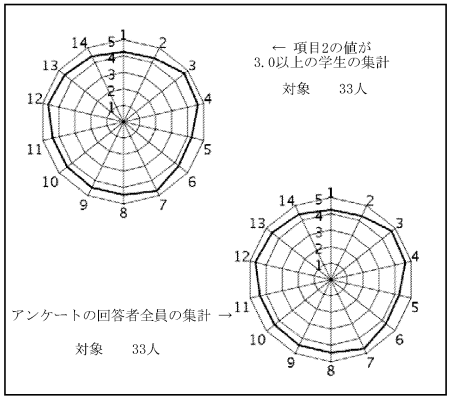
使用テクストは比較的難度が高いため、予習型の授業として、新規の学習事項から学生の積極的理解をもとめる形式で行った。難解な箇所はプレゼンテーションソフトで理解しやすいまとめを提示するよう努めたり、以後の学習を助けるような他文法書の紹介も兼ねて、別視点からの文法解説も積極的に取り入れるようにした。この点が実際に学生の理解の一助となったことは、アンケートのコメント欄に確認できた。

アンケートの数値で比較的問題となっているのは、授業の構成と進行速度である。学生が行ってきた予習に対し、授業の進行が遅れることはしばしばあった。また、授業が予習を前提として進行するため、高度な学習事項に対し、私の解説が不十分なまま進んだとするコメントも見られた。複数のコメントは、エクササイズ予習型よりも復習型の授業を望んでいる。Q3の授業の構成、進行ではこの点について検討したい。

共通教育 西語
BUSTOS Nazario　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語VI＜H・F＞2（Q2海外プログラム参加者用）
授業コード	11D06-005
教員名	BUSTOS Nazario
教員コード	100490
登録人数	35
回答数	33
回答率	94.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a very high evaluation from the students in all the items. The students' marks were all very positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. Based on the high grades gotten for the course, we can assure that the biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the instructor behaved during the semester.

As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

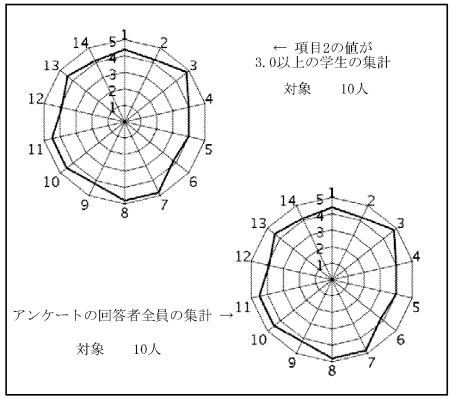
In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

共通教育 ポルトガル語
丸山　めぐみ　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境と倫理問題3
授業コード　13D01-003
教員名　丸山　めぐみ
教員コード　038919
登録人数　11
回答数　10
回答率　90.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



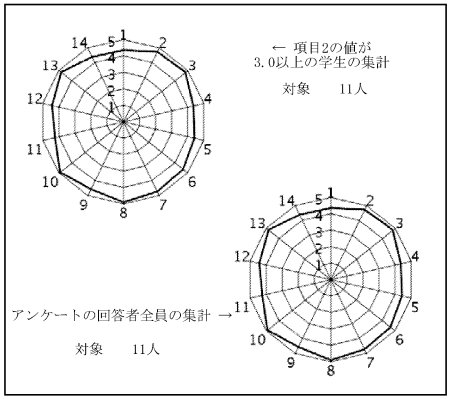
授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおむね目標は達成できた。授業参加を重視し、さまざまな環境問題を独自で調査してもらい、倫理的な問いかけをすることを積極的に学んでもらえたのではないかと思う。学生のグループプレゼンテーション、それに対するクラスの評価、また、毎回講義内容や関連するビデオの各自の感想文を提出してもらうことによって、学生一人一人の貴重な意見を知ることが出来た。学生のパワーポイントの使い方が徐々にレベルアップされてきており、プレゼンの仕方もそれとともにうまくなってきている。授業評価の良かった点として、「生徒を積極的に授業に参加させる授業内容だった」、「プレゼンがあったので、プレゼン能力がついたのと同時に理解が深まった」、「ビデオはどれも講義の内容を補完するものでとても印象深かった」、「現在起きている環境問題がこんなに多種多様とは、非常に考えさせられる機会を得られた」。授業の改善すべき点として、「テーマが多すぎて、勉強しづらい」というものがあった。改善策として、15講義分のテーマを一つ減らし、最後のレクチャーはまとめとテスト対策に充てる。

共通教育 中国語
李　香善　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語I＜全＞1
授業コード　11F01-028
教員名　李　香善
教員コード　103871
登録人数　39
回答数　11
回答率　28.2%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



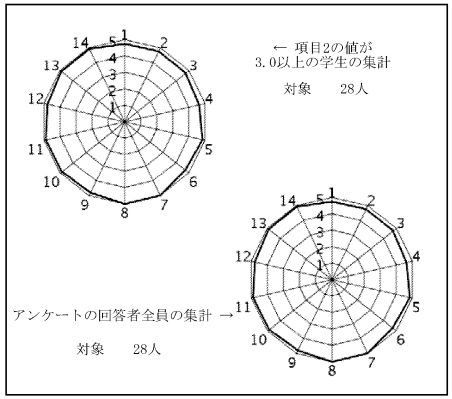
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度Ｑ１の受講生は、受講姿勢が大変良く、授業中のクラスの雰囲気も非常に良かったです。
全体的に出席率もよくて、授業中、先生の指示に従って、メモや朗読など、大変真面目に行なっていました。授業が終わったら、毎回質問に来る学生が二、三人がいて、担当教員として、大変教える甲斐と楽しさを感じさせられたクラスでした。
クラスの中には二人ほど、授業内容の理解が遅い学生がいまして、個別的指導や励ましの声を常に掛けながら、授業について来られるようにしましたが、本人達が良く頑張った結果、単位をしっかり取得出来ました。
今後の授業の課題として、より楽しく受講生が中国語の学習に取り込めるよう工夫したいと思います。

共通教育 中国語
中野　麻里子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語III＜G＞
授業コード　11F03-030
教員名　中野　麻里子
教員コード　102125
登録人数　33
回答数　28
回答率　84.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標である、１、ピンインを正しく読める。２、中国語の基礎的な文法事項を修得できる。３、中国語の基礎的な文法事項を応用して、簡単な文章を書けて、読める。という点は、おおむね達成できたと思う。学生が熱心できちんと自主学習もしてくるため、到達目標を高めに設定でき、
通常の１年半の授業では到達できないところまで、知識を身につけることができたと思う。

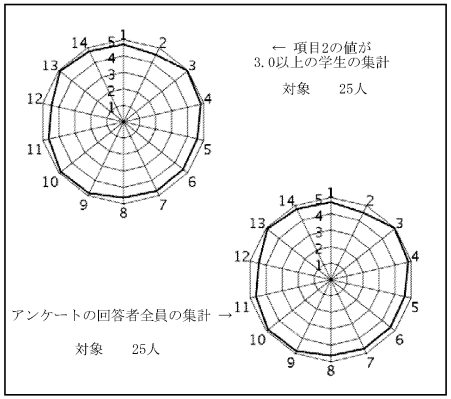
②色々と試しに行った練習や説明等もあるが、学生たちの理解の助けになったようである。

③質問しにくいという意見もあったが、たくたんの学生が質問に来てくれ、説明のどこがわかりにくかったか、説明不足だったかを知ることができ、それが教えるための助けになった部分もたくさんある。質問しにくいと感じた学生もいたようなので、質問しやすいような環境つくりを考えたい。もう少し時間内に時間をとると質問しやすかったのかもしれない。
自宅で学習できる補助教材を希望する学生がいるようなので、検定試験の過去問題などをやってみる時間をとったり、教材を渡したりするのもいいかもしれない。
板書、説明の早さは気を付けて学生に確認を取りながら進めたが、まだ早いと感じる学生がいるようだ。注意したい。
次期に向けてしっかりと準備をしておきたい。

共通教育 中国語
周　先民　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語I発音・聴力2
授業コード　35A01-002
教員名　周　先民
教員コード　100112
登録人数　29
回答数　25
回答率　86.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



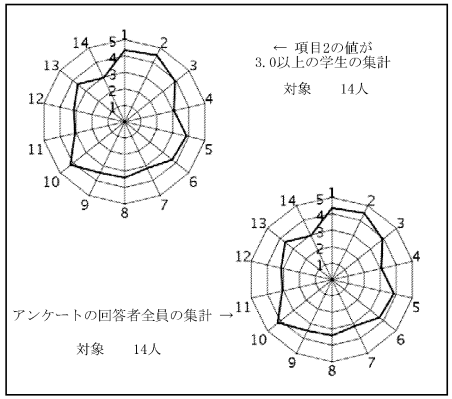
授業評価結果を踏まえた点検・評価

『学生による授業評価』の アンケートの結果を見て、授業に関する問題点、学生のご要望、授業の状況など、いろいろと分かってきました。項目1から14までの平均値4.72で、授業目標はおおむね達成していると思います。具体的に分析して見れば、14問の中に、4.90以上評価されたのは2問、4.80～4.89は3問、4.70～4.79は2問、4.60～4.69は5問、4.50～4.59は1問、4.48は1問です。つまり、全体として、学生さんはこの授業に満足度がかなり高いと考えられます。「先生が熱心でした」、「何度も復習したり、発音したことで、よく理解できました」、「発音する時間をたくさん設けたり、わかりやすく教えてくれるので、体で覚えることができること」、「丁寧に授業が進んでいったので学習内容が身につきやすかった」。など褒めるコメントもたくさん書いてくれました。特にいつも課題になっている学生の予習や、復習や、自習の指導などに関するものは、前より改善したのです。でもこれは先生の指導力だけではなく、学生による面もあります。これからもいいことを続けてやっていくつもりです。

共通教育 中国語
張　静萱　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I会話2
授業コード　35A11-002
教員名　張　静萱
教員コード　048047
登録人数　28
回答数　14
回答率　50.0%
休講回数　3　回
補講回数　3　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

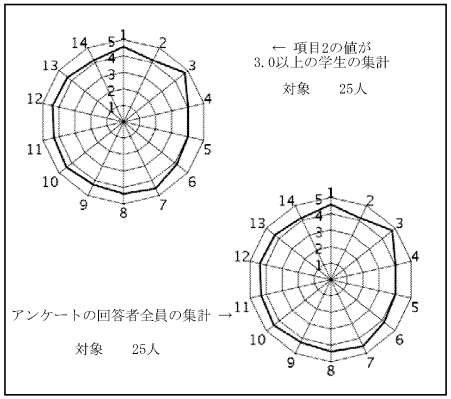
授業評価の集計を見れば、平均値よりやや高めの評価をいただき、授業目標はおおむね達成したと思われます。この授業は、中級中国語会話ということで、授業では発音や会話に力を入れ、学生たちの口語表現の上達を念頭に進めてきました。教科書の内容を覚えてもらうほかに練習や復習また習った文型や言葉などで、自由作文をやらせたり、こちらで出した日本語の文を訳させたりするのを重ねてしたことで、みなさんのレベルアップにつながったと思われます。

この授業の使っているテキストは、昨年と同じですので、ほぼ同じ進度と進みかたでしてきました。今後は評価されたところを引き続き、努力し、学生諸君の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すようにさらに工夫をこらし、努力していくと同時に授業内容もさらに充実にし、学生の状況に合わせ、更なる授業の改善策を考え、取り込んで行きたい、また学生の興味がもっと湧いてくるように、受講生全員が満足度の高い授業運営を続けて努力していきたいと思います。

共通教育 中国語
陳　志平　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語作文A
授業コード　35C10-001
教員名　陳　志平
教員コード　049346
登録人数　32
回答数　25
回答率　78.1%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」によれば、設問３（授業時間）は4.76、設問７（誠実さ・真剣さ）は4.52の平均値となっており、これらは、いずれも教員として果たすべき基本責務であるが、授業姿勢とその努力が評価されて率直に嬉しい。また、授業運営に関する設問９（理解度に配慮）と設問11（情報提供）、そして全体的な評価に関する設問13に、80%以上が５と４の回答を選んだことや自由記述などを見る限り、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。

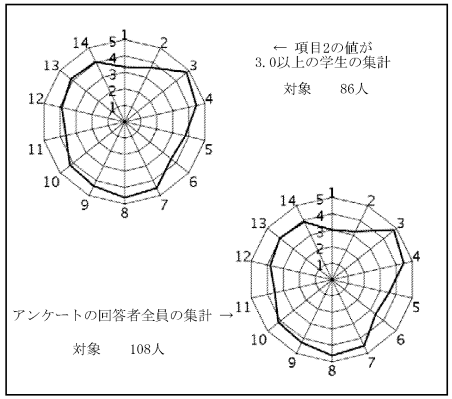
今学期も履修者が多くて、初回授業の実力テストも予想通りの結果となり、ばらつきが大きいことが判明した。このような状況の中で、上手くバランスをとり、学生の要望に応えるため、まずアンケート調査して、最も多く（64.3%）の学生が一番難しいと思う「補語全般」を演習課題として選定し、それを中心に練習問題、解説及び質疑応答などの形式で徹底指導を試みた。今思えば、文法を「補語」に絞って演習してきたことは一定の効果を得たように考えるが、やはり学生によって、実力は勿論、学習意欲も大きく異なる。配布資料を例にすると、「毎回配られる資料の内容が充実していて、中国語の読解能力を向上させるのに役立った。」、「今後の学習の助けになる資料をたくさん配布してくださったので、自分で学習を進める際の指標にもなるしモチベーションも上がりました。」、「この授業期間が終わった後も、先生に頂いた資料を使って中国語を学び続けていこうと思います。」と喜んでくれた学生もいれば、「プリントが多くて行ったり来たりするのが大変でした」と不満を示した学生もいる。

次学期からも、学生の現状を冷静に把握し、実力に即したバランス調整や学習意欲の喚起を課題として、改善に向けてより適切な対応を図りたいと考える。

共通教育 共通
大庭　貴宣　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[FS・FA]
授業コード	10A01-006
教員名	大庭　貴宣
教員コード	103877
登録人数	113
回答数	108
回答率	95.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



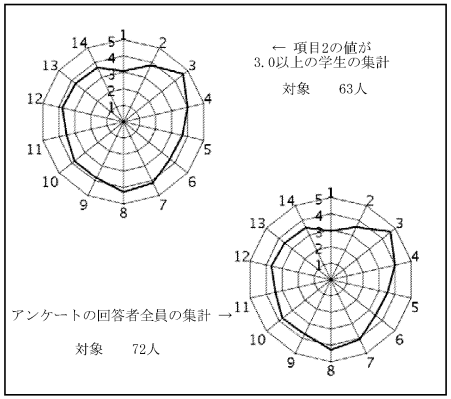
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に予定していた内容について、すべて教えることができた。学生のリアクション・ペーパーを読み、特に重要である点や課題として捉え、考えてもらいたいことも理解していることを確認することができた。
「宗教論」に興味があり、受講している学生は非常に少ない。また100人以上の受講生がいるので毎回、全員に興味を持ってもらうことも難しいかもしれない。けれども、興味を持ってもらうために、15回の講義のなかで宗教と教育、宗教と政治の問題、そして歴史の問題なども取り扱いつつ、学生が様々な視点から教えることを努めた。
また100名以上の受講生がいるので、講義のなかで質問の時間を取ることはあまりしなかった。けれども、講義の後に質問の時間を設け、質問に対応した。
数値データをみた今後の改善点としては、講義目標をより伝えることにある。毎回の講義で目標を伝えたが、より繰り返し伝える必要があるかもしれない。大規模の講義であるので特に後方の学生たちの居眠り、私語まで把握しにくい面はあるが、より学生全体の受講態度を改善できるよう努めていきたい。

共通教育 共通
赤尾　道夫　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[B]2
授業コード	10A51-013
教員名	赤尾　道夫
教員コード	104097
登録人数	150
回答数	72
回答率	48.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



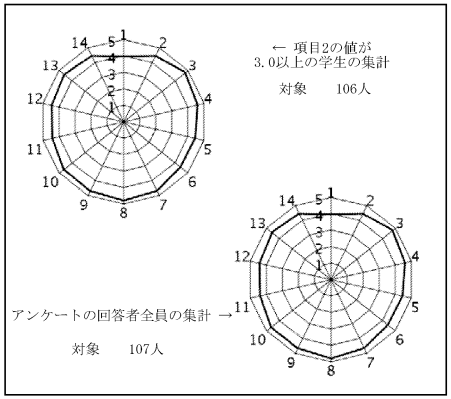
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「1. キリスト教や聖書に関する基本的な知識を身につけている」「2. キリスト教の基本的な思想を理解している」を到達目標とし、それに基づいて聖書、キリスト教の歴史・思想・文化・社会との関わりなど、広い観点から諸問題を扱うことができた。一方、テーマが多岐にわたったため、それぞれについて深く論じられなかったこともあった。
　データから履修前の授業への関心度が非常に低いことが読みとられ、実際にそういった態度を授業参加の姿勢やリアクションペーパーの記入において示す学生も見られたが、授業を進めていく中で、徐々に積極的な学びの姿勢を示す学生もいた。「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為」についてはクォーター開始時に厳しく指導したが、個々の行為への適切な対処については、150人という登録学生の多さのために、いちいちできない場合も多かった。
　毎回レジュメ配布とスライド使用を行い、web classに用語集をまとめるなどして、授業を円滑に進め学生の理解を助けるよう努力したが、これをよりよく改善する余地があると思われる。

共通教育 共通
山口　宏　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳2
授業コード	10D03-002
教員名	山口　宏
教員コード	101552
登録人数	138
回答数	107
回答率	77.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まずは総体的にまずまずの高い値で、良かった。知識や理解の深まり（問13）も、まだ十分ではないが高いほうではあり、概念理解や多角的にとらえる視点といった到達目標も、一定水準には達せられたかと思う。また、聞き取りやすさ（問８）や授業時間の正確さ（問３）などは当然なこととして、毎回多種多様な映像教材を細かく挟みながら話を展開させていったのもあり、資料の効果（問９）も比較的高い値となっていた。大講義のため、個々人と話す機会はほとんど持てなかったが、毎回書いてもらうリアクションペーパーには時間を割いて答えていたので、質問や相談の機会（問12）も低い値ではなかった。
自由記述は、授業の良かった面に関しては、過分なまでに高い評価をして頂いたと思う。「私語などへの注意もしっかりされていてよかった」といった声もいくつかあったが、しかし他方、改善すべき点のなかには「もっと厳しい対応を」「退室させるべき」という声もあり、そのあたりのバランスが難しいところではある。
全体としては、しっかりと取り組んでくれる学生が大部分であり、満足度（問14）も悪くない値で、良い授業にはできたと感じている。

共通教育 共通
大橋　真砂子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳2
授業コード	10D06-002
教員名	大橋　真砂子
教員コード	100233
登録人数	20
回答数	3
回答率	15.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

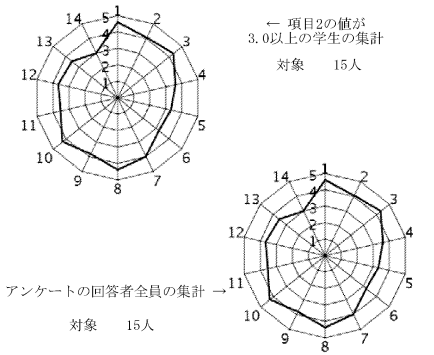
授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクォーターでは、ヨーロッパの歴史を紐解きながら、「人間の尊厳」の基本ともいえる生命と死、性の問題などを紹介して知識を深める方向で授業を行った。授業内容そのものは、おおむね当初の目標に到達したと考えている。今回は回答数が少なかったこともあり、データの形では示されていない。自由記述では、レポートを手書きにする点が批判されているが、これはワープロによるレポート作成がいわゆる「コピペ」の温床であり、それを極力排除する目的で導入していることをご理解していただきたい。レポートの分量については、学生の負担を考慮して行く方向で考えていきたい。また、別のクォーターで試験日が本来とは別の曜日（授業日ではない）になることが判明しているため、同じ年度で同じ評価方法を行うためにも、今年度はとくに筆記試験を行うことが困難と考えられる。さらには、クォーター制導入により、他の授業でもレポートが多くなったため、それを理由にしてこの授業を履修することを諦めた学生もいたことも留意しておきたい点である。授業の進行それ自体に関しては、少人数なのでディスカッションなどがあれば、という指摘もあった。この授業は、以前（とくにクォーター制導入以前）は百名以上の履修者がいる期もあり、同じシラバスで授業を行うには講義方式を取る以外はなかった。今後（次年度以降）は履修者数も考慮して、よりフレキシブルなシラバス作成を心がけたい。

共通教育 共通
星　揚一郎　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学A2
授業コード　12A01-002
教員名　星　揚一郎
教員コード　100986
登録人数　50
回答数　15
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスの通り、古代から近代までの哲学史をふまえたうえで、現代社会や身近な問題と関連付けて考察しました。最初に尋ねたところ、ほとんどの学生が哲学の基礎知識をもっていなかったため、基本を丁寧に扱い、授業の内外で質問に対応し、さらなる読書や考察を促しました。その結果、意図を汲んで真摯に学んだ方は極めて深い内容のレポートが提出されました（自ら問いを立てて根拠をもって主張を論述する、つまり、自ら哲学してみるという課題でした）。つまり、一番初めに説明した授業の意義を大事にしたかどうかで、少し差がついてしまったようです。これはアンケートの記述より明白です。以後、さらに、授業内で問題を提起し、理解度を見ながら進めていくように改善してまいります。入試にでる知識のみを重視し、そうした知識を生活や学術に繋げようとしない学生の狭隘な視野を広げ、真の教養を志向するように促してまいります。

共通教育 共通
高畑　祐人　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学A4
授業コード　12A01-004
教員名　高畑　祐人
教員コード　048736
登録人数　11
回答数　1
回答率　9.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

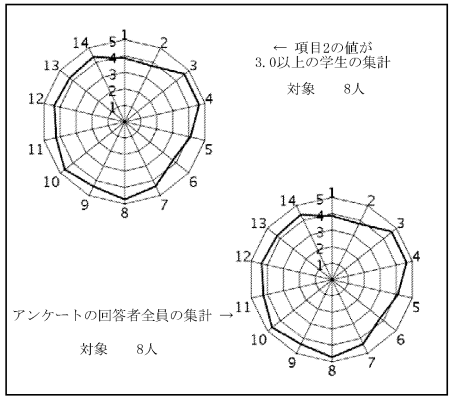
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業は、教職の関連科目という位置づけでもあるということを意識して、オーソドックスな哲学倫理学の基本的な事柄を身につけてもらうことを意図した。また初回の授業で、哲学・倫理学という学問の性質上、言葉による説明が多くなることを明確にした。もともと全体で10人程度の履修者であり、哲学倫理学に積極的な関心を持つ学生が残ったという側面はあると思うが、結果を見る限り、此方の意図や留意事項を履修者が納得して出席してくれたことの結果として、授業の意図は達成できたと思われる。
②履修者が積極的関心を持っていて人数が少ないと、対話型の授業がやりやすいこともあり、学生の理解度を確かめながら、授業を進めることができたし、学生からの質問に答える時間も比較的多めに取ることが出来たことで、全体としての出席状況もよく、今回のような結果につながったと思われる。
③授業の性質上、授業資料は、図表ではなく、どうしても言葉による説明が大部分を占める。今後も、授業進度の調整や授業資料改善につねに留意して進めてゆきたい。

共通教育 共通
池田　洋子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　美術A1
授業コード　12A05-001
教員名　池田　洋子
教員コード　044362
登録人数　22
回答数　8
回答率　36.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



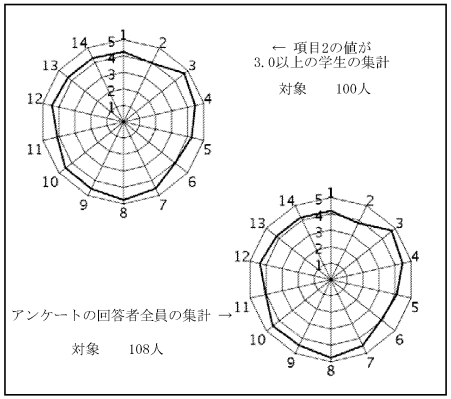
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初目標と到達程度
絵画の見方を学習し、個々の作品の特色を理解すると同時に、日本の美術の史的展開を認識できるようにする。
毎回、作品の見方に従い全員に質問し、次第にほとんどの学生さんがその方法で描かれているものを理解できるようになり、作者ごとの違いを認識できるようになった。
学生さんたちは、同じようにしか見えなかった日本絵画の違いを理解していき、絵画作品の傾向が次第に変化していっていることに気付き、絵画を通して日本美術が展開していることを認識していった。
数値データおよび自由記述等
数値データは、当初は授業内容に興味がなった学生も、毎回の授業で目標に向けて力がついてきたと感じていたことがわかった。毎回の配布プリントも役立っていたようである。しかし、学習意欲のより強い引き出しが必要とされていることがわかった。
「実際に画像を見ながら気づいた点を探したこと」
「絵の知識がなくても、２つの絵を見比べた違いを質問してくださったり、授業に参加する意欲を上げて頂けたことでより興味を持つことができた。」
次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、
　上述のように、実際は実行していても認識されていないことから、毎回授業目標を言葉で説明しながら絵画の分析をしてもらうことにする。
　更に、学生さんたちに意欲を持って講義に臨んでもらうよう工夫をして、より積極的な参加ができるように改善したい。次期以降は今回同様に、全員に学習に参加していただき、理解度を増やして次のレベルの作品解釈の方法へと進んでいけるように望みたい。

共通教育 共通
小沢　優子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　音楽B1
授業コード　12A08-001
教員名　小沢　優子
教員コード　101168
登録人数　135
回答数　108
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



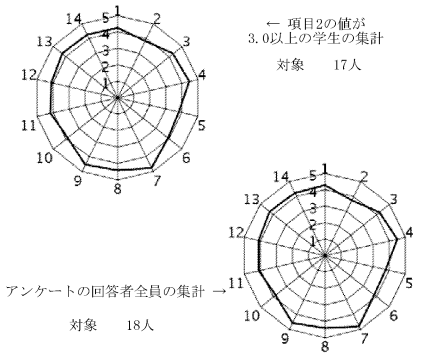
授業評価結果を踏まえた点検・評価

　今回のアンケートでは自由記述の回答がいつもより多く、授業の良かった点として「視聴覚資料を効果的に用いていた」「実際に音楽を聴いて具体的に学習できた」「生徒からの質問、コメントに毎回答えてくれた」などのほか、「丁寧な講義だった」「音楽の素晴しさを改めて感じることができた」「音楽理論について学べた」といったこれまでにない記述がいくつか見られ、学生が授業をどう受けとめているのかを改めて多面的に認識することができた。一方、アンケートの設問の数値については、設問1～14の平均値が4.30、設問3～14の平均値が4.36といつもより低めなのが少し気になっている。とくに、授業の到達目標に関する設問5と設問6、自主的な学習に関する設問11の数値が低く、学習の目的の自覚や、積極的な授業参加を促すための効果的な方法をもう一度考え直さなければならないと思っている。受講生の音楽体験や楽器習得の経験などはそれぞれ異なるが、
音楽を学ぶのは初めてである学生も授業の目標を十分に理解し、目標に到達したという手応えが得られるよう改善を試みたい。

共通教育 共通
渡部　展也　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　東洋史A
授業コード　12B05-001
教員名　渡部　展也
教員コード　103083
登録人数　41
回答数　18
回答率　43.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　目標に設定していた「中国的」世界の境界に位置する地域とその位置づけについて、　考古学・地理学・言語史など多角的な観点からある程度理解してもらう事が出来たのではないかと考えている。また、初期王朝期に遡る「中国的」世界の成立が、多元的な新石器時代の文化の上に成立している事も理解してもらえたものと思われる。

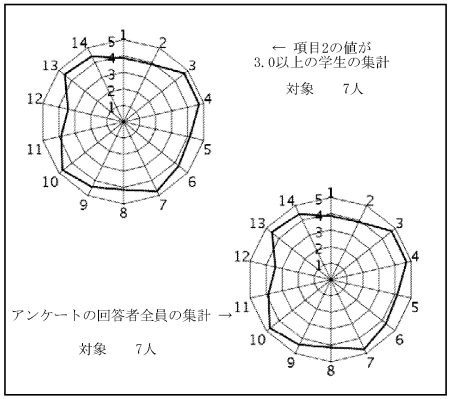
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
　講義の到達目標に関連する理解と、それに対する力がついているかについての評点が相対的に低い点が反省点である。なるべくイメージしやすいよう画像や動画等を示しつつ、それぞれの具体的な方法論についても説明も行ったつもりであるが、あるいは到達目標自体の意図が十分伝わっていなかったのかもしれない。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　②で挙げられた課題は、講義最初のイントロダクションにおいてもう少し理解しやすく伝えることで改善したいと考えている。動画やGoogleEarthなど、映像的な資料の活用については、自由記述でも分かりやすいとする好意的な評価があったので、引き続きこれら資料を改善していきたい。

共通教育 共通
鈴木　康弘　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　自然地理学1
授業コード　12B10-001
教員名　鈴木　康弘
教員コード　102905
登録人数　16
回答数　7
回答率　43.8%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



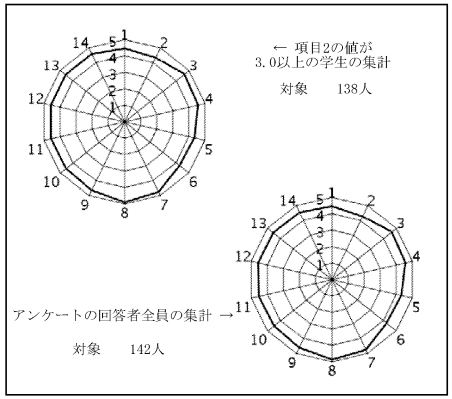
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価を見る限り、設問14の満足度において平均を上回っており、授業目標は概ね達成されたと考えられる。授業時間内に学生と対話する機会は少なかったが、毎回のレポート提出により学生の理解度や問題意識を確認し、授業への反映に努めた。学生の授業への出席状況は良好で私語もない。南山大学での授業は一緒に考える時間を学生と共有できる独特の雰囲気があり、今期で終了することは残念である。自由記載回答として「他のどの講義よりも、『何故それを知っていないといけないのか』『学ばないといけないか』という目的意識がはっきりと感じられた講義だった」という評価があったことは印象的である。本授業は、日本の風土の特異性および社会の現状に鑑みて、今後、自然災害と如何に共存するかについて、俯瞰型の地理学的視点から考えることを目的とした。また具体的な到達目標として、①自然地理学とはどのような学問分野かを理解する、②自然地理学と社会との接点のひとつとして防災・減災を捉えられる、③自然地理学の俯瞰的な視点の重要性を理解することを掲げた。

共通教育 共通
大園　誠　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A1
授業コード	12C04-001
教員名	大園　誠
教員コード	102910
登録人数	200
回答数	142
回答率	71.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



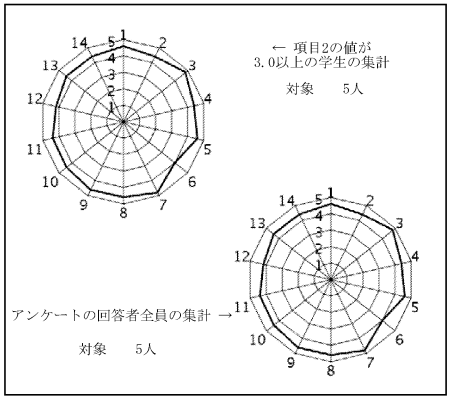
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（クォーター制の導入以後）受講生が増加、今回は講義室をB11教室に変更した。収容人数に余裕は出来るが、大教室では「板書の文字の大きさ」問題が生じる。幸い苦情は少なかった。①到達目標の達成度については、受講生の自己評価（4.25）や満足度（4.54）を見る限り、一定程度の成果が得られたと考える。②数値データおよび自由記述等を踏まえても、受講生に「政治学」という学問の魅力の一端を伝えることはでき、「（ニュースを含む）政治的現実」に対する関心もある程度喚起することはできたという手応えを感じている。南山大学の受講生は、毎回提出する「コメント用紙」の自由コメント欄（記述を強制はしていないが）に記入する受講生が多い（約70～80%）。その真摯かつ熱心な受講態度にはこちらも身が引き締まる。自由記述では、「説明の分かりやすさ・興味深さ」や「質問や感想等に対する講師のコメント」や「映像」に対する評価が高い一方で、（講義冒頭のコメント・応答を長く感じる／「衝撃の強い映像」を流す際の配慮を求める／遅刻者への注意喚起を求める）受講生の意見には、留意すべきと感じた。③今後は、講義内容については概ね肯定的評価が多いので、引き続き「政治学の基礎概念」と「戦後国際政治史」の２つを扱うが、後者については「もう少し詳細に解説」を求める意見もあったので可能な範囲で改善したい。また「コメント」に対してリプライを行うという方式は、時間の確保は大変だが、マスプロ型の「一方向性の講義」ではなく「双方向性をもつ講義」にしたいため、継続したい。大学における「政治学教育」がどうあるべきかを考えつつ、知的好奇心をかきたて、自律的思考を促すような講義を目指していく。

共通教育 共通
本村　扇仁　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学A
授業コード	12D01-001
教員名	本村　扇仁
教員コード	102685
登録人数	13
回答数	5
回答率	38.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



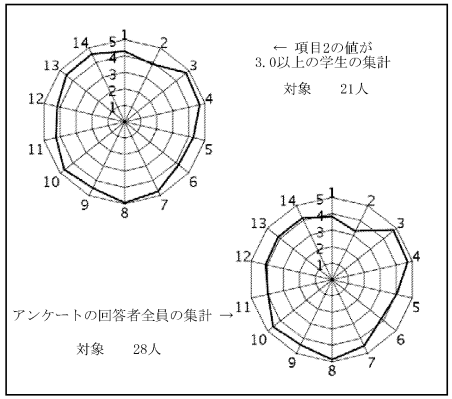
授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、取り上げた知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4の数値から、おおむね成功であったと考えられる。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から、要所で取り入れる展開を今後も継続していきい。教室内で簡単な実験を行い、測定結果および不確かさを計算してみる取り組みは、物理学で実験が果たす重要性を実感できるという点から今後も継続していきたい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

共通教育 共通
三野　義尚　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地球科学A1
授業コード　12D06-001
教員名　三野　義尚
教員コード　102236
登録人数　49
回答数　28
回答率　57.1%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



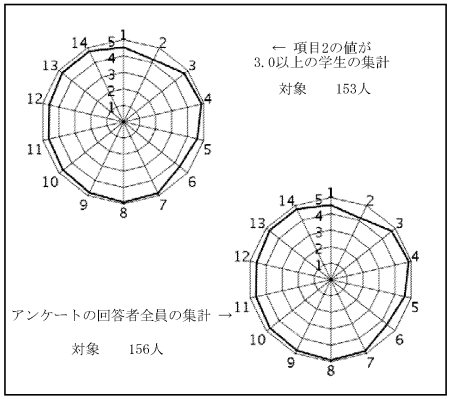
授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。到達目標に関する設問5が4.04、設問6が3.82という評価であり、他の設問結果より低い点を考えると、達成度があまり高くなかったと反省している。この点は昨年度も指摘されていて、講義中に行った小テスト（ミニレポート）だけでは、この部分を改善できないことが判った。次回の授業計画には内容理解を実感できるような新たな機会を盛り込むつもりである。また設問11もやや低かった（3.96）。これは設問16の回答「内容をもっと面白くしてほしい」と関連し、学習意欲を引き出すための指導および情報提供が足りなかったのかもしれない。次回は、環境問題などの最新記事を更にアップデートして授業を行いたいと思う。映像資料と講義スライドのリンクは評価されているようなので（設問１５）、引き続きうまく活用していきたいと思う。

共通教育 共通
早川　徳香　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　健康科学論2
授業コード　12D09-002
教員名　早川　徳香
教員コード　101096
登録人数　215
回答数　156
回答率　72.6%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



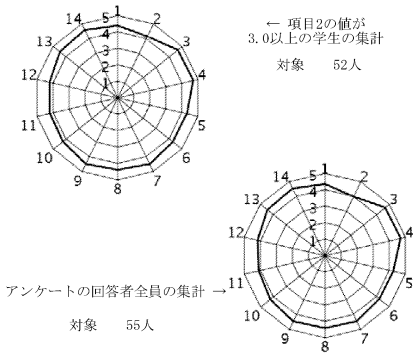
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ほぼ合致したと考えている。目標と到達の程度は、”医療系でない大学生が精神保健の一般知識として身につけておくべき事がらを修得する”であった。しかし、90分の授業のなかでどこか修得必須の項目なのかを学生がピックアップすることは難しい。そこで、授業内のスライドのうち、どの部分が非常に重要であるかを学生に明示することにした。また、その部分のノートテイキングが過不足なく行えるように十分な時間をとった。このためか、テストの得点をみても、多くの学生が必要項目について理解していたと捉えている。
②基本的に復習については授業内で口頭でのテスト方式で行っていた。回答した学生には加点した。ただし、予習に対する促しが不足したようである。「次回は〇〇について学習します」「予習してください」といった大雑把な指示では問題がある。
ただし、授業内容、授業の進行スピードなど授業評価の本質的な部分は、数値データと学生の自由記述から概ね十分なレベルであったと受け止めた。
③やはり予習の促しが課題であろう。

共通教育 共通
三木　誠　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触2
授業コード　13A02-002
教員名　三木　誠
教員コード　101621
登録人数　155
回答数　55
回答率　35.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



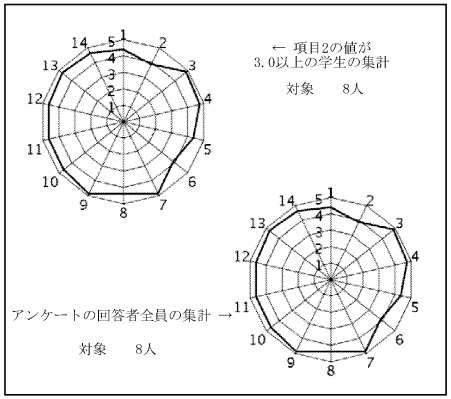
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定した目標については、文化の多様性や民族文化の様相といった点に関しては、アンケートの数値評価・自由記述および提出されたレポートの内容を見る限り、かなりの程度達成されたと考えている。一方、人間と文化との関係の本質や偏見にとらわれない異文化理解といった点に関しては、ある程度は達成されたが、まだ十分なレベルまで引き上げることはできていないと考えている。
②全体的にはほぼ例年通りのアンケート結果であった。実学的な要素の少ない学問をバックボーンとした授業であるので、項目番号2・6・11の数値が相対的に低いことは予想できたが、項目12の数値が低いことに関しては、真摯に受け止め反省しなければならないと考える。
③映像資料を多用しての具体的なイメージを重視する授業方法は、学生にも好評なので今後も継続していくつもりである。他方、上記①で認識した問題点に関しては、学生の問題意識を引き上げることが重要と考えている。具体的な方法としては、各回のテーマを学生が問題意識を明確にしやすいものに変更することを考慮している。また、特定の文化にまつわる状況や概念の解説の仕方を、学生の知的好奇心を刺激するような方向で行うことにより、自主的な学習につなげたいと思っている。

共通教育 共通
岡田　宏太郎　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相3
授業コード　13B06-003
教員名　岡田　宏太郎
教員コード　102261
登録人数　25
回答数　8
回答率　32.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



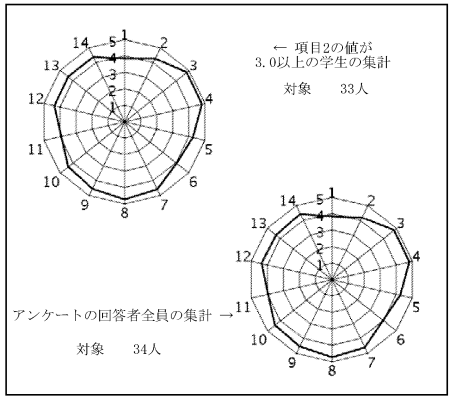
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート、期末試験の結果等から、おおむねこの授業の目標としていたところは達成されたのではないかと思われます。映像を使用してのイントロダクションは、授業内容の理解にかなり寄与したと考えられ、受講生から肯定的なコメントももらえました。毎回の講義で試験に向けての重要ポイントを明示し、説明自体の分かりやすさにも心がけましたが、内容理解の促進という点では、まずまずの出来だったのではないかと思われます。質問を受け付け、回答していく機会を授業の中に設けましたが、これも肯定的に受け止められたようで、やってよかったと考えています。
一方、自学自習の促進は永遠のテーマでもあるのですが、参考文献で学習を深めることができたという声もある一方、まだまだ努力を続け、限られた時間の中で上手く文献の紹介を組み入れていく工夫を重ねていきたいところです。文献の追加、差し替え含め、この分野が苦手な人にも面白く、意欲的な人には、社会の各方面にさらに探究を展開する起点になれればと考えています。
熱心に受講してくれた皆さんにはどうもありがとうございました。

共通教育 共通
山口　亮太　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化の理解2
授業コード	13C01-002
教員名	山口　亮太
教員コード	103824
登録人数	151
回答数	34
回答率	22.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初予定していた目標に関しては、授業の遅れなどもなく概ね達成できたといえる。
②本授業で取り扱ったのは、アフリカ熱帯林の地域社会であり、授業内で行ったアンケートでも、事前にこの地域について学んだことのある学生はほとんどいなかった。項目1の平均値は3.82であるが、項目13（4.32）、14（4.41）にあらわれているように最終的にある程度の関心をもって授業を聞き、内容も理解していると考えられる。他方、開講主体別平均値から見ると、学生の意欲を引き出すための指導という点が平均値よりも下回っている。自由記述式の項目16でも、授業で扱う映像が面白くない、という意見が見られた。また、アフリカ熱帯林の話題が中心でったことを改善して欲しい点としてあげている学生もあった。
③これまでに担当した授業では、講義が長引き、コメント課題をやる時間が短いという意見がみられた。このため、この本授業では、授業の内容のコンパクト化を心がけた。このため、本授業のアンケートからは、コメント課題の時間に関する意見は見られなかった。他方、学生の関心を惹きつけるという点では、まだ課題が多いと感じられた。講義内容を、学生が自らの体験や身の回りの状況と結びつけて理解できるような話題提供を心がけたい。

共通教育 共通
杉尾　浩規　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化の理解4
授業コード	13C01-004
教員名	杉尾　浩規
教員コード	102055
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

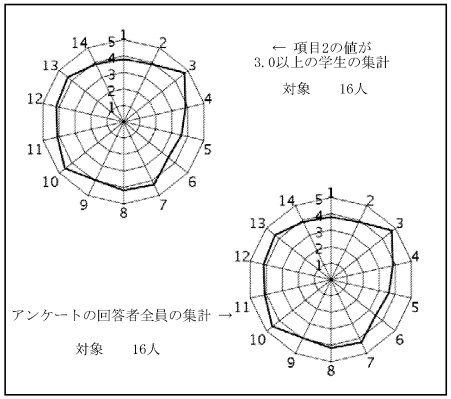
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「文化を考える」こと自体が持つ多様性への学びを通して、自文化と異文化へのバランスの取れたスタンスの習得を目指しました。また定期レポートを「他者に自分を理解して貰うという異文化理解の実践」として位置づけました。レポートには授業内容を踏まえつつ柔軟な視点から文化を論じた作品が多くあったことを踏まえると、文化理解の多様性を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると思われます。特に今年度の「異文化の理解４」は履修登録者数が少なかったために、アットホームな雰囲気の中で計15回の講義を進めることができました。このように少人数のなごやかな雰囲気での講義は私自身にとって貴重な経験になりました。講義に参加してくれた皆さんはそれぞれ個性的であり、毎回のリアクション・ペーパーも適切かつ独創的な視点が豊富に含まれた内容でした。また希望者に実施した下書きレポート添削も時間の余裕を持って行うことができました。改善を検討している点として評価方法があります。評価は定期レポート100%でした。しかしリアクション・ペーパーの中には「毎回のリアクション・ペーパーを評価対象にしてほしい」という希望がありました。私自身もクォーター制でのレポート作成は、時間的な制約という点で、履修者への負担が大きいのではないかと考えていたところです。以上の理由から来年度の評価方法をリアクション・ペーパーによる平常点評価に変更するべきか検討しています。

共通教育 共通
三枝　有　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と法律問題1
授業コード　13C02-001
教員名　三枝　有
教員コード　100468
登録人数　47
回答数　16
回答率　34.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



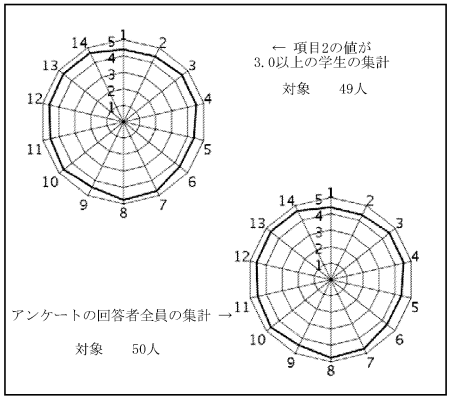
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①は、目標設定が１．法律的思考の基礎知識が修得、２．生命に関する法律問題の課題発見能力の養成、３．生命に関する課題解決能力の修得　という高度なものであり、法律的思考の基礎知識とはいえ、脳死や安楽死などの現実問題を取り上げているため、法的課題を意識することが、専門分野が異なる学生にはかなり厄介なものであったと思われた。講義期間が短いことから予習が中心となり、どうしても予習が追い付かない学生には大変であったと思われる。このため自由記述にもあるように、事例を重複的に活用して、講義項目が変わっても本質的な論点は変動していないように工夫したが、却ってテーマが変わったことが内容が変わるものという感覚を持っていた学生には理解しずらかったようである。このことを反映して②の数値を見ると、やはり理解度に格差が出ていたのではないかと思われる。もっとも、理解度を深めるために現実の事例を多く取り扱ったことは、理解度の高い学生には、理解に役立ったのみならず、面白いものと映ったようである。近年、学生の理解度に格差を感じるのは、基礎力の格差ではなく興味意識の格差ではないかと思われる。この点を意識して事例を使用する場合、イメージが容易な、結論の出やすい事例を用意する必要があろう、また各テーマが連続性を持ったものとして構成していることを講義の最初に確認する必要がある（③について）。記述して頂いた学生に感謝致します。

共通教育 共通
山口　佐和子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会の諸相1
授業コード　13C04-001
教員名　山口　佐和子
教員コード　103067
登録人数　75
回答数　50
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業の到達目標を理解できたか」という問いにおいては4.40ポイント（全体・学際：4.13）、「授業の到達目標に向けて力がついてきている」では4.38ポイント（全体4.04：、学際3.99：）、「新しい知識を得て、理解が深まった」では4.64ポイント（全体4.34、学際：4.36）という結果であり、教員が開講当初設定していた目標にはほぼ到達できたと考える。
全体の数値データによれば、項目1～14が4.54ポイント（全体：4.32、学際：4.31）、項目3～14が4.57ポイント（全体：4.36、学際4.36：）とすべてにおいて平均を上回った。自由記述では、「第1クオーターで一番楽しみな授業だった」、「全授業面白かった」、「人生で知っていてためになることばかり」、「少ない授業で色々紹介してくれた」、「先生が熱心」、「少しでも学生のためになる知識を増やそうとしてくれた」「資料も豊富で、年表も見やすかった」というコメントがある一方、テスト範囲の多さや授業の進め方・スピード感に改善を求める声もあった。今後の抱負としては、受講生の満足度を上げるため、授業内容のボリュームを再検討し、急いで教科書を進めるといったことを行わないようにしたいと思う。

共通教育 共通
牛島　謙　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識の探求2
授業コード	13E03-002
教員名	牛島　謙
教員コード	042549
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。
インターネットの基底には明確な設計思想（デザイン）がある。その思想を理解することにチャレンジさせるのがこの授業の目標である。その目標を達成するために、自前で構築したデータベースから各回のテーマに最適のデータを抽出して１回分をＡ３用紙１枚にまとめて配布するという形式を取った。
②総合的な自己点検・評価。
毎回配布する自前の教材は学生に評価されているが、授業のテーマが思想系のものであるだけに、学生間の理解度と満足度には大きな差があるように思う。履修した学生数が少なかったため授業中の印象を記すしかないが、かなりの程度は興味を持ってもらったのではないかと思う。
③改善点、今後の抱負、方針など
やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。授業評価の人数が少ないので、学生に授業評価に参加するよう強く指導したい。

共通教育 共通
大野　波矢登　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と機械2
授業コード	13E04-002
教員名	大野　波矢登
教員コード	100625
登録人数	12
回答数	2
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

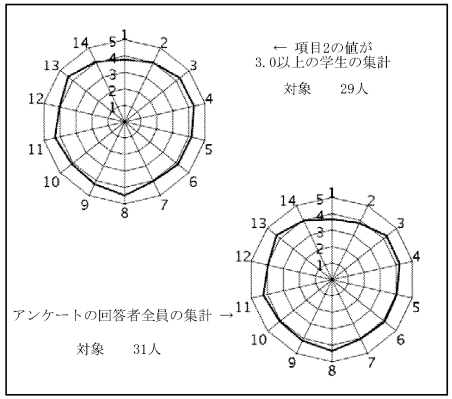
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようにすることが、この講義の目標である。目標達成度は、アンケート結果が「回答数4件以下のため集計しない」であったため判断できないが、2人の学生の回答から推測して、8割程度と思われる。
(2)アンケートの結果については、設問6、11、12の値が低かった。教員の授業運営について言えば、学生が主体的に学習するための指導や情報提供、質問や相談の機会の提供が十分でなかったことが分かる。そのため、学生からのコメントに「様々な興味深いことを知れた」とあるにもかかわらず、自分が興味を感じたことをさらに深く学習することにはつながらなかったように思われる。
(3)今後の改善点として、学生が予習や復習をしたり主体的に授業に参加したりできるよう適切な指導を行い、学生にとって「何をすればいいのか、どうやって勉強すればいいのか、よくわからない」ということがないようにしたいと思う。また、授業で用いる資料等をあらかじめ読んでおくことができるよう、できる限り事前に配布するようにしたい。

共通教育 共通
市橋　芳則　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生涯学習論
授業コード　15M08-001
教員名　市橋　芳則
教員コード　100763
登録人数　90
回答数　31
回答率　34.4%
休講回数　3　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１　開講当初に設定していた目標と到達の程度について

目標とした「生涯学習の歴史と関連法令」「社会教育行政の意義・役割及び現状」「多様な生涯学習施設及び　プログラム」「生涯学習社会実現に向けての方策を理解し提供者の役割」の基本的な事項について具体的な取り組みを介しながら講義を構成していくという方法により理解を得られた。

２　数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

映像による具体的な事例を提供できたことは、学生からも評価を得ており、今後も、活用を図っていきたい。出席確認を兼ねた用紙の配布については、誤解を招いている状況があり、適切な対応を図っていきたい。

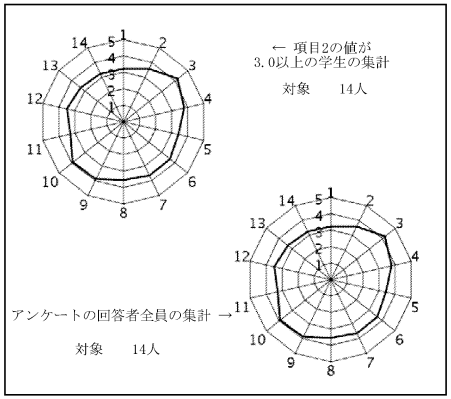
３　次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

より具体的、実践的な取組みを紹介し、生涯学習の理解につなげたい。

共通教育 共通
伊藤　真理　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　図書館情報資源概論
授業コード　15P06-001
教員名　伊藤　真理
教員コード　101182
登録人数　41
回答数　14
回答率　34.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設定目標については，概ね到達していたと評価している．当該科目では，中間テストと課題を課している．課題について，履修者は理解して取り組んでいたことが伺えた．

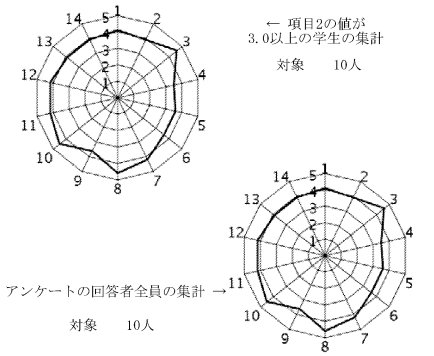
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データから高い満足度が得られている訳ではないが，大きな問題なく運営ができていることが分かる．自由記述に，最終課題の発表が遅い，とのことであるが，授業内容の進行にしたがって課題内容を選択しており，早めに発表しても課題に取り組めるということではない．また，クオーター制のために，スケジュールに余裕がないのは致し方ないと思われる．今年度から学内の施設がリニューアルして，学生は無線LAN，電源を授業中に利用することができるようになったようであるが，そのためにPCでゲームをしている学生などが見られ，非常勤講師としては学内でどのような指導がなされているのかを把握できないため，授業運営に苦慮した．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記の通り，課題については授業理解を促すための内容としているが，課題に取り組みやすい運営を工夫したい．また，授業態度について，インタラクティブな内容を加えることにより，学生が積極的に授業に参加するように促していきたい．

共通教育 共通
増田　喜昭　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　児童サービス論
授業コード　15P09-001
教員名　増田　喜昭
教員コード　102434
登録人数　41
回答数　10
回答率　24.4%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



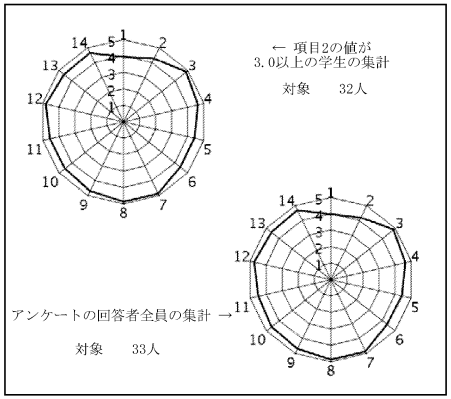
授業評価結果を踏まえた点検・評価

児童サービスを、子どもの頃あまり、というかほとんど体験していない学生に、日本ではなく、欧米の司書の仕事を理解してほしいと思っていたのですが、学生の読書体験があまりにも乏しいのでショックを受けた。
できるだけたくさんの物語を読んでみて、読書の喜びを授業の中で知ってもらえるよう、シラバスを少し変更して、読みきかせと日本の状況について話したことが、社会批判もしくはグチにとらえられた学生がいたことは、かなりショックで反省しました。
南山大学の図書館にも児童文学や絵本が少なく、本来の目的である「子どもと読書」学ぶには足りない気がします。
学生も、何名か真剣に受講する者がいて、こちらも、持っているものを出来るだけ丁寧に講義してきました。
ただ、２コマにしたことを反省しています。授業で話したことを１週間かけて研究し、次の授業に繋ぐためには、やはり１コマが良いと思われます。
今後のために必読図書・教科書などを指定し、授業以外の時間の使い方、学びのある日常生活を送ってほしいので、もっと細部の指導が必要だと感じました。が、大学なので、講義を生かすも殺すも本人次第だと思います。
毎回学生に出席カードの中に授業の感想と、読んでいる本の内容を書いてもらったのは大変参考になりました。

共通教育 共通
木幡　智子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報資源組織演習II1
授業コード　15P11-001
教員名　木幡　智子
教員コード　103854
登録人数　38
回答数　33
回答率　86.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



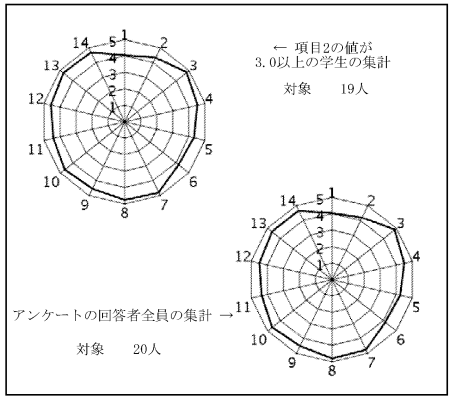
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生一人一人の進度にばらつきがあり、演習時間のコントロールが難しかったです。
当初予定していた内容まで理解を深めることはできませんでしたが、基本的な内容についてはしっかりと学習できたと思います。
教室内に使わないパソコンが置いてあることについて、作業を進めるためにどのように置いておくのが良いのかについて不安のある学生があったようですので、機器トラブルを避けるためにも、適切な方法についてパソコン管理者の方に確認をしたいと思います。
演習の進め方については、学生の意見を参考により理解を深められるような方法を考えていきたいと思います。
学生による授業評価の結果については、概ね良い評価であったと思われますが、学生数が思いの外多かったことにより進度に遅れが見られたことが自身としての一番の反省点でした。
学生数によって内容にばらつきが出ないよう、自習を進められるような工夫や、演習の遅れている学生については授業時間外に質疑応答のできる工夫などが必要であると感じ、すでに対応を行なってはいるものの有効に活用されていないようでもあるので、今後、いっそう改善していこうと思います。

共通教育 共通
吉田　文　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教芸術B(典礼音楽)Ⅰ
授業コード　21C09-001
教員名　吉田　文
教員コード　102447
登録人数　32
回答数　20
回答率　62.5%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　到達目標は、以下の様に設定した。
1. キリスト教典礼音楽への理解が深まっている。
2. 歌唱を通して発声の基礎と斉唱、合唱の経験が深まっている。
設問５と６ではやや低めの平均値の結果が出たが、設問１３、１４に於いては比較的良い結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。
授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項からも、学生の授業への理解度と経験値は深まっていると考える。

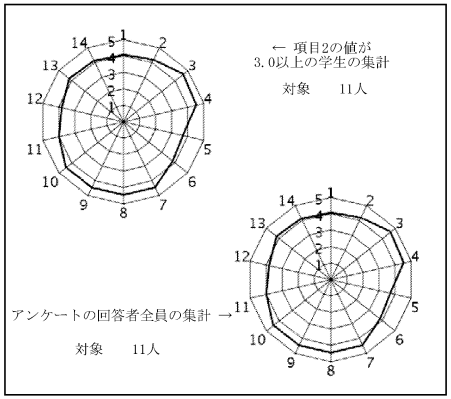
②
評価の中で比較的値の低い２の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。特に決まった予習・復習の課題は与えていないが、常に発声練習の基となるストレッチや自己表現の方法について考察する等指示はしている。今後は授業内でもさらに意識的に積極性を促していきたい。

③
学生にとって馴染みの少ない専門用語はレジュメにも記載し解説をしていたが、今後はより理解しやすくできるようレジュメの内容を一層詳細にし、学生自身が能動的に学びながらも理解が深まったと感じることができるように授業を改善していきたい。

共通教育 共通
長澤　壮平　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教社会学
授業コード　21C56-001
教員名　長澤　壮平
教員コード　102718
登録人数　66
回答数　11
回答率　16.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



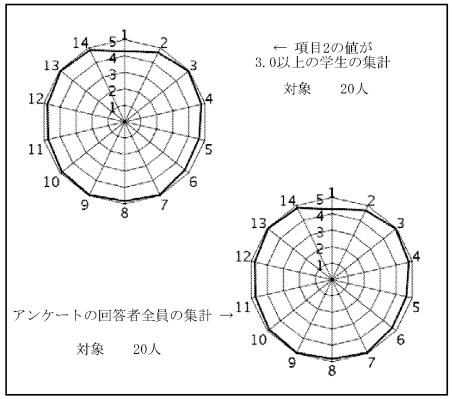
授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義内でテーマに即したコメントペーパーを課してきており、そのなかで自身の意見を述べることや質問を重視していたので、学生の学習習得の水準については常にモニタリングしており、その水準は高かったと認識している。とりわけ新しい発見が多くあるとのことで、充実したコメントペーパーも多くいただいた。しかしながら、アンケートで認められるように、質疑応答の時間は少なかったように思われる。この点は、今後十分考慮して改善に努めたい。それによって、より相互性の高いダイナミックな授業になると考えられる。また、設問5など、理解度の実感が若干弱く感じられた。この授業は、抽象度の高い議論が行われることが多く、それが理解度を引き下げている要因であるように思われる。今後はこれについても十分考慮し、わかりやすい授業を心がけたい。

共通教育 韓国朝鮮語
白　明学　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国朝鮮語I＜J・P＞2
授業コード　11G01-006
教員名　白　明学
教員コード　103287
登録人数　30
回答数　20
回答率　66.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度第1Qの授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時に第1Qの授業の目標値をきっちり示し，設定したスケジュールに合わせ，韓国語の文字の読み書きができ、初級会話の入り口となる日常会話における挨拶表現，自己紹介、簡単な質疑応答をマスターした。授業運営に関する設問の平均値が4.84で、学生の満足度も高いと言える。

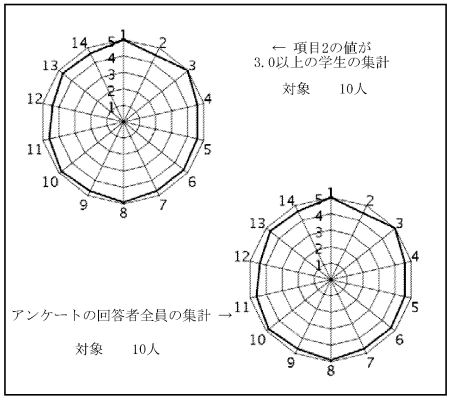
今学期は，学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないかと思われる。また，これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し，繰り返し，声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ，語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「発音する時間が多くて、書くだけじゃなくて頭で覚えることができた」等と評価を得たところは，素直に嬉しかった。ただし，韓国語の場合は，文法構造が日本語と近似しており，学生の修得度も早い。何人もの学生に韓国語がもっと勉強したい，資格試験のための韓国語はないのかと聞かれたが，学生の要求に答えられる授業システムが整っていないのは残念である。

また，授業運営の評価で比較的評価の低かった「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の設問についても，改善していきたいと思う。

共通教育 韓国朝鮮語
金　由那　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国・朝鮮の言語と文化III
授業コード　35C28-001
教員名　金　由那
教員コード　101171
登録人数　37
回答数　10
回答率　27.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、学生がバランスよく朝鮮・韓国語と文化を学べるように、文字教材のみならず、音声や映像教材もフルに使い、中級レベルの学習者にとって必要な言語知識を、「話す、聞く、読む、書く」練習を通して学習させた。なお、この言語の支えとなる風俗習慣や歴史、社会事情などの韓国・朝鮮の文化も随時説明することにより韓国・朝鮮語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国・朝鮮語と文化に触れる」ことを目標に講義を展開した。

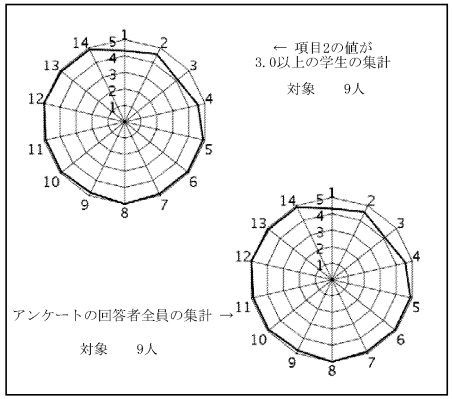
その結果、学生からは全体的に好意的評価を得ており、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。映画を見るなど色々な韓国の文化が分かるようになったこと、暗記して前に出て発表して積極的に授業に参加出来たことや 韓国語を日常会話が使えるまでに身についたなどのコメントが多く記載された。教科書だけではなく視聴覚教材やパソコン教材を活用し、韓国教育番組や映画、音楽ビデオ、K - pop曲などを入れて学習を促す取り込みをして、楽しく学べるように工夫して授業を行ったことが効果的であったことがわかる。

今後の授業では、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたいと思う。

教職センター 教職センター
成田　健之介　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会・公民科指導法A2
授業コード	15B49-002
教員名	成田　健之介
教員コード	101555
登録人数	12
回答数	9
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は，中学校社会科公民的分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目標にして，対話的な授業を重視しアクティブ・ラーニングでの学修を意識した授業構成で進めてきた。新学習指導要領の理解と，公民科において生徒を「主体的・対話的で深い学び」に導くことができる実践的指導力の育成をめざした.

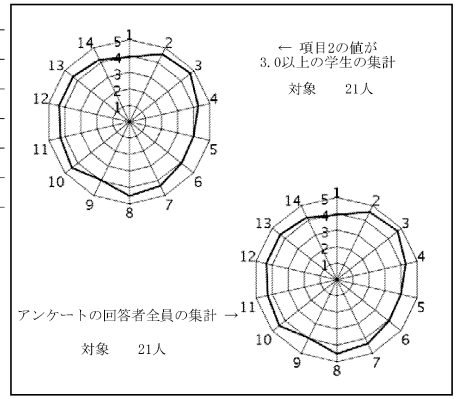
数値データからは，項目3から14の平均値は4.81で，各項目の評価値のバランスも，ほぼ均等であり，模擬授業作りとその検討を中心とした授業構成が，学生の主体的な参加を促したと考える．しかし，項目3の「 授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」の平均値が4.11で低い値になっている。模擬授業が予定通り終了しないグループがいくつかあったため，50分間の模擬授業から30分程度の場面授業に変更することによって改善できるが，デメリットもあり検討する必要があると思う.

自由記述式設問の回答からは，「様々な活動をしながら学ぶことができてよかったです。教職の授業は教員が大変と思う授業が多い中，教員が楽しい職だと思える授業でした。」「自ら取り組んで学ぶことができる。」「学習指導案の書き方を丁寧に指導して下さる。他の科目では指導案についての指導がほとんどなく，教育実習で困るという声も多く聞くのでとてもありがたいです。」「先生と学生の距離が近く，楽しく学ぶとができる。」「写真をたくさん使用していて，わかりやすかった。」という肯定的な意見が見られ，項目12「質問や相談の機会が，十分に設けられていましたか，あるいは，課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」の平均値が5.00であることから，少人数による指導が，学生の高評価につながったものと考える.

外国語教育センター 外国語教育センター
MEJCHAR Benny　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 12
授業コード	11A01-019
教員名	MEJCHAR Benny
教員コード	100666
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



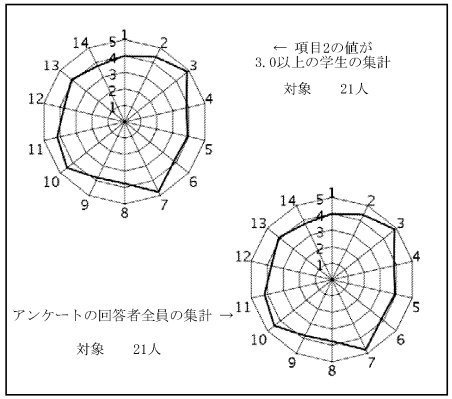
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class assessment was on the whole pleasing as well as the interaction with the students over the past two quarters. The generally solid scores across most of the questions shows a reasonable satisfaction level from the students perspective. In particular I was pleased with the response to question 7. The appreciation of the sincerity of the teacher's work and effort is the most rewarding aspect of teaching so this instructor was very happy to get a good score on this question. In terms of teaching philosophy establishing a good relationship with the students is my most essential goal. Once a good relationship is established other class goals are more readily attainable. I believe this is particularly the case in language study. On questions 12 and 13 the responses were relatively positive. The fact that students feel free to consult with the teacher again is evidence of a good relationship. The other question asks whether the students gained new skills and knowledge. This class meets twice a week over the full year, so there is ample time cover various topics and with some depth. I will continue to focus on this area by taking material directly from English language media sources. A particular focus on social issues and their relationship to economics and business is a particular interest of our class.

外国語教育センター 外国語教育センター
HERSCHLER, Brian　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 3
授業コード	11A01-022
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	21
回答数	21
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



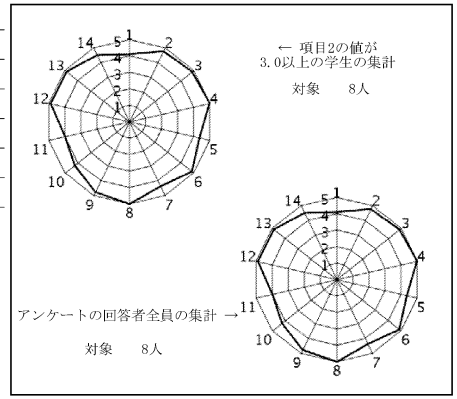
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am largely pleased with the quality of students in the class this year. While some inevitably fail to perform, most show a concern for doing well, and a confidence to do so. The work is challenging and unabating, and some students will complain, but all have the opportunity to follow directions to success, and most do succeed. Students seem largely to approve of the class content and the relentless schedule that keeps them on their toes. Class time is largely spent not in lecture but in active skills development. One complaint I have is that students too often slip into Japanese when they are unquestionably charged with remaining in English. I hope to convince them that skill development requires of them much practice. Another complaint I have centers around a lack of basic study habits: they will not, for example, copy the board (presenting new vocabulary, useful phrases, etc.) unless I ask them to, and I am usually forced to remind them. This astonishes me.

外国語教育センター 外国語教育センター
VEGEL, Anton　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 4
授業コード	11A01-023
教員名	VEGEL, Anton
教員コード	103503
登録人数	20
回答数	8
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



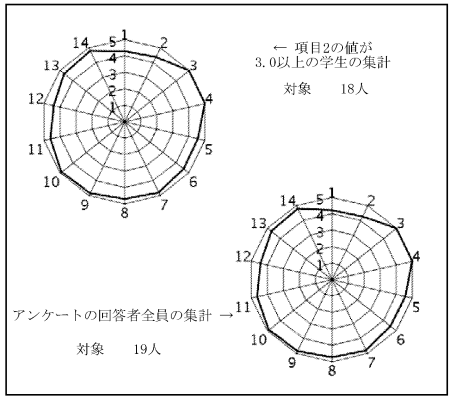
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. My goal at the set of the quarter was to more extensively use moderated and interactionist approaches as supplements to already seemingly successful tasks. To target this goal, I developed some points for students to self-evaluate their own production as well as other class mates' production along parameters that reflect skills being practiced in class. As an informal assessment this additional interaction should help learners apply informal and formal assessment from their instructor (me) to their self-assessment and thus increase noticing and transparency of their language learning.
2. I believe that students may have had some trouble understanding the purpose of some of the materials in the first quarter. Although the majority of students appeared to handle the task seriously, some did not. The students' comments of support materials may reflect this. Additionally, because this survey was conducted in the first quarter, I cannot make a robust conclusion.
3. Looking forward, I plan on continuing the moderated and interactionist approaches while more closely monitoring students' self-assessments. Additionally, I plan on implementing another task every quarter that would increase the transparency of the courses language goals. Students would be tasked to identify the language skills used in a conversation by transcribing key points reviewed and practiced in class.

外国語教育センター 外国語教育センター
岩城　奈巳　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 8
授業コード	11A01-027
教員名	岩城　奈巳
教員コード	049601
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



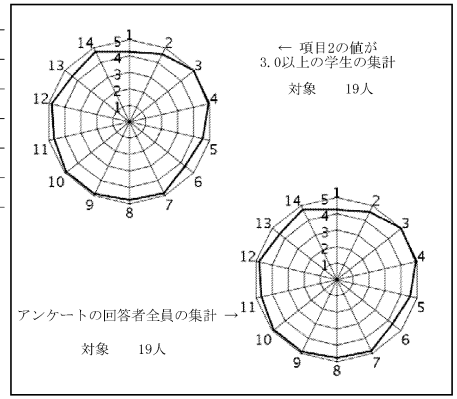
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の年間を通しての目標は「実践的な英語でのコミュニケーション能力向上」である。授業前に、前回の復習を必ずおこない、その日の教科書に沿ったテーマを基に授業内での目標を設定、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の高い満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名でディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が参加しなければいけない講義を心がけた。アンケートは各項目とも平均以上の点数があり、自由記述欄のコメントでは、ペアで相談できる、楽しく英語を学ぶことができた、英語の力がアップした、わかりやすい、ネイティブが使う表現を教えてもらえる、教材が面白い、などあり、学生にとっても満足のいく授業内容であったと思う。また、検定試験に向けての教材を多く配布し、特に多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICについても、練習ができてよかった、リスニング問題をすることができてためになった、などもコメントもあったので、こちらも引き続き、サブ教材として秋学期も取り入れていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
BINFORD, Paul　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 10
授業コード	11A01-029
教員名	BINFORD, Paul
教員コード	046037
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



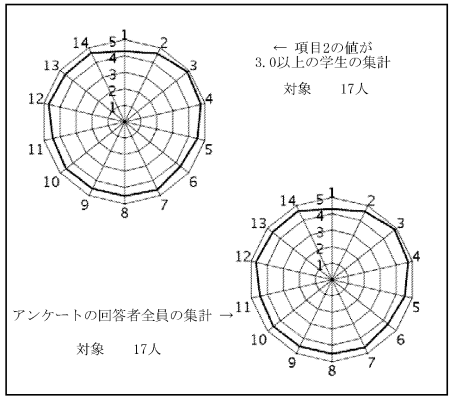
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Quarter 1 begins not long after the students have graduated from high school, therefore I did not expect advanced speaking skills from the students. Add to that, the students level was rated as 10, which is the most basic level. I chose a textbook, Nice Talking With You, that I thought would provide them with opportunities to start a conversation in English and keep it going. That is the goal of the class — Oral Communication skills. The curriculum requires a lot of practicing with another student, and I was able to vary the methods of pair-work by learning from the teacher’s guide and talking with other teachers. There is a listening component to the course and the room we had our classes in was equipped with a user-friendly audio visual system. Fortunately the students were all enthusiastic and disciplined, to the extent that they made an effort and they had a good attitude. I will plan to follow the same curriculum in Q1, 2020, as the student evaluation of the class was very positive. The old saying is — If it isn’t broken don’t fix it. There are requirements for this course that include giving a presentation, and I plan to bring in presentation assignments for Q2.

外国語教育センター 外国語教育センター
佐藤　ゆかり　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]13
授業コード	11A01-042
教員名	佐藤　ゆかり
教員コード	047605
登録人数	20
回答数	17
回答率	85.0%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



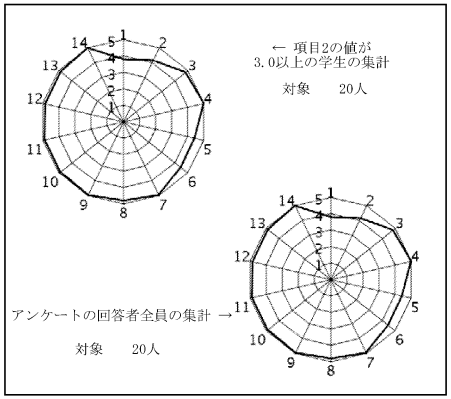
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①基礎レベルのクラスなので、授業中に確実に発話でき学生同士で会話や発表ができるようなスモールステップの授業を心掛けた。授業前、授業後の提出課題も小さいものを数を課し、自宅からのオンラインでの提出方式とし、締め切り意識をしっかり持たせる。結果的には、授業中はいまひとつ自分を発揮できない学生も、自宅提出の音声課題は、個性を発揮したすばらしいものを提出できることがわかった。一人一人の学生にしっかりコメントを返し、個の成長に対応することで、毎週の音声提出も誰一人怠ることなく続けられたのは、すばらしい。②数値的には、及第点ではないかとおもう。英語が苦手なりに、頑張って取り組もうとしている様子がうかがえる。ただ、やはり、一人ひとり、力不足を感じているので、あきらめないように、彼らなりに頑張ってできるようになった達成感、実感をもたせられる授業を今後も取り組んでいきたい。③来クオーターは学生どうしの共同の発表や、アクティブラーニングを取り入れる予定。

外国語教育センター 外国語教育センター
ADRIANOWICZ, Zbigniew　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[B]2
授業コード	11A05-009
教員名	ADRIANOWICZ, Zbigniew
教員コード	103868
登録人数	22
回答数	20
回答率	90.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class has two major elements: reading and writing. For the reading part, my main goal is the increase of passive and active vocabulary. For the writing part, the aim is to enable the students to write 1. Individual paragraphs, 2. Parts of essay, 3. Four types of essays.
After the first quarter I have achieved the aims I had for the class. However, I am very pleased to say that the students are engaged and active, looking forward to the class and to using English.

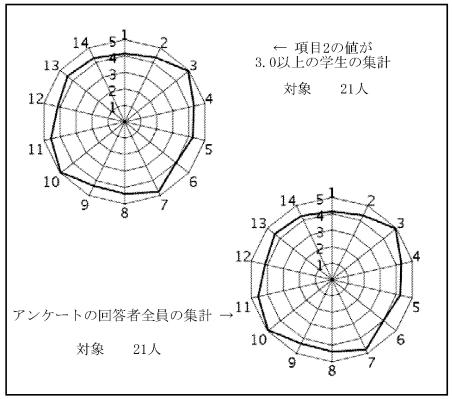
Since these are first year students, I am trying to create an environment where the. Students want to improve and keep improving. The class is cooperative, not competitive, and since the students often talk with each other, they have made good relationships with each other. This allows me to lead them and give them challenges to follow, rather than pushing them toward just passing the course and getting the credit. I am very pleased to say that I am very satisfied with the rapport I have with both the class and individual students.

My next aim will be to gradually increase the level of the material, while keeping the class interesting and stimulating. I intend to give them more challenging but more interesting topics for writing, where they will be able to demonstrate not only their English abilities, but also their own interests.

外国語教育センター 外国語教育センター
JONES William M.　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[P]7
授業コード　11A05-026
教員名　JONES William M.
教員コード　100263
登録人数　21
回答数　21
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



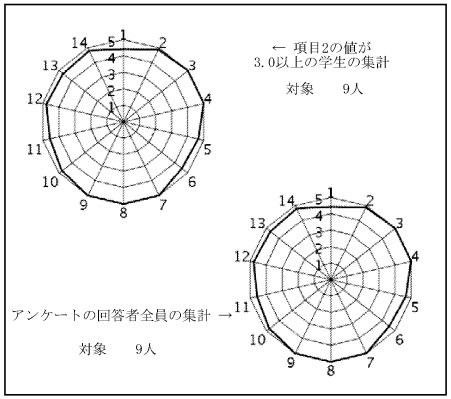
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor was once again blessed to have a mixed group of the same major which consisted of significant variations in abilities and aptitudes, and also motivational levels and attitudes. One student's comments hopefully sums up the attitude of most of the class with the following comment:ビルに出会ってから毎日ハッピー. Much more importantly than the students' academic improvement, is their character and personality development in line with the Nanzan motto of human dignity. Instructor is satisfied with the progress of the students and will continue to work hard to ensure the students receive a vigorous and challenging education.

外国語教育センター 外国語教育センター
BONDOC, Jeffree　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[P]8
授業コード　11A05-027
教員名　BONDOC, Jeffree
教員コード　103469
登録人数　20
回答数　9
回答率　45.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



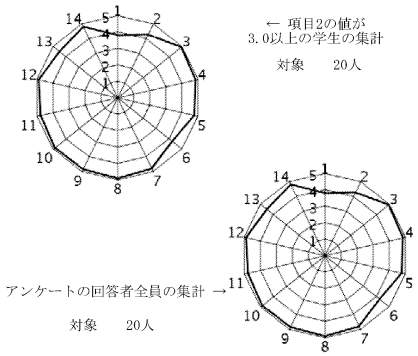
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Classes this semester went very well. The goals of the semester for both reading and writing components were largely achieved. This stemmed from communicating the expectations needed from the students. Students were receptive towards my curriculum and teaching style. Students regularly asked questions for clarification about class instructions and assessment requirements. Also, students were very receptive towards the transparent approach I took towards giving feedback and scores for weekly homework. However, one thing I need to change is the amount of content presented to the students each quarter. I aim to slow down the pace of the amount of information presented to the students. This is especially true for the writing component of the course. Overall, I believe the students and I have created a good rapport. The student motivation is high and put a lot of effort towards their studies.

外国語教育センター 外国語教育センター
鈴木　愛　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[P]11
授業コード　11A05-030
教員名　鈴木　愛
教員コード　103596
登録人数　20
回答数　20
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I have set a couple of goals for the course in Q1. Some of the goals for reading skills are previewing and predicting, understanding the topic, scanning, and skimming. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. As for writing, the goals were to be able to write different types of letters; informal and formal. They seemed to get the idea and was able to produce it as well.

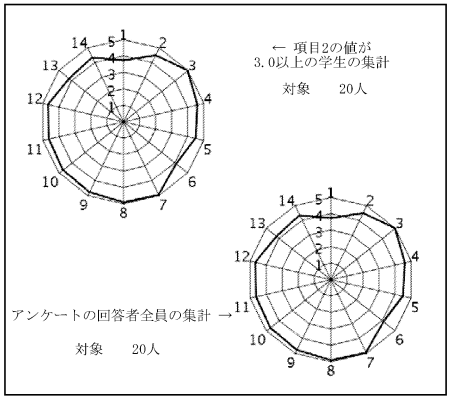
Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed to discuss the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are couple of points that I would like to change for Q2. I had them do many peer reviews, however, not all of them were successful. It seemed that students did not know what a good peer review is and to what extent they are supposed to be reviewing. For the next semester, I am planning to do a sample peer review with the students so that they know what they should be reviewing for.

外国語教育センター 外国語教育センター
平出　優子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリテラシー[P]12
授業コード　11A05-031
教員名　平出　優子
教員コード　102521
登録人数　20
回答数　20
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語Iリテラシーの授業はライティングとリーディングから構成される。Q1のライティングの目標は、書くための準備としてmind mapの技術を使えるようになること、自分い関する内容について150語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになることの3点であった。自分自身と家族の2つのトピックについてライティングの作品を仕上げるよう指導した。最初ドラフトを書くことに慣れるまではミスも多くあったが、Q1の終わりごろには3つのゴールについて全員が到達できたと考える。Q1は簡単で身近なトピックであったので、Q2では難易度を上げて取り組んでいくつもりである。

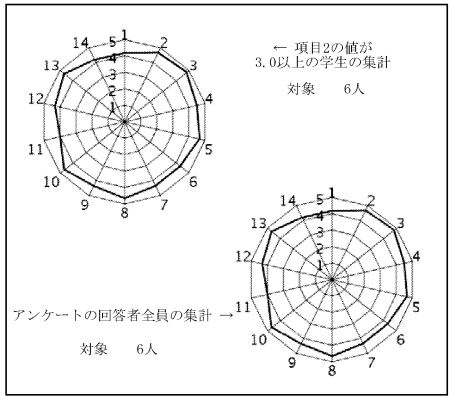
Q1のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、ブックレポートを提出することの2点であった。リーディングテストの結果と提出されたブックレポートの出来が非常に良かったため、目標は十分に到達できたと考える。

Q1ということもあり、ライティングもリーディングも易しめの内容であった為、授業評価の結果ではもっと難易度を上げて欲しいと希望する学生も見られた。Q2では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
MORRISH, Jaime　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[G]4
授業コード	11A05-035
教員名	MORRISH, Jaime
教員コード	103479
登録人数	18
回答数	6
回答率	33.3%
休講回数	4 回
補講回数	4 回



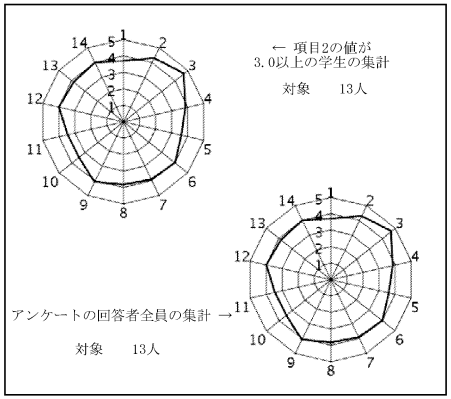
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all of the students. The students' attendance was exemplary only one or two students missed more than 2 classes, with none missing 3 or more. The overall motivation and attitude was excellent. I aim to give the students as many opportunities as possible to produce English, whether it be speaking or writing, the students seemed to appreciate it this as it was reflected well in the student feedback I received. The students appear very happy and engaged with the class, especially with the changing of seats every class and my warmup activities so I aim to continue keeping this positive atmosphere while making a few minor changes. There were no negative points brought up in the feedback, however I have noticed that the students do not enjoy the extensive reading as much as other parts of the class so I will endeavor to address this in my future classes. Overall, this class is very enjoyable and rewarding to teach. I hope that with the small alterations for this quarter I can improve on what is already a good class. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributes to a lively classroom atmosphere. Also, by keeping the students' on a continuous assessment process keeps their motivation and attention throughout the whole quarter.

外国語教育センター 外国語教育センター
島　禎子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]13
授業コード	11A05-043
教員名	島　禎子
教員コード	045559
登録人数	20
回答数	13
回答率	65.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



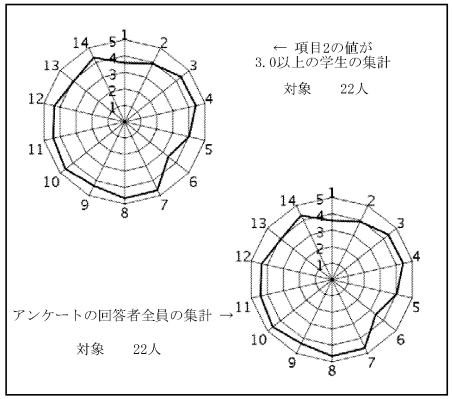
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年の学生に対してまず最初に感じたのは、一定数突然大声を出す、何度も同じ説明を求める等、授業の妨げとなる行為をする学生が目立つことである。これに対しQ1では有効な手段を講じられなかったことは、痛恨の極みである。Q2では本人の不注意による聞き逃しについては、授業中にフォローすることではないことをはっきり伝え、よい意味で突き放すことも必要となろう。
またPCやスマホの辞書が普及している昨今、一回調べただけでその辞書に書いてあることをすべて妄信してしまう学生が多いのも今年の特徴である。今後はより信頼性の高い辞書を使うよう指導を徹底したい。
ここまで否定的なことばかり書いてきたが、「丁寧な指導でやかりやすかった」「なかなか騒がしいクラスですががんばります」「「説明をしっかりしてくれる」などコメントしてくれる学生もいた。よいエネルギーで自らを満たし、少しでもよい方向に導いていけるよう努力を重ねたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
CAPITIN-PRINCIPE, Abigail　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]11
授業コード	11A09-011
教員名	CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード	102955
登録人数	22
回答数	22
回答率	100.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



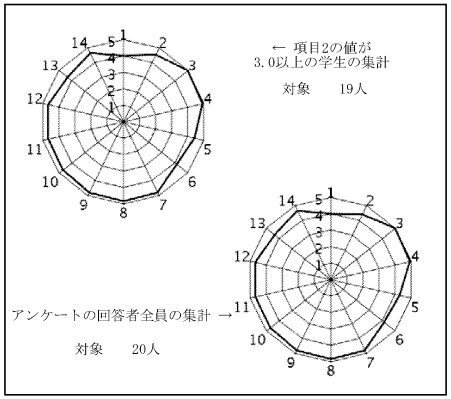
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals, for the most part, were met. This class was focused on Listening and Reading, and the goal set was listening using the textbook, and reading using handouts and websites. Many students were encouraged to use English, in class discussions, conversation and dialog practice and in presentations. Students also used English in writing. The book report requirement was met by all students at the end of the quarter.
Teaching methods were effective in both the listening and reading aspects of the lessons. Students were also encouraged to choose their own books for the book report, with guidelines given at the beginning of the quarter. Many students chose to read more than one book for the book report.
In the future, various teaching methods will be considered, geared towards making English more accessible. Students are always encouraged to use English both in and out of the classroom.

外国語教育センター 外国語教育センター
山田　秀子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]12
授業コード	11A09-012
教員名	山田　秀子
教員コード	103595
登録人数	21
回答数	20
回答率	95.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



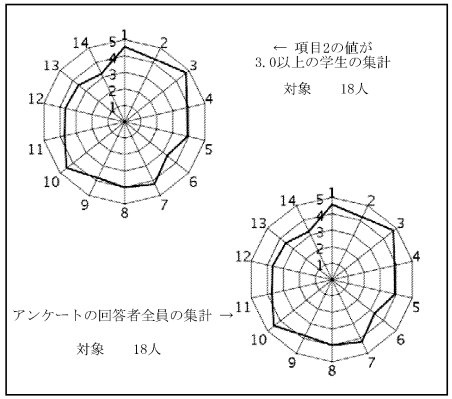
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた学習内容・範囲の90%以上を終えた。この授業では個々に取り組む時間を取りつつ、ペアやグループ単位で協同学習を行う時間を多く設けている。学生は学期を通して主体的に取り組み、クラス全体の雰囲気は良好であった。アンケートでも、この授業の良かった点としてペアワークが複数の回答で挙げられた。全員参加型であることや学生の発言機会が多いことを挙げる回答も見られた。第2クオーター以降もこの形式で進めていく予定である。一方、項目6は他の項目と比較すると平均値が少し低かった。この授業ではリーディングとスピーキングを半々の割合で行うが、特にスピーキングに対する苦手意識を持った学生が多い。授業では2回のプレゼンテーションを行ったが、それまで人前での発表経験がない学生が多かったことも要因の１つと考えられる。自由記述の回答には、プレゼンテーションの負担を減らしてほしいというものもあったが、話す努力をする機会が与えられて良いという肯定的なものもあった。自分の発表の動画を見て振り返ることで改善を図っているが、今後の課題として、発表に対する苦手意識を減らす方法をさらに検討していく必要がある。リーディングでは授業時間外の学習として行った多読において、目標語数を達成できない学生が数名いた。多読の効果について再度説明して意識向上を図りたいと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
DRYDEN, Laurence　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9
授業コード	11A09-023
教員名	DRYDEN, Laurence
教員コード	101482
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the instructor’s third iteration of a course in basic English speaking and reading for students majoring in other languages and cultures—Spanish and Latin American Studies, French Studies, German Studies, and Asian Studies.

Students’ responses to the anketo were respectably positive, around 4.0 in both statistical categories. Written responses indicated students’ general satisfaction with using English in class, particularly with the time allotted for alternating between reading and conversation activities.

It should be noted that the positive attitudes of the students this quarter may be correlated to class size. This year, the number of students is 18, compared to 27 in last year’s iteration. The instructor has certainly noticed the difference in classroom mood between last year and this year.

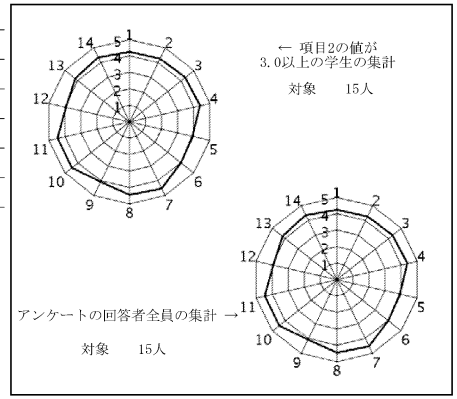
Both textbooks are familiar to the instructor now, as he used them together for the first time last year. Consequently, the course goals of covering a fourth of both textbooks were nearly met.

The instructor continues to streamline his ways of using teaching materials. It is expected that we will cover even more of the curriculum in the second quarter, and students can expect to meet with even greater success.

外国語教育センター 外国語教育センター
LENIHAN John　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[E]1
授業コード	11A09-025
教員名	LENIHAN John
教員コード	045070
登録人数	15
回答数	15
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



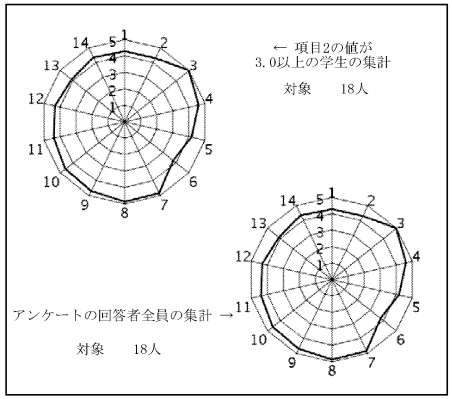
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this class were to do extensive reading, improve reading strategies, develop basic vocabulary, everyday idioms and similes and to improve basic oral communication skills. I believe the students would agree that the objectives were met, according to their motivation and participation levels.
The extensive reading exercises were supplemented with many original materials and short plays for listening comprehension and group listening practice. Generally the results of the evaluation were positive and encouraging. The student level was fairly mixed so there was a gulf between the ability of the highest and the lowest students. The same can be said for the motivation levels of the class as a whole. The students who participated the most and appreciated the variety of activities showed the most progress during the first quarter. I thoroughly enjoyed teaching this class and seeing their improvement.
I believe that to improve reading skills we should do more work with affixes from Latin and Greek and also word roots from Latin and Greek. Though it was difficult for them during the first quarter to understand word formation tendencies in English they are quickly learning the value of such study. Also, more study of basic idioms and the interesting histories behind many idioms would be a good idea.

外国語教育センター 外国語教育センター
伊藤　実里　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 3
授業コード	11A09-039
教員名	伊藤　実里
教員コード	045542
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



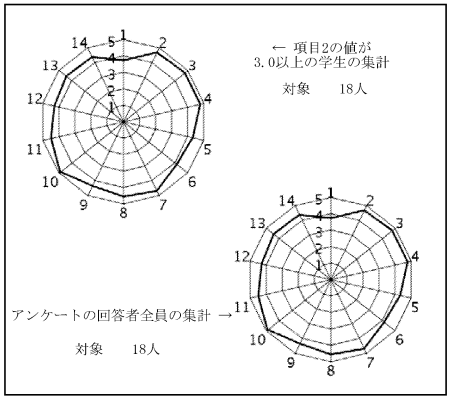
授業評価結果を踏まえた点検・評価

実際の日常会話で典型的に使われ、誰とのどんな会話にも応用することのできる基本的な英語表現の習得を目標としている。一年間を経てマスターしてもらいたい表現なので、第２クォーター終了時における評価で、まだ目標に到達していないと感じている人たちがいるのは当然である。第４クォーターを終えるときにはさらなる積み上げを実感することができるように十分な説明と練習を繰り返していく予定である。コミュニケーションの練習はアクティブラーニングそのものであり、ペア練習が多いこと、ペアの顔ぶれが替わることについては好反応が得られた。自由記述回答からは実際に役立つ表現や知識だと実感できている様子がうかがえるので、継続していきたい。
リーディングについては、今年度のグループは英語を理解する基礎力がしっかりしている人たちが多く物足りなさを感じている人もいることがわかった。例年通りの、理解の助けになるような説明をなるべく多くするという必要はないかもしれない。取り上げている話題は現実社会で賛否両論あるものという難しさがあるのだが、Q1ではまだそれを大学生らしい「ディスカッション」に発展させるには至っていなかったことも一因かもしれない。話題のタイプに慣れるにつれ、ディスカッションになるように、また追加資料により物足りなさを補えるように工夫していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
柴田　直哉　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 4
授業コード	11A09-040
教員名	柴田　直哉
教員コード	102751
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



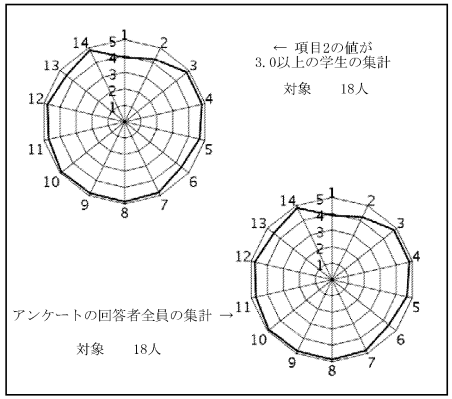
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターにおいては今年度より初めて南山大学で働くことから多少時間配分や学生たちのレベル理解に時間がかかったが、開講当初に設定していた目標の1つであった英語を用いて与えられたトピックに対してクラスメートの意見を理解をしたうえで自分の意見を主張するということは到達できていたように感じる。また、Ｍ－Ｒｅａｄｅｒに加えてExtensive Reading and Listening Reportを書かせたことで講義外での英語学習をする機会は少なからず与えることができたと考えている。
自由記述での回答にあった通り、同講義名における他クラスと比べると課題量が多くなり、一部学生から負担の軽減を求められたが、講義内で英語を用いてのやり取りをするためには講義外においても英語を聞き、読み、書くという活動を取り入れることが重要であることから今後も継続していきたいと考えている。また、今年度が始まった当初は英語でのやり取りを困難に感じている学生が多かったが、反復活動を行うことによって会話でのやり取りが少しずつだができるようになってきたことから次第に効果が出てきていると考えられる。
今後においてもテーマ型の内容中心教授法を用いることで、学習者主体の活動を中心に行い、学習者の視野を広がることに貢献していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANGER Daniel　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 5
授業コード	11A09-041
教員名	LANGER Daniel
教員コード	101438
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class tried to cover the four basic language skills, and I think we did a fairly good job. Most of the students seemed to feel that the pacing of the curriculum was appropriate. I will still try to make some modifications in the curriculum content to make classes run even more smoothly. However, since the comments were very positive, I will keep tinkering to a minimum in order to avoid fixing something that isn’t broken.

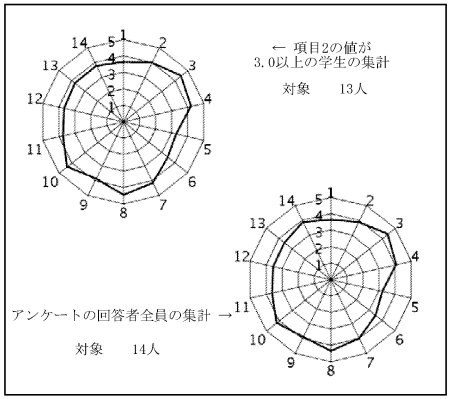
The students seem to consider the classroom a welcome place. The class uses an all-English environment, and most students seem to react positively to this, noting that I did try to make sure everyone understood instructions and materials. However, there was one comment that indicated understanding problems. Although I think I give students opportunities to ask questions, I am aware that most students are shy about indicating incomprehension. I will try to be even more aware of learning difficulties.

I will cut out unnecessary/boring parts of the textbook. I may also give stronger encouragement to after-class reading.

外国語教育センター 外国語教育センター
NIXON, Richard Mark　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 6
授業コード	11A09-042
教員名	NIXON, Richard Mark
教員コード	103559
登録人数	18
回答数	14
回答率	77.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



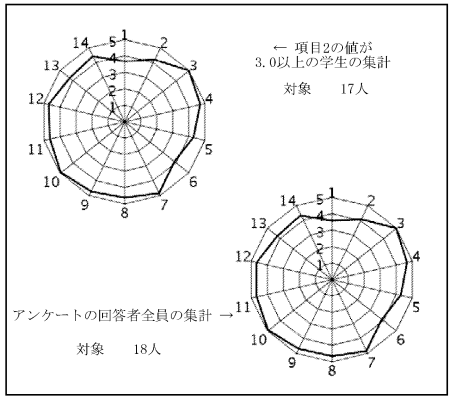
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) The goals set out at the beginning of the course were for the most part achieved. Students were regularly reading a graded reader each week and provided well written summaries of their readings each week. Most of the students met the minimum requirement of reading 4000 words in their graded readers and showed that they were reading more difficult books as the first quarter progressed.
During the Communication Skills portion of the course students worked together primarily in groups and we dealt with issues of Pragmatics, which was the emphasis for the first quarter of the course. Within their group work Ifound that students were committed to creating their own language that they could use in scenarios they createdfor themselves dealing with each pragmatic aspect.
2) There is still room for improvement and a sense that students are enjoying the course yet could be brought to enjoy the course more in the future. In the next quarter I intend to have students do more independent work or smallgroup work that will deal with debate, speech, and presentation.This should allow students to develop their speaking skills and help them shed some apprehension they may have for public speaking. Since the students are beginning to get to know each other well I believe they will be able to accomplish this part of the course well.
3) One thing I’ll try not to do is to cancel any classes next quarter because it was difficult for all of us to make up the two cancelled classes later in the quarter.

外国語教育センター 外国語教育センター
大竹　万里　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 11
授業コード	11A09-047
教員名	大竹　万里
教員コード	047084
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

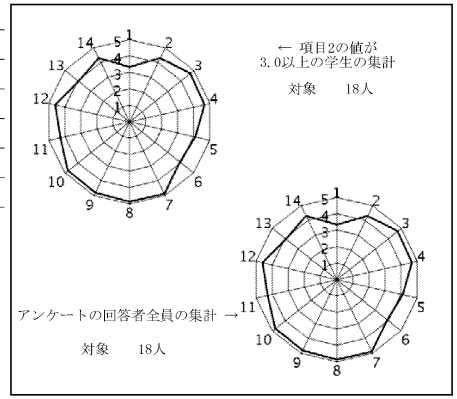
火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタヴュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。第１、第２クオーターを通して学習を記録する小冊子（Class Book）を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと考える。

授業評価の設問３から１４の平均数値データが４．５７、学生の授業に対する全体的な満足度については４．３３であった。授業について評価できる点として、「教員の指導方法」や「教員の資質・誠実さ」をあげる学生がいる一方、改善点として「生徒参加型授業」「強制的な課題」の必要性をあげる学生もあり、反省点となった。この授業の到達目標に向けて力がついてきていると実感できるような授業を目指して、第２クオーターでは、リーディング・スピーキング両授業において、学生の積極的な課題取り組みや発話練習を促す授業を心がけたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
NICKSICK, Thomas　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[S] 5
授業コード	11A09-053
教員名	NICKSICK, Thomas
教員コード	102113
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



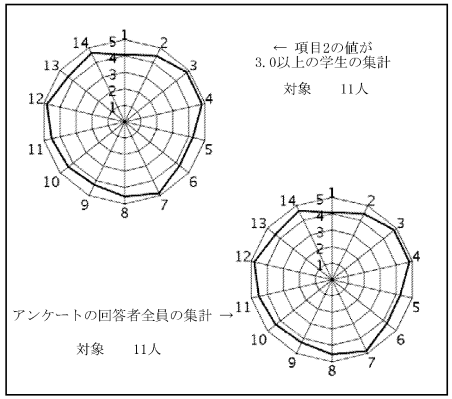
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course goals included learning conversation strategies, improving vocabulary, being more confident when giving opinions, improving reading strategies, identifying main ideas and supporting details of texts, and guessing the meanings of words from context.
The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in his approach to teaching the course, the students' rating was 4.89. Regarding enough opportunities for questions, consultation with the instructor, or guidance, the students' rating was 4.61. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.78.
However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if students were making solid progress toward achieving the course's attainment target, the students' rating was 3.94. When asked if students were encouraged to proactively participate in class and become involved in the learning process, the students' rating was 4.28. Also, when asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the students' rating was 3.94.

外国語教育センター 外国語教育センター
SIMMONDS Brent　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[S] 6
授業コード	11A09-054
教員名	SIMMONDS Brent
教員コード	103050
登録人数	18
回答数	11
回答率	61.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



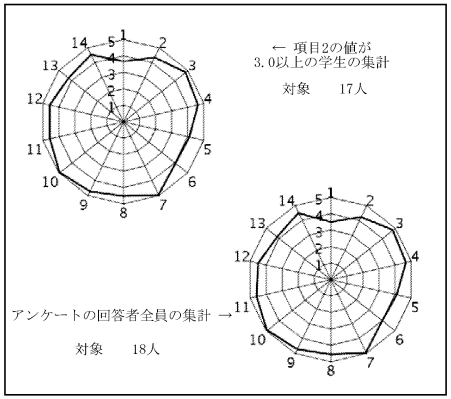
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was generally pleased with the student evaluation but need to work on and improve in certain areas. The students said that they would like more speaking practice but enjoyed short writing exercises each week but would like more editing practice. The students enjoyed the presentations and learning a little about global issues but I need to provide more material in this area. The balance between the four skills was about right but I will add extra speaking to the syllabus for the following quarters, the students will be given the opportunity to collaborate on the development of the course for the autumn semester.

外国語教育センター 外国語教育センター
SCRUGGS, Edward　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[S] 7
授業コード	11A09-055
教員名	SCRUGGS, Edward
教員コード	101864
登録人数	19
回答数	18
回答率	94.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

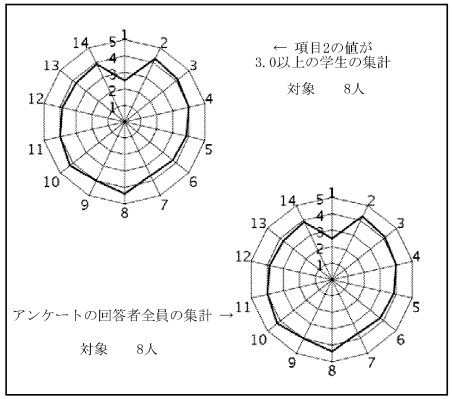
First of all I want to thank all my students for their very positive and helpful comments.　I am happy to see that students seemed basically pleased with our class.　Most of our original goals set out in the beginning of the term were met.　The area that needs a bit more of my attention seems to be related to the statement of learning goals and how they will be implemented in the class.　I will be most happy to focus more on these next term.　I believe that there are two approaches to this. The first will be to spend more of the initial class in student discussion of the provided syllabus to insure a better understanding. Secondly, a follow-up session around the mid-term could also help clarify any points that might be needful of explanation.　I shall certainly be pleased to do these. The only point of any discussion at all seemed to be related to stimulating outside interest in the class material.　I plan to create a list of related on-line sources, which might be used by any students wishing for extension type activities.　This will also be a pleasure to do. Again, thank you all for being such an attentive class.

No classes were canceled this quarter.

外国語教育センター 外国語教育センター
内川　元　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J]13
授業コード	11A09-061
教員名	内川　元
教員コード	101922
登録人数	18
回答数	8
回答率	44.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はオーラルコミュニケーションとリーディングの授業なので、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことに重点を置いて行っています。

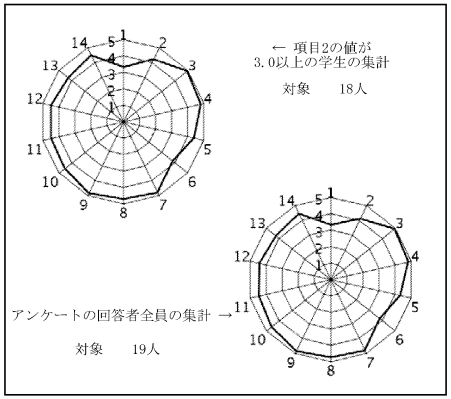
生徒は真摯に学習に取り組んでおり、授業態度や課題の提出状況、小テストの結果も大変良好でした。それも踏まえ授業目標はおおよそ達成出来ているものと考えます。授業評価の数値データでは１番の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」との問に対する数値が例年に比べて低いのが目に付きます。開講前のことで、唯一影響する可能性のあるシラバスの内容も昨年度から大きく変更したわけではありませんので理由はわかりませんが、昨年とは異なるレベルのクラスのため、ひょっとすると生徒の英語に対する興味のレベルが影響しているのかも知れません。しかしそれ以外の数値で極端に低い項目はありませんし、これが生徒の授業への取組に悪い影響を及ぼしている心配はなさそうです。

自由記述欄の記入では「英語の勉強の仕方がよくわかった。」という旨の前向きなコメントがありましたが、改善点、授業環境に対するコメントはありませんでした。例年２学期以降は授業のペースも上がり、時間に余裕が生まれますので、既存内容の改善と新たな内容の追加を行い、授業の質の向上を図っていきたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
ウエストビィ　三奈　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]15
授業コード	11A09-062
教員名	ウエストビィ　三奈
教員コード	102952
登録人数	21
回答数	19
回答率	90.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



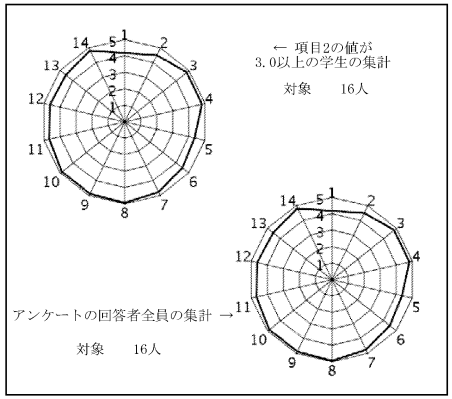
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、文法の基礎知識を伸ばすこと、自分の事について書いたり話したりできるということを目標とした。英語そのものに苦手意識を持つ学生が多い中、ライティングとスピーキングの両方で正確さと流暢さを追求し、ペアやグループでの活動を通して学びあいの意識を育て、学習意欲を上げたいとの試みがなされた。今年度は初めての試みである多読を通じて自身の興味のある本を読み、その内容について述べるというインプットアウトプットの作業も加えた。
週二回の授業だったこともあり、学生同士や教員とも親しい関係を築くことができ、発言が多く活動しやすい雰囲気が築けたと思う。多読に関しては、求められる読書量が多いことと、本の内容を要約する事が難しいのではとの危惧があったものの、各学生が真面目に取り組み、期待以上の成果が出たように感じる。
来期から、徐々に課題の難易度を上げながら、学生が更なる成長を遂げられるようサポートしてゆきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
SWEETLOVE, Douglas　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[E] 13
授業コード	11A09-063
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	16
回答数	16
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

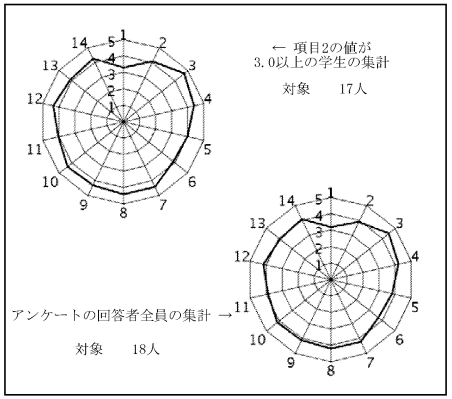
The goals of the course were: a/ give students practice in daily conversation, b/ practice basic grammatical structures, and c/ encourage students to become comfortable talking about their lives with others. These goals were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. I cannotimagine trying to coordinate with another teacher about the class to be honest.

At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

外国語教育センター 外国語教育センター
JARRELL, Douglas　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[S] 2
授業コード	11A13-008
教員名	JARRELL, Douglas
教員コード	104102
登録人数	22
回答数	18
回答率	81.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

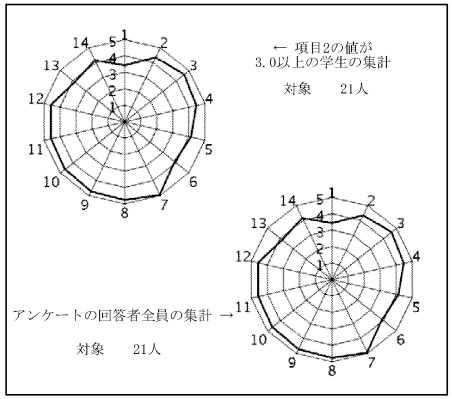
I wanted the students to learn how to have discussions about topical issues during the speaking section of the class. In order to achieve this goal, the students need to be able to express their opinions and explain their reasons for holding these positions. At the moment, the students are still learning how to extend their discussions beyond a simple statement of their opinions. I will need to work more carefully so that they are able to expand their discussions and create more natural conversations.

In the reading section, I take a more intensive reading approach to the text during the class and assign them extensive reading as homework. Judging from the results of their reading report, they are reading and understanding the book they report on. The scores on the M-reader tests indicate that they are understanding what they are reading. Some students were unable to summarize the graded readers that they have read. I intend to work more on summarizes this semester.

外国語教育センター 外国語教育センター
高野　洋子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[S] 6
授業コード	11A13-014
教員名	高野　洋子
教員コード	104147
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



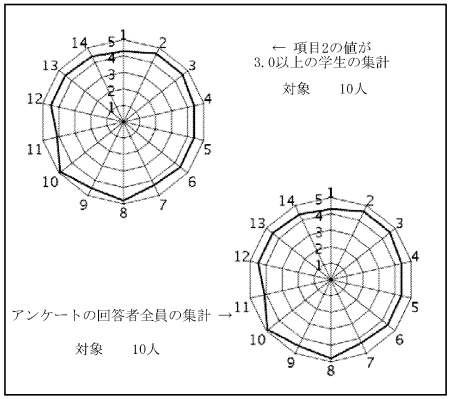
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.当初設定していたコミュニケーション能力を図るテストの際、会話能力が2回生にもかかわらず著しく低いため、INPUT活動を増やしたり、
　第二言語をはなす際に有効な会話ストラテジー指導に力をいれた。学生の聞き取りを丁寧にした結果、1年次に外国人講師の授業では話すための　指導が不十分、読解活動も不十分だったことで英語を話す自信が全くないことが判明した背景があるため。プレゼンテーションを英語でするための準備を中心にした授業で第二言語での会話の楽しさを十分経験したあと、批判的思考を伸ばすためのグループディスカッションも増やした。読解ではリテラシーを増やすために興味がある分野でのリサーチQUESTIONをグループで設定　研究のために英語の文献を読む、理解したこと、りかいできなかったこと両方を英語でポスター発表し、読むことの重要性を理解してもらった。結果、多読に対して意欲をさげることなく1週間２５００WORDのペースで英語本を読めるようになった。
２．学生の出席率もあがり、英語で意見を言う機会が増えている　その点は１２０％授業に対して貢献し、学生の理解度を増やしたと自負している
2週間に1回程度、生徒にクラス評価をしてもらっているため、わかりにくい点、質問、授業改善点に対する意見を理解している。結果、学生のためになる授業をおこなうことができている。
３．英語が嫌いである。英語は必要ない。と言っていた生徒たちが英語をはなすことは楽しい・プレゼンテーション能力を伸ばしたい！と意識が変化している。この良い状況を継続して指導したい。2期終了時には2分、英語プレゼンテーション、3分英語で会話ができるように現在指導中なので、結果がでるのが楽しみである。

外国語教育センター 外国語教育センター
FOX, Aaron　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ<全>1
授業コード	11A13-017
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	22
回答数	10
回答率	45.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. In so far as they were achieved, I would say that most were. Reading goals set for the in the handbook were achieved universally in the class. Most impressive were the high scores achieved by the majority of students on all quizzes and tests. This demonstrated a clear understanding and utilization of the reading skills and techniques introduced throughout the course.
In terms of my own reflection on the course, I would say that reaching the reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the students won test scores and apparent application of the skills covered in regards to reading I am stratified with the results. That I was able to impart some understanding of the utility of more academic reading approaches was gratifying.
Thinking toward the next quarter, my primary goal is it increases the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. It is clear to me that the balance of the course needs to be re-calibrated to better encompass both reading and speaking in equal measure. To that end, I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. In this past quarter, I divided both skills into discrete classes focused solely on either reading or speaking. It may better support the students to practice speaking about the topics read to discuss the material in tandem with reading it.

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Douglas　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[S] 10
授業コード	11A13-022
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	21
回答数	4
回答率	19.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

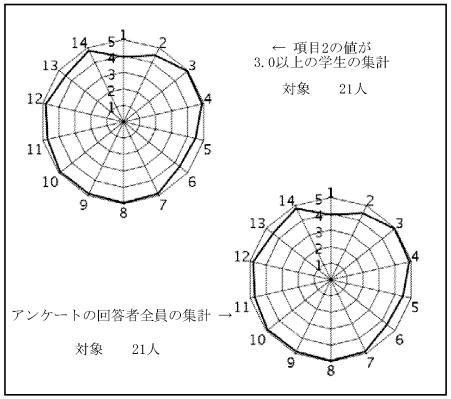
This year’s course evaluation was similar to ones in previous years. This year’s class was of a higher level and the students did their preparations and homework well. The mid-terms and finals in each semester were successful and the students seemed to both enjoy and get something out of doing the presentations.

As for the evaluation there are no real high or low points that stand out this year. I attempted to do mostly conversations and presentations so students could use their own English in their own way, with as little teacher direction as possible. Overall this year was more successful than last year, partly due to the slightly higher level, and partly due to a more organized and clearer set of requirements, which the students both knew and appreciated.

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDSBERRY, Lauren　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ<全>7
授業コード	11A13-030
教員名	LANDSBERRY, Lauren
教員コード	103626
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year my course has been designated to an open course that students of all grades and majors are able to take. Frankly, I think this has led to the level of the students increasing. In fact, compared to my previous years of teaching at Nanzan, I feel that the students have a much better attitude overall to learning English.

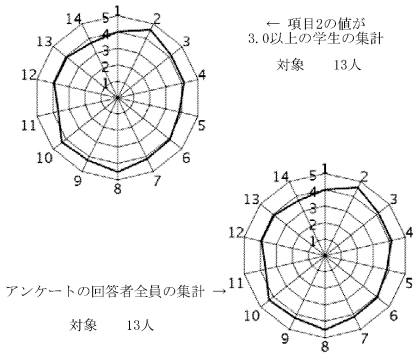
Whilst I previously had found having a larger classroom to be a distraction to the students, I have not felt this way this quarter. It has been nice to have the larger room and space for presentations and group activities.

I felt that all of the goals that were set at the beginning of the quarter were achieved in this class. I also used some online activities with their smartphones to keep their motivation up. The students seemed to enjoy the class while using English and I hope that they found the course worthwhile. I look forward to the remaining quarters.

外国語教育センター 外国語教育センター
HAYES, Mary 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング＜全＞1
授業コード 11A17-019
教員名 HAYES, Mary
教員コード 103625
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



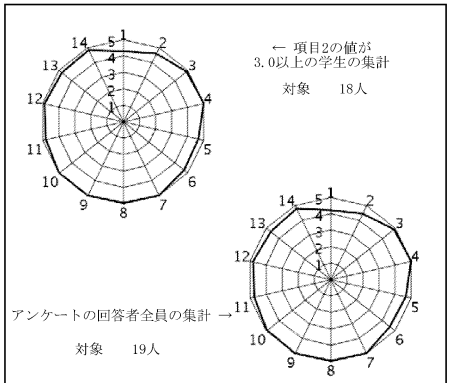
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. I believe that the goals set for this Writing I class were achieved to an acceptable point. The students worked well towards those goals and were diligent and motivated about developing and composing academic paragraphs and essays, presenting their papers with correct format and writing a business e-mail.
2. The data and comments clearly show that the satisfaction level was good and the class was successful in there were not any complaints about the content, methodology or course.
3. In the coming quarter, I plan to focus on making the course expectations clearer and stick more closely to the syllabus. Special attention will be given to clearly explaining the homework assignments and writing them on the board. I will also devote more time to individual consultations when editing and improving the academic essay in order to rewrite the final draft.

外国語教育センター 外国語教育センター
DAVANZO, Christopher 先生

2019年度Ｑ１ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング＜全＞1
授業コード 11A23-003
教員名 DAVANZO, Christopher
教員コード 101653
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



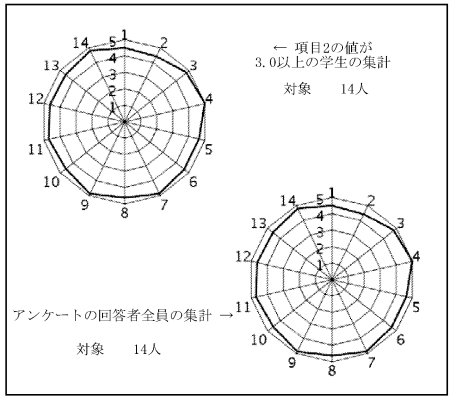
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was satisfied with these course evaluation results. The majority of students responded positively and indicated they were happy with the course, and felt they had improved. This quarter, I spent a lot of class time reading together with the class and having them discuss the readings in pairs. I gave them more pre-reading activities than in previous years, and these seemed to have boosted their understanding and level of engagement. In addition, I created other activities that dug more deeply into both the content and themes of the books we read, These activities went very smoothly, stimulated student interest and understanding, and seemed to get the students more motivated to read on their own. Based on both my own observations and the class evaluations as a whole, the focus on pre-reading and group reading activities was very productive. As a result of this semester's positive results, I am going to continue with developing pre-reading activities. Furthermore, I intend to also create more and hopefully even better pair and large group discussion-based activities, so that students can gain the full benefit of both the teacher's expertise and the insights of their peers.

外国語教育センター 外国語教育センター
酒井　美納江　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリスニング＜HA, HP, HJ＞2
授業コード　11A25-002
教員名　酒井　美納江
教員コード　046060
登録人数　23
回答数　14
回答率　60.9%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



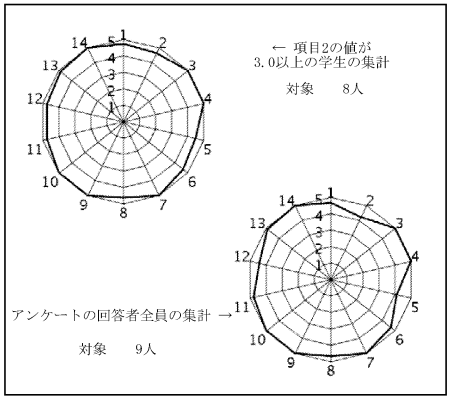
授業評価結果を踏まえた点検・評価

中級程度の教材を用い、（１）全体の主題を理解する、（２）必要な情報を聞き取る、（３）慣用表現や頻度の高い語彙を聞き取る、を中心にリスニングの練習を行った。また、チャレンジ教材として、ビデオでドラマを見て短い１場面について同様の練習もした。（１）（２）のタイプの聴解力は、もともと高かった学生も多く、難なくこなしていたようだったが、（３）に関しては困難に感じている様子がうかがえた。学習意欲を継続するためには、問題が解ける喜びや達成感を持ってもらうことも大切で、その点については十分配慮したつもりだが、より力を付けさせるために、苦手分野にもう少し時間を割いたり、練習量を増やしても良かったかもしれない。
学習意欲の継続に関して、今回の新しい取り組みとしてリスニングの授業ではあるが、スピーキングの時間を以前より増やす試みをした。あいさつから始まるsmall talkを毎回行い、その後リスニング教材に関連した話題についてペアで話をする機会を設けた。活動にメリハリを付けたことで、リスニングの練習自体も高い集中力で取り組めたようだ。次クォーターもぜひ行っていきたいと思っている。

外国語教育センター 外国語教育センター
木田　パルビン　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリスニング＜J＞2
授業コード　11A25-020
教員名　木田　パルビン
教員コード　102322
登録人数　9
回答数　9
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



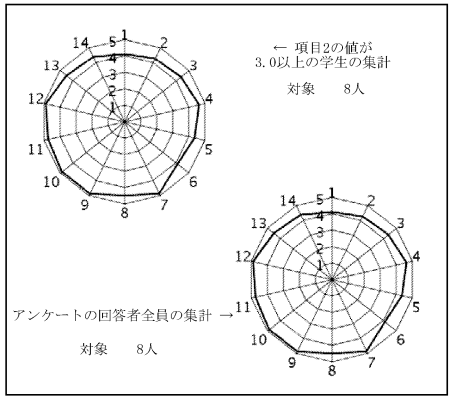
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The listening course was a task-based approach to develop listening skills
and strategies necessary for effective communication in English. The topics in the textbook included a variety of real-life situations such as following directions, listening to telephone messages, understanding announcements. The situations included shopping, food, and overseas travel. The lessons were taught and practiced through the following steps, starting with the presentation of new vocabulary, and then listening for an overview and again for details, followed by practice with pronunciation, listening and
responding, and finally, a short dictation and fill-in the gap exercise. Students were given opportunities to practice what they had learned in class through pair and group work. In addition, writing homework was assigned to the topics studied in class.
I have carefully studied the students' evaluation and comments. In my judgment, the students demonstrated an improvement in their listening abilities since the beginning of the course.

外国語教育センター 外国語教育センター
KHONDAKER, Taslima　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリスニング＜J＞3
授業コード　11A25-021
教員名　KHONDAKER, Taslima
教員コード　103598
登録人数　8
回答数　8
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



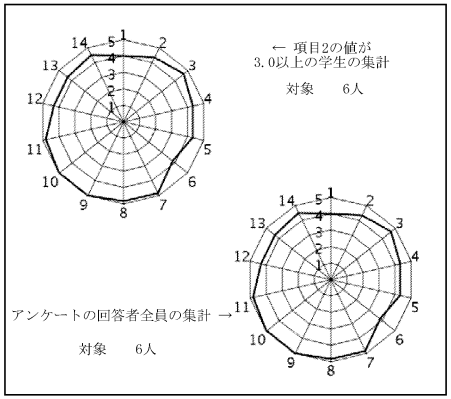
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.15 and 4.41 for the courses in the band of 11A01-001～11L1.16-999, the scores of this course were 4.13 and 4.25. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.79, 4.60, 4.36, 4.21, and 4.74 for all courses, the scores for this course were 4.38, 4.63, 4.38, 4.13, and 4.88. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.72, 4.63, 4.70, 4.53, and 4.54 for all courses, the scores of this course were 4.50, 4.88, 4.88, 4.75, and 4.88. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.45 and 4.52 for all courses, the scores of this course were 4.50 and 4.38. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students gave no comments. In Q2, I plan to improve my method of instruction to get better feedback.

外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　尚子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリスニング＜J＞4
授業コード　11A25-022
教員名　加藤　尚子
教員コード　103630
登録人数　7
回答数　6
回答率　85.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
リスニングの力を育成する為、学生が様々なトピックのリスニングに触れることができる機会を設けました。そのため教科書からだけではなくインターネットを利用し身近な話題を中心に聞く機会を供給できました。また、生徒の興味を引き起こさせるという目標を踏まえ、ノートをとる力をつける練習を兼ねながらノートをもとにイラストを作成するというアクティビティを実行しました。

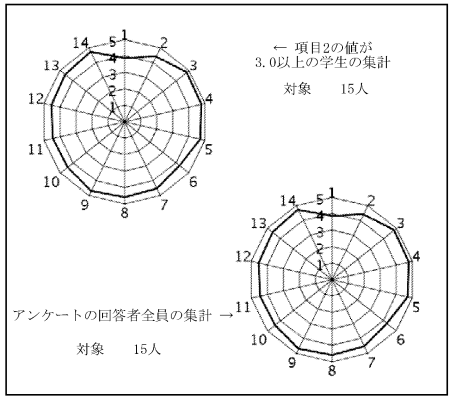
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
学生の自分の力がついてきているという実感があまりないという意見があるため、学生がリスニング力がついているという実感ができるように改善をしていきます。また、授業の速度がもう少し早くても良いという指摘もあったため、学生の様子を見ながら速度を調整をしなければいけないと改めて考えさせられました。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生が自分で実際に力がついてきたという喜びを感じられるようなアクティビティを新たに考え出していきます。

外国語教育センター 外国語教育センター
松見　誌野　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語Iリスニング＜全＞5
授業コード　11A25-027
教員名　松見　誌野
教員コード　104166
登録人数　20
回答数　15
回答率　75.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
概ね到達できたと思う。しかし一部欠席回数の多かった学生については、彼らの英語リスニングに対するモチベーションをあげるよう工夫を凝らすことが今後の課題であると感じた。

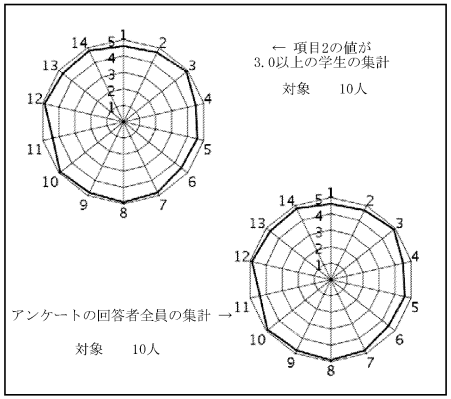
2. 数値データ、自由記述を踏まえての総合的な自己点検・評価
設問１～14までの平均値は、予想以上に高い数値だったので、学生のニーズに合った授業を行うことがある程度出来たと思う。自由記述の良かった点で、「ペアで答え合わせができた」「説明が丁寧だった」「メリハリをつけて問題に取り組むので集中できた」との記述があり、授業で意識して行ってきた点が評価して頂けて、良かったと思う。

3. 次クォーターに向けての改善点
モチベーションが低めの学生に対するケアが課題。ペアワーク、グループワークを積極的に取り入れ、クラス全体としてのモチベーションアップが図れるよう、努めたい。TOEIC受験に関心のある学生へのフォローも行っていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　普由子　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語I翻訳＜全＞1
授業コード　14A05-001
教員名　加藤　普由子
教員コード　101654
登録人数　11
回答数　10
回答率　90.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



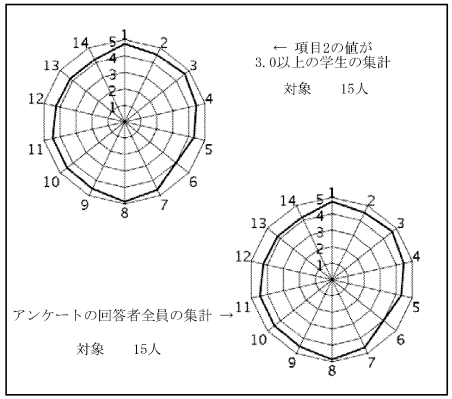
授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生全員の回答である。項目２の平均値が4.70であり、私自身、学生は課題に対して主体的に取り組み、内容理解やスキル習得に意欲的に取り組んでいたという実感も持っている。授業評価も総じて良かった（項目14：平均値4.80）。ただし、項目11の設問に対して１人の学生が評価３をつけており、もう少し学生の様子を注意深く観察すべきであった。また、グループワークやペアワークを積極的な授業参加や自主的な学習を促すために取り入れているが、「グループワークであまり話し合えなかった」との記述があった。話し合う時間が足りなかったのか、学生同士の遠慮がちな姿勢が影響したのか等、理由は不明である。他方で、項目12の平均値が4.90であり、自由記述においても「質問に対する詳細な解説や例文がよかった」「普段の英語の授業ではあまり踏み込まれない内容に関する詳細な解説があった」「高校では扱われなかった内容があった」など好評価コメントもあり、授業全体だけでなく個別対応もできよかったと思っている。

外国語教育センター 外国語教育センター
今川　奈美　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　実践英語IA＜全＞試験対策TOEIC1
授業コード　14A09-001
教員名　今川　奈美
教員コード　104146
登録人数　22
回答数　15
回答率　68.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
シラバスにある到達目標１６項目のうち、TOEICテストの各パート攻略法、音声知識、語彙強化などを含む１２項目は授業で明示的に指導したため、ある程度達成できた。速読、要約、残りの４項目は授業で達成度を測る機会を持たなかったため、達成できたかどうか判断が難しい。

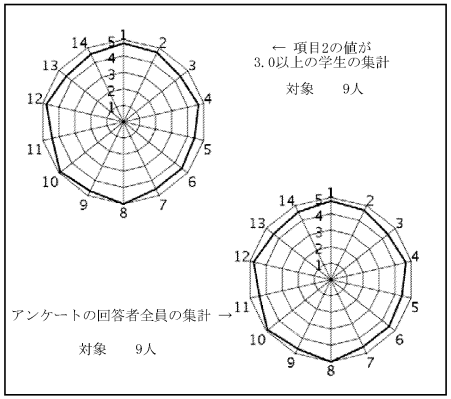
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
授業評価のすべての項目において4.0以上であったが、自由記述の回答はなかった。項目１の授業履修前に授業の内容に興味を持っていたかの回答は、平均4.73という高い値だったのに対し、項目６の到達目標に向けて力がついてきているかは4.0にとどまったため、到達目標をもっと明確に示すように努力をしたい。ウォーミングアップとしてスモールトークを取り入れたのは高評価だった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
デジタル機器やホワイトボードを有効に活用し、今どこをやっているかわからなくならないよう、視覚で示すように心がけたい。また、毎回の授業での到達目標だけでなく、時折シラバスの到達目標を振り返り、今どこまで到達し、次の目標は何かを具体的にしめすことで、学習意欲を高めたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Jonathan　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス英語A1
授業コード　40E04-001
教員名　MOORE, Jonathan
教員コード　101410
登録人数　31
回答数　9
回答率　29.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



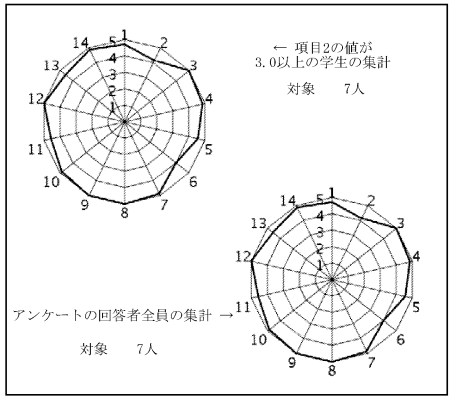
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. The class was adjusted to the student’s needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

外国語教育センター 外国語教育センター
VIADO Cora　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ビジネス英語Iリーディング2
授業コード　42G02-002
教員名　VIADO Cora
教員コード　100553
登録人数　7
回答数　7
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



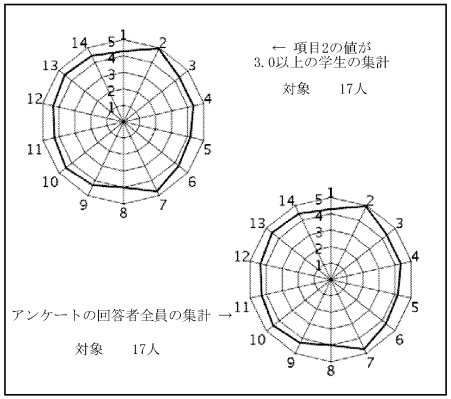
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Business Administration students practiced a variety of reading strategies, learned useful business vocabulary, and were expected to read 5,500 to 8,500 words of level-appropriate English books each week. The extensive reading exercises, book reports and discussions in class provided the students opportunities to practice speaking in English, develop their skills for improving speed and understanding in reading English, as well as challenge them to give a concise summary of the story in timed-activities. The inclusion of a weekly online vocabulary quiz and the MReader enabled the students expand their vocabulary and verify that they have read and understood their reading. The overall positive results of the students' evaluation indicate their satisfaction with the choice of textbook and other supplementary materials, the instructional methods used, and the positive classroom atmosphere where they feel comfortable learning and communicating with other students and with the teacher.

外国語教育センター 外国語教育センター
PALISADA Eloisa　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English I4
授業コード　48A05-004
教員名　PALISADA Eloisa
教員コード　055830
登録人数　18
回答数　17
回答率　94.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



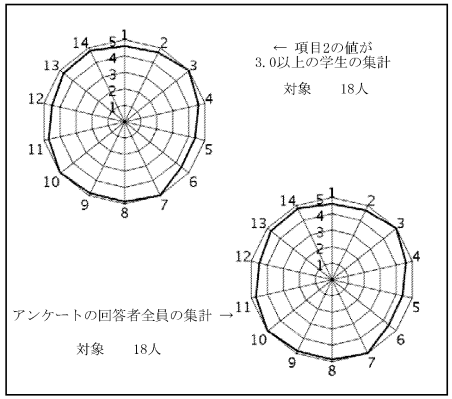
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of GLS English I is to gain an appropriate level of proficiency and critically analyze thought-provoking, academic content from the reading materials and online sources, to obtain information and express their opinion on a range of issues. Overall, the students expressed satisfaction with this course (90%) as having achieved the course goal. About 98% of them have proactive participation in terms of their preparation, review, and understanding of the content. The teacher's approach to teaching was highly valued (94%). As for their comments, the majority of them highly valued the many chances for discussing social issues/academic topics whether in groups or in pairs. Through these, they have improved their language use, vocabulary, and speaking skills. Though there may be lots of homework, they felt challenged and made progress. As they enjoyed the class, they appreciated the teacher's kindness and guidance in their assigned tasks. Students suggest the teacher speak slowly and explain clearly the tasks given and the videos to be shown. These will be addressed in the succeeding quarters. The teacher is pleased to have the chance to guide and sustain students' motivation for learning.

外国語教育センター 外国語教育センター
水野　眞紀　先生

2019年度Ｑ１　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English I6
授業コード	48A05-006
教員名	水野　眞紀
教員コード	101981
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は達成できたと考える。Q1のテーマである家族、結婚、グループに関して、教科書、新聞記事、動画などから内容と言語をインプットしたのち、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどでアウトプットすることができた。多様な形態で学習する機会を与えたことが功を奏したと言える。設問５、６は、他に比べ多少低いが、このクラスは基礎学力が高く、自発的な取り組みも多くみられ、厳しい自己分析をした結果と思われる。実際、自由記述では、様々な社会問題を多面的に見ることができるようになった、英語でのスピーキングスキルが向上したとの記述が数多く見られた。改善点に挙げられたことは、設問12の数値とも合致するが、プレゼンテーションの準備時間の確保、進捗状況の把握、機器の説明であった。アクティブラーニングでは、できるだけ学生に主体性を持たせたいと意識的に行ったこととはいえ、1年生のQ1なのでもう少し介入すべきであった。Q2では、さらに学生の学力を伸ばせるように体系的に計画を立ててコース目標を達成したい。